

介護ロボット等による生産性向上の取組に関する
効果測定事業 報告書(2/2)

令和6年3月
厚生労働省 老健局高齢者支援課

目次

VIII. 実証結果:介護助手	1
1. 実証概要.....	1
2. 実証結果.....	9
IX. 実証結果:令和4年度提案手法の更なる検証.....	110
1. 実証概要.....	110
2. 実証結果(3法人5施設)	118
3. 実証結果:3法人における人員配置、業務時間の变化について	153
X. 実証結果:匿名調査.....	157
1. 調査概要.....	157
2. 調査結果.....	159
XI. 参考資料	164
1. 夜間見守り.....	164
2. パッケージ:見守り×介護業務支援	184
3. パッケージ:排泄支援×介護業務支援.....	199
4. パッケージ:入浴支援×移乗支援	216
5. パッケージ:排泄支援×移乗支援	230
6. パッケージ:排泄支援(DFree).....	244
7. パッケージ:排泄支援(Helppad).....	260
8. 介護助手.....	280
9. 令和4年度提案手法の更なる検証	296
10. Webによる匿名調査.....	315

VIII.実証結果:介護助手

1. 実証概要

(1) 実証目的

実証施設における介護助手の業務と役割分担を明確化し、介護助手導入によるケアの質の確保、職員の業務負担軽減の効果を検証することを目的とした。

(2) 実証仮説

本実証では、介護助手が勤務していない状況と、通常通り介護助手が就業した状況を調査し、介護助手の有無による介護職員の業務内容・時間の変化等を比較した。

介護助手を導入し、介護職員が実施している間接業務の一部を、介護助手に担当いただくことによって、介護職員の身体的・精神的な業務負担の軽減が可能になると仮説を立てた。

具体的には、下表において、介護助手導入目的別に、実証仮説(介護助手導入により期待する効果)を想定し、本実証を行った。

図表 VIII-1 介護助手の導入目的と実証仮説

導入目的	実証仮説
介護職員の身体的・精神的な業務負担の軽減 介護助手を導入することにより、役割分担・機能分化を行い、介護職員が実施すべき本来業務(利用者へのケア)に注力できる体制や時間を創出する	<ul style="list-style-type: none">● 介護職員の業務時間のうち、介護助手に任せられる業務(間接業務)の時間が減少し、代わりに<u>直接介護(利用者とかかわりをもつ時間)</u>が確保できるようになる。● 介護助手の導入により身体的・精神的な業務負担の軽減だけでなく、<u>専門性の発揮や、利用者へのより良いケアができる、教育に関する時間の確保等</u>ができるようになる。● 介護助手の導入により介護職員でなければならない業務に注力することができるようになり、<u>仕事へのやりがい等が増加し、介護職員のモチベーションが向上する。</u>
介護人材の確保 介護現場で働く人材のすそ野を広げることにより、間接業務を中心とした働き手の確保や将来的に介護職員として就労する人材の確保につなげる	<ul style="list-style-type: none">● 介護助手の導入による介護職員のシフト変更を行い、施設(またはフロア)全体の<u>介護職員の業務時間の削減</u>ができる。● <u>元気高齢者の就労機会</u>を作り、適度な労働を通じて、身体機能の維持や健康づくり、介護予防、生きがい、<u>社会参加等に繋がる。</u>

(3) 実証方法

介護助手が勤務していない状況の調査(事前調査)と、通常通り介護助手が就業した状況(事後調査)において、介護職員の業務内容・時間の変化を調査した。調査期間は各々5日間とし、事前調査期間中は、介護助手が担う間接業務を後日へ繰り越すのではなく、介護職員に実施していただくこととした。

本実証における「介護助手」の定義は、食事等の準備や片付け、清掃、ベッドメイク、ごみ捨て等、利用者の身体的な介助を伴わない業務を行う者とし、介護助手の年齢・資格は問わないこととした。

(4) 対象施設

以下の18施設を実証の対象施設とした。

図表 VIII-2 介護助手実証の実証対象施設一覧

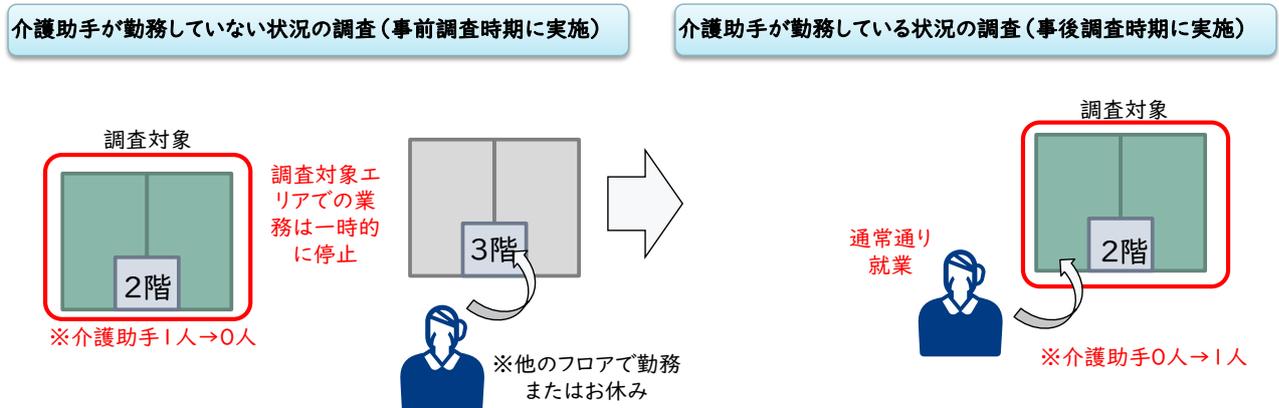
No.	施設名	施設種別	対象エリアの利用者数(人)	対象エリアの職員数(人)	対象エリアの介護助手数(人)
1	泉尾特別養護老人ホーム大正園	介護老人福祉施設	47	19	1
2	特別養護老人ホームラスール坂下	介護老人福祉施設	10	6	1
3	地域密着型特別養護老人ホームセント・ケアおおの	介護老人福祉施設	17	16	1
4	地域密着型特別養護老人ホーム桜坂	介護老人福祉施設	17	9	1
5	特別養護老人ホームあじさいのおか牛窓	介護老人福祉施設	10	9	1
6	特別養護老人ホーム幸豊園	介護老人福祉施設	19	8	2
7	特別養護老人ホームサンライズ大池	介護老人福祉施設	30	16	3
8	特別養護老人ホームみたらの杜	介護老人福祉施設	9	6	1
9	特別養護老人ホーム舟見の杜2014	介護老人福祉施設	10	5	1
10	特別養護老人ホームいがの里	介護老人福祉施設	26	6	1
11	介護老人保健施設リバーサイド春圃	介護老人保健施設	35	12	1
12	小規模介護老人保健施設浜っこサテライト	介護老人保健施設	19	12	2
13	介護老人保健施設いこいの森	介護老人保健施設	30	10	6
14	志摩市介護老人保健施設 志摩の里	介護老人保健施設	20	10	1
15	いろり端水戸	認知症対応型共同生活介護	9	7	1
16	グループホーム セント・ケアおおの	認知症対応型共同生活介護	10	12	1
17	グループホームやまがき	認知症対応型共同生活介護	9	12	2
18	グループホームはなの家	認知症対応型共同生活介護	9	7	2

(5) 実証調査の方法

本実証は、既に介護助手を採用している施設を対象とした。介護助手が勤務していない状況の調査(事前調査)は、一時的に介護助手不在の状況をつくっていただき調査を実施した。介護助手が勤務している状況の調査(事後調査)は、各施設の通常のシフト通り介護助手に勤務いただき調査を実施した。事前および事後調査の終了後、全ての施設に対して、ヒアリング調査を行った。

なお、今回の調査においては、既に介護助手を採用している施設が対象であるため、介護助手に対する業務分担がすでに整理されており、介護助手の勤務に慣れている状況であった。

図表 VIII-3 実証調査の方法(イメージ)



ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。

図表 VIII-4 調査の時期

調査	時期
介護助手が勤務していない状況の調査(事前調査)	令和5年7月～9月
介護助手が勤務している状況の調査(事後調査)	令和5年8月～9月
ヒアリング調査	令和5年9月～10月

イ. 実証調査の概要

実証結果の把握は、事前調査と事後調査の実証のそれぞれにおいて「職員向けタイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「介護助手向けタイムスタディ調査」、「介護助手向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」を実施し、事後調査の実証後「ヒアリング調査」を行った。以下に各調査の概要を記載する。

図表 VIII-5 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
① 職員向けタイムスタディ調査	実証対象のユニット、フロアで、実証期間中にケアを行った職員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答方法: 自記式(1 分刻みで該当の作業項目に 1~10 分の時間を記入) ・ 調査スケジュール: 介護助手が勤務していない状況の調査(事前調査)、介護助手が勤務している状況の調査(事後調査)の計 2回、それぞれ5営業日で実施 ・ 調査を行った時間帯は、5 日間の終日
② 職員向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアにおいて、実証期間中にケアを行った職員(タイムスタディ調査に協力した職員全員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答方式: 自記式 ・ 調査スケジュール: 事前 1 回、事後1回の合計2回の実証期間中それぞれについて、職員 1 名につき 1 度ずつ回答
③ 介護助手向けタイムスタディ調査	実証対象のユニット、フロアで、実証期間中に勤務した介護助手	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答方法: 自記式(1 分刻みで該当の作業項目に 1~10 分の時間を記入) ・ 調査スケジュール: 事後1回、5営業日で実施 ・ 調査を行った時間帯は、5 日間の終日
④ 介護助手向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアにおいて、実証期間中に勤務した介護助手(タイムスタディ調査に協力した介護助手全員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答方式: 自記式 ・ 調査スケジュール: 事後1回の実証期間について、介護助手 1 名につき 1 度ずつ回答
⑤ 利用者向けアンケート調査	実証対象のユニット、フロアで、導入した機器によるケアを受けた利用者を対象に実施 ※職員による利用者への聞き取りを実施の上回答	<ul style="list-style-type: none"> ・ 回答方式: 自記式 ・ 調査スケジュール: 事前 1 回、事後1回の合計2回の実証期間中それぞれについて、該当の利用者 1 名につき 1 度ずつ回答
⑥ ヒアリング調査	施設管理者または施設における本実証の責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 調査方法: 訪問もしくは WEB 会議による調査 ・ 調査スケジュール: 事前および事後の実証終了後に実施

ウ. 介護助手が担う業務

今回対象となった施設において、介護助手が担っている業務を以下に示す。

図表 VIII-6 介護助手が担う業務

施設名	介護助手が担う業務							
	食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	施設共用部分の清掃	ごみ捨て	レクリエーション準備・補助	その他
泉尾特別養護老人ホーム大正園	○	○	○	○	○	○		○
特別養護老人ホームラースール坂下	○		○	○	○	○		
地域密着型特別養護老人ホームセント・ケアおおの	○	○	○	○	○	○	○	○
地域密着型特別養護老人ホーム桜坂		○	○	○				
特別養護老人ホームあじさいのおか牛窓	○		○	○	○			○
特別養護老人ホーム幸豊園	○	○	○	○	○	○		
特別養護老人ホームサンライズ大池	○				○	○		
特別養護老人ホームみたらの杜	○	○	○	○	○			○
特別養護老人ホーム舟見の杜2014	○	○	○	○	○			○
特別養護老人ホームいがの里	○	○	○	○	○	○	○	
介護老人保健施設リバーサイド春圃	○			○		○	○	
小規模介護老人保健施設浜っこサテライト			○	○	○	○		
介護老人保健施設いこいの森	○	○	○	○	○	○		
志摩市介護老人保健施設志摩の里	○		○					
いろり端水戸	○		○	○	○	○	○	○
グループホームセント・ケアおおの		○	○	○	○	○	○	○
グループホームやまがき				○	○			
グループホームはなの家	○			○	○			

※その他：洗濯業務、買い物、事務的な作業の補助(オムツ等やリネンに関する物品等の補充や発注、広報誌の作成等)等

(6) 調査項目

事前調査、事後調査において、「職員向けタイムスタディ調査」および「職員向けアンケート調査」、「介護助手向けタイムスタディ調査」および「介護助手向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」を実施し、事後調査の後、「ヒアリング調査」を実施した。それぞれの調査項目を以下に示す。

ア. 職員向けタイムスタディ調査

職員向けタイムスタディ調査では、「直接介護」、「間接業務」、「休憩」、「その他」の分類に分け、21 項目の業務コード別に 1 分刻みで作業内容を整数で回答いただいた。調査票は、XI 参考資料を参照されたい。

図表 VIII-7 職員向けタイムスタディ調査項目

NO	分類	Sub-NO	項目
A	直接介護	1	移動・移乗・体位変換
		2	排泄介助・支援
		3	日常生活自立支援(※1)
		4	行動上の問題への対応(※2)
		5	食事支援
		6	入浴・整容・更衣
		7	利用者とのコミュニケーション
		8	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		9	その他の直接介護
B	間接業務	10	巡回・移動
		11	記録・文書作成・連絡調整等(※3)
		12	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		13	他の職員に対する指導・教育(※4)
		14	食事・おやつに関連する準備・片付け等
		15	入浴業務の準備等
		16	リネン交換・ベッドメイク
		17	居室清掃・片付け
		18	その他の間接業務(※5)
C	休憩	19	休憩・待機
		20	仮眠
D	その他	21	その他

※1 入眠起床支援、訴えの把握、日常生活の支援

※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

※4 ケアの内容や方法に関する指導、OJT 等

※5 レクリエーションの準備等

イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、事前調査と事後調査の共通の内容として、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18 に基づく)を調査項目とした。加えて、事後では介護助手導入による職員や施設業務の変化、介護助手の活用により増やすことができた時間等を調査項目とした。調査票は、XI 参考資料を参照されたい。

ウ. 介護助手向けタイムスタディ調査

介護助手向けタイムスタディ調査では、「間接業務」、「休憩」、「その他」の分類に分け、10 項目の業務コード別に 1 分刻みで作業内容を整数で回答いただいた。調査票は、XI 参考資料を参照されたい。

図表 VIII-8 介護助手向けタイムスタディ調査項目

NO	分類	Sub-NO※	項目
B	間接業務	1	巡回・移動
		2	他の職員に対する指導・教育
		3	食事・おやつに関連する準備・片付け等
		4	入浴業務の準備等
		5	リネン交換 ・ベッドメイク
		6	居室清掃・片付け
		7	その他の間接業務
C	休憩	8	休憩・待機
D	その他	9	その他
		10	他のフロア等での業務

Sub-NO

- ※1 次の作業場所までの移動時間
- ※2 作業内容や方法に関する指導、OJT 等を受けた時間
- ※3 食器洗浄、片付けなど食事関係に関する業務時間
- ※4 入浴業務に関わる着替えの準備、利用者の誘導等の時間
- ※5 シーツ等の交換作業時間
- ※6 利用者の居室内の清掃、洗濯物の収納等の時間
- ※7 レクリエーションの準備等
- ※8 休憩時間や次の作業までの待ち時間
- ※9 上記いずれにも該当しない業務時間
- ※10 調査対象となっているフロア以外で業務を行った時間

エ. 介護助手向けアンケート調査

介護助手向けアンケート調査は事後調査で実施し、調査項目は、家族等の介護経験有無、介護現場での就労経験有無、介護・医療に関する資格の有無、介護に関する研修会参加有無、仕事のやりがい・満足度等とした。調査票は、XI 参考資料を参照されたい。

オ. 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査では、事前調査と事後調査の共通の内容として調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通して対象利用者の ADL の変化、認知機能の変化、心理的な影響(意欲の指標 Vitality index に基づく)、QOL の変化とした。加えて事後調査では、対象利用者のコミュニケーションの変化、社会参加の変化等を調査項目とした。調査票は、XI 参考資料を参照されたい。

カ. ヒアリング調査

ヒアリング調査は、事後の実証の終了後、訪問もしくは WEB で実施した。ヒアリング対象者は施設管理者や施設における本実証の責任者とした。調査項目は以下とした。

図表 VIII-9 ヒアリング調査の項目

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 介護助手の活動状況<ol style="list-style-type: none">(1) 介護助手の勤務頻度・業務内容(2) 勤務上の課題2. 介護助手に勤務いただく目的・方針の達成状況<ol style="list-style-type: none">(1) 目的・方針の達成状況<ul style="list-style-type: none">➤ 利用者の観点(ケアの質に対する効果等)➤ 職員の観点(業務の負荷軽減や効率化、休暇取得・残業の改善等)➤ 介護助手の観点(モチベーション、業務に対する許容)➤ 施設の観点(運営面での効率化、リスクの低減、費用対効果等、介護助手受容の環境)(2) 介護助手の方が不在になった場合に想定される懸念事項3. 利用者の変化<ol style="list-style-type: none">(1) 介護職員の直接介護の質・量の改善による変化(2) 介護助手の導入による利用者の変化(3) 社会参加の変化4. その他<ol style="list-style-type: none">(1) 介護助手入職時の教育体制・研修の内容(2) 事故発生時の対応(介護助手の方が気づいた時、介護助手しかいない時など)(3) 介護助手採用・教育等における課題、失敗談(4) その他 |
|--|

2. 実証結果

(1) 利用者・職員概要

ア. 利用者概要

「介護助手なし」(事前調査)、「介護助手あり」(事後調査)ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者は 85 名であった。なお、利用者向けアンケート調査票が白票の場合は集計対象から除外した。

利用者の性別について、全体の 80%が女性、20%が男性であった。

図表 VIII-10 利用者概要:性別

			男性	女性	無回答	合計
介護老人福祉施設	介護助手なし	人数(人)	7	37	0	44
		割合	16%	84%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	7	37	0	44
		割合	16%	84%	0%	100%
介護老人保健施設	介護助手なし	人数(人)	5	15	0	20
		割合	25%	75%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	5	15	0	20
		割合	25%	75%	0%	100%
認知症対応型 共同生活介護	介護助手なし	人数(人)	5	16	0	21
		割合	24%	76%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	5	16	0	21
		割合	24%	76%	0%	100%
総数	介護助手なし	人数(人)	17	68	0	85
		割合	20%	80%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	17	68	0	85
		割合	20%	80%	0%	100%

介護助手なし n=85、介護助手あり n=85

利用者の年齢は、「介護助手あり」において、全体では、「80 歳～85 歳未満」が 34%で最も多かった。次いで多かったのは、「90 歳～95 歳未満」で 31%だった。

図表 VIII-11 利用者概要:年齢

			70歳未満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳未満	95歳以上	無回答	合計
介護老人福祉施設	介護助手なし	人数(人)	0	0	2	2	15	14	11	0	44
		割合	0%	0%	5%	5%	34%	32%	25%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	0	0	2	3	14	14	11	0	44
		割合	0%	0%	5%	7%	32%	32%	25%	0%	100%
介護老人保健施設	介護助手なし	人数(人)	0	1	0	3	9	6	1	0	20
		割合	0%	5%	0%	15%	45%	30%	5%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	0	1	0	2	10	6	1	0	20
		割合	0%	5%	0%	10%	50%	30%	5%	0%	100%
認知症対応型 共同生活介護	介護助手なし	人数(人)	3	0	1	6	5	6	0	0	21
		割合	14%	0%	5%	29%	24%	29%	0%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	3	0	1	5	5	6	1	0	21
		割合	14%	0%	5%	24%	24%	29%	5%	0%	100%
総数	介護助手なし	人数(人)	3	1	3	11	29	26	12	0	85
		割合	4%	1%	4%	13%	34%	31%	14%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	3	1	3	10	29	26	13	0	85
		割合	4%	1%	4%	12%	34%	31%	15%	0%	100%

介護助手なし n=85、介護助手あり n=85

利用者の要介護度は、「介護助手あり」において、全体で見ると、「要介護4」が32%で最も多かった。次いで多かったのは、「要介護3」で25%だった。要介護度ごとの利用者の割合は、「介護助手なし」時点と「介護助手あり」時点において、どの介護度も2ポイント以下の変化であり、大きな変化は見られなかった。

サービス種別で見ると、「介護助手あり」において、介護老人福祉施設および介護老人保健施設では「要介護4」が最も多かったが(介護老人福祉施設 39%、介護老人保健施設 35%)、認知症対応型共同生活介護では、「要介護3」が48%で最も多かった。

図表 VIII-12 利用者概要:要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計	
介護老人福祉施設	介護助手なし	人数(人) 割合	3 7%	1 2%	12 27%	17 39%	6 14%	0 0%	0 0%	5 11%	44 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	3 7%	1 2%	10 23%	17 39%	8 18%	0 0%	0 0%	5 11%	44 100%
介護老人保健施設	介護助手なし	人数(人) 割合	4 20%	6 30%	2 10%	7 35%	0 0%	0 0%	0 5%	1 5%	20 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	4 20%	5 25%	1 5%	7 35%	1 5%	0 0%	1 5%	1 5%	20 100%
認知症対応型 共同生活介護	介護助手なし	人数(人) 割合	3 14%	6 29%	9 43%	2 10%	1 5%	0 0%	0 0%	0 0%	21 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	2 10%	6 29%	10 48%	3 14%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	21 100%
総数	介護助手なし	人数(人) 割合	10 12%	13 15%	23 27%	26 31%	7 8%	0 0%	0 0%	6 7%	85 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	9 11%	12 14%	21 25%	27 32%	9 11%	0 0%	1 1%	6 7%	85 100%

介護助手なし n=85、介護助手あり n=85

障害高齢者の日常生活自立度は、「介護助手あり」において、全体で見ると、「B2」が27%で最も多かった。次いで多かったのは、「A2」で18%だった。障害高齢者の日常生活自立度ごとの利用者の割合は、「介護助手なし」時点と「介護助手あり」時点において、どの段階も3ポイント以下の変化であり、大きな変化は見られなかった。

サービス種別で見ると、「介護助手あり」において、介護老人福祉施設および介護老人保健施設では「B2」が最も多かったが(介護老人福祉施設 36%、介護老人保健施設 25%)、認知症対応型共同生活介護では、「A2」が29%で最も多かった。

図表 VIII-13 利用者概要:障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計	
介護老人福祉施設	介護助手なし	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 7%	4 9%	5 11%	16 36%	0 0%	3 7%	0 0%	13 30%	44 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 7%	4 9%	5 11%	16 36%	0 0%	3 7%	0 0%	13 30%	44 100%
介護老人保健施設	介護助手なし	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 15%	6 30%	2 10%	6 30%	0 0%	1 5%	0 0%	2 10%	20 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 15%	5 25%	3 15%	5 25%	1 5%	1 5%	0 0%	2 10%	20 100%
認知症対応型 共同生活介護	介護助手なし	人数(人) 割合	0 0%	4 19%	6 29%	8 38%	2 10%	1 5%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	21 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	1 5%	5 24%	5 24%	6 29%	2 10%	2 10%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	21 100%
総数	介護助手なし	人数(人) 割合	0 0%	4 5%	12 14%	18 21%	9 11%	23 27%	0 0%	4 5%	0 0%	15 18%	85 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	1 1%	5 6%	11 13%	15 18%	10 12%	23 27%	1 1%	4 5%	0 0%	15 18%	85 100%

介護助手なし n=85、介護助手あり n=85

イ. 職員概要

「介護助手なし」(事前調査)、「介護助手あり」(事後調査)ともに職員向けアンケート調査で回答のあった職員は157名であった。なお、職員向けアンケート調査票が白票の場合は集計対象から除外した。

職員の性別について、全体の63%が女性、37%が男性であった。

図表 VIII-14 職員概要:性別

			男性	女性	無回答	合計
介護老人福祉施設	介護助手なし	人数(人)	31	53	0	84
		割合	37%	63%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	31	53	0	84
		割合	37%	63%	0%	100%
介護老人保健施設	介護助手なし	人数(人)	18	25	0	43
		割合	42%	58%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	18	25	0	43
		割合	42%	58%	0%	100%
認知症対応型 共同生活介護	介護助手なし	人数(人)	9	21	0	30
		割合	30%	70%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	9	21	0	30
		割合	30%	70%	0%	100%
総数	介護助手なし	人数(人)	58	99	0	157
		割合	37%	63%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	58	99	0	157
		割合	37%	63%	0%	100%

介護助手なし n=157、介護助手あり n=157

職員の年齢は、「介護助手あり」において、全体で見ると、「40歳代」が26%で最も多かった。次いで多かったのは、「30歳代」で24%だった。

図表 VIII-15 職員概要:年齢

			20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
介護老人福祉施設	介護助手なし	人数(人)	2	17	22	22	16	5	0	0	84
		割合	2%	20%	26%	26%	19%	6%	0%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	2	18	22	19	18	5	0	0	84
		割合	2%	21%	26%	23%	21%	6%	0%	0%	100%
介護老人保健施設	介護助手なし	人数(人)	1	11	11	11	9	0	0	0	43
		割合	2%	26%	26%	26%	21%	0%	0%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	1	11	12	10	9	0	0	0	43
		割合	2%	26%	28%	23%	21%	0%	0%	0%	100%
認知症対応型 共同生活介護	介護助手なし	人数(人)	1	1	4	13	3	6	2	0	30
		割合	3%	3%	13%	43%	10%	20%	7%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	1	1	4	12	4	6	2	0	30
		割合	3%	3%	13%	40%	13%	20%	7%	0%	100%
総数	介護助手なし	人数(人)	4	29	37	46	28	11	2	0	157
		割合	3%	18%	24%	29%	18%	7%	1%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	4	30	38	41	31	11	2	0	157
		割合	3%	19%	24%	26%	20%	7%	1%	0%	100%

介護助手なし n=157、介護助手あり n=157

職員の職種は、「介護助手あり」において、全体で見ると、「介護福祉士」が 71%で最も多かった。次いで、「介護職員(介護福祉士以外)」が多く、26%であった。

図表 VIII-16 職員概要:職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ職 (機能訓練指導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
介護老人福祉施設	介護助手なし	人数(人) 割合	59 70%	23 27%	0 0%	1 1%	1 1%	0 0%	0 0%	84 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	59 70%	23 27%	0 0%	1 1%	1 1%	0 0%	0 0%	84 100%
介護老人保健施設	介護助手なし	人数(人) 割合	33 77%	8 19%	2 5%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	43 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	33 77%	8 19%	2 5%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	43 100%
認知症対応型 共同生活介護	介護助手なし	人数(人) 割合	19 63%	10 33%	0 0%	0 0%	0 0%	1 3%	0 0%	30 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	19 63%	10 33%	0 0%	0 0%	0 0%	1 3%	0 0%	30 100%
総数	介護助手なし	人数(人) 割合	111 71%	41 26%	2 1%	1 1%	1 1%	0 1%	1 0%	157 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	111 71%	41 26%	2 1%	1 1%	1 0%	0 1%	0 0%	157 100%

介護助手なし n=157、介護助手あり n=157

職員の役職は、「介護助手あり」において、全体で見ると、「一般職」が 69%で最も多かった。次いで、「管理者・リーダー」が多く、27%であった。

図表 VIII-17 職員概要:役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計	
介護老人福祉施設	介護助手なし	人数(人) 割合	0 0%	30 36%	51 61%	1 1%	2 2%	84 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	0 0%	29 35%	52 62%	1 1%	2 2%	84 100%
介護老人保健施設	介護助手なし	人数(人) 割合	0 0%	7 16%	34 79%	0 0%	2 5%	43 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	0 0%	7 16%	34 79%	0 0%	2 5%	43 100%
認知症対応型 共同生活介護	介護助手なし	人数(人) 割合	0 0%	6 20%	22 73%	2 7%	0 0%	30 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	0 0%	6 20%	22 73%	2 7%	0 0%	30 100%
総数	介護助手なし	人数(人) 割合	0 0%	43 27%	107 68%	3 2%	4 3%	157 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	0 0%	42 27%	108 69%	3 2%	4 3%	157 100%

介護助手なし n=157、介護助手あり n=157

(2) タイムスタディ調査結果

本実証の対象施設別の介護助手の勤務状況は以下の通り。実証エリアにおける介護助手の実人数、勤務日数(延べ人数)、延べ勤務時間は施設・事業所によってばらつきがある。

図表 VIII-18 実証施設別 介護助手勤務状況(実証期間5日間の実績)

施設種別	実証エリアの利用者数	実証エリアの介護職員数	介護助手(実証期間5日間)		
			実人数(人)	延べ人数(人)	延べ勤務時間(時間)
介護老人福祉施設 ①	47	19	1	4	19.3
介護老人福祉施設 ②	10	6	1	4	19.5
介護老人福祉施設 ③	17	16	1	3	13.4
介護老人福祉施設 ④	17	9	1	4	23.7
介護老人福祉施設 ⑤	10	9	1	3	11.3
介護老人福祉施設 ⑥	19	8	2	8	19.1
介護老人福祉施設 ⑦	30	16	3	11	57.2
介護老人福祉施設 ⑧	9	6	1	1	4.0
介護老人福祉施設 ⑨	10	5	1	5	15.3
介護老人福祉施設 ⑩	26	6	1	3	5.8
介護老人保健施設 ①	35	12	1	5	24.7
介護老人保健施設 ②	19	12	2	7	24.8
介護老人保健施設 ③	30	10	6	10	28.2
介護老人保健施設 ④	20	10	1	5	9.1
認知症対応型共同生活介護 ①	9	7	1	5	26.9
認知症対応型共同生活介護 ②	10	12	1	4	10.1
認知症対応型共同生活介護 ③	9	12	2	5	6.6
認知症対応型共同生活介護 ④	9	7	2	5	30.2

※実証エリア(ユニット/フロア)における介護助手の人数及び勤務時間

※延べ勤務時間は、総労働時間から休憩・その他業務(他フロア等での勤務)を除いた時間

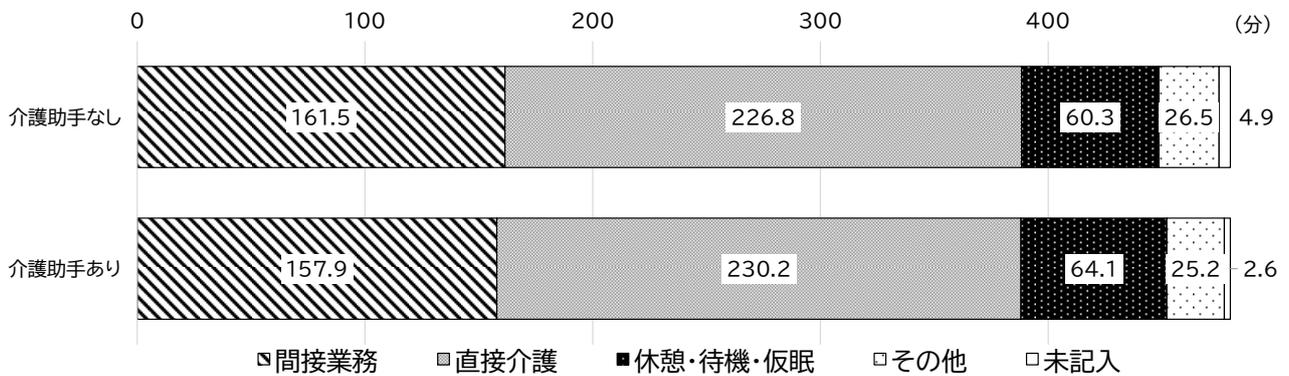
ア. 調査施設全体のタイムスタディ調査結果

実証施設全体の職員タイムスタディ調査結果では、間接業務の時間が、「介護助手なし」から「介護助手あり」で 3.6 分(2.2%)削減された。

図表 VIII-19 全体 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり)

	移動・移乗・体位変換	直接介護										間接業務										休憩		その他		合計(分)
		排泄介助・支援	日常生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・医療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	情報収集・介護計画の作成・見直し	利用者のアセスメント・指導・教育	他の職員に対する指導	食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・メイク	居室清掃・片付け	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠	その他	未記入			
介護助手なし	29.5	57.9	16.3	9.8	42.9	27.7	19.1	4.2	19.4	12.9	49.5	2.6	6.3	53.0	6.0	5.2	7.6	18.4	56.4	3.9	26.5	4.9	480.0			
	6%	12%	3%	2%	9%	6%	4%	1%	4%	3%	10%	1%	1%	11%	1%	1%	2%	4%	12%	1%	6%	1%	100%			
介護助手あり	27.2	60.4	17.0	7.5	41.1	32.8	20.3	3.9	19.9	14.6	56.1	3.3	3.1	45.3	5.5	2.0	5.8	22.1	60.0	4.0	25.2	2.6	480.0			
	6%	13%	4%	2%	9%	7%	4%	1%	4%	3%	12%	1%	1%	9%	1%	0%	1%	5%	13%	1%	5%	1%	100%			

△の項目は調査票の記載名から一部省略し、等書きに修正



介護助手なし n=175、介護助手あり n=159

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値

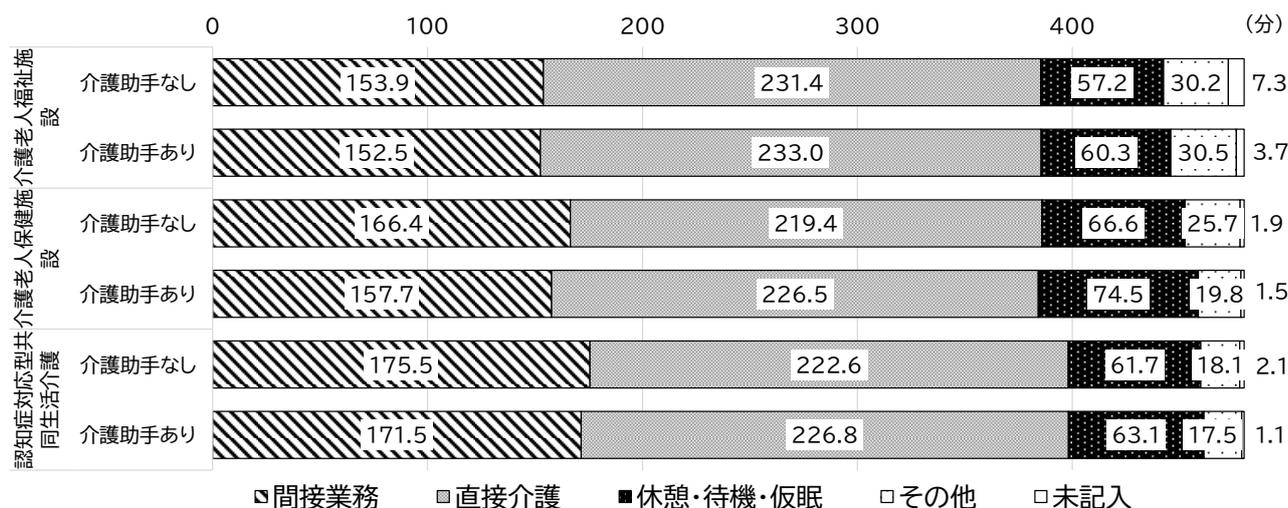
イ. 施設種別のタイムスタディ調査結果

施設種別ごとの職員タイムスタディ調査結果では、間接業務の時間が、「介護助手なし」から「介護助手あり」で介護老人福祉施設では 1.4 分(0.9%)、介護老人保健施設では 8.7 分(5.3%)、認知症対応型共同生活介護では 4.0 分(2.3%)削減された。

図表 VIII-20 施設種別 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり)

		直接介護										間接業務										休憩		その他		合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	日常生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・医療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠	その他	未記入			
介護老人福祉施設	介護助手なし	36.2	59.8	15.3	7.6	50.4	28.7	11.4	1.9	20.1	12.6	43.8	1.5	8.3	51.7	6.9	6.3	6.4	16.4	53.8	3.4	30.2	7.3	480.0		
	割合	8%	12%	3%	2%	11%	6%	2%	0%	4%	3%	9%	0%	2%	11%	1%	1%	1%	3%	11%	1%	6%	2%	100%		
介護老人保健施設	介護助手なし	32.0	62.0	16.0	4.9	50.2	33.6	14.3	1.4	18.7	14.7	51.9	2.5	2.9	44.3	5.2	1.8	6.1	23.1	57.2	3.1	30.5	3.7	480.0		
	割合	7%	13%	3%	1%	10%	7%	3%	0%	4%	3%	11%	1%	1%	9%	1%	0%	1%	5%	12%	1%	6%	1%	100%		
認知症対応型共同生活介護	介護助手なし	30.1	51.3	11.0	13.0	28.6	33.1	28.2	7.8	16.3	15.5	51.3	4.7	4.1	43.4	6.0	5.5	8.6	27.3	61.9	4.7	25.7	1.9	480.0		
	割合	6%	11%	2%	3%	6%	7%	6%	2%	3%	3%	11%	1%	1%	9%	1%	1%	2%	6%	13%	1%	5%	0%	100%		
介護老人福祉施設	介護助手あり	30.0	57.3	14.0	8.3	25.7	42.0	27.4	7.1	14.6	17.6	52.7	2.3	1.9	44.3	4.7	2.6	4.6	27.0	65.8	8.7	19.8	1.5	480.0		
	割合	6%	12%	3%	2%	5%	9%	6%	1%	3%	4%	11%	0%	0%	9%	1%	1%	1%	6%	14%	2%	4%	0%	100%		
認知症対応型共同生活介護	介護助手なし	11.9	59.9	24.2	12.2	38.3	19.7	29.0	6.5	20.9	11.2	61.9	3.1	3.5	65.6	3.8	2.3	9.6	14.6	57.2	4.4	18.1	2.1	480.0		
	割合	2%	12%	5%	3%	8%	4%	6%	1%	4%	2%	13%	1%	1%	14%	1%	0%	2%	3%	12%	1%	4%	0%	100%		
認知症対応型共同生活介護	介護助手あり	12.3	59.8	22.8	13.1	33.8	21.6	28.1	7.0	28.2	11.6	69.9	6.4	4.8	48.6	7.3	1.9	6.4	14.6	61.3	1.8	17.5	1.1	480.0		
	割合	3%	12%	5%	3%	7%	5%	6%	1%	6%	2%	15%	1%	1%	10%	2%	0%	1%	3%	13%	0%	4%	0%	100%		

△の項目は調査票の記載名から一部省略し、等書きに修正



【介護老人福祉施設】 介護助手なし n=94、介護助手あり n=85
 【介護老人保健施設】 介護助手なし n=44、介護助手あり n=41
 【認知症対応型共同生活介護】 介護助手なし n=37、介護助手あり n=33

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施
 ※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値

ウ. 介護助手が担っている業務別のタイムスタディ調査結果

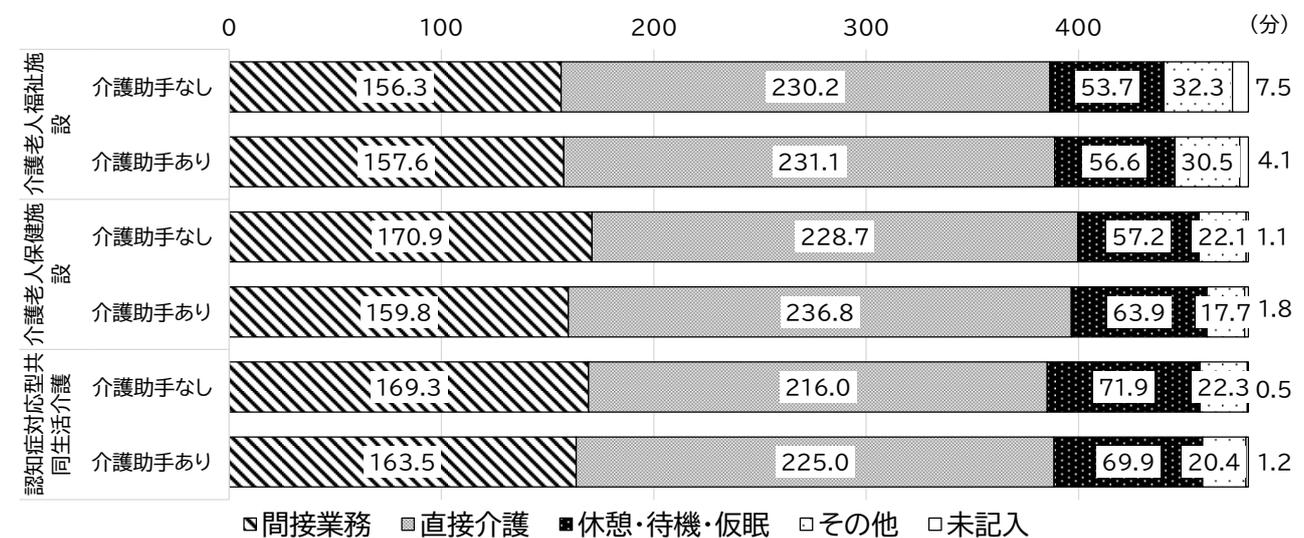
本実証施設において介護助手が担っている業務として多かった「食事・おやつに関連する準備・片付け等」「居室清掃・片付け」に着目し、施設種別ごとのタイムスタディ調査結果を集計した。

介護助手が「食事・おやつに関連する準備・片付け等」を担っている施設のみを対象に職員向けタイムスタディ調査の集計を実施した。間接業務の時間が「介護助手なし」から「介護助手あり」で介護老人福祉施設では 1.3 分(0.8%)増となったが、介護老人保健施設では 11.2 分(6.5%)、認知症対応型共同生活介護では 5.8 分(3.4%)削減された。

図表 VIII-21 施設種別 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり)
【介護助手が「食事・おやつに関連する準備・片付け等」を担っている施設のみ】

		直接介護										間接業務										休憩		その他		合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	日常生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・医療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	情報収集・アセスメントの作成・見直し	利用者の導・教育	他の職員に対する指導・教育	食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠	その他	未記入		
介護老人福祉施設	介護助手なし	37.4	60.2	12.7	6.8	51.7	29.2	9.5	20.8	12.7	43.9	1.5	8.4	53.1	7.4	6.6	6.5	16.3	51.2	2.5	32.3	7.5	480.0			
	割合	8%	13%	3%	1%	11%	6%	2%	4%	3%	9%	0%	2%	11%	2%	1%	1%	3%	11%	1%	7%	2%	100%			
介護老人保健施設	介護助手なし	32.9	63.9	14.0	3.8	50.6	34.3	11.5	1.3	18.8	53.2	2.5	2.8	45.6	5.5	2.0	6.2	24.0	55.1	1.6	30.5	4.1	480.0			
	割合	7%	13%	3%	1%	11%	7%	2%	0%	4%	3%	11%	1%	1%	9%	1%	0%	1%	5%	11%	0%	6%	1%	100%		
認知症対応型共同生活介護	介護助手なし	33.2	53.6	9.6	16.7	28.8	33.8	26.6	8.7	17.6	18.2	57.8	5.8	3.3	41.8	7.1	5.1	8.0	23.9	52.4	4.8	22.1	1.1	480.0		
	割合	7%	11%	2%	3%	6%	7%	6%	2%	4%	4%	12%	1%	1%	9%	1%	1%	2%	5%	11%	1%	5%	0%	100%		
認知症対応型共同生活介護	介護助手あり	31.9	60.1	14.2	10.9	26.5	47.4	22.5	8.2	15.0	20.5	60.6	1.7	1.7	38.6	4.9	3.0	4.0	24.7	53.1	10.8	17.7	1.8	480.0		
	割合	7%	13%	3%	2%	6%	10%	5%	2%	3%	4%	13%	0%	0%	8%	1%	1%	1%	5%	11%	2%	4%	0%	100%		
介護助手なし	11.2	51.3	25.1	14.2	33.6	22.1	30.9	4.5	23.1	12.8	60.9	4.0	4.6	60.9	4.4	2.3	11.6	7.7	66.9	5.0	22.3	0.5	480.0			
割合	2%	11%	5%	3%	7%	5%	6%	1%	5%	3%	13%	1%	1%	13%	1%	0%	2%	2%	14%	1%	5%	0%	100%			
介護助手あり	10.6	55.5	25.8	15.6	31.2	18.6	29.2	6.4	32.2	12.7	74.4	7.7	4.8	43.5	7.1	0.5	6.3	6.4	68.7	1.2	20.4	1.2	480.0			
割合	2%	12%	5%	3%	7%	4%	6%	1%	7%	3%	15%	2%	1%	9%	1%	0%	1%	1%	14%	0%	4%	0%	100%			

△の項目は調査票の記載名から一部省略し、等書きで修正



【介護老人福祉施設】 介護助手なし n=85、介護助手あり n=76
 【介護老人保健施設】 介護助手なし n=32、介護助手あり n=30
 【認知症対応型共同生活介護】 介護助手なし n=28、介護助手あり n=22

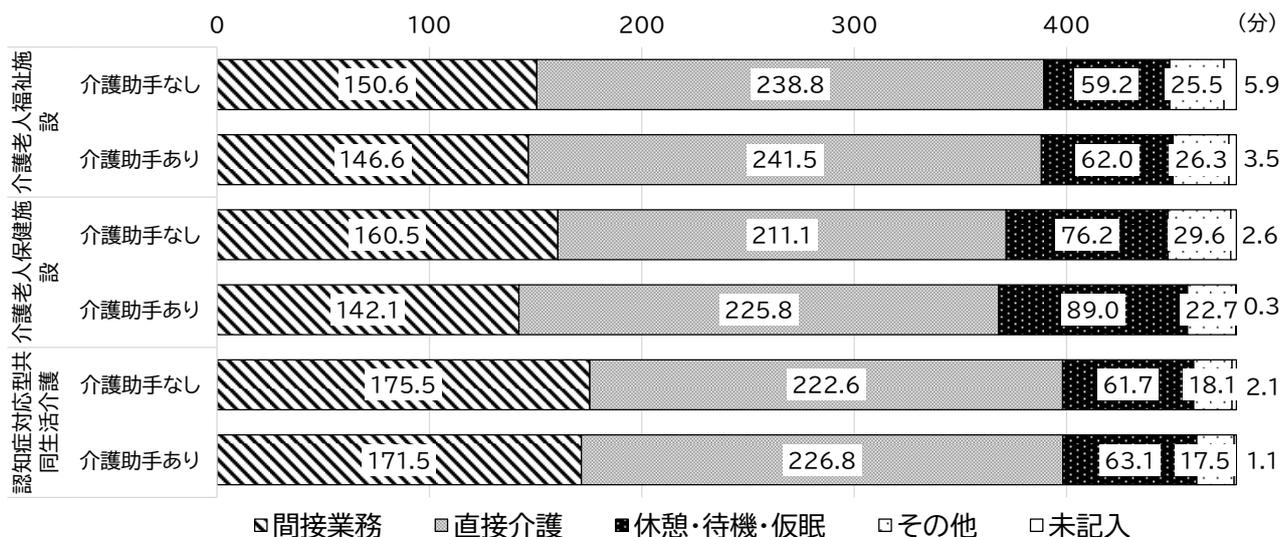
※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施
 ※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値
 ※介護助手が担っている業務は、介護助手向けの職員業務量調査(タイムスタディ)における勤務実績を用いた

介護助手が「居室清掃・片付け」を担っている施設のみを対象に職員向けタイムスタディ調査の集計を実施した。間接業務の時間が「介護助手なし」から「介護助手あり」で介護老人福祉施設では 3.9 分(2.6%)、介護老人保健施設では 18.3 分(11.4%)、認知症対応型共同生活介護では 4.0 分(2.3%)削減された。

図表 VIII-22 施設種別 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり)
【介護助手が「居室清掃・片付け」を担っている施設のみ】

		直接介護										間接業務										休憩		その他		合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	日常生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・医療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠	その他	未記入		
介護老人福祉施設	介護助手なし	35.8	63.1	16.7	9.1	50.8	29.6	13.4	2.1	18.2	10.9	42.8	1.6	4.7	51.1	7.1	6.9	6.2	19.4	55.1	4.1	25.5	5.9	480.0		
	割合	7%	13%	3%	2%	11%	6%	3%	0%	4%	2%	9%	0%	1%	11%	1%	1%	1%	4%	11%	1%	5%	1%	100%		
介護老人保健施設	介護助手なし	33.1	61.4	17.4	6.1	53.6	31.3	17.3	1.7	19.6	9.6	45.3	2.9	3.4	44.6	5.2	1.7	5.8	28.0	58.3	3.7	26.3	3.5	480.0		
	割合	7%	13%	4%	1%	11%	7%	4%	0%	4%	2%	9%	1%	1%	9%	1%	0%	1%	6%	12%	1%	5%	1%	100%		
認知症対応型共同生活介護	介護助手なし	27.6	49.6	14.4	2.1	24.5	36.9	30.7	7.4	17.9	11.9	40.6	7.4	6.2	38.0	6.2	5.5	11.7	33.1	74.1	2.2	29.6	2.6	480.0		
	割合	6%	10%	3%	0%	5%	8%	6%	2%	4%	2%	8%	2%	1%	8%	1%	1%	2%	7%	15%	0%	6%	1%	100%		
介護老人福祉施設	介護助手あり	29.4	53.4	12.6	1.1	22.0	46.7	32.6	7.7	20.2	15.6	33.2	3.6	2.1	45.1	3.3	1.4	4.8	33.2	85.1	3.9	22.7	0.3	480.0		
	割合	6%	11%	3%	0%	5%	10%	7%	2%	4%	3%	7%	1%	0%	9%	1%	0%	1%	7%	18%	1%	5%	0%	100%		
介護老人保健施設	介護助手なし	11.9	59.9	24.2	12.2	38.3	19.7	29.0	6.5	20.9	11.2	61.9	3.1	3.5	65.6	3.8	2.3	9.6	14.6	57.2	4.4	18.1	2.1	480.0		
	割合	2%	12%	5%	3%	8%	4%	6%	1%	4%	2%	13%	1%	1%	14%	1%	0%	2%	3%	12%	1%	4%	0%	100%		
認知症対応型共同生活介護	介護助手なし	12.3	59.8	22.8	13.1	33.8	21.6	28.1	7.0	28.2	11.6	69.9	6.4	4.8	48.6	7.3	1.9	6.4	14.6	61.3	1.8	17.5	1.1	480.0		
	割合	3%	12%	5%	3%	7%	5%	6%	1%	6%	2%	15%	1%	1%	10%	2%	0%	1%	3%	13%	0%	4%	0%	100%		

△の項目は調査票の記載名から一部省略し、等書きに修正



【介護老人福祉施設】 介護助手なし n=84、介護助手あり n=79

【介護老人保健施設】 介護助手なし n=22、介護助手あり n=21

【認知症対応型共同生活介護】 介護助手なし n=37、介護助手あり n=33

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値

※介護助手が担っている業務は、介護助手向けの職員業務量調査(タイムスタディ)における勤務実績を用いた

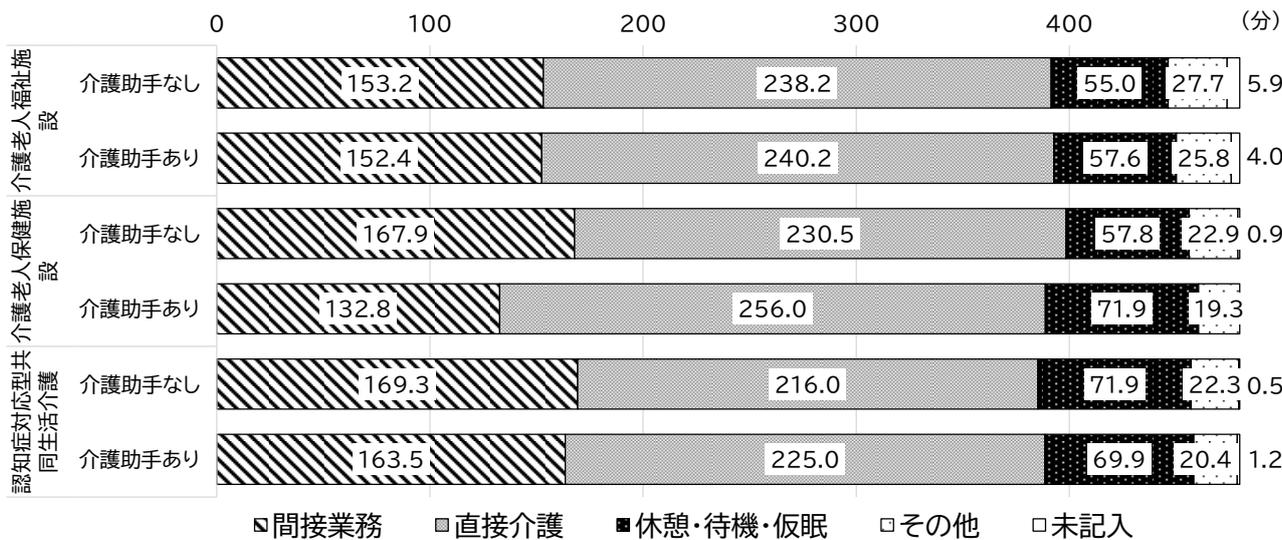
介護助手が「食事・おやつに関連する準備・片付け等」「居室清掃・片付け」の両方を担っている施設のみを対象に職員向けタイムスタディ調査の集計を実施した。間接業務の時間が「介護助手なし」から「介護助手あり」で介護老人福祉施設では 0.8 分(0.5%)、介護老人保健施設では 35.1 分(20.9%)、認知症対応型共同生活介護では 5.8 分(3.4%)削減された。

図表 VIII-23 施設種別 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり)

【介護助手が「食事・おやつに関連する準備・片付け等」「居室清掃・片付け」の両方を担っている施設のみ】

		直接介護										間接業務										休憩		その他		合計(分)
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	日常生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・医療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	情報収集・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠	その他	未記入			
介護老人福祉施設	介護助手なし	時間(分)	37.2	64.2	13.6	8.1	52.5	30.4	11.2	2.2	18.8	10.8	42.7	1.6	4.2	52.8	7.8	7.3	6.3	19.7	52.0	3.0	27.7	5.9	480.0	
	割合	8%	13%	3%	2%	11%	6%	2%	0%	4%	2%	9%	0%	1%	1%	11%	2%	2%	1%	4%	11%	1%	6%	1%	100%	
介護老人保健施設	介護助手なし	時間(分)	34.4	63.8	15.0	4.7	54.6	32.0	14.2	1.7	19.8	10.3	46.0	3.0	3.4	46.3	5.6	2.0	6.0	29.8	55.7	1.9	25.8	4.0	480.0	
	割合	7%	13%	3%	1%	11%	7%	3%	0%	4%	2%	10%	1%	1%	10%	1%	1%	0%	1%	6%	12%	0%	5%	1%	100%	
認知症対応型共同生活介護	介護助手なし	時間(分)	34.5	54.9	13.7	2.3	20.8	43.1	28.1	9.5	23.6	16.5	49.6	13.1	5.6	27.8	9.6	4.2	13.0	28.5	57.8	0.0	22.9	0.9	480.0	
	割合	7%	11%	3%	0%	4%	9%	6%	2%	5%	3%	10%	3%	1%	6%	2%	1%	3%	6%	12%	0%	5%	0%	1%	100%	
介護老人福祉施設	介護助手あり	時間(分)	34.8	58.1	11.9	1.7	20.6	67.5	23.2	11.5	26.8	22.4	37.4	3.0	1.8	28.6	2.6	1.3	3.1	32.7	66.6	5.3	19.3	0.0	480.0	
	割合	7%	12%	2%	0%	4%	14%	5%	2%	6%	5%	8%	1%	0%	6%	1%	0%	1%	0%	7%	14%	1%	4%	0%	100%	
認知症対応型共同生活介護	介護助手なし	時間(分)	11.2	51.3	25.1	14.2	33.6	22.1	30.9	4.5	23.1	12.8	60.9	4.0	4.6	60.9	4.4	2.3	11.6	7.7	66.9	5.0	22.3	0.5	480.0	
	割合	2%	11%	5%	3%	7%	5%	6%	1%	5%	3%	13%	1%	1%	13%	1%	0%	2%	2%	14%	1%	5%	0%	1%	100%	
認知症対応型共同生活介護	介護助手あり	時間(分)	10.6	55.5	25.8	15.6	31.2	18.6	29.2	6.4	32.2	12.7	74.4	7.7	4.8	43.5	7.1	0.5	6.3	6.4	68.7	1.2	20.4	1.2	480.0	
	割合	2%	12%	5%	3%	7%	4%	6%	1%	7%	3%	15%	2%	1%	9%	1%	0%	1%	1%	14%	0%	4%	0%	1%	100%	

△の項目は調査票の記載名から一部省略し、等書きで修正



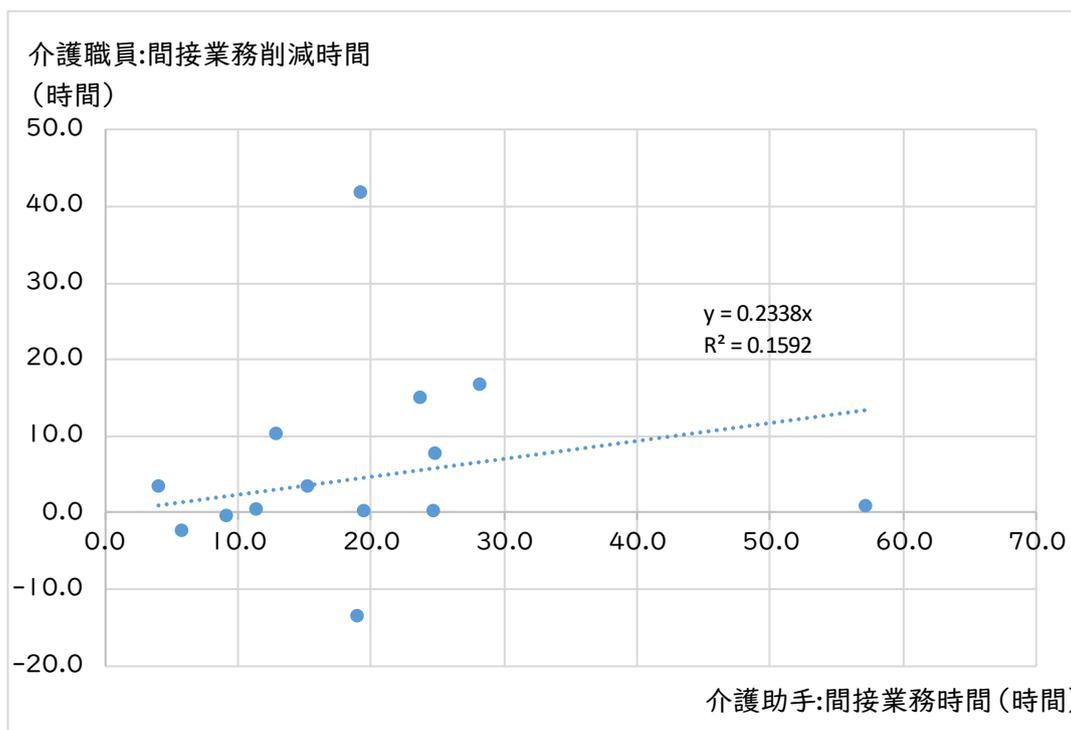
【介護老人福祉施設】 介護助手なし n=75、介護助手あり n=70
 【介護老人保健施設】 介護助手なし n=10、介護助手あり n=10
 【認知症対応型共同生活介護】 介護助手なし n=28、介護助手あり n=22

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施
 ※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値
 ※介護助手が担っている業務は、介護助手向けの職員業務量調査(タイムスタディ)における勤務実績を用いた

エ. 介護助手・間接業務時間に対する、介護職員の間接業務時間の削減時間の変化

施設別に介護助手・間接業務時間に対する、介護職員の間接業務時間の削減時間の変化について検証した。施設毎の結果のばらつきが大きく、介護職員の間接業務削減時間の傾向は把握できなかった。

図表 VIII-24 介護助手の間接業務時間に対する介護職員の間接業務削減時間の変化



施設数:14 施設

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施

※介護職員間接業務削減時間は、「事後・間接業務時間の合計」-「事前・間接業務時間の合計」で算出した。

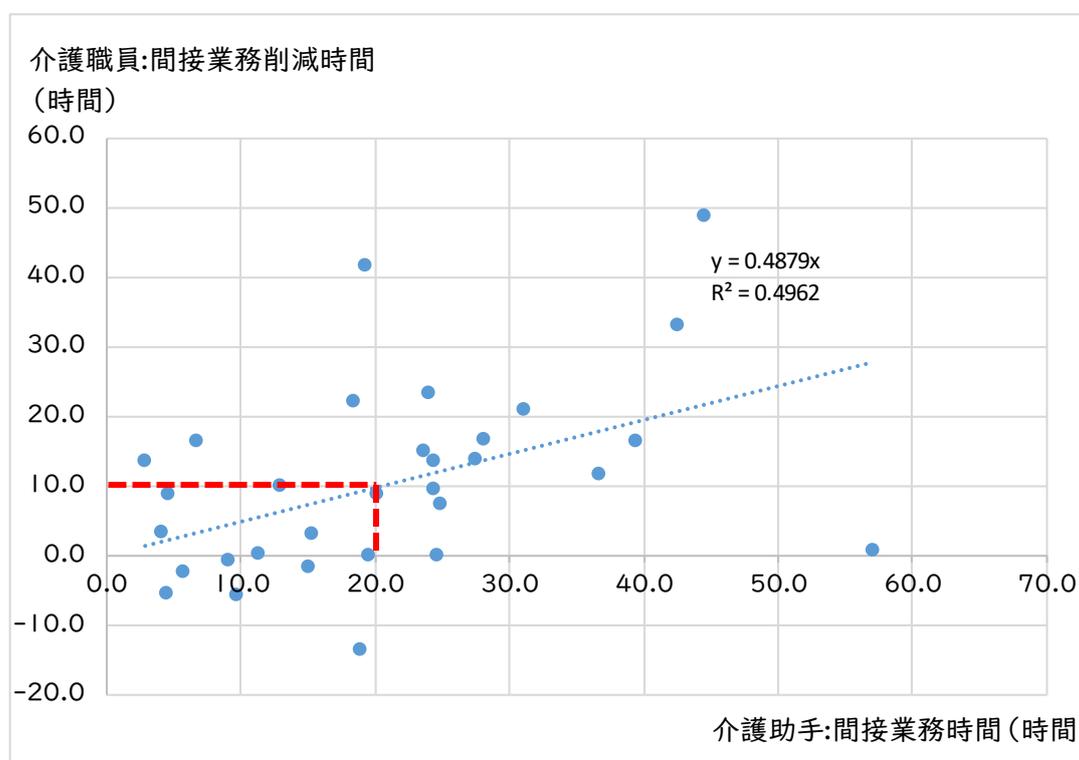
※介護助手間接業務時間は、実証調査対象エリア(ユニット/フロア)における調査期間中の間接業務時間の合計を使用した。

※介護老人福祉施設、介護老人保健施設のみの集計結果

令和4年度と同一の調査設計・調査項目で実施したことから、本実証結果と令和4年度調査結果を合算した集計を実施した。介護助手が20時間間接業務を担うと、介護職員の間接業務時間は約10時間削減される結果となった。

なお、令和4年度および令和5年度の実証施設において、Wilcoxonの符号付順位和検定を用い「介護助手なし」と「介護助手あり」における介護職員の間接業務の時間を比較したところ、「介護助手あり」で有意に介護職員の間接業務の時間が短くなった（「介護助手なし」平均76.3±27.8分、「介護助手あり」平均67.4±24.8分、 $p=0.005$ ※介護職員1人1日(480分)あたり）。

図表 VIII-25 介護助手の間接業務時間に対する介護職員の間接業務削減時間の変化
(令和4年度、令和5年度実証施設)



施設数:31 施設

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施

※介護職員間接業務削減時間は、「事後・間接業務時間の合計」-「事前・間接業務時間の合計」で算出した。

※介護助手間接業務時間は、実証調査対象エリア(ユニット/フロア)における調査期間中の間接業務時間の合計を使用した。

※介護老人福祉施設、介護老人保健施設のみの集計結果

オ. 介護助手の勤務状況別のタイムスタディ調査結果

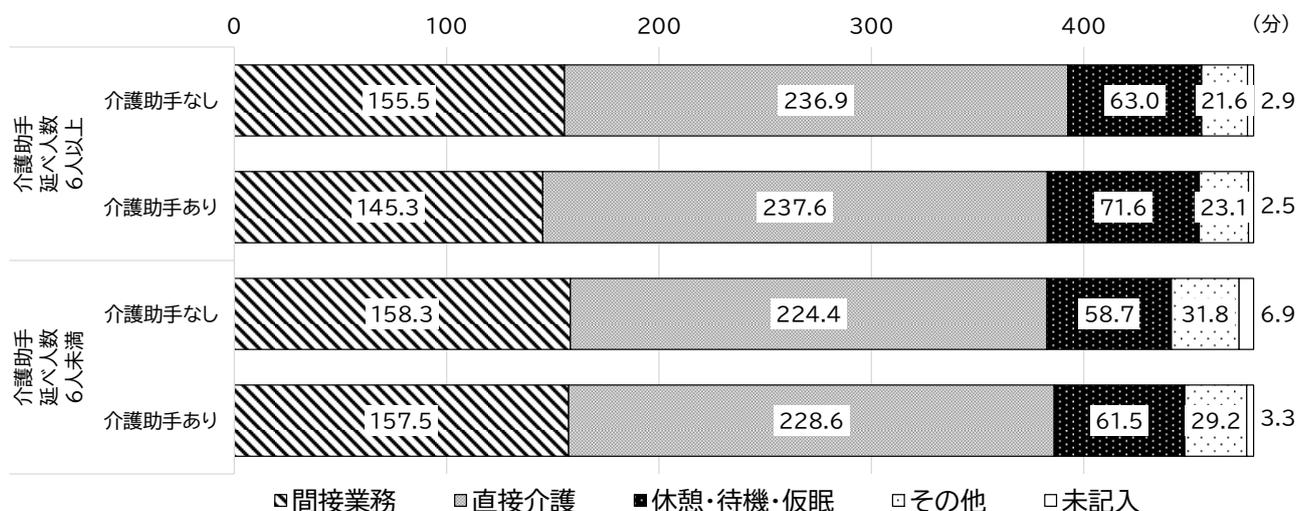
本実証施設における介護助手の勤務状況は、施設毎にばらつきがあるため、2つのグループに区分し、「介護助手なし」と「介護助手あり」での間接業務時間の変化を集計した。施設別の介護助手の勤務状況は図表 VIII-18 参照。

実証期間5日間における介護助手の延べ人数別の職員タイムスタディ調査結果では、間接業務の時間が、「介護助手なし」から「介護助手あり」で「介護助手延べ人数6人以上」では 10.3 分(6.6%)、「介護助手延べ人数6人未満」では 0.8 分(0.5%)削減された。

図表 VIII-26 介護助手の延べ人数別 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり)

		直接介護										間接業務							休憩		その他		合計(分)	
		移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	日常生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・医療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	情報収集・アセスメント・見直し	利用者に対する指導・教育	他の職員に対する指導の準備・片付け等	食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠		その他
介護助手延べ人数6人以上	介護助手なし	39.9	56.8	9.2	3.8	44.1	40.8	18.5	4.0	19.7	11.4	45.4	4.2	5.1	42.7	6.2	6.5	8.8	25.0	60.0	3.1	21.6	2.9	480.0
	割合	8%	12%	2%	1%	9%	8%	4%	1%	4%	2%	9%	1%	1%	9%	1%	1%	2%	5%	12%	1%	5%	1%	100%
介護助手あり	介護助手なし	37.7	56.1	8.4	1.6	39.5	45.3	24.1	4.8	20.1	15.6	47.5	2.3	4.2	38.2	5.4	2.4	5.9	23.7	69.7	1.9	23.1	2.5	480.0
	割合	8%	12%	2%	0%	8%	9%	5%	1%	4%	3%	10%	0%	1%	8%	1%	1%	1%	5%	15%	0%	5%	1%	100%
介護助手延べ人数6人未満	介護助手なし	32.3	57.5	16.0	11.3	44.2	25.6	15.3	3.4	18.7	14.2	46.2	1.7	7.9	52.0	6.8	5.8	6.3	17.4	54.6	4.1	31.8	6.9	480.0
	割合	7%	12%	3%	2%	9%	5%	3%	1%	4%	3%	10%	0%	2%	11%	1%	1%	1%	4%	11%	1%	7%	1%	100%
介護助手あり	介護助手なし	28.9	62.4	18.2	7.7	44.7	32.3	15.6	2.3	16.5	15.5	54.0	2.6	1.9	46.8	4.9	1.9	5.5	24.4	55.7	5.8	29.2	3.3	480.0
	割合	6%	13%	4%	2%	9%	7%	3%	0%	3%	3%	11%	1%	0%	10%	1%	0%	1%	5%	12%	1%	6%	1%	100%

△の項目は調査票の記載名から一部省略し、等書きに修正



【介護助手延べ人数6人以上】 介護助手なし n=43、介護助手あり n=45

【介護助手延べ人数6人未満】 介護助手なし n=95、介護助手あり n=81

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値

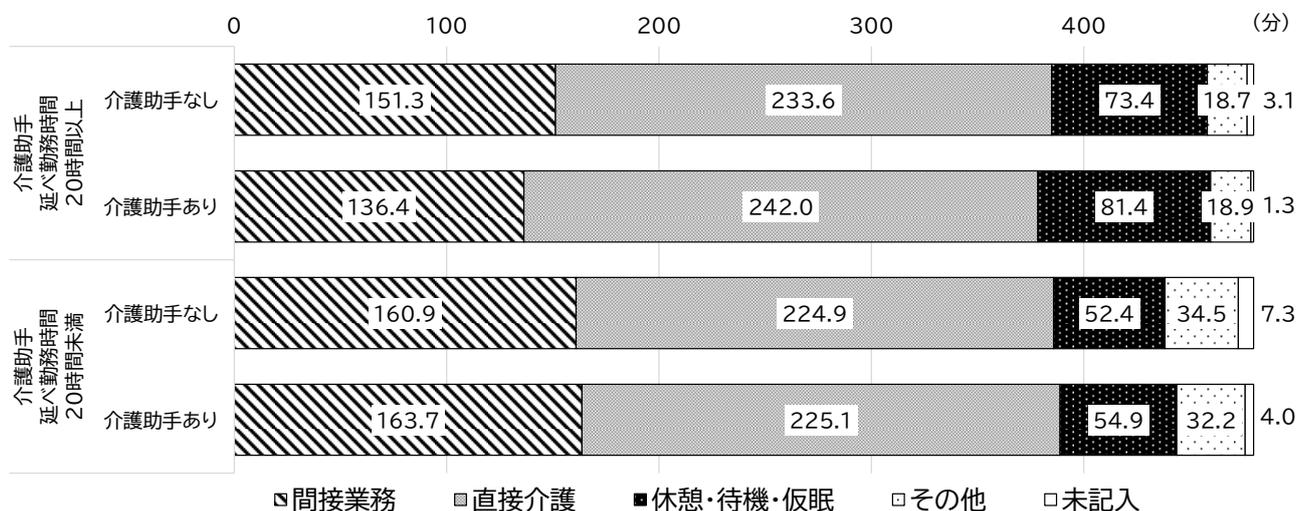
※介護老人福祉施設、介護老人保健施設のみの集計結果

実証期間5日間における介護助手の延べ勤務時間別の職員タイムスタディ調査結果では、間接業務の時間が、「介護助手なし」から「介護助手あり」で「介護助手延べ勤務時間 20 時間以上」では 14.8 分(9.8%)削減されたが、「介護助手延べ勤務時間 20 時間未満」では 2.8 分(1.7%)増加した。

図表 VIII-27 介護助手延べ勤務時間別 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり)

			直接介護										間接業務										休憩		その他		合計(分)
			移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	日常生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	機能訓練・医療的処置等	その他の直接介護	巡回・移動	記録・文書作成・連絡調整等	情報収集・アセスメント・作成・見直し	利用者のアセスメント・指導・教育	他の職員に対する指導	食事・おやつに関連する準備・片付け等	入浴業務の準備等	リネン交換・ベッドメイク	居室清掃・片付け	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠	その他	未記入		
介護助手延べ勤務時間 20時間以上	介護助手なし	時間(分)	34.5	58.5	15.5	13.6	35.6	31.3	24.0	6.0	14.7	12.6	51.1	3.8	5.6	37.0	4.3	4.6	7.8	24.5	65.7	7.7	18.7	3.1	480.0		
	割合		7%	12%	3%	3%	7%	7%	5%	1%	3%	3%	11%	1%	1%	8%	1%	1%	2%	5%	14%	2%	4%	1%	100%		
介護助手あり	介護助手なし	時間(分)	32.9	56.0	15.9	10.2	34.7	41.8	27.2	5.9	17.6	11.8	50.0	2.6	3.1	35.8	4.4	1.9	5.1	21.6	71.0	10.3	18.9	1.3	480.0		
	割合		7%	12%	3%	2%	7%	9%	6%	1%	4%	2%	10%	1%	1%	7%	1%	0%	1%	4%	15%	2%	4%	0%	100%		
介護助手延べ勤務時間 20時間未満	介護助手なし	時間(分)	34.5	56.7	13.3	6.7	49.0	29.2	11.9	2.2	21.4	13.9	43.1	1.7	8.0	56.2	7.9	6.8	6.6	16.8	50.8	1.6	34.5	7.3	480.0		
	割合		7%	12%	3%	1%	10%	6%	2%	0%	4%	3%	9%	0%	2%	12%	2%	1%	1%	3%	11%	0%	7%	2%	100%		
介護助手あり	介護助手なし	時間(分)	30.6	63.2	15.1	3.5	47.9	32.8	13.0	1.5	17.5	17.6	53.3	2.4	2.3	49.0	5.3	2.1	6.0	25.7	53.3	1.6	32.2	4.0	480.0		
	割合		6%	13%	3%	1%	10%	7%	3%	0%	4%	4%	11%	1%	0%	10%	1%	0%	1%	5%	11%	0%	7%	1%	100%		

△の項目は調査票の記載名から一部省略し、等書きで修正



■間接業務 ■直接介護 ■休憩・待機・仮眠 □その他 □未記入

【介護助手延べ勤務時間 20 時間以上】 介護助手なし n=57、介護助手あり n=57

【介護助手延べ勤務時間 20 時間未満】 介護助手なし n=81、介護助手あり n=69

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値

※介護老人福祉施設、介護老人保健施設のみの集計結果

(3) 職員向けアンケート調査結果

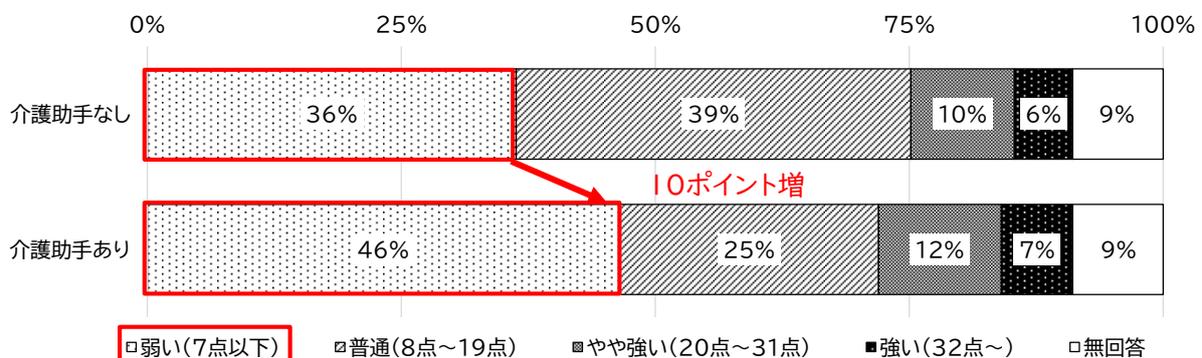
ア. 心理的負担評価

「介護助手なし」(事前調査)と「介護助手あり」(事後調査)の心理的ストレス反応測定尺度合計点を比較すると、全体において、「弱い(7点以下)」の割合は、「介護助手なし」36%、「介護助手あり」46%であり、介護助手ありでは10ポイント増加した。

サービス種別ごとの「弱い(7点以下)」の割合は、介護老人福祉施設では、「介護助手なし」38%、「介護助手あり」49%であり、「介護助手あり」では11ポイント増加した。介護老人保健施設では、「介護助手なし」30%、「介護助手あり」44%であり、「介護助手あり」では14ポイント増加した。認知症対応型共同生活介護では、「介護助手なし」40%、「介護助手あり」43%であり、「介護助手あり」では3ポイント増加した。

図表 VIII-28 全体 心理的ストレス反応測定尺度合計点の比較

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
介護助手なし	人数(人)	57	61	16	9	14	157
	割合	36%	39%	10%	6%	9%	100%
介護助手あり	人数(人)	73	40	19	11	14	157
	割合	46%	25%	12%	7%	9%	100%



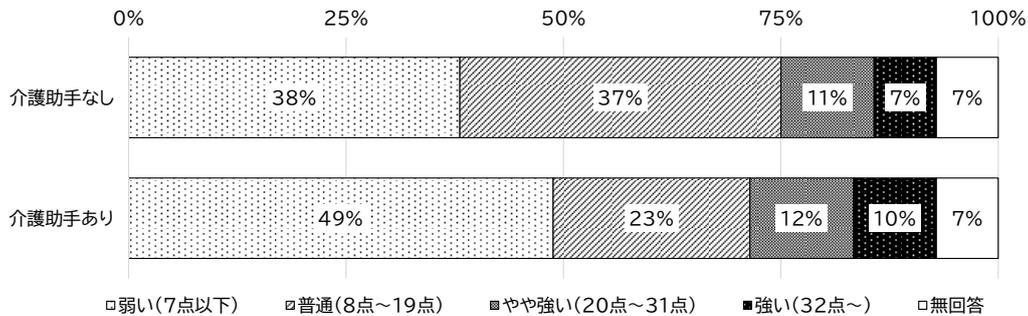
介護助手なし n=157、介護助手あり n=157

※n 数は調査対象となった施設職員数。

※ストレス反応は、SRS-18 個人の合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価し、事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

図表 VIII-29 施設種別 心理的ストレス反応測定尺度合計点の比較(介護老人福祉施設)

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
介護助手なし	人数(人)	32	31	9	6	6	84
	割合	38%	37%	11%	7%	7%	100%
介護助手あり	人数(人)	41	19	10	8	6	84
	割合	49%	23%	12%	10%	7%	100%



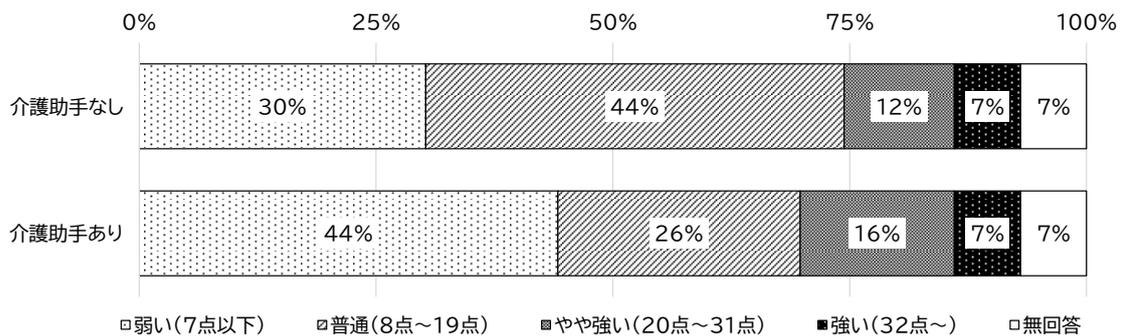
介護助手なし n=84、介護助手あり n=84

※n 数は調査対象となった施設職員数。

※ストレス反応は、SRS-18 個人の合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価し、事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

図表 VIII-30 施設種別 心理的ストレス反応測定尺度合計点の比較(介護老人保健施設)

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
介護助手なし	人数(人)	13	19	5	3	3	43
	割合	30%	44%	12%	7%	7%	100%
介護助手あり	人数(人)	19	11	7	3	3	43
	割合	44%	26%	16%	7%	7%	100%



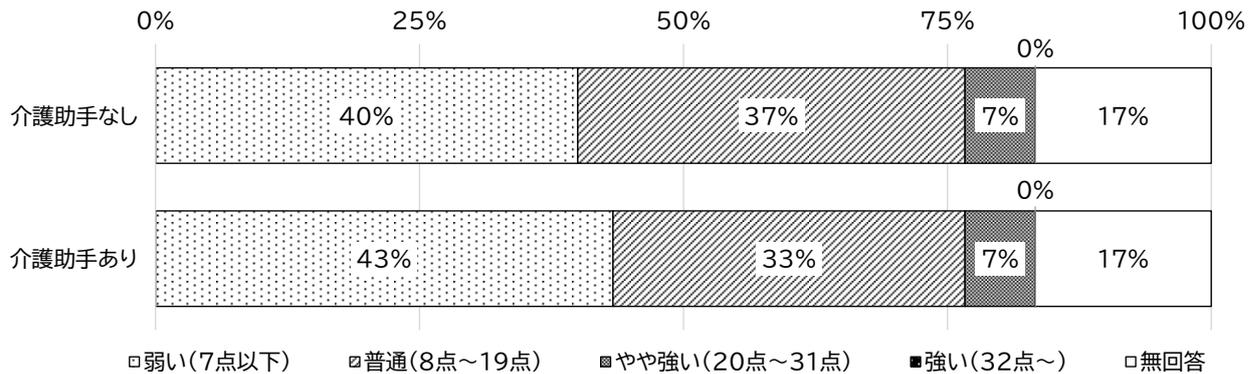
介護助手なし n=43、介護助手あり n=43

※n 数は調査対象となった施設職員数。

※ストレス反応は、SRS-18 個人の合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価し、事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

図表 VIII-31 施設種別 心理的ストレス反応測定尺度合計点の比較
(認知症対応型共同生活介護)

		7点以下	8点～ 19点	20点～ 31点	32点～	無回答	合計
介護助手なし	人数(人)	12	11	2	0	5	30
	割合	40%	37%	7%	0%	17%	100%
介護助手あり	人数(人)	13	10	2	0	5	30
	割合	43%	33%	7%	0%	17%	100%



介護助手なし n=30、介護助手あり n=30

※n 数は調査対象となった施設職員数。

※ストレス反応は、SRS-18 個人の合計点が0～7点を「弱い」、8～19 点を「普通」、20～31 点を「やや強い」、32 点以上を「強い」と評価し、事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査で、各 18 項目のうち 1 項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が 0、1、2、3 以外の場合は無回答処理をした。

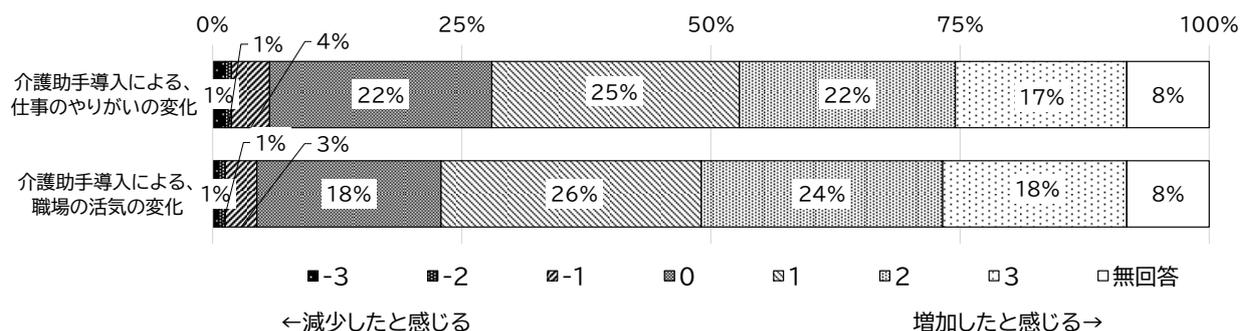
イ. 介護助手導入によるモチベーションの変化

「介護助手あり」において、実証施設全体を対象に、介護助手導入による職員のモチベーションの変化を比較した。「仕事のやりがいの変化」、「職場の活気の変化」で「増加したと感じる」という回答が、いずれも60%超であった。

サービス種別ごとでは、介護老人福祉施設および介護老人保健施設において、「仕事のやりがいの変化」、「職場の活気の変化」で「増加したと感じる」という回答は、いずれも60%超であった。認知症対応型共同生活介護では、「仕事のやりがいの変化」で「増加したと感じる」という回答は50%超、「職場の活気の変化」で「増加したと感じる」という回答は60%超であった。

図表 VIII-32 全体 介護助手導入による職員のモチベーションの変化(全体)

		←減少したと感じる→							増加したと感じる→	無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
介護助手導入による、 仕事のやりがいの変化	人数(人)	2	1	6	35	39	34	27	13	157	
	割合	1%	1%	4%	22%	25%	22%	17%	8%	100%	
介護助手導入による、 職場の活気の変化	人数(人)	1	1	5	29	41	38	29	13	157	
	割合	1%	1%	3%	18%	26%	24%	18%	8%	100%	



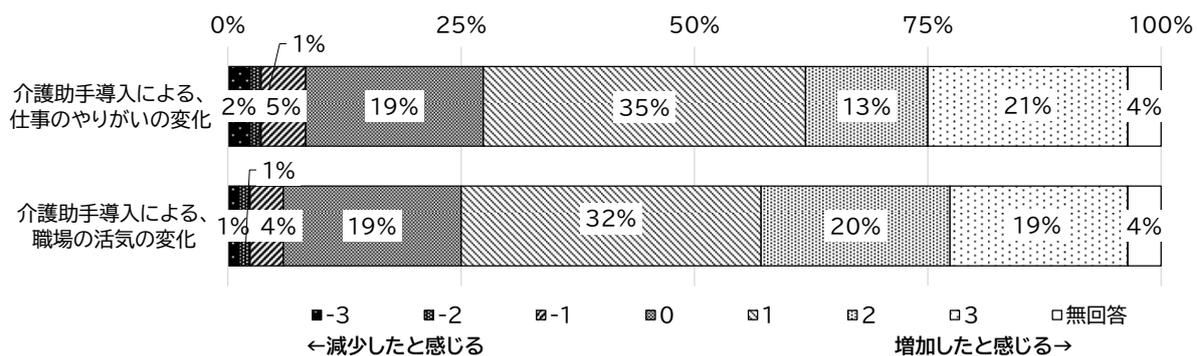
n=157

※n 数は調査対象となった施設職員数。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-33 施設種別 介護助手導入による職員のモチベーションの変化
(介護老人福祉施設)

		←減少したと感じる→							増加したと感じる→	無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
介護助手導入による、 仕事のやりがいの変化	人数(人)	2	1	4	16	29	11	18	3	84	
	割合	2%	1%	5%	19%	35%	13%	21%	4%	100%	
介護助手導入による、 職場の活気の変化	人数(人)	1	1	3	16	27	17	16	3	84	
	割合	1%	1%	4%	19%	32%	20%	19%	4%	100%	



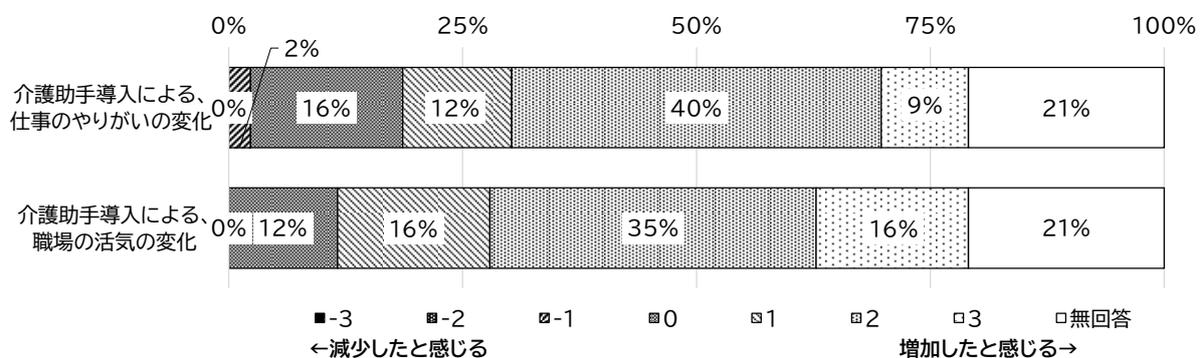
n=84

※n 数は調査対象となった施設職員数。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-34 施設種別 介護助手導入による職員のモチベーションの変化
(介護老人保健施設)

		←減少したと感じる→					増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
介護助手導入による、仕事のやりがいの変化	人数(人)	0	0	1	7	5	17	4	9	43	
	割合	0%	0%	2%	16%	12%	40%	9%	21%	100%	
介護助手導入による、職場の活気の変化	人数(人)	0	0	0	5	7	15	7	9	43	
	割合	0%	0%	0%	12%	16%	35%	16%	21%	100%	



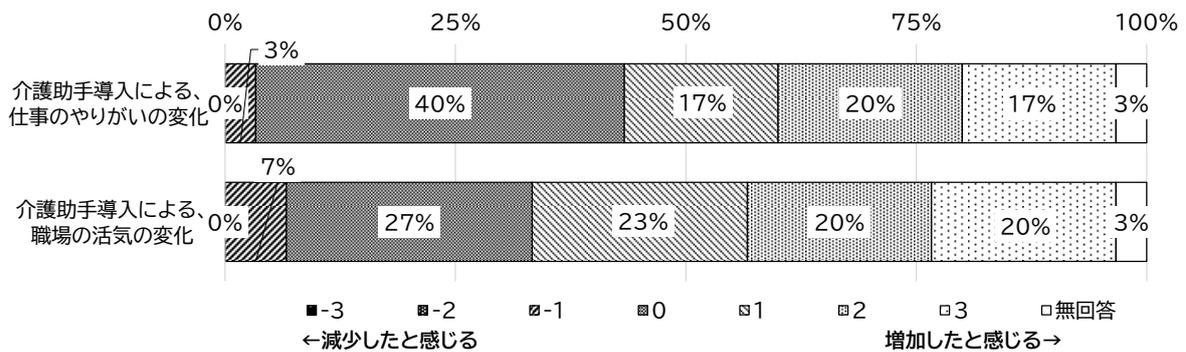
n=43

※n 数は調査対象となった施設職員数。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-35 施設種別 介護助手導入による職員のモチベーションの変化
(認知症対応型共同生活介護)

		←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3	
介護助手導入による、 仕事のやりがいの変化	人数(人)	0	0	1	12	5	6	5	1
	割合	0%	0%	3%	40%	17%	20%	17%	3%
介護助手導入による、 職場の活気の変化	人数(人)	0	0	2	8	7	6	6	1
	割合	0%	0%	7%	27%	23%	20%	20%	3%



n=30

※n 数は調査対象となった施設職員数。
※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

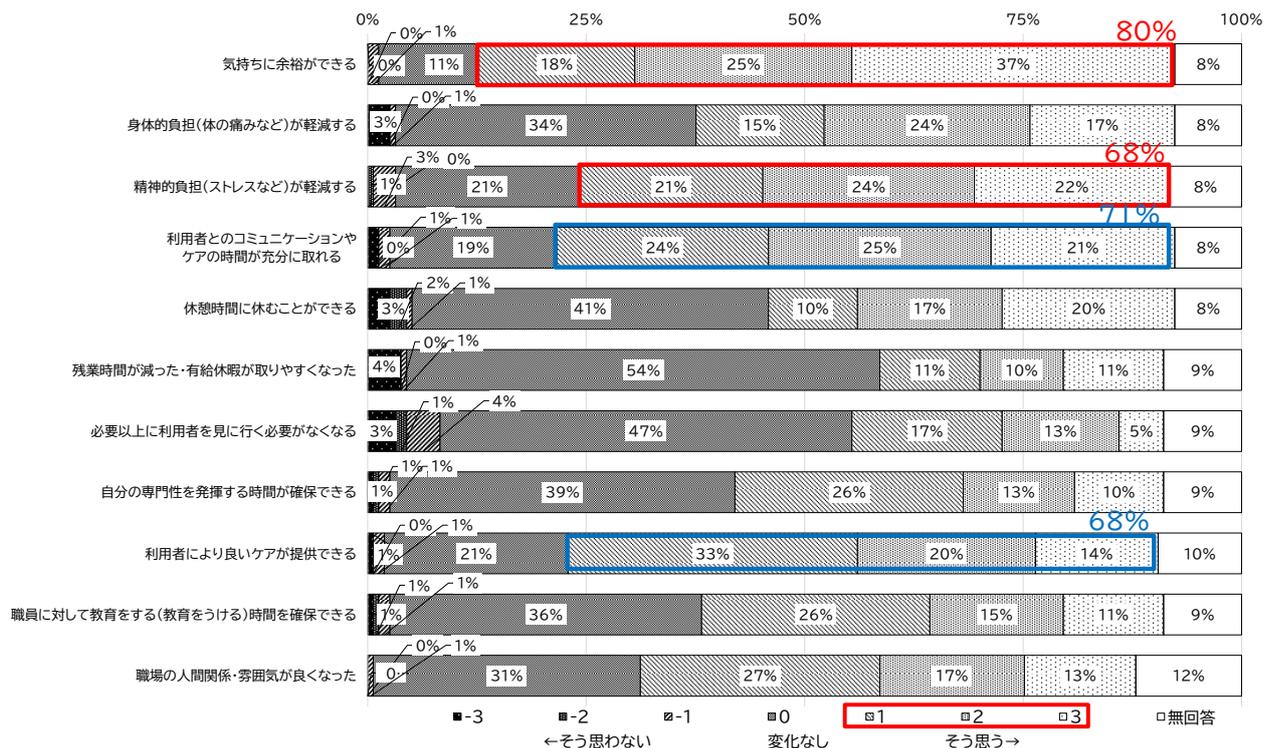
ウ. 介護助手導入による職員や施設業務の変化

介護助手導入による職員や施設業務の変化では、職員の精神的負担の軽減に関する項目(赤枠)、利用者へのケアに関する項目(青枠)において、「そう思う」という回答が、いずれも 65%超であった。

サービス種別ごとでは、介護老人福祉施設では、職員の精神的負担の軽減に関する項目、利用者へのケアに関する項目において、「そう思う」という回答が、いずれも 65%超であった。介護老人保健施設では、職員の精神的負担の軽減に関する項目において「そう思う」という回答は 65%超、利用者へのケアに関する項目において「そう思う」という回答は 60%超であった。認知症対応型共同生活介護では、職員の精神的負担の軽減に関する項目において「そう思う」という回答は 60%超、利用者へのケアに関する項目において「そう思う」という回答は 65%超であった。

図表 VIII-36 全体 介護助手導入による職員や施設業務の変化

		←そう思わない		変化なし			→そう思う			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
気持ちに余裕ができる	人数(人)	0	0	2	18	28	39	58	12	157	
	割合	0%	0%	1%	11%	18%	25%	37%	8%	100%	
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	人数(人)	4	0	1	54	23	37	26	12	157	
	割合	3%	0%	1%	34%	15%	24%	17%	8%	100%	
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	人数(人)	0	1	4	33	33	38	35	13	157	
	割合	0%	1%	3%	21%	21%	24%	22%	8%	100%	
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	人数(人)	2	0	2	30	38	40	33	12	157	
	割合	1%	0%	1%	19%	24%	25%	21%	8%	100%	
休憩時間に休むことができる	人数(人)	4	3	1	64	16	26	31	12	157	
	割合	3%	2%	1%	41%	10%	17%	20%	8%	100%	
残業時間が減った・有給休暇が取りやすくなった	人数(人)	6	0	1	85	18	15	18	14	157	
	割合	4%	0%	1%	54%	11%	10%	11%	9%	100%	
必要以上に利用者を見に行く必要がなくなる	人数(人)	5	2	6	74	27	21	8	14	157	
	割合	3%	1%	4%	47%	17%	13%	5%	9%	100%	
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	人数(人)	1	1	2	62	41	20	16	14	157	
	割合	1%	1%	1%	39%	26%	13%	10%	9%	100%	
利用者により良いケアが提供できる	人数(人)	1	0	2	33	52	32	22	15	157	
	割合	1%	0%	1%	21%	33%	20%	14%	10%	100%	
職員に対して教育をする(教育をうける)時間を確保できる	人数(人)	1	1	2	56	41	24	18	14	157	
	割合	1%	1%	1%	36%	26%	15%	11%	9%	100%	
職場の人間関係・雰囲気が悪くなった	人数(人)	0	0	1	48	43	26	20	19	157	
	割合	0%	0%	1%	31%	27%	17%	13%	12%	100%	



n=157

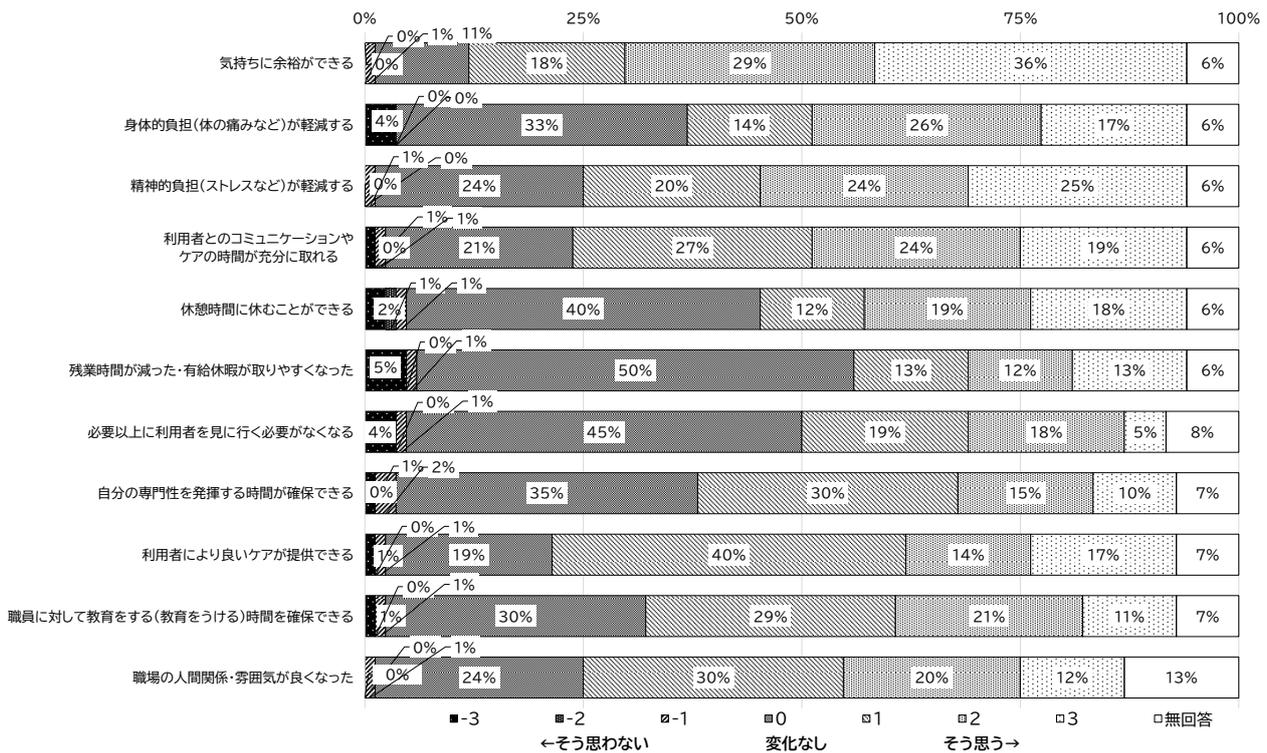
※n 数は調査対象となった施設職員数。

※介護助手導入による職員や施設業務の変化は、-3(そう思わない)～+3(そう思う)の 7 段階で評価し、職員の精神的負担の軽減に関する項目および利用者へのケアに関する項目において、+1～+3 のいずれかに回答した職員の割合を赤枠で表示した。本設問に回答がない場合は無回答とした。また、複数選択があった場合は無回答処理をした。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-37 施設種別 介護助手導入による職員や施設業務の変化
(介護老人福祉施設)

		←そう思わない 変化なし そう思う→							無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	人数(人)	0	0	1	9	15	24	30	5	84
	割合	0%	0%	1%	11%	18%	29%	36%	6%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	人数(人)	3	0	0	28	12	22	14	5	84
	割合	4%	0%	0%	33%	14%	26%	17%	6%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	人数(人)	0	0	1	20	17	20	21	5	84
	割合	0%	0%	1%	24%	20%	24%	25%	6%	100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が十分に取れる	人数(人)	1	0	1	18	23	20	16	5	84
	割合	1%	0%	1%	21%	27%	24%	19%	6%	100%
休憩時間に休むことができる	人数(人)	2	1	1	34	10	16	15	5	84
	割合	2%	1%	1%	40%	12%	19%	18%	6%	100%
残業時間が減った・有給休暇が取りやすくなった	人数(人)	4	0	1	42	11	10	11	5	84
	割合	5%	0%	1%	50%	13%	12%	13%	6%	100%
必要以上に利用者を見に行く必要がなくなる	人数(人)	3	0	1	38	16	15	4	7	84
	割合	4%	0%	1%	45%	19%	18%	5%	8%	100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	人数(人)	1	0	2	29	25	13	8	6	84
	割合	1%	0%	2%	35%	30%	15%	10%	7%	100%
利用者により良いケアが提供できる	人数(人)	1	0	1	16	34	12	14	6	84
	割合	1%	0%	1%	19%	40%	14%	17%	7%	100%
職員に対して教育をする(教育をうける)時間を確保できる	人数(人)	1	0	1	25	24	18	9	6	84
	割合	1%	0%	1%	30%	29%	21%	11%	7%	100%
職場の人間関係・雰囲気が良くなった	人数(人)	0	0	1	20	25	17	10	11	84
	割合	0%	0%	1%	24%	30%	20%	12%	13%	100%



n=84

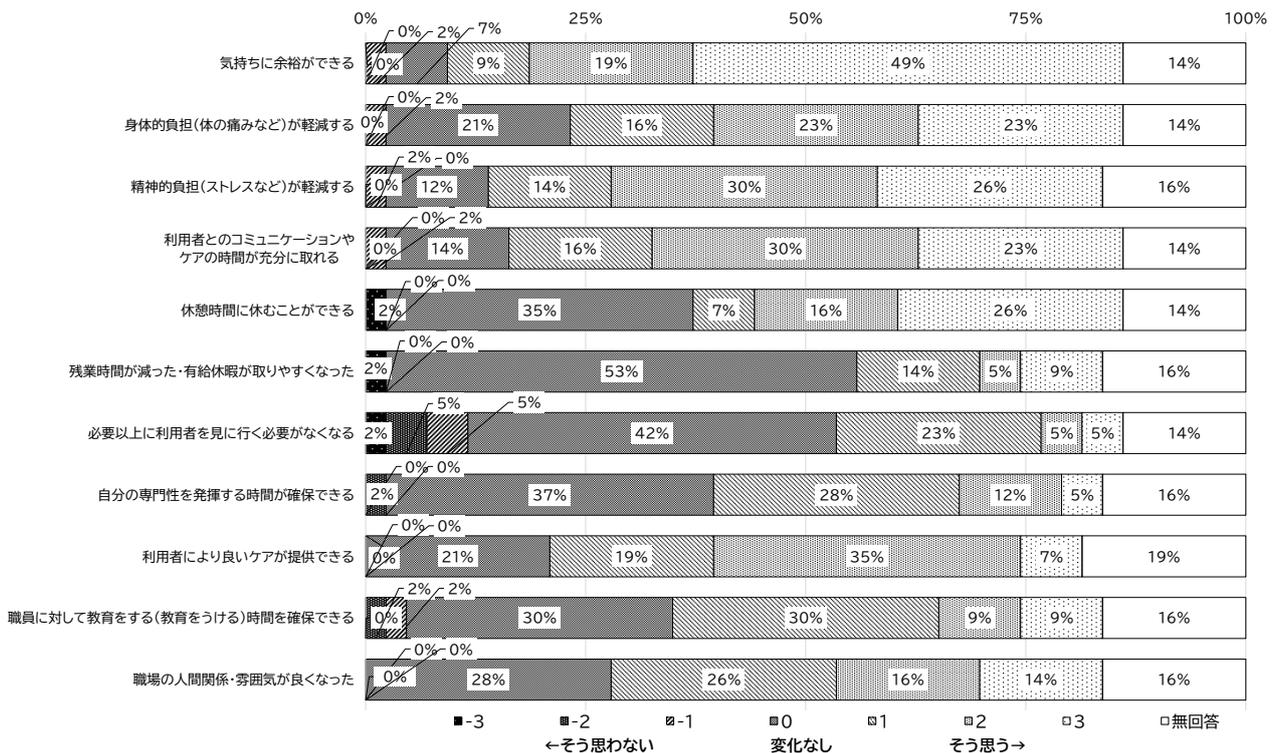
※n 数は調査対象となった施設職員数。

※介護助手導入による職員や施設業務の変化は、-3(そう思わない)～+3(そう思う)の7段階で評価し、本設問に回答がない場合は無回答とした。また、複数選択があった場合は無回答処理をした。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-38 施設種別 介護助手導入による職員や施設業務の変化
(介護老人保健施設)

		←そう思わない 変化なし そう思う→							無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	人数(人)	0	0	1	3	4	8	21	6	43
	割合	0%	0%	2%	7%	9%	19%	49%	14%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	人数(人)	0	0	1	9	7	10	10	6	43
	割合	0%	0%	2%	21%	16%	23%	23%	14%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	人数(人)	0	0	1	5	6	13	11	7	43
	割合	0%	0%	2%	12%	14%	30%	26%	16%	100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	人数(人)	0	0	1	6	7	13	10	6	43
	割合	0%	0%	2%	14%	16%	30%	23%	14%	100%
休憩時間に休むことができる	人数(人)	1	0	0	15	3	7	11	6	43
	割合	2%	0%	0%	35%	7%	16%	26%	14%	100%
残業時間が減った・有給休暇が取りやすくなった	人数(人)	1	0	0	23	6	2	4	7	43
	割合	2%	0%	0%	53%	14%	5%	9%	16%	100%
必要以上に利用者を見に行く必要がなくなる	人数(人)	1	2	2	18	10	2	2	6	43
	割合	2%	5%	5%	42%	23%	5%	5%	14%	100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	人数(人)	0	1	0	16	12	5	2	7	43
	割合	0%	2%	0%	37%	28%	12%	5%	16%	100%
利用者により良いケアが提供できる	人数(人)	0	0	0	9	8	15	3	8	43
	割合	0%	0%	0%	21%	19%	35%	7%	19%	100%
職員に対して教育をする(教育をうける)時間を確保できる	人数(人)	0	1	1	13	13	4	4	7	43
	割合	0%	2%	2%	30%	30%	9%	9%	16%	100%
職場の人間関係・雰囲気良かった	人数(人)	0	0	0	12	11	7	6	7	43
	割合	0%	0%	0%	28%	26%	16%	14%	16%	100%



n=43

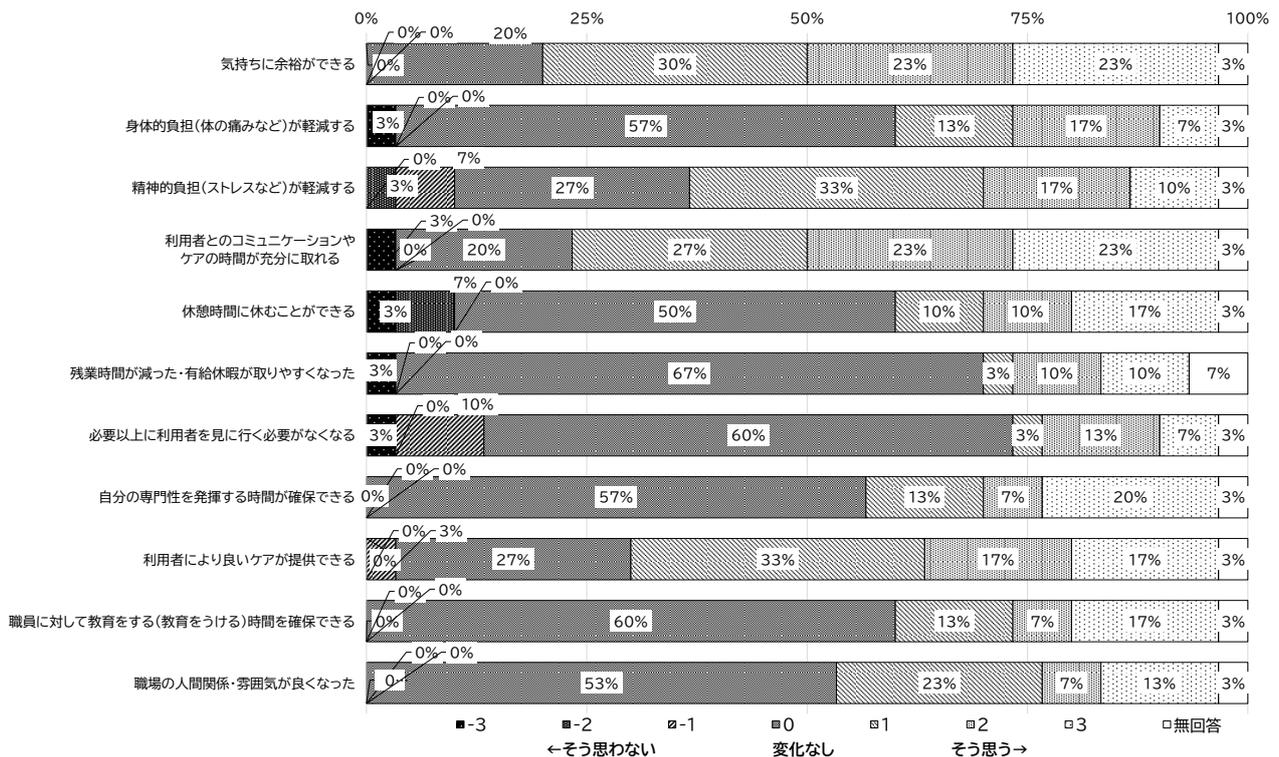
※n 数は調査対象となった施設職員数。

※介護助手導入による職員や施設業務の変化は、-3(そう思わない)～+3(そう思う)の 7 段階で評価し、本設問に回答がない場合は無回答とした。また、複数選択があった場合は無回答処理をした。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-39 施設種別 介護助手導入による職員や施設業務の変化
(認知症対応型共同生活介護)

		←そう思わない							無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	人数(人)	0	0	0	6	9	7	7	1	30
	割合	0%	0%	0%	20%	30%	23%	23%	3%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	人数(人)	1	0	0	17	4	5	2	1	30
	割合	3%	0%	0%	57%	13%	17%	7%	3%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	人数(人)	0	1	2	8	10	5	3	1	30
	割合	0%	3%	7%	27%	33%	17%	10%	3%	100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	人数(人)	1	0	0	6	8	7	7	1	30
	割合	3%	0%	0%	20%	27%	23%	23%	3%	100%
休憩時間に休むことができる	人数(人)	1	2	0	15	3	3	5	1	30
	割合	3%	7%	0%	50%	10%	10%	17%	3%	100%
残業時間が減った・有給休暇が取りやすくなった	人数(人)	1	0	0	20	1	3	3	2	30
	割合	3%	0%	0%	67%	3%	10%	10%	7%	100%
必要以上に利用者を見に行く必要がなくなる	人数(人)	1	0	3	18	1	4	2	1	30
	割合	3%	0%	10%	60%	3%	13%	7%	3%	100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	人数(人)	0	0	0	17	4	2	6	1	30
	割合	0%	0%	0%	57%	13%	7%	20%	3%	100%
利用者により良いケアが提供できる	人数(人)	0	0	1	8	10	5	5	1	30
	割合	0%	0%	3%	27%	33%	17%	17%	3%	100%
職員に対して教育をする(教育をうける)時間を確保できる	人数(人)	0	0	0	18	4	2	5	1	30
	割合	0%	0%	0%	60%	13%	7%	17%	3%	100%
職場の人間関係・雰囲気が良くなった	人数(人)	0	0	0	16	7	2	4	1	30
	割合	0%	0%	0%	53%	23%	7%	13%	3%	100%



n=30

※n 数は調査対象となった施設職員数。

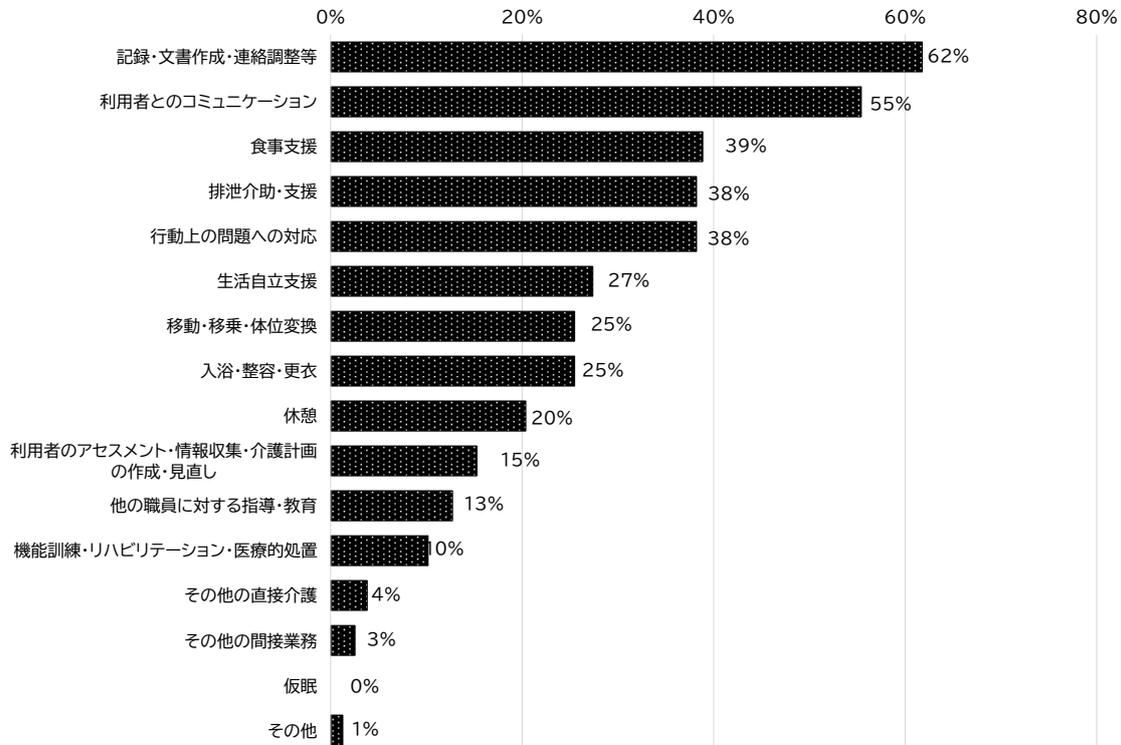
※介護助手導入による職員や施設業務の変化は、-3(そう思わない)～+3(そう思う)の 7 段階で評価し、本設問に回答がない場合は無回答とした。また、複数選択があった場合は無回答処理をした。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

介護助手の活用により職員が増やすことができた時間は、全体でみると、「記録・文書作成・連絡調整等」、「利用者とのコミュニケーション」が50%超であった。サービス種別ごとでは、介護老人福祉施設では、「記録・文書作成・連絡調整等」、「利用者とのコミュニケーション」、「食事支援」が50%超であった。介護老人保健施設では、「記録・文書作成・連絡調整等」、「利用者とのコミュニケーション」が50%超であった。認知症対応型共同生活介護では、「記録・文書作成・連絡調整等」、「行動上の問題への対応」「排泄介助・支援」が50%超であった。

図表 VIII-40 全体 介護助手の活用により職員が増やすことができた時間【複数回答】

	回答数	割合
記録・文書作成・連絡調整等	97	62%
利用者とのコミュニケーション	87	55%
食事支援	61	39%
排泄介助・支援	60	38%
行動上の問題への対応	60	38%
生活自立支援	43	27%
移動・移乗・体位変換	40	25%
入浴・整容・更衣	40	25%
休憩	32	20%
利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	24	15%
他の職員に対する指導・教育	20	13%
機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	16	10%
その他の直接介護	6	4%
その他の間接業務	4	3%
仮眠	0	0%
その他	2	1%
回答数	592	



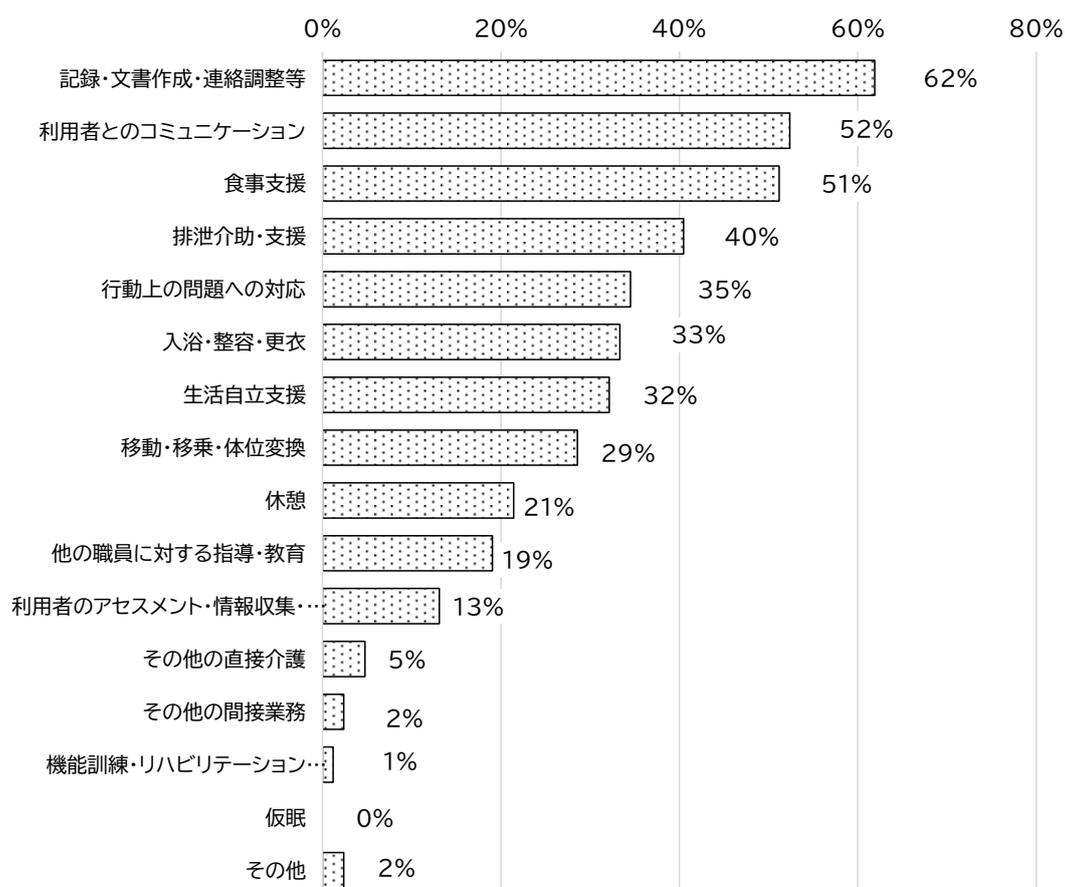
n=157

※n 数は調査対象となった施設職員数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-41 施設種別 介護助手の活用により職員が増やすことができた時間【複数回答】
(介護老人福祉施設)

	回答数	割合
利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	52	62%
移動・移乗・体位変換	44	52%
行動上の問題への対応	43	51%
利用者とのコミュニケーション	34	40%
排泄介助・支援	29	35%
生活自立支援	28	33%
食事支援	27	32%
記録・文書作成・連絡調整等	24	29%
その他の間接業務	18	21%
機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	16	19%
他の職員に対する指導・教育	11	13%
休憩	4	5%
その他の直接介護	2	2%
入浴・整容・更衣	1	1%
仮眠	0	0%
その他	2	2%
回答数	335	



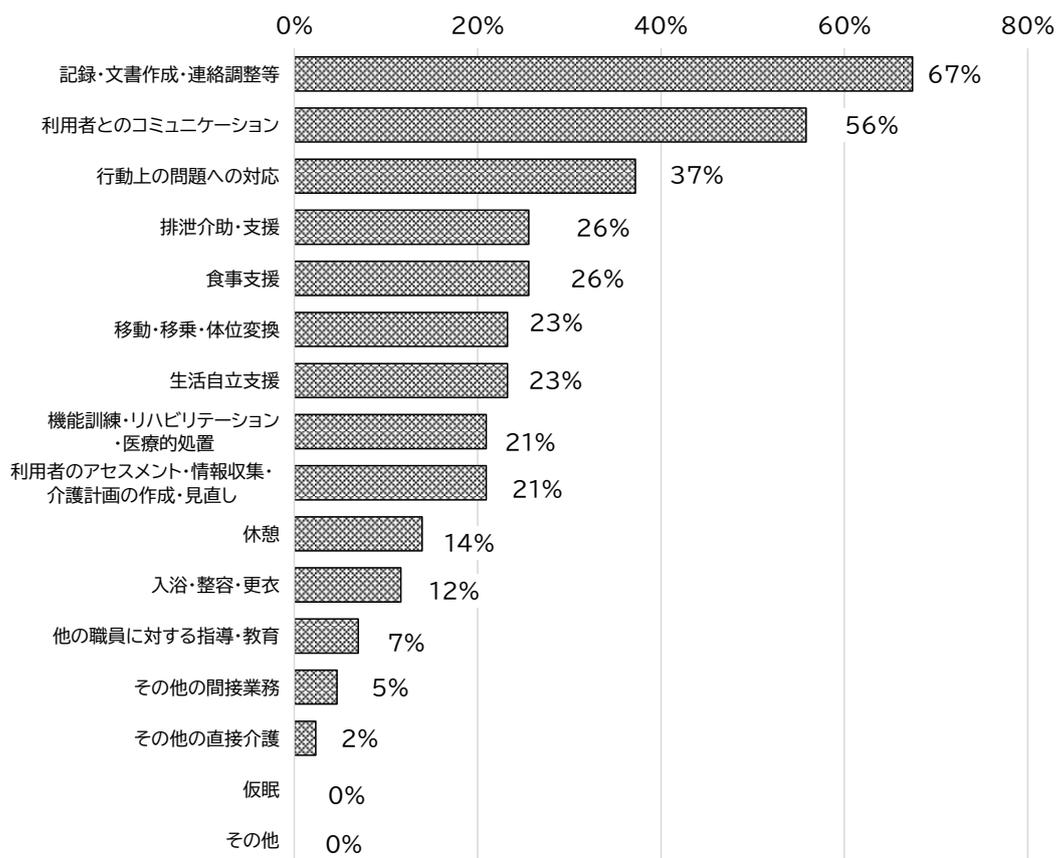
n=84

※n 数は調査対象となった施設職員数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-42 施設種別 介護助手の活用により職員が増やすことができた時間【複数回答】
(介護老人保健施設)

	回答数	割合
休憩	29	67%
生活自立支援	24	56%
排泄介助・支援	16	37%
利用者とのコミュニケーション	11	26%
食事支援	11	26%
記録・文書作成・連絡調整等	10	23%
行動上の問題への対応	10	23%
機能訓練・リハビリテーション	9	21%
入浴・整容・更衣	9	21%
その他の直接介護	6	14%
移動・移乗・体位変換	5	12%
他の職員に対する指導・教育	3	7%
その他の間接業務	2	5%
利用者のアセスメント・情報収集・	1	2%
仮眠	0	0%
その他	0	0%
回答数	146	



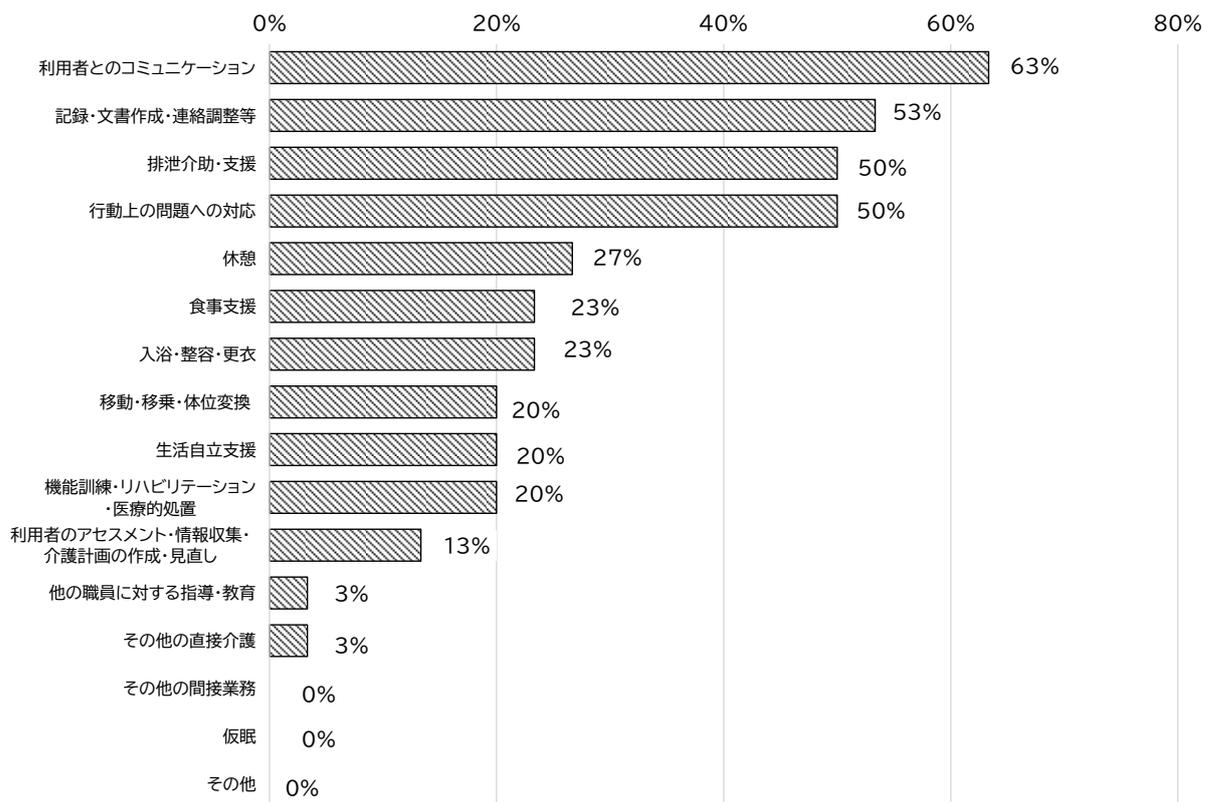
n=43

※n 数は調査対象となった施設職員数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-43 施設種別 介護助手の活用により職員が増やすことができた時間【複数回答】
(認知症対応型共同生活介護)

	回答数	割合
利用者とのコミュニケーション	19	63%
記録・文書作成・連絡調整等	16	53%
排泄介助・支援	15	50%
行動上の問題への対応	15	50%
休憩	8	27%
食事支援	7	23%
入浴・整容・更衣	7	23%
移動・移乗・体位変換	6	20%
生活自立支援	6	20%
機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	6	20%
利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	4	13%
その他の直接介護	1	3%
他の職員に対する指導・教育	1	3%
その他の間接業務	0	0%
仮眠	0	0%
その他	0	0%
回答数	111	



n=30

※n 数は調査対象となった施設職員数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

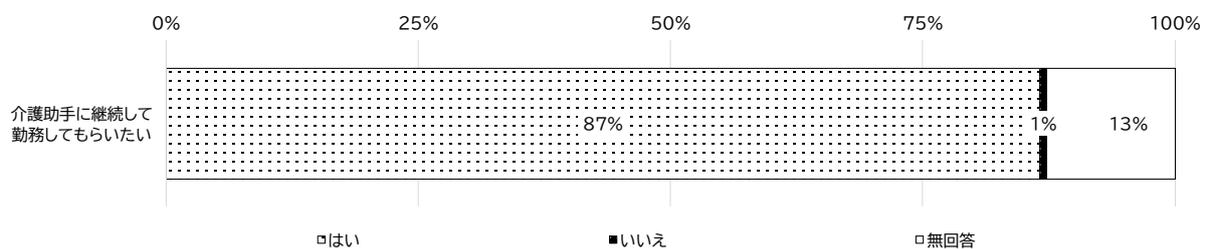
※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

介護助手の継続利用意向について、全体でみると、「介護助手に継続して勤務してもらいたい」と回答した職員は87%であった。

サービス種別ごとでは、いずれの施設においても75%以上の職員が「介護助手に継続して勤務してもらいたい」と回答した。

図表 VIII-44 全体 職員からみた介護助手の継続利用意向

		はい	いいえ	無回答	合計
介護助手に継続して	人数(人)	136	1	20	157
勤務してもらいたい	割合	87%	1%	13%	100%



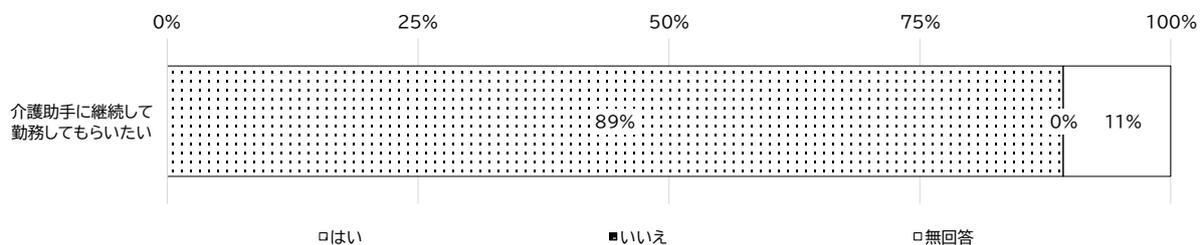
n=157

※n 数は調査対象となった施設職員数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-45 施設種別 職員からみた介護助手の継続利用意向
(介護老人福祉施設)

		はい	いいえ	無回答	合計
介護助手に継続して	人数(人)	75	0	9	84
勤務してもらいたい	割合	89%	0%	11%	100%



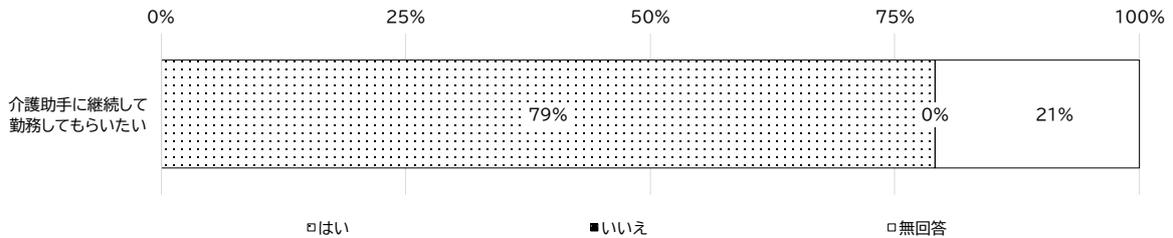
n=84

※n 数は調査対象となった施設職員数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-46 施設種別 職員からみた介護助手の継続利用意向
(介護老人保健施設)

		はい	いいえ	無回答	合計
介護助手に継続して勤務してもらいたい	人数(人)	34	0	9	43
	割合	79%	0%	21%	100%

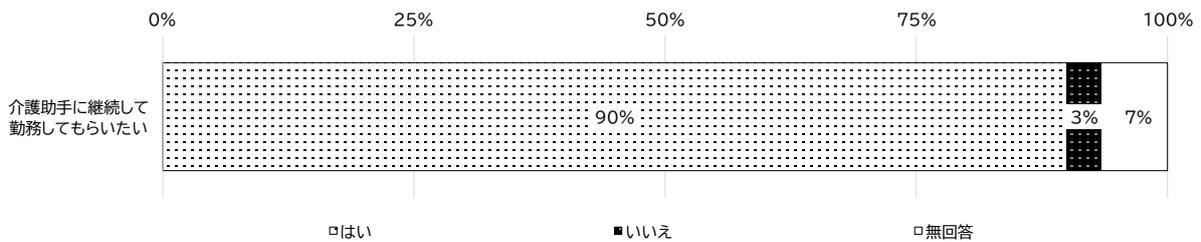


n=43

※n 数は調査対象となった施設職員数。本設問に回答がない場合は無回答とした。
※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-47 施設種別 職員からみた介護助手の継続利用意向
(認知症対応型共同生活介護)

		はい	いいえ	無回答	合計
介護助手に継続して勤務してもらいたい	人数(人)	27	1	2	30
	割合	90%	3%	7%	100%



n=30

※n 数は調査対象となった施設職員数。本設問に回答がない場合は無回答とした。
※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

介護助手を継続して利用したいと思わない理由について、「業務負担軽減に思ったよりつながらない」「職員と介護助手がコミュニティや人間関係を構築しにくい」「依頼したい業務内容が介護助手にとって難しい」といった回答があった。

図表 VIII-48 介護助手を継続して利用したいと思わない理由【複数回答】
(介護助手を継続して利用したいと思わない職員のみ)

	回答数	割合
業務負担軽減に思ったよりつながらない	1	100%
職員と介護助手がコミュニティや人間関係を構築しにくい	1	100%
依頼したい業務内容が介護助手にとって難しい	1	100%
費用対効果が期待できない	0	0%
雇用条件が合わない	0	0%
依頼したい業務量が介護助手にとって体力的に難しい	0	0%
介護助手の家庭の事情による持続的な雇用が困難である	0	0%
職員と介護助手との仕事への意識に乖離がある	0	0%
その他	1	100%
回答数	4	

※n 数は「介護助手に継続して勤務してもらいたい」に対して「いいえ」と回答した施設職員数。

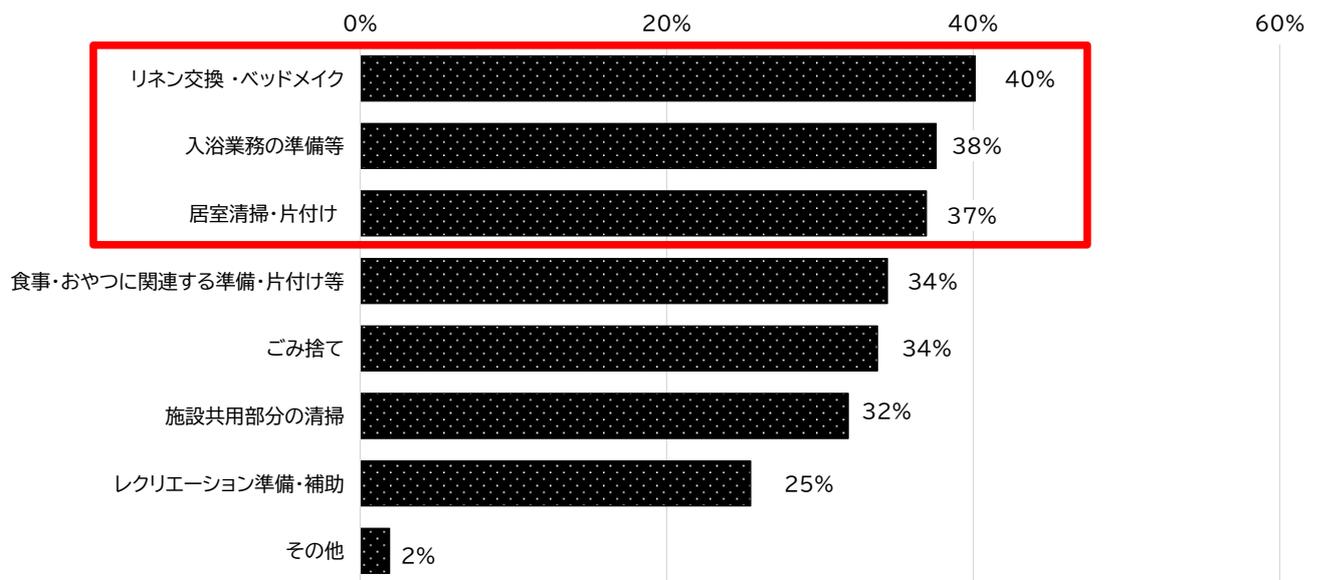
n=1

本実証で介護助手が担当した業務以外で、介護助手が担えると考えられる業務については、全体で見ると、「リネン交換・ベッドメイク」「入浴業務の準備等」、「居室清掃・片付け」が上位だった。

サービス種別ごとでは、介護老人福祉施設では「入浴業務の準備等」48%、介護老人保健施設では「リネン交換・ベッドメイク」37%、認知症対応型共同生活介護では「居室清掃・片付け」40%が上位であった。

図表 VIII-49 全体 本実証で介護助手が担当した業務以外で介護助手が担えると考えられる業務
【複数回答】

	回答数	割合
リネン交換・ベッドメイク	63	40%
入浴業務の準備等	59	38%
居室清掃・片付け	58	37%
食事・おやつに関連する準備・片付け等	54	34%
ごみ捨て	53	34%
施設共用部分の清掃	50	32%
レクリエーション準備・補助	40	25%
その他	3	2%
回答数	380	



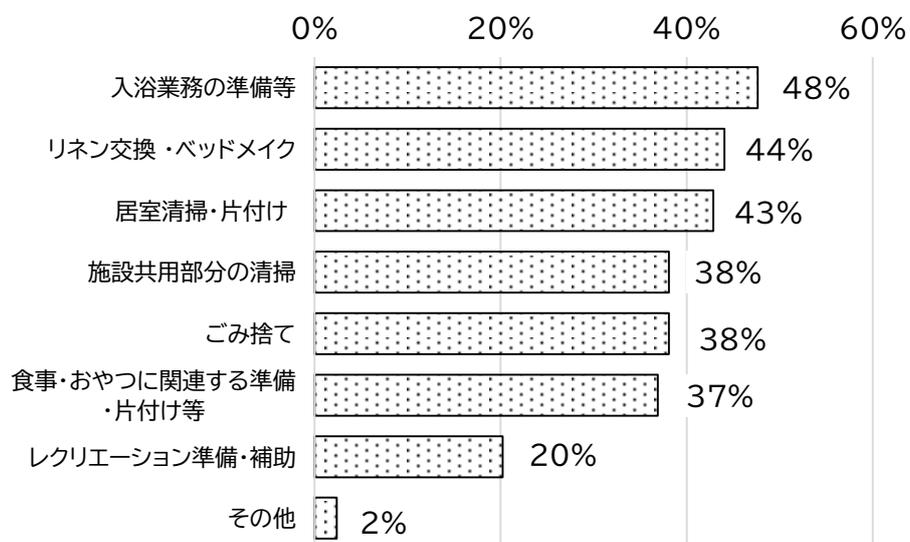
n=157

※n 数は調査対象となった施設職員数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-50 施設種別 本実証で介護助手が担当した業務以外で介護助手が担えと考えられる業務
【複数回答】(介護老人福祉施設)

	回答数	割合
入浴業務の準備等	40	48%
リネン交換・ベッドメイク	37	44%
居室清掃・片付け	36	43%
施設共用部分の清掃	32	38%
ごみ捨て	32	38%
食事・おやつに関連する準備・片付け等	31	37%
レクリエーション準備・補助	17	20%
その他	2	2%
回答数	227	



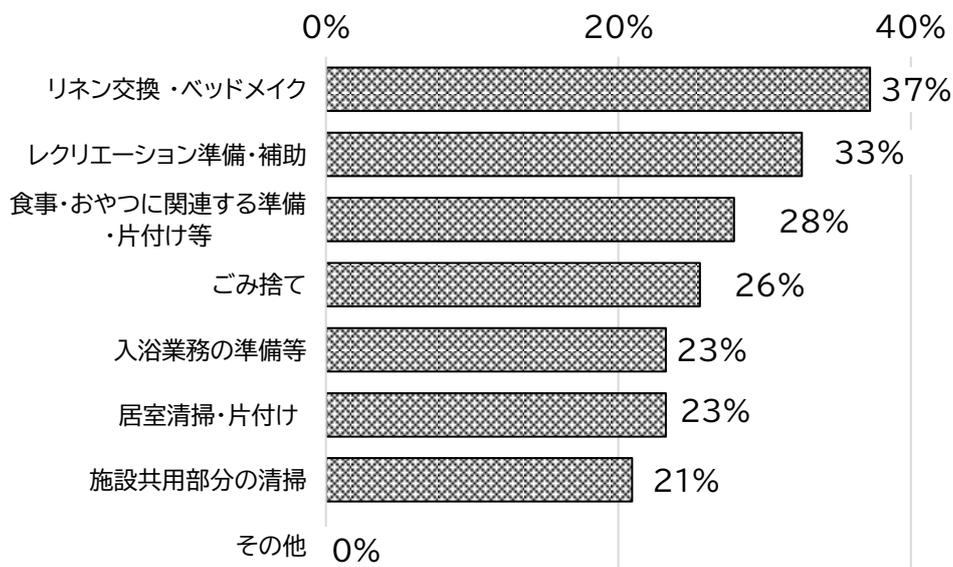
n=84

※n 数は調査対象となった施設職員数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-51 施設種別 本実証で介護助手が担当した業務以外で介護助手が担えと考えられる業務
【複数回答】(介護老人保健施設)

	回答数	割合
リネン交換・ベッドメイク	16	37%
レクリエーション準備・補助	14	33%
食事・おやつに関連する準備・片付け等	12	28%
ごみ捨て	11	26%
入浴業務の準備等	10	23%
居室清掃・片付け	10	23%
施設共用部分の清掃	9	21%
その他	0	0%
回答数	82	



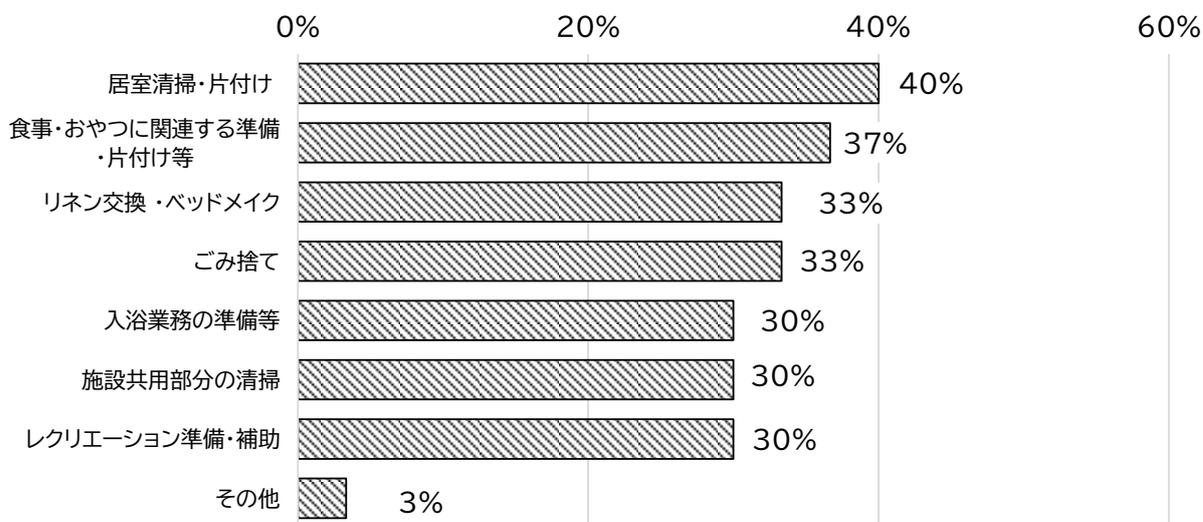
n=43

※n 数は調査対象となった施設職員数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

図表 VIII-52 施設種別 本実証で介護助手が担当した業務以外で介護助手が担えと考えられる業務
【複数回答】(認知症対応型共同生活介護)

	回答数	割合
居室清掃・片付け	12	40%
食事・おやつに関連する準備・片付け等	11	37%
リネン交換・ベッドメイク	10	33%
ごみ捨て	10	33%
入浴業務の準備等	9	30%
施設共用部分の清掃	9	30%
レクリエーション準備・補助	9	30%
その他	1	3%
回答数	71	



n=30

※n 数は調査対象となった施設職員数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

※本設問は「介護助手あり」の場合のみ。

(4) 介護助手向けアンケート調査結果

ア. 基本情報

「介護助手あり」(事後調査)にて、介護助手向けアンケート調査に回答した介護助手は 29 名であった。実証施設全体における介護助手の男女比は、男性が 3%、女性が 93%であった。また、介護助手の年齢構成は 70 代以上が 48%で最も多く、次いで 60 代が 24%、50 代が 14%であった。

家族等の介護経験の有無では、有が 62%、無が 34%であり、介護現場での就労経験の有無では、有が 34%、無が 66%であった。

図表 VIII-53 介護助手概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	1	11	1	13
	割合	8%	85%	8%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	0	10	0	10
	割合	0%	100%	0%	100%
認知症対応型 共同生活介護	人数(人)	0	6	0	6
	割合	0%	100%	0%	100%
総数	人数(人)	1	27	1	29
	割合	3%	93%	3%	100%

n=29

図表 VIII-54 介護助手概要:年齢

		20歳 未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代 ~	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	0	1	1	1	3	4	3	0	13
	割合	0%	8%	8%	8%	23%	31%	23%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	0	0	0	1	1	1	7	0	10
	割合	0%	0%	0%	10%	10%	10%	70%	0%	100%
認知症対応型 共同生活介護	人数(人)	0	0	0	0	0	2	4	0	6
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	33%	67%	0%	100%
総数	人数(人)	0	1	1	2	4	7	14	0	29
	割合	0%	3%	3%	7%	14%	24%	48%	0%	100%

n=29

図表 VIII-55 介護助手概要:家族等の介護経験

		有	無	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	11	2	0	13
	割合	85%	15%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	4	6	0	10
	割合	40%	60%	0%	100%
認知症対応型 共同生活介護	人数(人)	3	2	1	6
	割合	50%	33%	17%	100%
総数	人数(人)	18	10	1	29
	割合	62%	34%	3%	100%

n=29

図表 VIII-56 介護助手概要:介護現場での就労経験

		有	無	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	6	7	0	13
	割合	46%	54%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	2	8	0	10
	割合	20%	80%	0%	100%
認知症対応型 共同生活介護	人数(人)	2	4	0	6
	割合	33%	67%	0%	100%
総数	人数(人)	10	19	0	29
	割合	34%	66%	0%	100%

n=29

イ. 介護・医療に関する資格の有無、介護に関する研修会参加有無

実証施設全体における介護助手の介護・医療に関する資格の有無では、有が 34%、無が 45%であった。資格有(10名)のうち、ヘルパー2級(介護職員初任者研修修了者)が最も多く 80%(8名)であった。

介護に関する研修会参加の有無では、有が 14%、無が 66%であった。研修参加者(4名)のうち、無回答は 75%(3名)、その他は 25%(1名、施設での研修)であった。

図表 VIII-57 介護助手概要:介護・医療に関する資格

		有	無	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	6	4	3	13
	割合	46%	31%	23%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	1	8	1	10
	割合	10%	80%	10%	100%
認知症対応型 共同生活介護	人数(人)	3	1	2	6
	割合	50%	17%	33%	100%
総数	人数(人)	10	13	6	29
	割合	34%	45%	21%	100%

n=29

図表 VIII-58 介護助手概要:介護・医療に関する資格

(介護・医療に関する資格について「有」と回答した場合)

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外の介護に関する)	ヘルパー 2級	看護師	看護師以外の 医療に関する国家資格	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	1	0	5	0	0	6
	割合	17%	0%	83%	0%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	0	0	1	0	0	1
	割合	0%	0%	100%	0%	0%	100%
認知症対応型 共同生活介護	人数(人)	0	0	2	1	0	3
	割合	0%	0%	67%	33%	0%	100%
総数	人数(人)	1	0	8	1	0	10
	割合	10%	0%	80%	10%	0%	100%

n=10

※n数は「介護・医療に関する資格「有」と回答した人数。

※「ヘルパー2級」は介護職員初任者研修修了者を指す。

図表 VIII-59 介護助手概要:介護に関する研修会への参加

		有	無	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	2	8	3	13
	割合	15%	62%	23%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	0	9	1	10
	割合	0%	90%	10%	100%
認知症対応型 共同生活介護	人数(人)	2	2	2	6
	割合	33%	33%	33%	100%
総数	人数(人)	4	19	6	29
	割合	14%	66%	21%	100%

n=29

・ 図表 VIII-60 介護助手概要:介護に関する研修会への参加
(介護に関する研修会への参加について「有」と回答した場合)

		生活援助従 事者研修	市町村等が 主催する介 護講座	その他	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	0	0	0	2	2
	割合	0%	0%	0%	100%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	0	0	0	0	0
	割合					
認知症対応型 共同生活介護	人数(人)	0	0	1	1	2
	割合	0%	0%	50%	50%	100%
総数	人数(人)	0	0	1	3	4
	割合	0%	0%	25%	75%	100%

※その他(自由記述):施設での研修

n=4

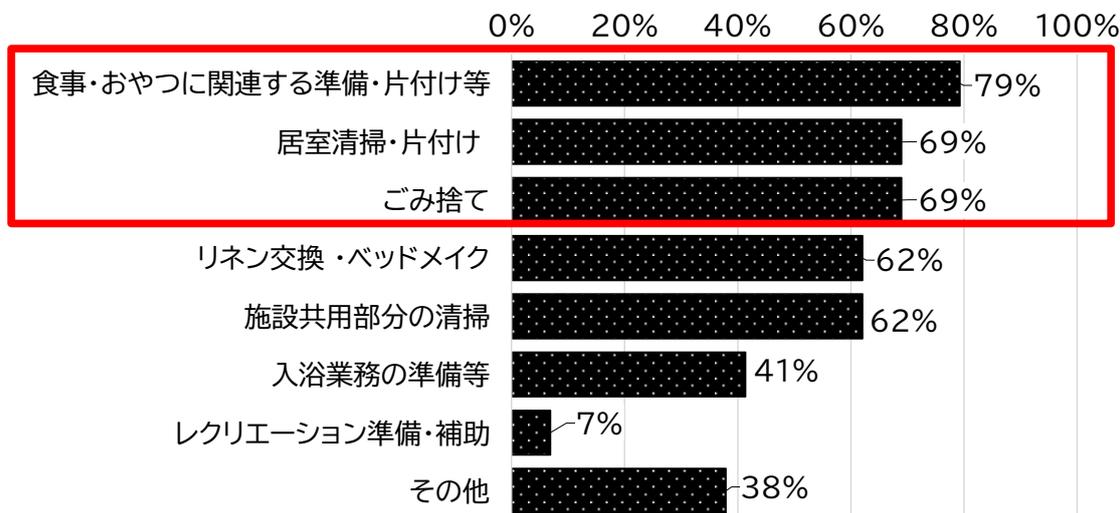
※n 数は「介護に関する研修会参加「有」と回答した人数。

ウ. 介護助手の業務内容

介護助手の業務内容は「食事・おやつに関連する準備・片付け等」、「居室清掃・片付け」、「ごみ捨て」の順に多かった。

図表 VIII-61 全体 介護助手の業務内容【複数回答】

	回答数	割合
食事・おやつに関連する準備・片付け等	23	79%
居室清掃・片付け	20	69%
ごみ捨て	20	69%
リネン交換・ベッドメイク	18	62%
施設共用部分の清掃	18	62%
入浴業務の準備等	12	41%
レクリエーション準備・補助	2	7%
その他	11	38%
回答数	124	



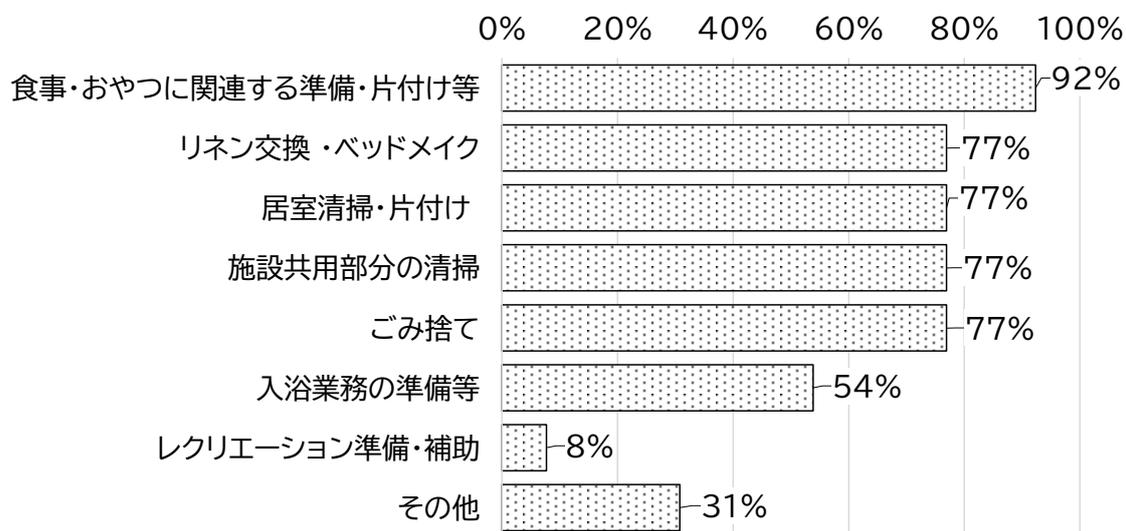
n=29

※n 数は調査対象となった介護助手数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

介護助手の業務内容について、サービス種別ごとに比較した。介護老人福祉施設および介護老人保健施設では「食事・おやつに関連する準備・片付け等」が最も多かった(介護老人福祉施設 92%、介護老人保健施設 70%)。認知症対応型共同生活介護では「施設共用部分の清掃」(100%)が最も多かった。

図表 VIII-62 施設種別 介護助手の業務内容【複数回答】(介護老人福祉施設)

	回答数	割合
食事・おやつに関連する準備・片付け等	12	92%
リネン交換・ベッドメイク	10	77%
居室清掃・片付け	10	77%
施設共用部分の清掃	10	77%
ごみ捨て	10	77%
入浴業務の準備等	7	54%
レクリエーション準備・補助	1	8%
その他	4	31%
回答数	64	

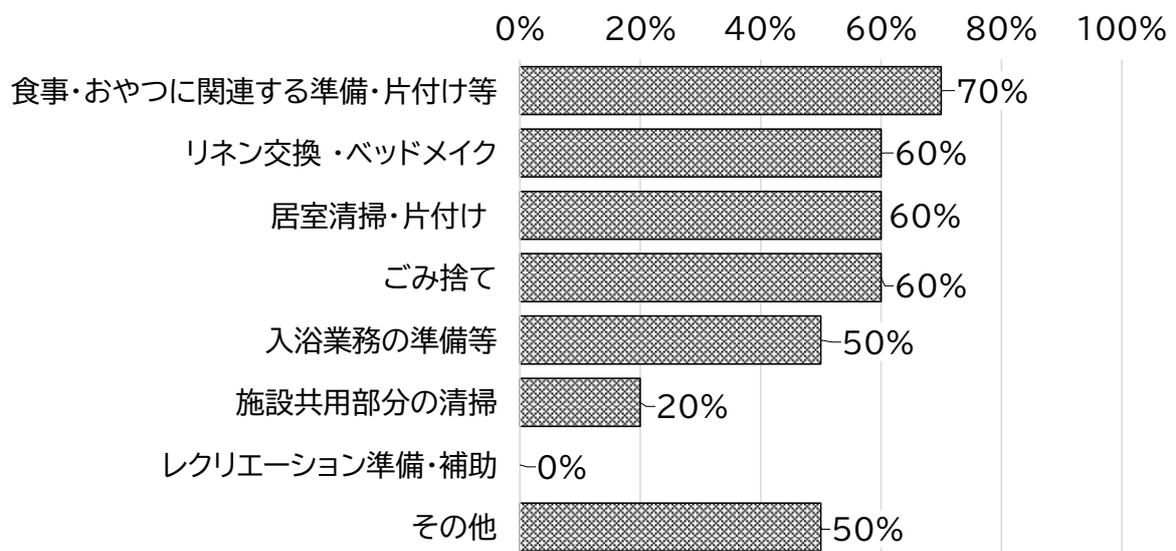


n=13

※n 数は調査対象となった介護助手数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

図表 VIII-63 施設種別 介護助手の業務内容【複数回答】(介護老人保健施設)

	回答数	割合
食事・おやつに関連する準備・片付け等	7	70%
リネン交換・ベッドメイク	6	60%
居室清掃・片付け	6	60%
ごみ捨てる	6	60%
入浴業務の準備等	5	50%
施設共用部分の清掃	2	20%
レクリエーション準備・補助	0	0%
その他	5	50%
回答数	37	

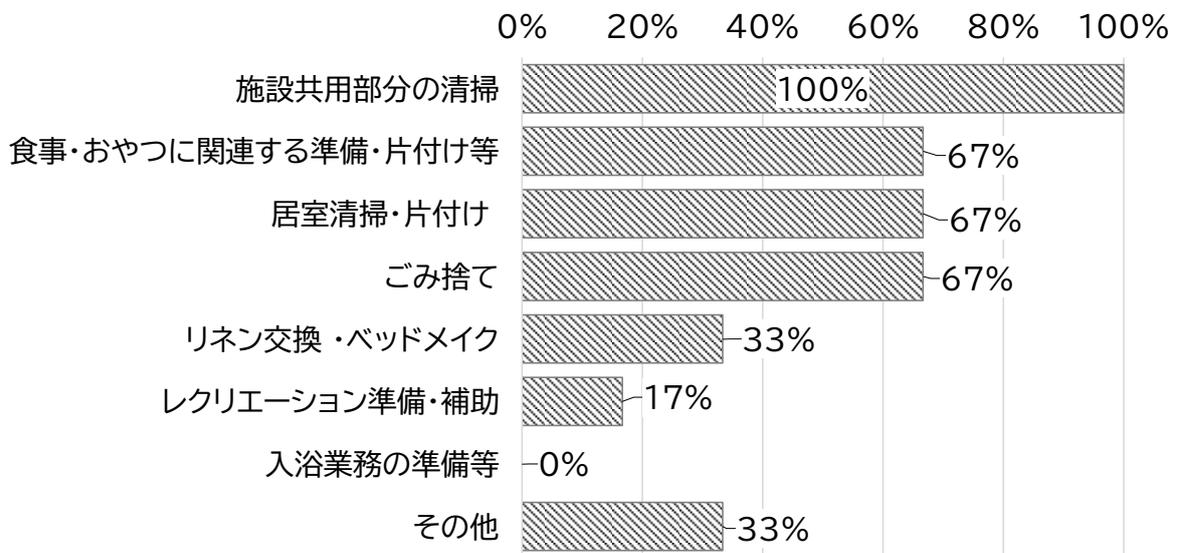


n=10

※n 数は調査対象となった介護助手数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

図表 VIII-64 施設種別 介護助手の業務内容【複数回答】(認知症対応型共同生活介護)

	回答数	割合
施設共用部分の清掃	6	100%
食事・おやつに関連する準備・片付け等	4	67%
居室清掃・片付け	4	67%
ごみ捨てる	4	67%
リネン交換・ベッドメイク	2	33%
レクリエーション準備・補助	1	17%
入浴業務の準備等	0	0%
その他	2	33%
回答数	23	



n=6

※n 数は調査対象となった介護助手数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

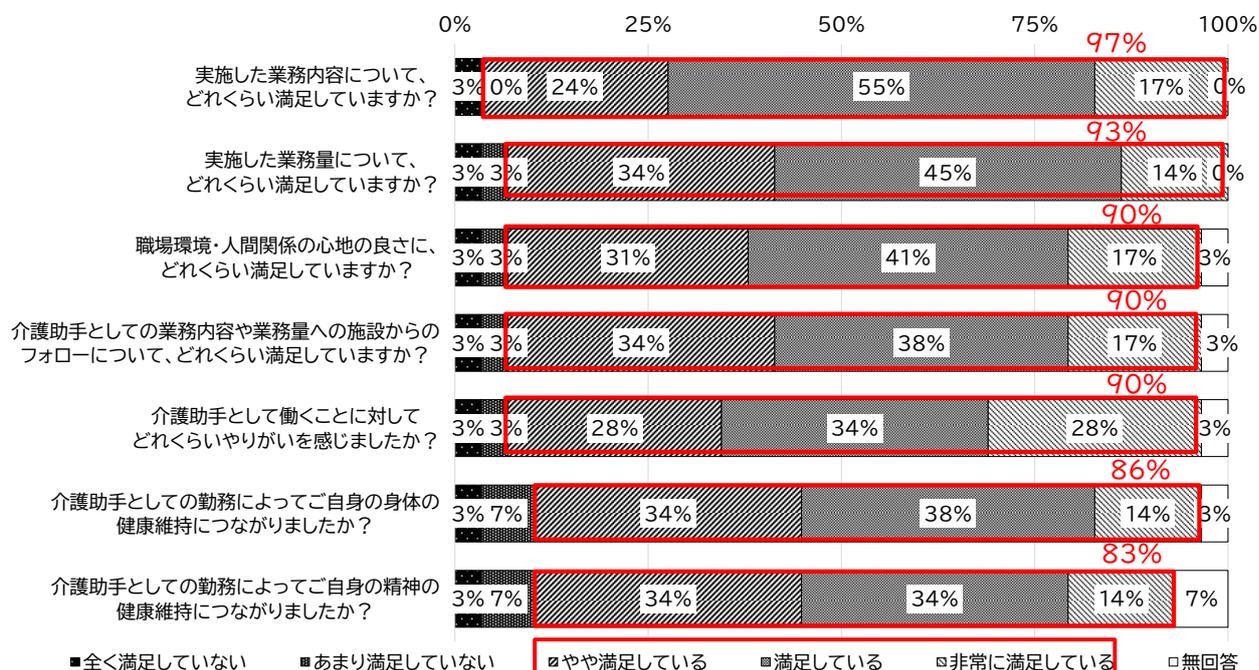
エ. 仕事のやりがい・満足度

介護助手の仕事のやりがい・満足度について、いずれの項目においても満足傾向の回答割合が 80%以上であった。

また、サービス種別ごとにも、介護老人福祉施設、介護老人保健施設、認知症対応型共同生活介護において、全体の傾向と同様に、いずれの項目においても満足傾向の回答割合が 80%以上であった。

図表 VIII-65 全体 介護助手の仕事のやりがい・満足度

		全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している	無回答	合計
実施した業務内容について、どれくらい満足していますか？	人数(人)	1	0	7	16	5	0	29
	割合	3%	0%	24%	55%	17%	0%	100%
実施した業務量について、どれくらい満足していますか？	人数(人)	1	1	10	13	4	0	29
	割合	3%	3%	34%	45%	14%	0%	100%
職場環境・人間関係の心地の良さに、どれくらい満足していますか？	人数(人)	1	1	9	12	5	1	29
	割合	3%	3%	31%	41%	17%	3%	100%
介護助手としての業務内容や業務量への施設からのフォローについて、どれくらい満足していますか？	人数(人)	1	1	10	11	5	1	29
	割合	3%	3%	34%	38%	17%	3%	100%
介護助手として働くことに対してどれくらいやりがいを感じましたか？	人数(人)	1	1	8	10	8	1	29
	割合	3%	3%	28%	34%	28%	3%	100%
介護助手としての勤務によってご自身の身体の健康維持につながりましたか？	人数(人)	1	2	10	11	4	1	29
	割合	3%	7%	34%	38%	14%	3%	100%
介護助手としての勤務によってご自身の精神の健康維持につながりましたか？	人数(人)	1	2	10	10	4	2	29
	割合	3%	7%	34%	34%	14%	7%	100%

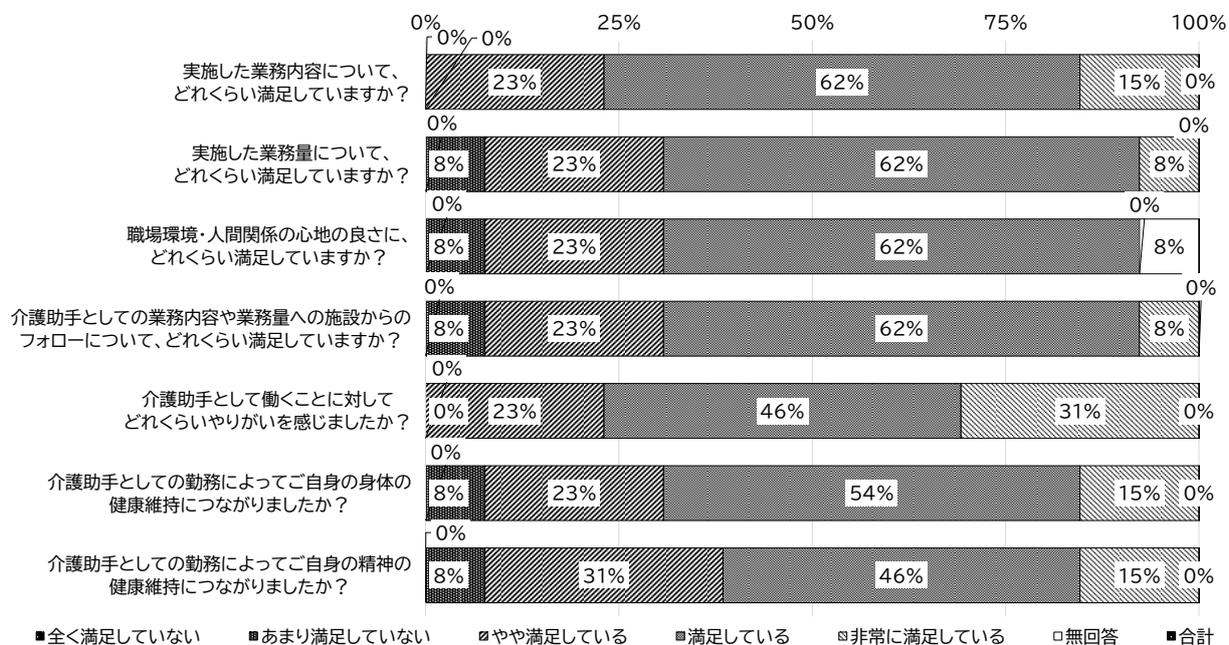


n=29

※n数は介護助手の人数。本設問に回答がない場合は無回答とした。満足傾向の回答を赤枠にて表示した。

図表 VIII-66 施設種別 介護助手の仕事のやりがい・満足度(介護老人福祉施設)

		全く満足 していない	あまり 満足 していない	やや満足 している	満足して いる	非常に 満足 している	無回答	合計
実施した業務内容について、どれくらい満足していますか？	人数(人)	0	0	3	8	2	0	13
	割合	0%	0%	23%	62%	15%	0%	100%
実施した業務量について、どれくらい満足していますか？	人数(人)	0	1	3	8	1	0	13
	割合	0%	8%	23%	62%	8%	0%	100%
職場環境・人間関係の心地の良さに、どれくらい満足していますか？	人数(人)	0	1	3	8	0	1	13
	割合	0%	8%	23%	62%	0%	8%	100%
介護助手としての業務内容や業務量への施設からのフォローについて、どれくらい満足していますか？	人数(人)	0	1	3	8	1	0	13
	割合	0%	8%	23%	62%	8%	0%	100%
介護助手として働くことに対してどれくらいやりがいを感しましたか？	人数(人)	0	0	3	6	4	0	13
	割合	0%	0%	23%	46%	31%	0%	100%
介護助手としての勤務によってご自身の身体 の健康維持につながりましたか？	人数(人)	0	1	3	7	2	0	13
	割合	0%	8%	23%	54%	15%	0%	100%
介護助手としての勤務によってご自身の精神 の健康維持につながりましたか？	人数(人)	0	1	4	6	2	0	13
	割合	0%	8%	31%	46%	15%	0%	100%

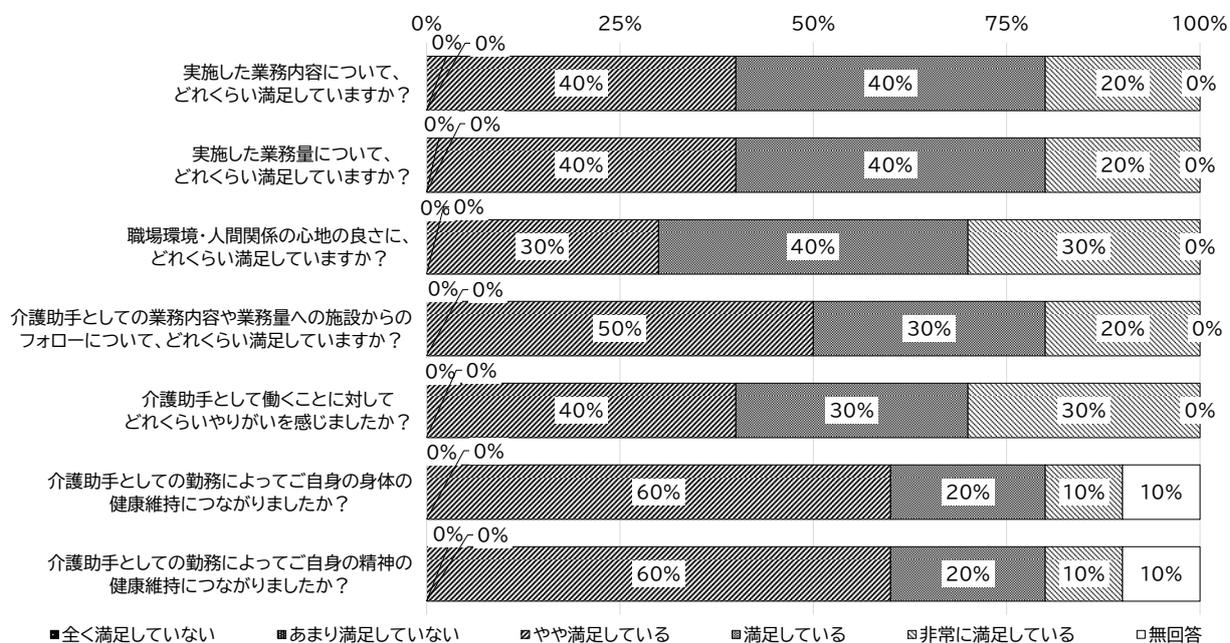


n=13

※n数は介護助手の人数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

図表 VIII-67 施設種別 介護助手の仕事のやりがい・満足度(介護老人保健施設)

		全く満足 していない	あまり 満足 していない	やや満足 している	満足して いる	非常に 満足 している	無回答	合計
実施した業務内容について、どれくらい満足していますか？	人数(人)	0	0	4	4	2	0	10
	割合	0%	0%	40%	40%	20%	0%	100%
実施した業務量について、どれくらい満足していますか？	人数(人)	0	0	4	4	2	0	10
	割合	0%	0%	40%	40%	20%	0%	100%
職場環境・人間関係の心地の良さに、どれくらい満足していますか？	人数(人)	0	0	3	4	3	0	10
	割合	0%	0%	30%	40%	30%	0%	100%
介護助手としての業務内容や業務量への施設からのフォローについて、どれくらい満足していますか？	人数(人)	0	0	5	3	2	0	10
	割合	0%	0%	50%	30%	20%	0%	100%
介護助手として働くことに対してどれくらいやりがいを感しましたか？	人数(人)	0	0	4	3	3	0	10
	割合	0%	0%	40%	30%	30%	0%	100%
介護助手としての勤務によってご自身の身体 の健康維持につながりましたか？	人数(人)	0	0	6	2	1	1	10
	割合	0%	0%	60%	20%	10%	10%	100%
介護助手としての勤務によってご自身の精神 の健康維持につながりましたか？	人数(人)	0	0	6	2	1	1	10
	割合	0%	0%	60%	20%	10%	10%	100%

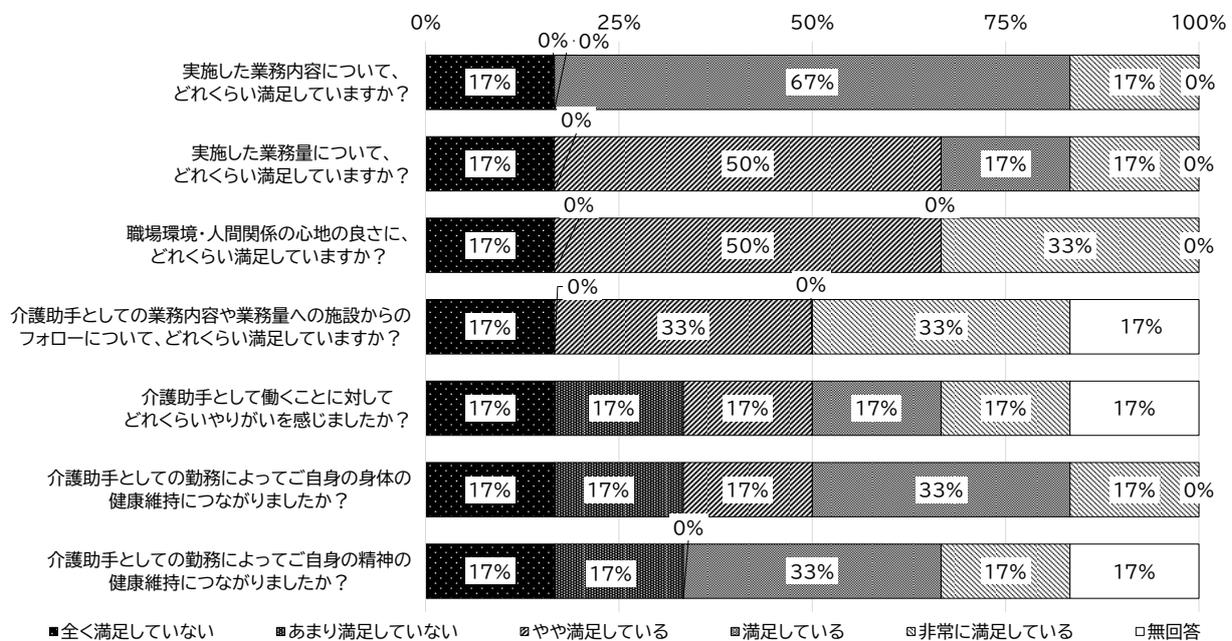


n=10

※n数は介護助手の人数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

図表 VIII-68 施設種別 介護助手の仕事のやりがい・満足度(認知症対応型共同生活介護)

		全く満足 していない	あまり 満足 していない	やや満足 している	満足して いる	非常に 満足 している	無回答	合計
実施した業務内容について、どれくらい満足していますか？	人数(人)	1	0	0	4	1	0	6
	割合	17%	0%	0%	67%	17%	0%	100%
実施した業務量について、どれくらい満足していますか？	人数(人)	1	0	3	1	1	0	6
	割合	17%	0%	50%	17%	17%	0%	100%
職場環境・人間関係の心地の良さに、どれくらい満足していますか？	人数(人)	1	0	3	0	2	0	6
	割合	17%	0%	50%	0%	33%	0%	100%
介護助手としての業務内容や業務量への施設からのフォローについて、どれくらい満足していますか？	人数(人)	1	0	2	0	2	1	6
	割合	17%	0%	33%	0%	33%	17%	100%
介護助手として働くことに対してどれくらいやりがいを感じましたか？	人数(人)	1	1	1	1	1	1	6
	割合	17%	17%	17%	17%	17%	17%	100%
介護助手としての勤務によってご自身の身体の健康維持につながりましたか？	人数(人)	1	1	1	2	1	0	6
	割合	17%	17%	17%	33%	17%	0%	100%
介護助手としての勤務によってご自身の精神の健康維持につながりましたか？	人数(人)	1	1	0	2	1	1	6
	割合	17%	17%	0%	33%	17%	17%	100%



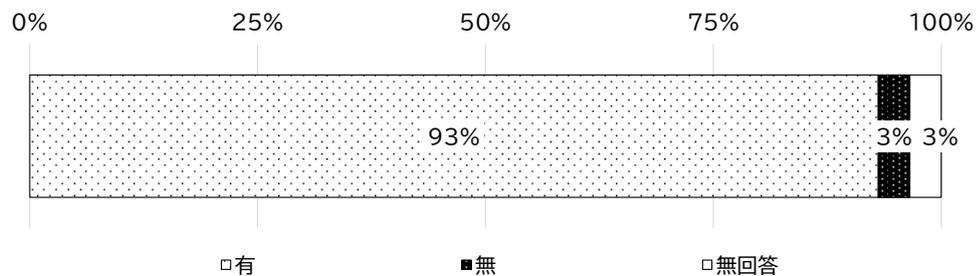
n=6

※n数は介護助手の人数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

介護助手の継続勤務希望について、「今後も継続して介護助手として勤務したい」と回答した介護助手の割合は全体で93%であった。一方で、「介護助手の勤務を希望しない」と回答した介護助手の割合は全体で3%であった。

図表 VIII-69 全体 介護助手の継続勤務希望

		有	無	無回答	合計
介護老人福祉施設	人数(人)	13	0	0	13
	割合	100%	0%	0%	100%
介護老人保健施設	人数(人)	8	1	1	10
	割合	80%	10%	10%	100%
認知症対応型 共同生活介護	人数(人)	6	0	0	6
	割合	100%	0%	0%	100%
総数	人数(人)	27	1	1	29
	割合	93%	3%	3%	100%



n=29

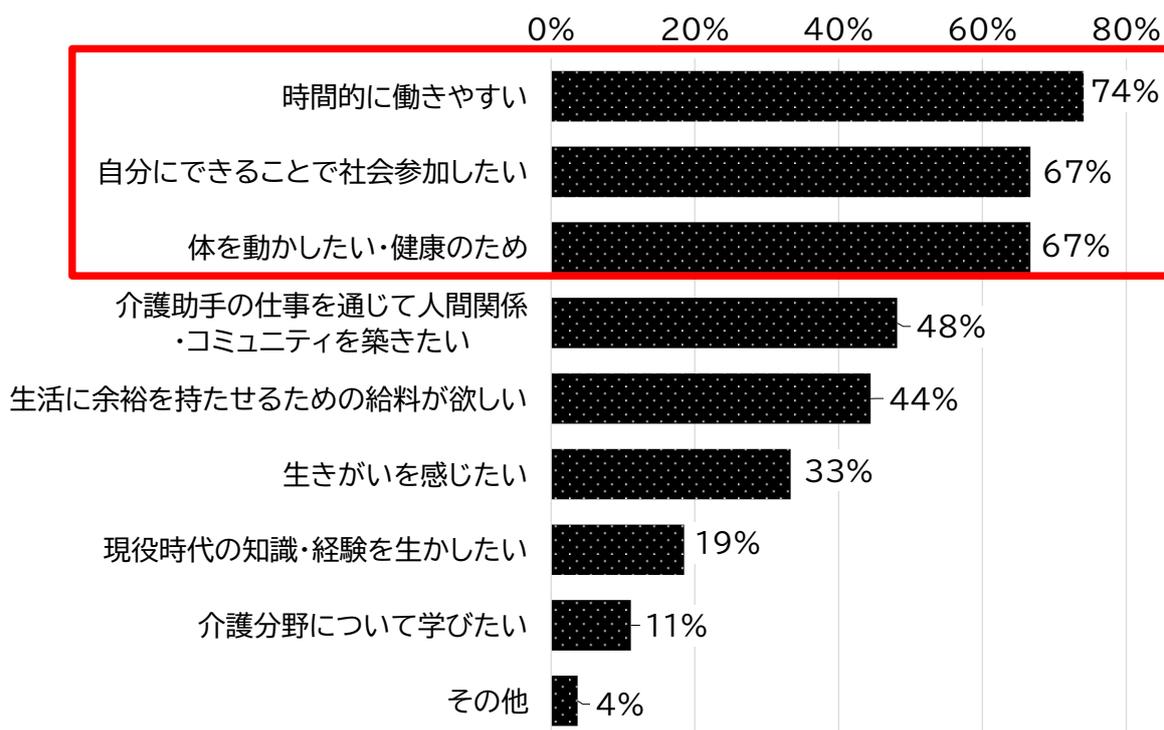
※n数は介護助手の人数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

継続して介護助手として勤務したい理由は「時間的に働きやすい」、「自分にできることで社会参加したい」、「体を動かしたい・健康のため」が上位に挙げられた。

施設種別ごとでは、介護老人福祉施設は「時間的に働きやすい」69%、介護老人保健施設は「体を動かしたい・健康のため」88%、認知症対応型共同生活介護は「自分にできることで社会参加したい」「時間的に働きやすい」83%が上位であった。

図表 VIII-70 全体 介護助手の継続勤務を希望した理由【複数回答】

	回答数	割合
時間的に働きやすい	20	74%
自分にできることで社会参加したい	18	67%
体を動かしたい・健康のため	18	67%
介護助手の仕事を通じて人間関係・コミュニティを築きたい	13	48%
生活に余裕を持たせるための給料が欲しい	12	44%
生きがいを感じたい	9	33%
現役時代の知識・経験を生かしたい	5	19%
介護分野について学びたい	3	11%
その他	1	4%
回答数	99	

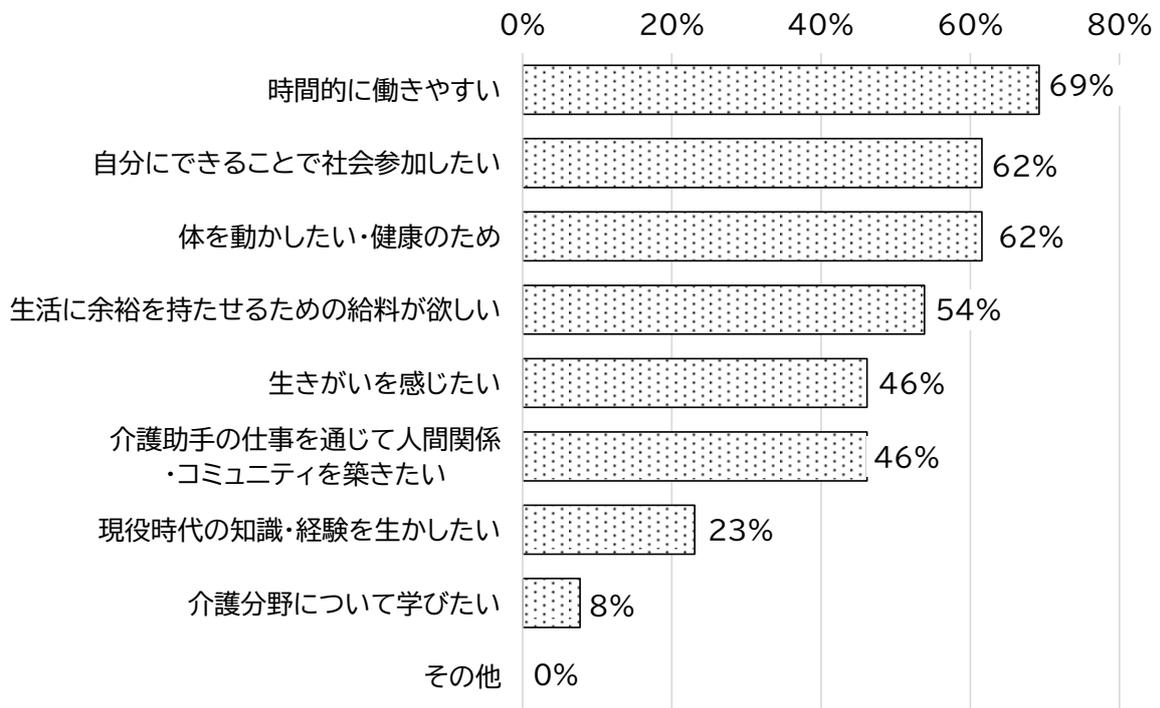


n=27

※n数は介護助手の継続勤務を希望した人数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

図表 VIII-71 施設種別 介護助手の継続勤務を希望した理由【複数回答】(介護老人福祉施設)

	回答数	割合
時間的に働きやすい	9	69%
自分にできることで社会参加したい	8	62%
体を動かしたい・健康のため	8	62%
生活に余裕を持たせるための給料が欲しい	7	54%
生きがいを感じたい	6	46%
介護助手の仕事を通じて人間関係・コミュニティを築きたい	6	46%
現役時代の知識・経験を生かしたい	3	23%
介護分野について学びたい	1	8%
その他	0	0%
回答数	48	

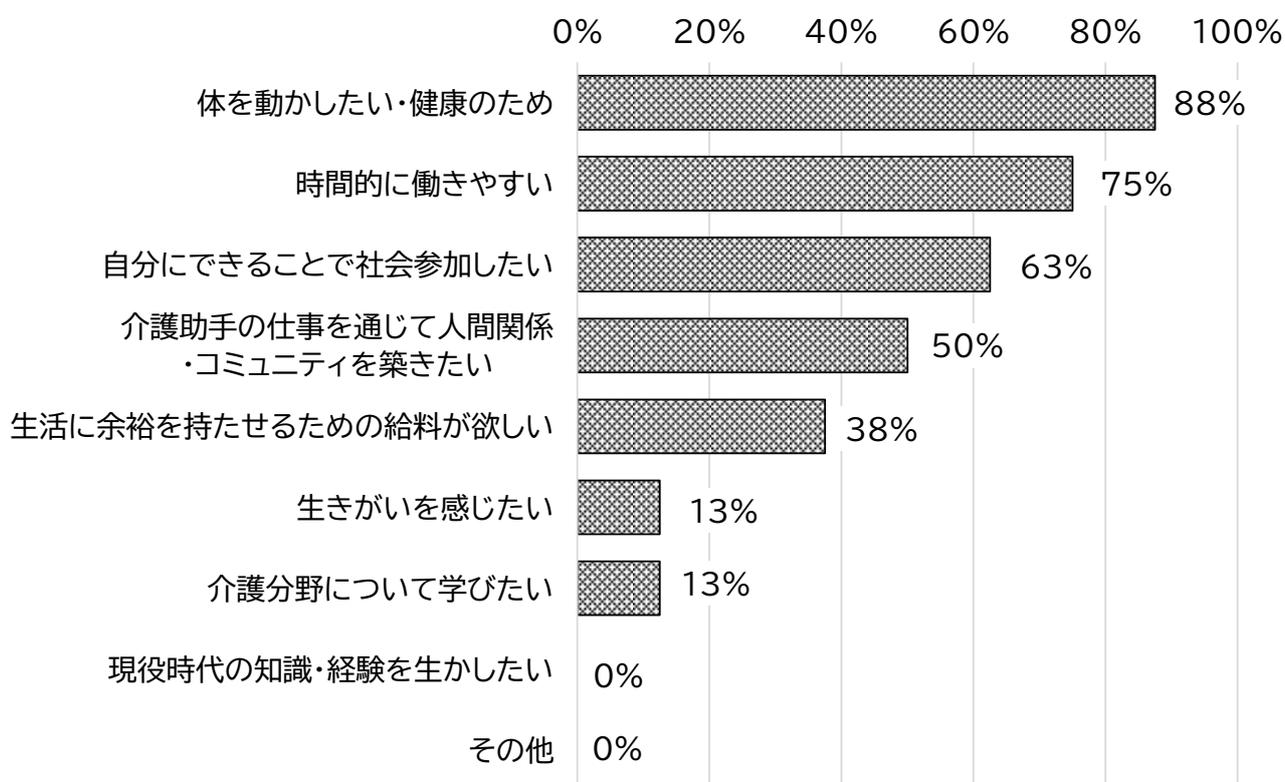


n=13

※n数は介護助手の継続勤務を希望した人数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

図表 VIII-72 施設種別 介護助手の継続勤務を希望した理由【複数回答】(介護老人保健施設)

	回答数	割合
体を動かしたい・健康のため	7	88%
時間的に働きやすい	6	75%
自分にできることで社会参加したい	5	63%
介護助手の仕事を通じて人間関係・コミュニティを築きたい	4	50%
生活に余裕を持たせるための給料が欲しい	3	38%
生きがいを感じたい	1	13%
介護分野について学びたい	1	13%
現役時代の知識・経験を生かしたい	0	0%
その他	0	0%
回答数	27	

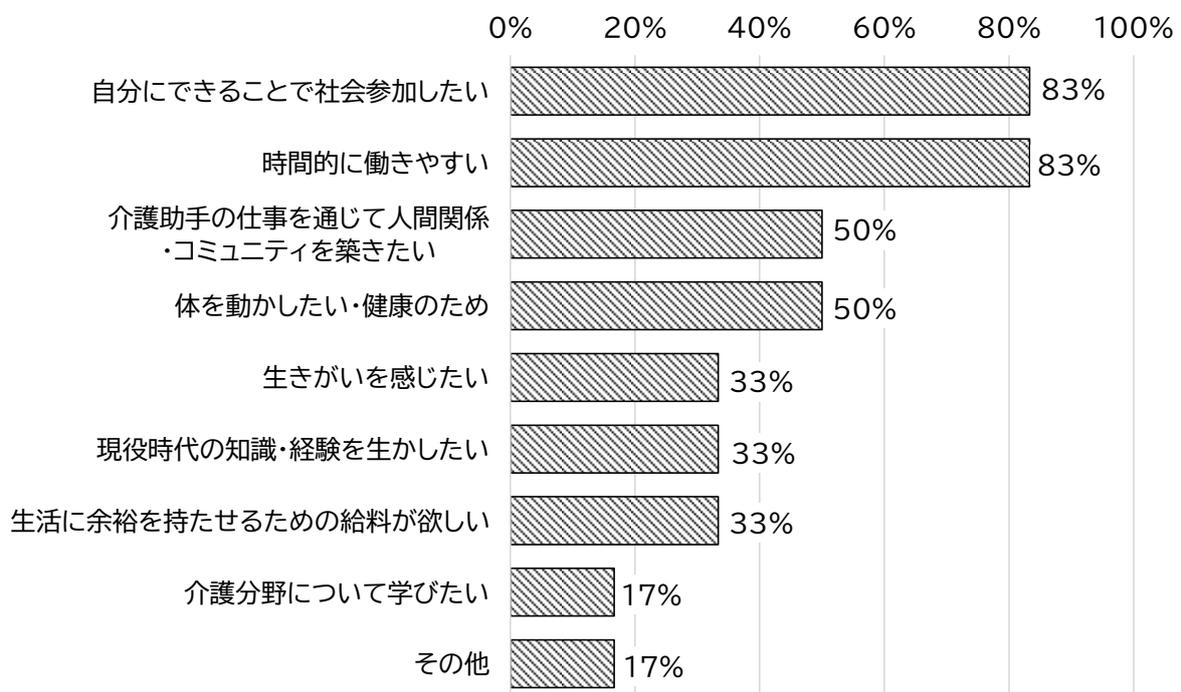


n=8

※n数は介護助手の継続勤務を希望した人数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

図表 VIII-73 施設種別 介護助手の継続勤務を希望した理由【複数回答】
 (認知症対応型共同生活介護)

	回答数	割合
自分にできることで社会参加したい	5	83%
時間的に働きやすい	5	83%
介護助手の仕事を通じて人間関係・コミュニティを築きたい	3	50%
体を動かしたい・健康のため	3	50%
生きがいを感じたい	2	33%
現役時代の知識・経験を生かしたい	2	33%
生活に余裕を持たせるための給料が欲しい	2	33%
介護分野について学びたい	1	17%
その他	1	17%
回答数	24	



n=6

※n数は介護助手の継続勤務を希望した人数。本設問に回答がない場合は無回答とした。

介護助手の勤務を希望しない理由については、「家庭の事情」が挙げられた。

図表 VIII-74 全体 介護助手の継続勤務を希望しなかった理由【複数回答】

	回答数	割合
家庭の事情	1	100%
業務内容が難しいと感じた	0	0%
業務内容にやりがいを感じられなかった	0	0%
業務量が多いと感じた	0	0%
他の職種も検討したい	0	0%
給与と業務内容が見合わない	0	0%
職場の環境や人間関係になじめなかった	0	0%
身体的負担が大きいと感じた	0	0%
家から施設が遠く、通勤が大変である	0	0%
その他	0	0%
回答数	1	

n=1

(5) 利用者向けアンケート調査結果

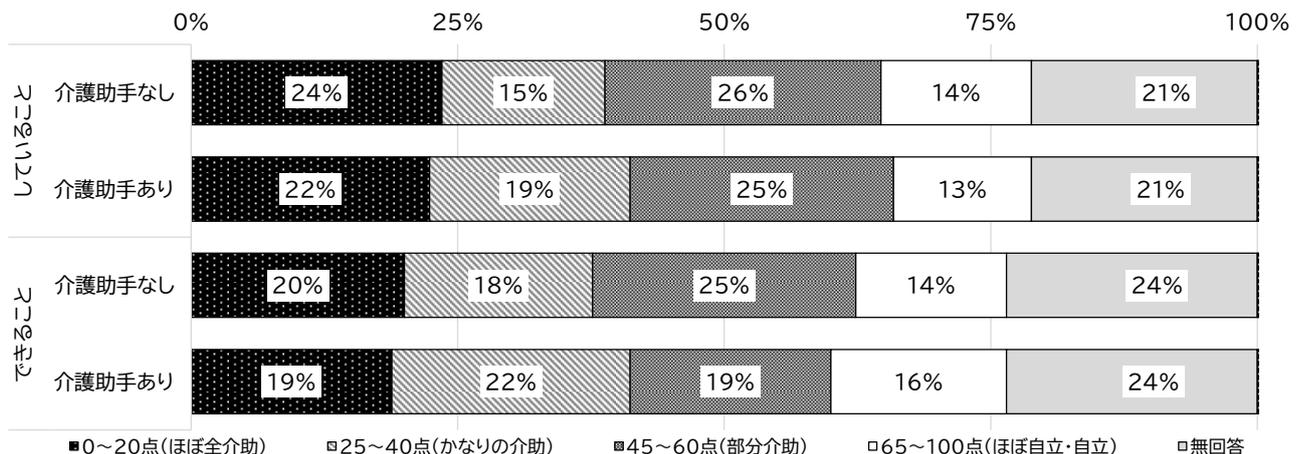
ア. ADL の変化

「介護助手なし」(事前調査)と「介護助手あり」(事後調査)にて、日常生活動作(ADL)を比較した。している ADL は、事後調査において、全体で見ると、「45～60 点」が 25%で最も多かった。次いで多かったのは、「0 点～20 点」で22%だった。できる ADL は、事後調査において、全体で見ると、「25～40 点」が 22%で最も多かった。次いで多かったのは、「0 点～20 点」「45～60 点」でどちらも 19%であった。できる ADL は、「介護助手なし」に比べて「介護助手あり」で、「45～60 点」の割合が 6 ポイント減少したが、それ以外の各 ADL の割合については大きな変化は見られなかった。

サービス種別ごとでは、「介護助手あり」の ADL について、介護老人福祉施設では、している ADL・できる ADL どちらも「0～20 点」の割合が高かった。介護老人保健施設では、している ADL「45～60 点」、できる ADL「65～100 点」の割合が高かった。認知症対応型共同生活介護では、している ADL・できる ADL どちらも 45～60 点」の割合が高かった。

図表 VIII-75 全体 日常生活動作(ADL)(Barthel Index)

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	介護助手なし	人数(人) 割合	20 24%	13 15%	22 26%	12 14%	18 21%	85 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	19 22%	16 19%	21 25%	11 13%	18 21%	85 100%
できること	介護助手なし	人数(人) 割合	17 20%	15 18%	21 25%	12 14%	20 24%	85 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	16 19%	19 22%	16 19%	14 16%	20 24%	85 100%



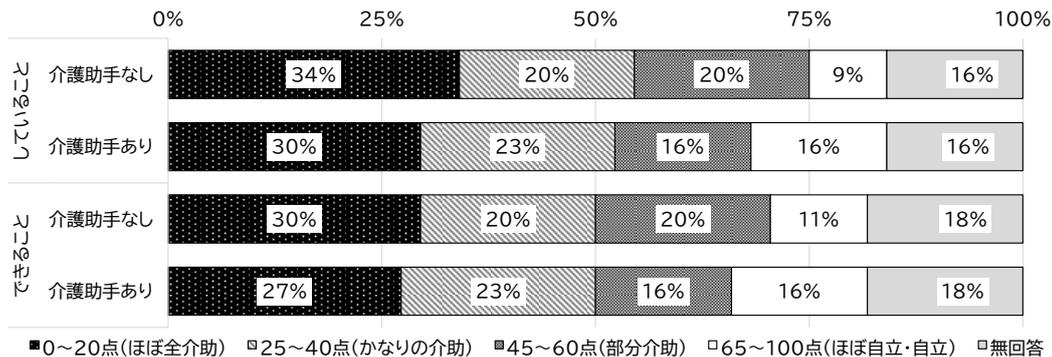
介護助手なし n=85、介護助手あり n=85

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、事前または事後で、各 10 項目のうち 1 項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

図表 VIII-76 施設種別 日常生活動作(ADL)(Barthel Index)(介護老人福祉施設)

			0点～20点	25点～40点	45点～60点	65点～100点	無回答	合計
していること	介護助手なし	人数(人)	15	9	9	4	7	44
		割合	34%	20%	20%	9%	16%	100%
していること	介護助手あり	人数(人)	13	10	7	7	7	44
		割合	30%	23%	16%	16%	16%	100%
できること	介護助手なし	人数(人)	13	9	9	5	8	44
		割合	30%	20%	20%	11%	18%	100%
できること	介護助手あり	人数(人)	12	10	7	7	8	44
		割合	27%	23%	16%	16%	18%	100%



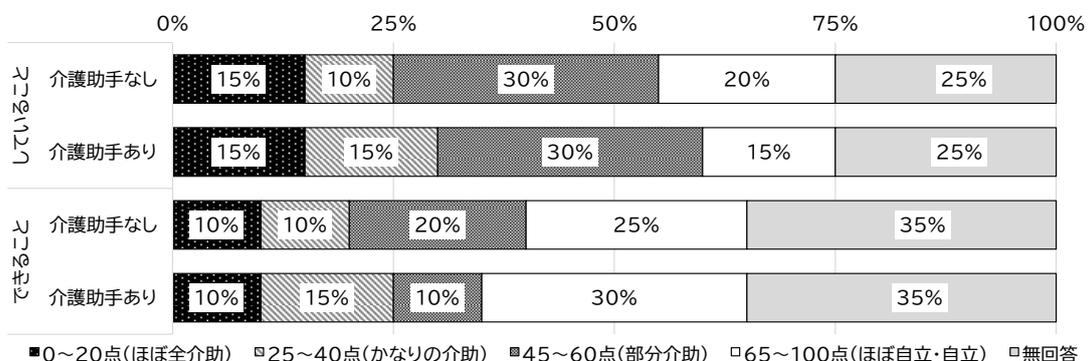
介護助手なし n=44、介護助手あり n=44

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、事前または事後で、各 10 項目のうち 1 項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

図表 VIII-77 施設種別 日常生活動作(ADL)(Barthel Index)(介護老人保健施設)

			0点～20点	25点～40点	45点～60点	65点～100点	無回答	合計
していること	介護助手なし	人数(人)	3	2	6	4	5	20
		割合	15%	10%	30%	20%	25%	100%
していること	介護助手あり	人数(人)	3	3	6	3	5	20
		割合	15%	15%	30%	15%	25%	100%
できること	介護助手なし	人数(人)	2	2	4	5	7	20
		割合	10%	10%	20%	25%	35%	100%
できること	介護助手あり	人数(人)	2	3	2	6	7	20
		割合	10%	15%	10%	30%	35%	100%



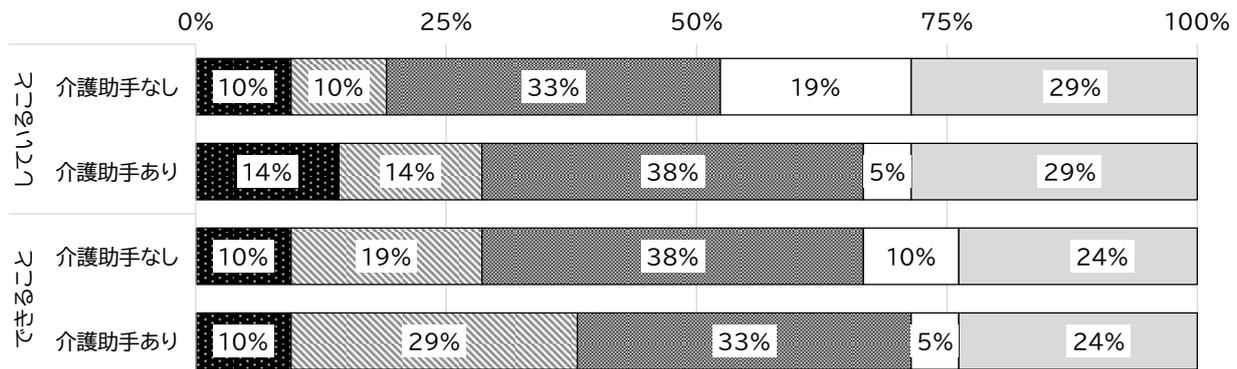
介護助手なし=20、介護助手あり n=20

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、事前または事後で、各 10 項目のうち 1 項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

図表 VIII-78 施設種別 日常生活動作(ADL)(Barthel Index)
(認知症対応型共同生活介護)

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	介護助手なし	人数(人)	2	2	7	4	6	21
		割合	10%	10%	33%	19%	29%	100%
	介護助手あり	人数(人)	3	3	8	1	6	21
		割合	14%	14%	38%	5%	29%	100%
できること	介護助手なし	人数(人)	2	4	8	2	5	21
		割合	10%	19%	38%	10%	24%	100%
	介護助手あり	人数(人)	2	6	7	1	5	21
		割合	10%	29%	33%	5%	24%	100%



■0～20点(ほぼ全介助) ▨25～40点(かなりの介助) ▩45～60点(部分介助) □65～100点(ほぼ自立・自立) □無回答

介護助手なし n=21、介護助手あり n=21

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、事前または事後で、各 10 項目のうち 1 項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

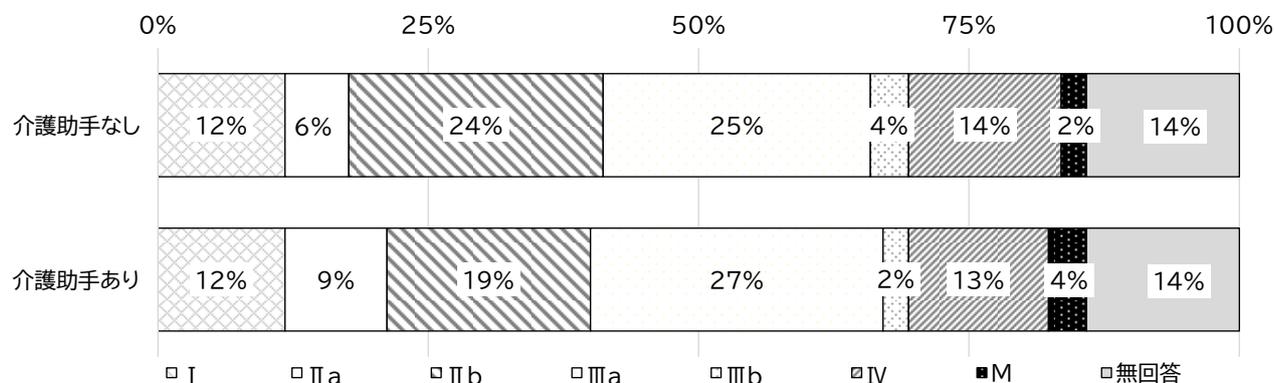
イ. 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症高齢者の日常生活自立度は、「介護助手あり」において、全体で見ると、「Ⅲa」が 27%で最も多かった。次いで多かったのは、「Ⅱb」で 19%だった。「介護助手なし」に比べて「介護助手あり」で、「Ⅱb」の割合が 5 ポイント減少したが、それ以外の各段階の割合については大きな変化は見られなかった。

サービス種別ごとでは、「介護助手あり」において、介護老人福祉施設では、「Ⅲa」の割合が 27%で最も多かった。介護老人保健施設では、「Ⅰ」「Ⅱb」の割合が 30%で、最も多かった。認知症対応型共同生活介護では、「Ⅲa」の割合が 48%で最も多かった。

図表 VIII-79 全体 認知症高齢者の日常生活自立度の変化

			I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答	合計
介護老人福祉施設	介護助手なし	人数(人)	0	2	9	11	1	10	1	10	44
		割合	0%	5%	20%	25%	2%	23%	2%	23%	100%
介護老人福祉施設	介護助手あり	人数(人)	2	3	8	12	0	8	1	10	44
		割合	5%	7%	18%	27%	0%	18%	2%	23%	100%
介護老人保健施設	介護助手なし	人数(人)	6	2	7	2	0	1	0	2	20
		割合	30%	10%	35%	10%	0%	5%	0%	10%	100%
介護老人保健施設	介護助手あり	人数(人)	6	4	6	1	0	1	0	2	20
		割合	30%	20%	30%	5%	0%	5%	0%	10%	100%
認知症対応型 共同生活介護	介護助手なし	人数(人)	4	1	4	8	2	1	1	0	21
		割合	19%	5%	19%	38%	10%	5%	5%	0%	100%
認知症対応型 共同生活介護	介護助手あり	人数(人)	2	1	2	10	2	2	2	0	21
		割合	10%	5%	10%	48%	10%	10%	10%	0%	100%
総数	介護助手なし	人数(人)	10	5	20	21	3	12	2	12	85
		割合	12%	6%	24%	25%	4%	14%	2%	14%	100%
総数	介護助手あり	人数(人)	10	8	16	23	2	11	3	12	85
		割合	12%	9%	19%	27%	2%	13%	4%	14%	100%



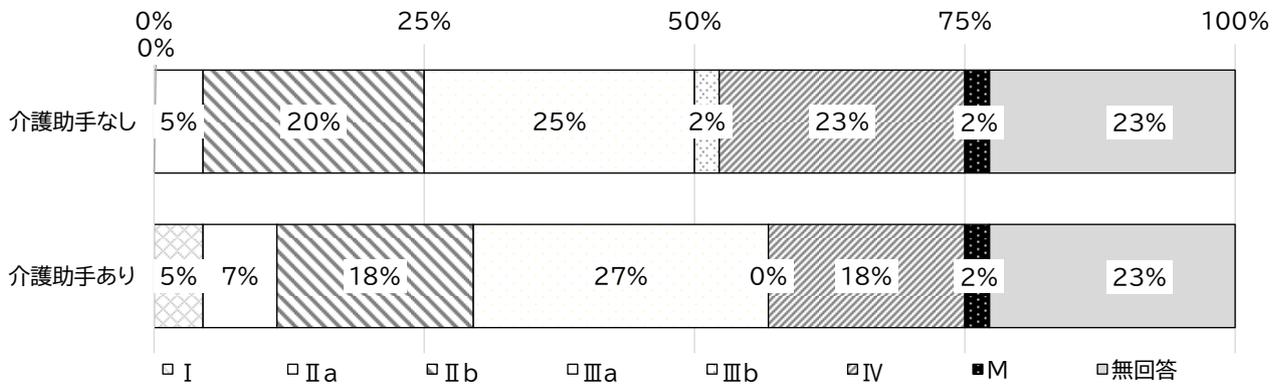
介護助手なし n=85、介護助手あり n=85

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前・事後いずれかしか、認知症高齢者の日常生活自立度の回答が無かった場合は無回答処理をした。

図表 VIII-80 施設種別 認知症高齢者の日常生活自立度の変化(介護老人福祉施設)

		I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	無回答	合計
介護助手なし	人数(人)	0	2	9	11	1	10	1	10	44
	割合	0%	5%	20%	25%	2%	23%	2%	23%	100%
介護助手あり	人数(人)	2	3	8	12	0	8	1	10	44
	割合	5%	7%	18%	27%	0%	18%	2%	23%	100%



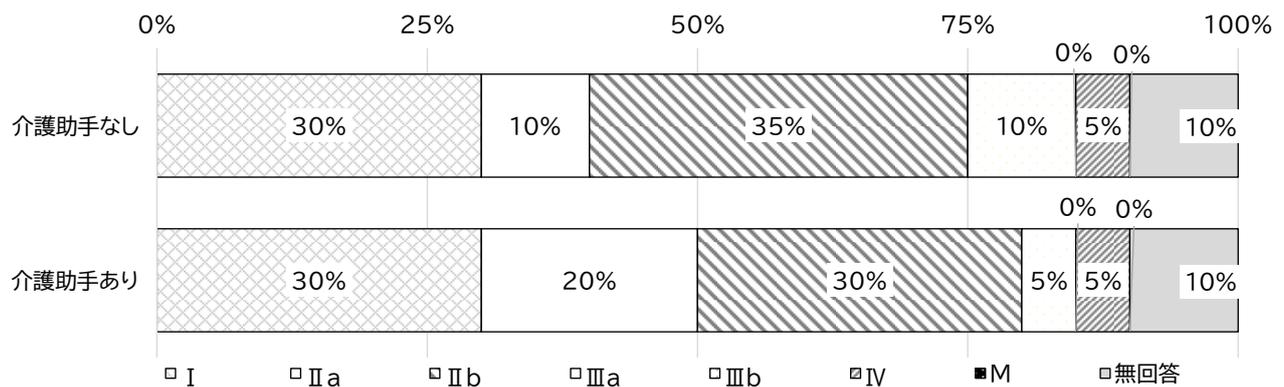
介護助手なし n=44、介護助手あり n=44

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前・事後いずれかしか、認知症高齢者の日常生活自立度の回答が無かった場合は無回答処理をした。

図表 VIII-81 施設種別 認知症高齢者の日常生活自立度の変化(介護老人保健施設)

		I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	無回答	合計
介護助手なし	人数(人)	6	2	7	2	0	1	0	2	20
	割合	30%	10%	35%	10%	0%	5%	0%	10%	100%
介護助手あり	人数(人)	6	4	6	1	0	1	0	2	20
	割合	30%	20%	30%	5%	0%	5%	0%	10%	100%



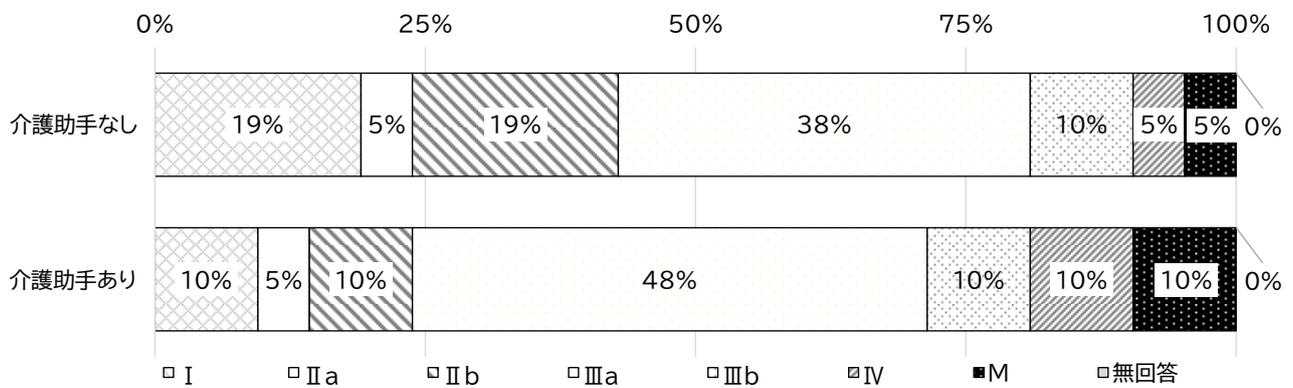
介護助手なし n=20、介護助手あり n=20

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前・事後いずれかしか、認知症高齢者の日常生活自立度の回答が無かった場合は無回答処理をした。

図表 VIII-82 施設種別 認知症高齢者の日常生活自立度の変化(認知症対応型共同生活介護)

		I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	無回答	合計
介護助手なし	人数(人)	4	1	4	8	2	1	1	0	21
	割合	19%	5%	19%	38%	10%	5%	5%	0%	100%
介護助手あり	人数(人)	2	1	2	10	2	2	2	0	21
	割合	10%	5%	10%	48%	10%	10%	10%	0%	100%



介護助手なし n=21、介護助手あり n=21

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

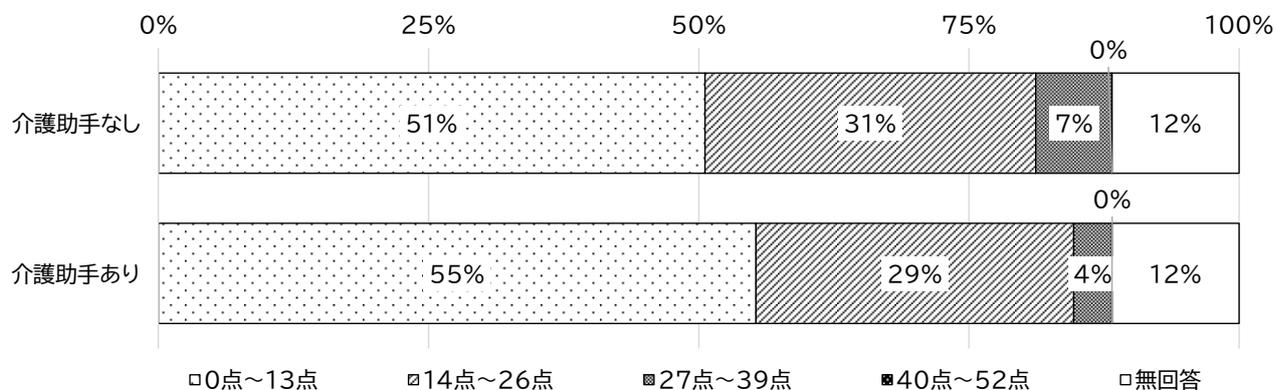
※事前・事後いずれかしか、認知症高齢者の日常生活自立度の回答が無かった場合は無回答処理をした。

ウ. 認知症行動の変化(DBD13)

「介護助手なし」および「介護助手あり」にて、認知症行動の変化(DBD13)を比較した。全体でみると、0～13 点の割合は「介護助手なし」51%、「介護助手あり」55%、14 点～26 点の割合は「介護助手なし」31%、「介護助手あり」29%、27 点～39 点の割合は「介護助手なし」7%、「介護助手あり」4%と、大きな変化は見られなかった。

図表 VIII-83 全体 認知症行動の変化(DBD13)

			0点～ 13点	14点～ 26点	27点～ 39点	40点～ 52点	無回答	合計
介護老人福祉施設	介護助手なし	人数(人)	23	12	1	0	8	44
		割合	52%	27%	2%	0%	18%	100%
介護老人福祉施設	介護助手あり	人数(人)	27	8	1	0	8	44
		割合	61%	18%	2%	0%	18%	100%
介護老人保健施設	介護助手なし	人数(人)	14	4	0	0	2	20
		割合	70%	20%	0%	0%	10%	100%
介護老人保健施設	介護助手あり	人数(人)	12	6	0	0	2	20
		割合	60%	30%	0%	0%	10%	100%
認知症対応型 共同生活介護	介護助手なし	人数(人)	6	10	5	0	0	21
		割合	29%	48%	24%	0%	0%	100%
認知症対応型 共同生活介護	介護助手あり	人数(人)	8	11	2	0	0	21
		割合	38%	52%	10%	0%	0%	100%
総数	介護助手なし	人数(人)	43	26	6	0	10	85
		割合	51%	31%	7%	0%	12%	100%
総数	介護助手あり	人数(人)	47	25	3	0	10	85
		割合	55%	29%	4%	0%	12%	100%



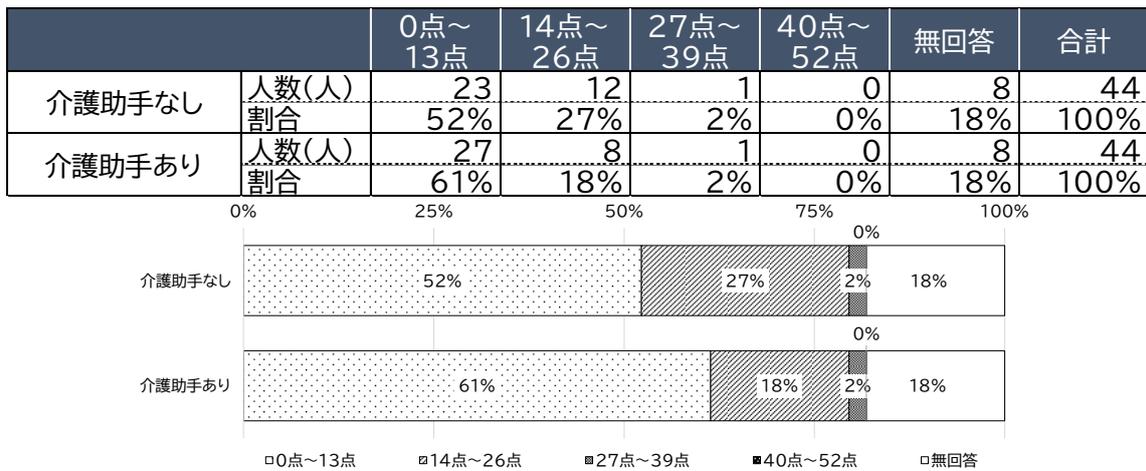
介護助手なし n=85、介護助手あり n=85

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、各 13 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4 以外の場合は無回答処理をした。

※認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD13)は、認知症ケアの効果を判定する質問項目。過去1週間の状況について、13 項目それぞれに0(まったくない)～4(常にある)点で回答し、その合計点で評価。52 点満点。

図表 VIII-84 施設種別 認知症行動の変化(DBD13)(介護老人福祉施設)



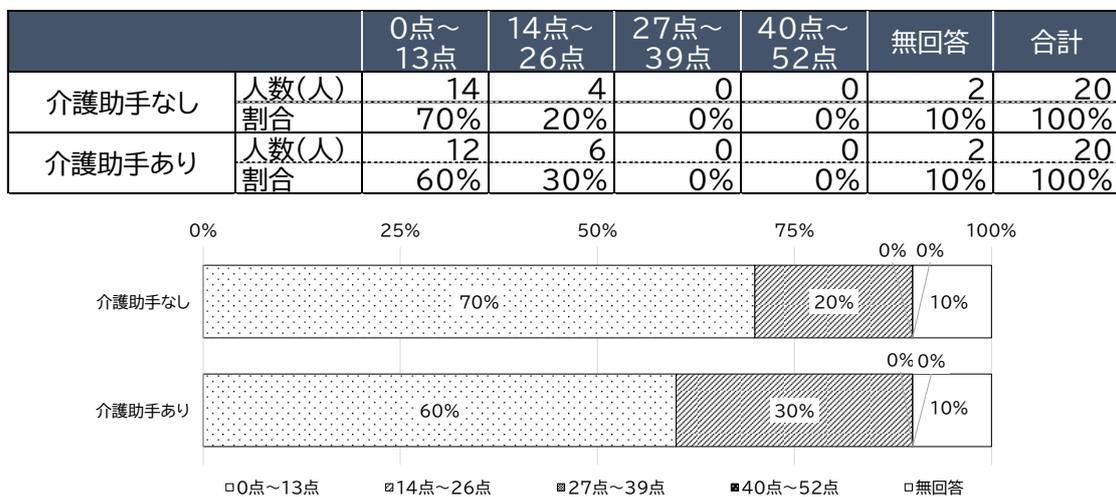
介護助手なし n=44、介護助手あり n=44

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、各 13 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4 以外の場合は無回答処理をした。

※認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD13)は、認知症ケアの効果を判定する質問項目。過去1週間の状況について、13 項目それぞれに0(まったくない)～4(常にある)点で回答し、その合計点で評価。52 点満点。

図表 VIII-85 施設種別 認知症行動の変化(DBD13)(介護老人保健施設)



介護助手なし n=20、介護助手あり n=20

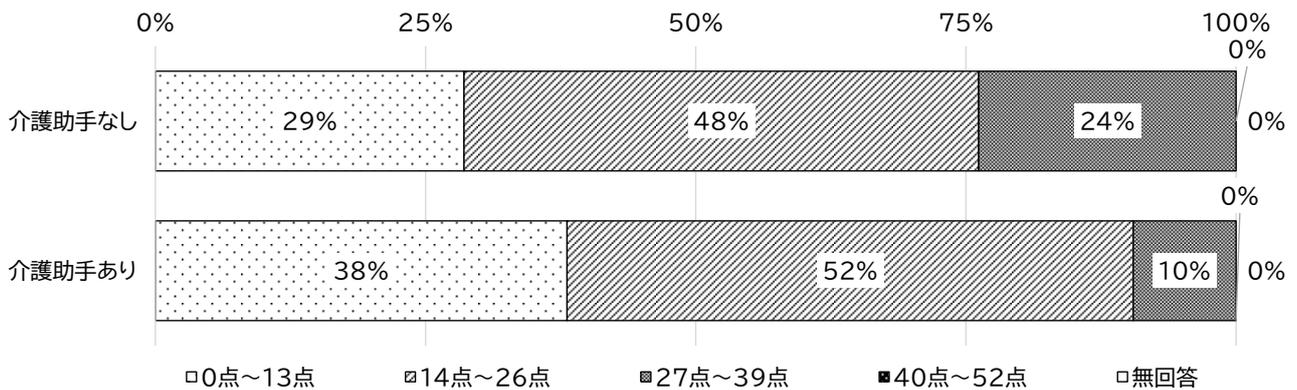
※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、各 13 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4 以外の場合は無回答処理をした。

※認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD13)は、認知症ケアの効果を判定する質問項目。過去1週間の状況について、13 項目それぞれに0(まったくない)～4(常にある)点で回答し、その合計点で評価。52 点満点。

図表 VIII-86 施設種別 認知症行動の変化(DBD13)(認知症対応型共同生活介護)

		0点～13点	14点～26点	27点～39点	40点～52点	無回答	合計
介護助手なし	人数(人)	6	10	5	0	0	21
	割合	29%	48%	24%	0%	0%	100%
介護助手あり	人数(人)	8	11	2	0	0	21
	割合	38%	52%	10%	0%	0%	100%



介護助手なし n=21、介護助手あり n=21

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

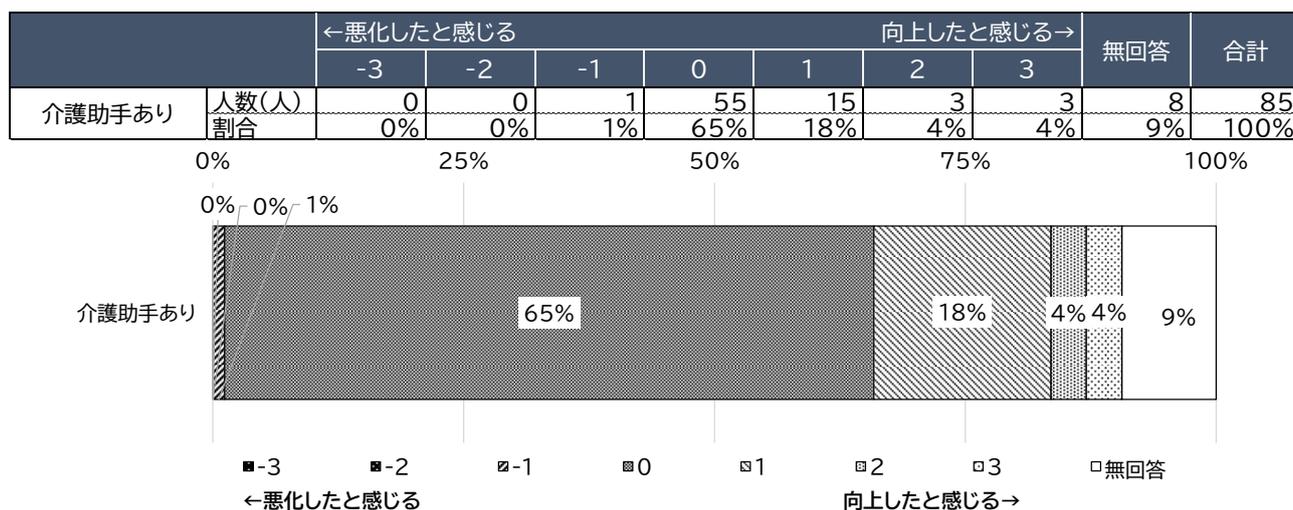
※事前または事後で、各 13 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4 以外の場合は無回答処理をした。

※認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD13)は、認知症ケアの効果を判定する質問項目。過去1週間の状況について、13 項目それぞれに0(まったくない)～4(常にある)点で回答し、その合計点で評価。52 点満点。

工. 認知機能変化の総合的な評価

「介護助手あり」にて、介護助手導入後の認知機能の変化を調査した。全体でみると、介護助手導入により利用者の認知機能が向上した(1～3)と回答した割合は 25%であった。サービス種別ごとでは、介護老人福祉施設は 27%、介護老人保健施設は 20%、認知症対応型共同生活介護は 24%であった。

図表 VIII-87 全体 認知機能変化の総合的な評価

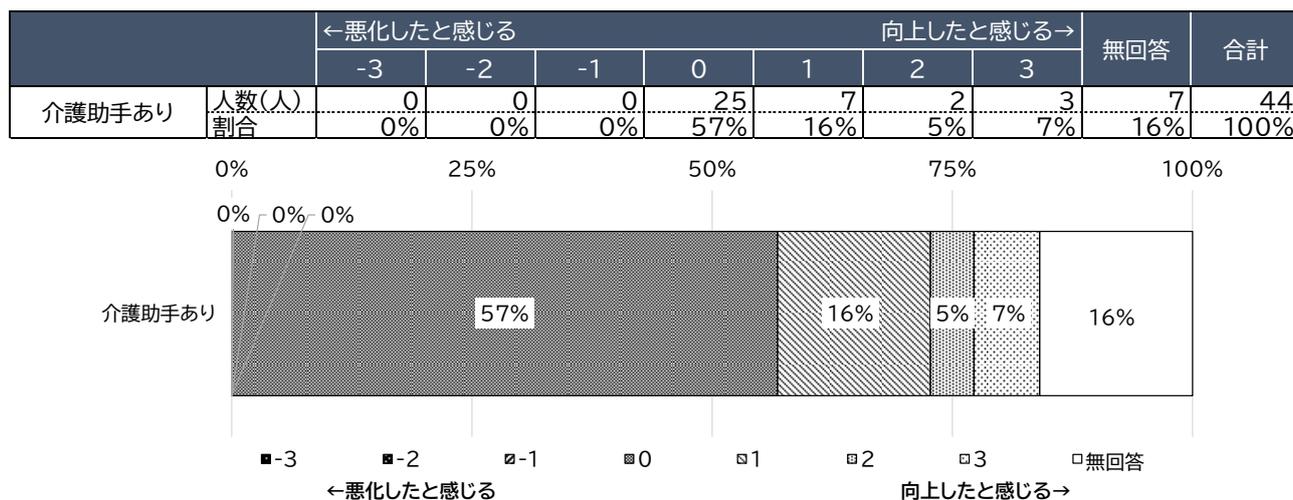


n=85

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(悪化したと感じる)～+3(向上したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 VIII-88 施設種別 認知機能変化の総合的な評価(介護老人福祉施設)

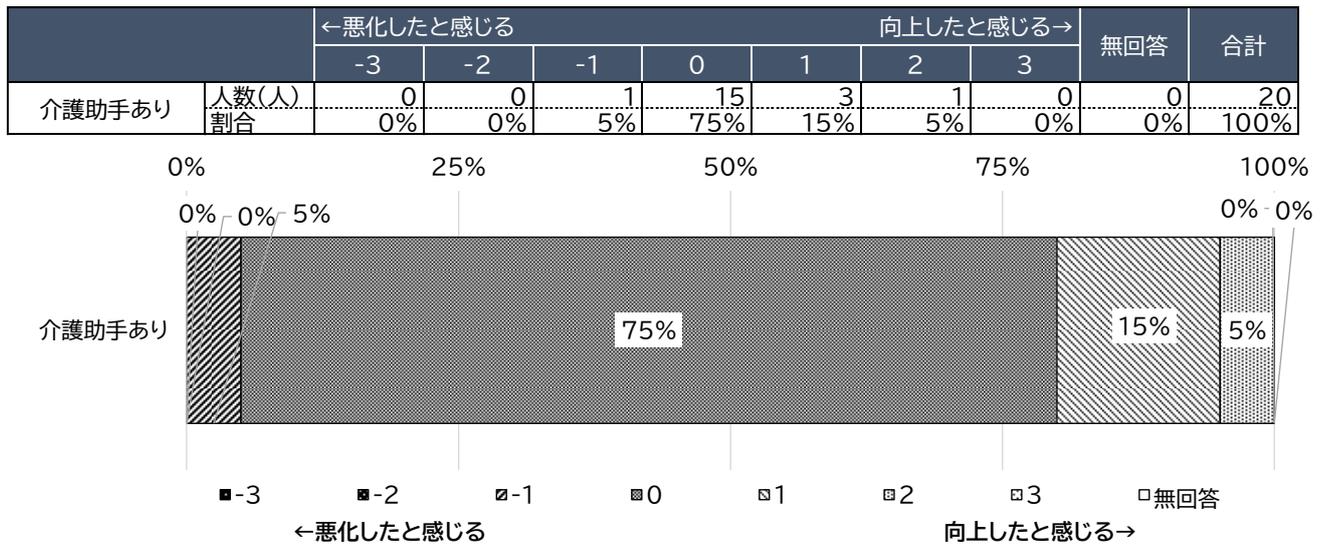


n=44

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(悪化したと感じる)～+3(向上したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

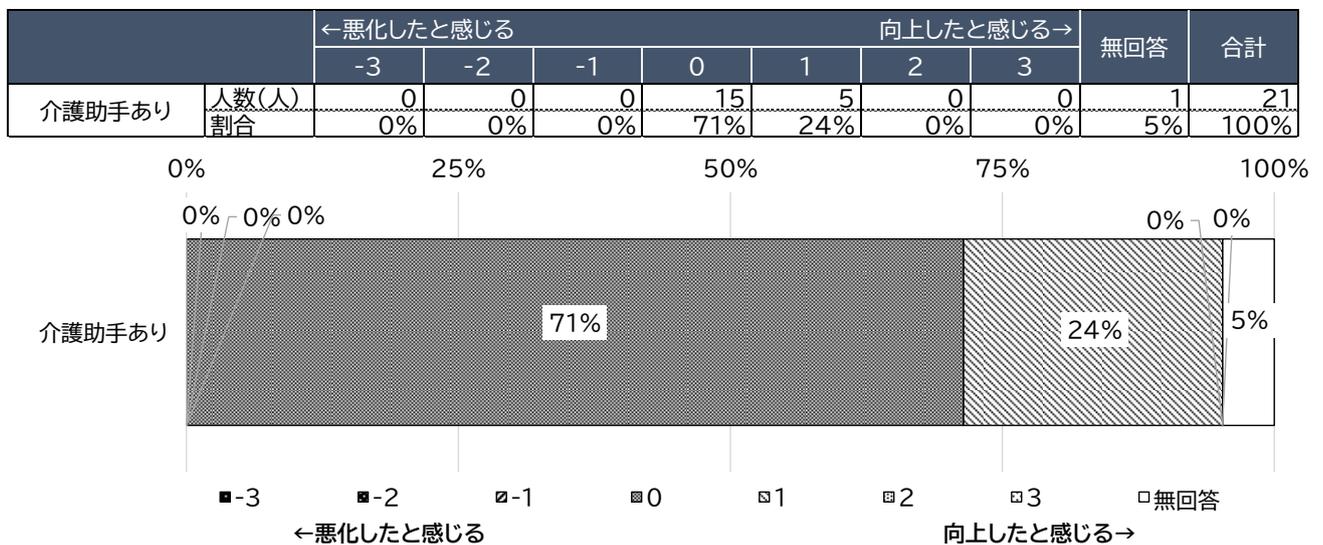
図表 VIII-89 施設種別 認知機能変化の総合的な評価(介護老人保健施設)



※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(悪化したと感じる)~+3(向上したと感じる)の7段階で評価した。(回答は職員が実施)。

図表 VIII-90 施設種別 認知機能変化の総合的な評価(認知症対応型共同生活介護)



※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(悪化したと感じる)~+3(向上したと感じる)の7段階で評価した。(回答は職員が実施)。

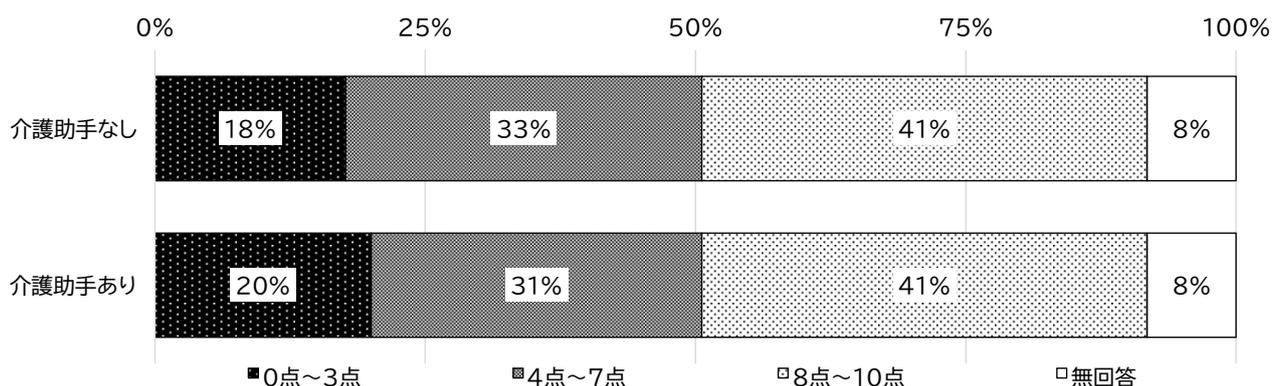
オ. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

「介護助手なし」と「介護助手あり」で、利用者の意欲(Vitality Index)の合計点数を比較した。全体で見ると、0点～3点の割合は、「介護助手なし」18%、「介護助手あり」20%、4点～7点の割合は「介護助手なし」33%、「介護助手あり」31%、8点～10点の割合は、「介護助手なし」・「介護助手あり」どちらも41%であり、大きな変化は見られなかった。

サービス種別ごとにおいても、「介護助手なし」・「介護助手あり」で大きな変化は見られなかったが、認知症対応型共同生活介護では全体的に意欲の低い利用者が多い傾向がみられた。

図表 VIII-91 全体 利用者の意欲: Vitality Index

			0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
介護老人福祉施設	介護助手なし	人数(人)	12	13	12	7	44
		割合	27%	30%	27%	16%	100%
介護老人福祉施設	介護助手あり	人数(人)	13	11	13	7	44
		割合	30%	25%	30%	16%	100%
介護老人保健施設	介護助手なし	人数(人)	1	5	14	0	20
		割合	5%	25%	70%	0%	100%
介護老人保健施設	介護助手あり	人数(人)	2	3	15	0	20
		割合	10%	15%	75%	0%	100%
認知症対応型共同生活介護	介護助手なし	人数(人)	2	10	9	0	21
		割合	10%	48%	43%	0%	100%
認知症対応型共同生活介護	介護助手あり	人数(人)	2	12	7	0	21
		割合	10%	57%	33%	0%	100%
総数	介護助手なし	人数(人)	15	28	35	7	85
		割合	18%	33%	41%	8%	100%
総数	介護助手あり	人数(人)	17	26	35	7	85
		割合	20%	31%	41%	8%	100%



介護助手なし n=85、介護助手あり n=85

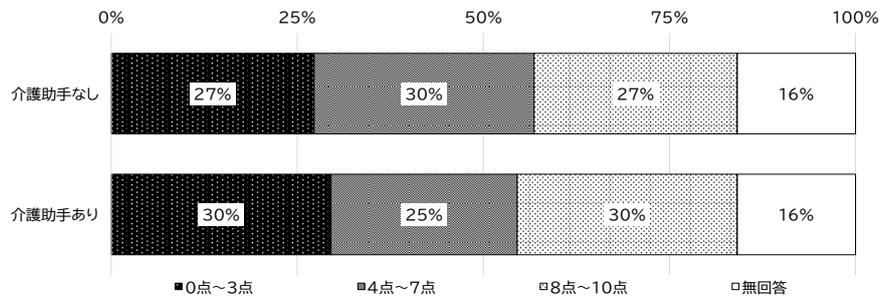
※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、各5項目のうち1項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の5項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5項目それぞれに0～2点で回答し、それぞれ2点が最もよい状態を示す。10点満点。

図表 VIII-92 施設種別 利用者の意欲: Vitality Index(介護老人福祉施設)

			0点～ 3点	4点～ 7点	8点～ 10点	無回答	合計
介護老人福祉施設	介護助手なし	人数(人)	12	13	12	7	44
		割合	27%	30%	27%	16%	100%
	介護助手あり	人数(人)	13	11	13	7	44
		割合	30%	25%	30%	16%	100%



介護助手なし n=44、介護助手あり n=44

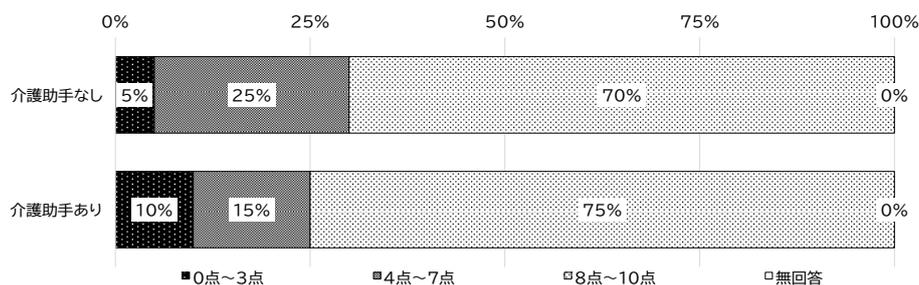
※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

図表 VIII-93 施設種別 利用者の意欲: Vitality Index(介護老人保健施設)

			0点～ 3点	4点～ 7点	8点～ 10点	無回答	合計
介護老人保健施設	介護助手なし	人数(人)	1	5	14	0	20
		割合	5%	25%	70%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	2	3	15	0	20
		割合	10%	15%	75%	0%	100%



介護助手なし n=20、介護助手あり n=20

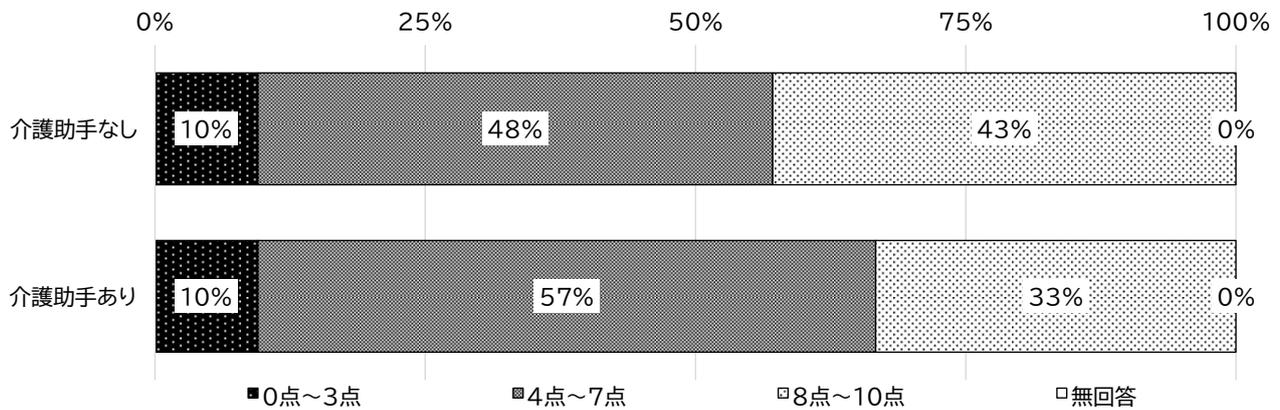
※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

図表 VIII-94 施設種別 利用者の意欲: Vitality Index(認知症対応型共同生活介護)

			0点～3点	4点～7点	8点～10点	無回答	合計
認知症対応型 共同生活介護	介護助手なし	人数(人)	2	10	9	0	21
		割合	10%	48%	43%	0%	100%
	介護助手あり	人数(人)	2	12	7	0	21
		割合	10%	57%	33%	0%	100%



介護助手なし n=21、介護助手あり n=21

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、以外の場合は無回答処理をした。

※ Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

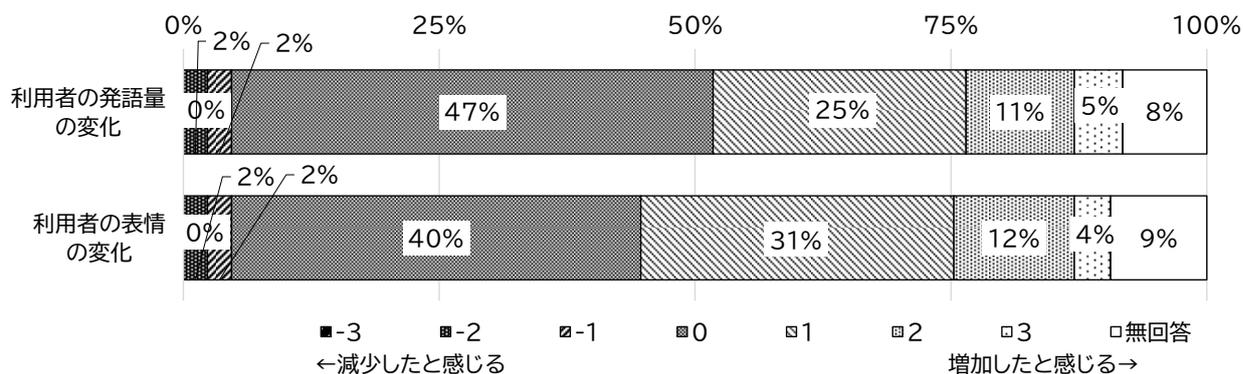
カ. 介護助手導入によるコミュニケーションの変化

介護助手導入による利用者のコミュニケーションの変化では、全体で見ると、「利用者の発語量」が増加したと感じる(1~3)の割合は 40%だった。また、「利用者の表情の変化(笑顔になる頻度等)」が増加したと感じる(1~3)の割合は 46%だった。

サービス種別ごとに見ると、介護老人福祉施設において、「利用者の発語量」が増加したと感じる(1~3)の割合は34%、「利用者の表情の変化(笑顔になる頻度等)」が増加したと感じる(1~3)の割合は 45%だった。介護老人保健施設において、「利用者の発語量」が増加したと感じる(1~3)の割合は 45%、「利用者の表情の変化(笑顔になる頻度等)」が増加したと感じる(1~3)の割合は 41%だった。認知症対応型共同生活介護において、「利用者の発語量」が増加したと感じる(1~3)の割合は 48%、「利用者の表情の変化(笑顔になる頻度等)」が増加したと感じる(1~3)の割合は 57%だった。

図表 VIII-95 全体 介護助手導入によるコミュニケーションの変化

		←減少したと感じる→							増加したと感じる→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3				
利用者の発語量の変化	人数(人)	0	2	2	40	21	9	4	7	85		
	割合	0%	2%	2%	47%	25%	11%	5%	8%	100%		
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	人数(人)	0	2	2	34	26	10	3	8	85		
	割合	0%	2%	2%	40%	31%	12%	4%	9%	100%		



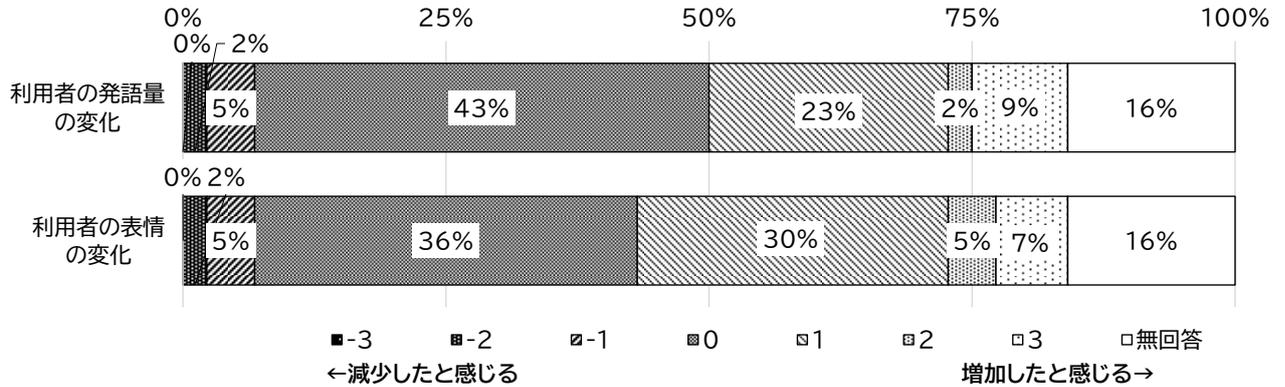
n=85

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した。+1~+3 のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

図表 VIII-96 施設種別 介護助手導入によるコミュニケーションの変化(介護老人福祉施設)

		←減少したと感じる				増加したと感じる→				無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者の発語量の変化	人数(人)	0	1	2	19	10	1	4	7	44	
	割合	0%	2%	5%	43%	23%	2%	9%	16%	100%	
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	人数(人)	0	1	2	16	13	2	3	7	44	
	割合	0%	2%	5%	36%	30%	5%	7%	16%	100%	



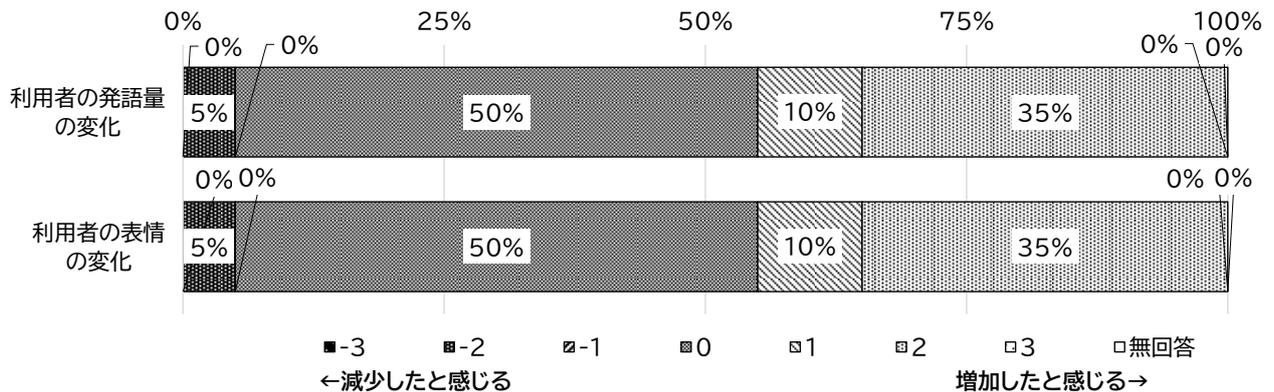
n=44

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

図表 VIII-97 施設種別 介護助手導入によるコミュニケーションの変化(介護老人保健施設)

		←減少したと感じる				増加したと感じる→				無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者の発語量の変化	人数(人)	0	1	0	10	2	7	0	0	20	
	割合	0%	5%	0%	50%	10%	35%	0%	0%	100%	
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	人数(人)	0	1	0	10	2	7	0	0	20	
	割合	0%	5%	0%	50%	10%	35%	0%	0%	100%	



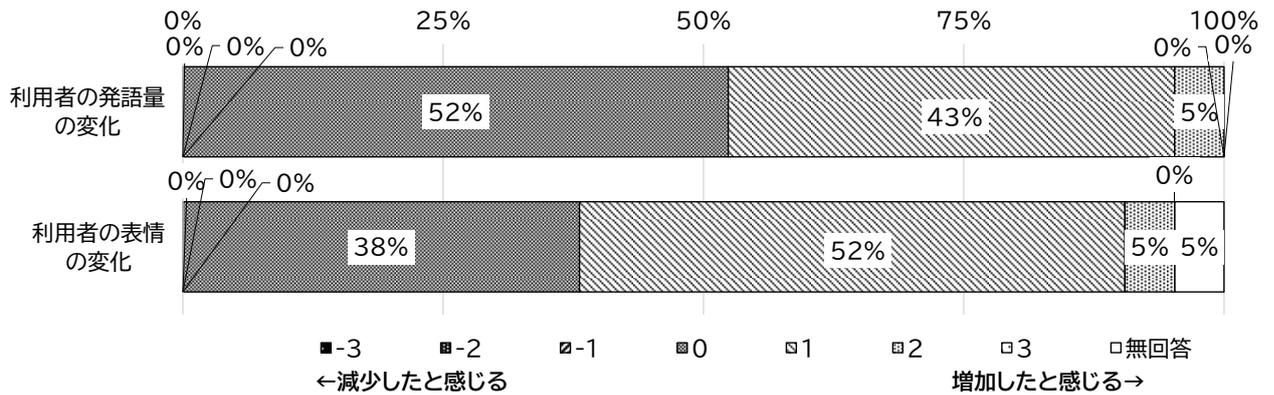
n=20

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

図表 VIII-98 施設種別 介護助手導入によるコミュニケーションの変化
(認知症対応型共同生活介護)

		←減少したと感じる				増加したと感じる→				無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者の発語量の変化	人数(人)	0	0	0	11	9	1	0	0	21	
	割合	0%	0%	0%	52%	43%	5%	0%	0%	100%	
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	人数(人)	0	0	0	8	11	1	0	1	21	
	割合	0%	0%	0%	38%	52%	5%	0%	5%	100%	



n=21

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

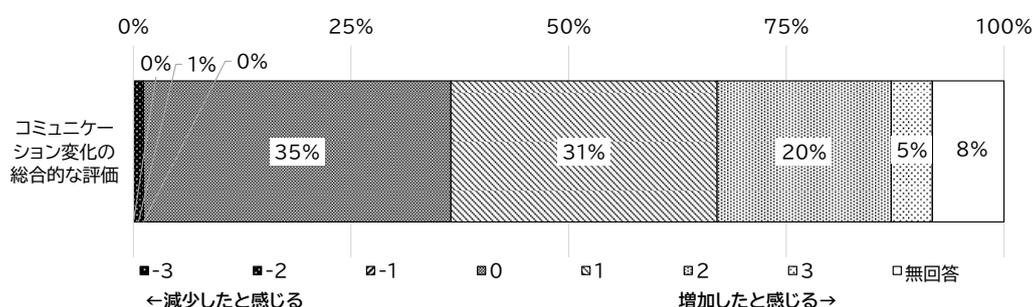
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

介護助手によるコミュニケーション変化の総合的な評価では、全体でみると、増加したと感じる(1~3)の割合は55%だった。

サービス種別ごとにみると、介護老人福祉施設において、増加したと感じる(1~3)の割合は57%であった。介護老人保健施設において、増加したと感じる(1~3)の割合は50%であった。認知症対応型共同生活介護において、増加したと感じる(1~3)の割合は57%であった。

図表 VIII-99 全体 介護助手によるコミュニケーション変化の総合的な評価

コミュニケーション変化の総合的な評価	人数(人)	←減少したと感じる							増加したと感じる→	無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
	0	1	0	30	26	17	4	7	85		
	割合	0%	1%	0%	35%	31%	20%	5%	8%	100%	



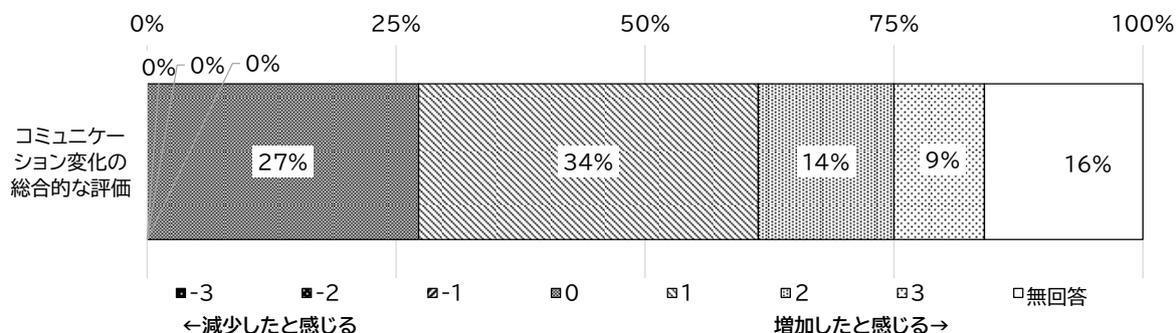
n=85

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

図表 VIII-100 施設種別 介護助手によるコミュニケーション変化の総合的な評価
(介護老人福祉施設)

コミュニケーション変化の総合的な評価	人数(人)	←減少したと感じる							増加したと感じる→	無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
	0	0	0	12	15	6	4	7	44		
	割合	0%	0%	0%	27%	34%	14%	9%	16%	100%	



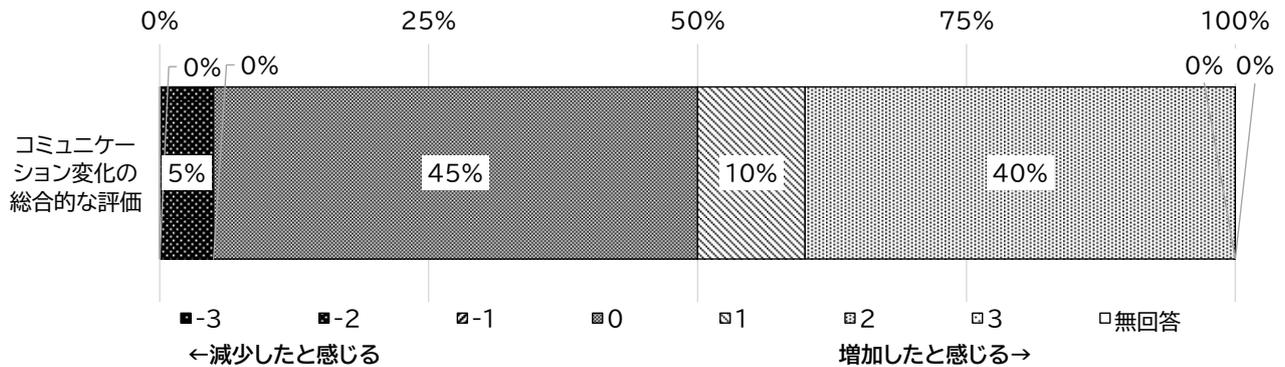
n=44

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

図表 VIII-101 施設種別 介護助手によるコミュニケーション変化の総合的な評価
(介護老人保健施設)

コミュニケーション変化の総合的な評価	人数(人) 割合	←減少したと感じる				増加したと感じる→				無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
		0	1	0	9	2	8	0	0	20	
		0%	5%	0%	45%	10%	40%	0%	0%	100%	



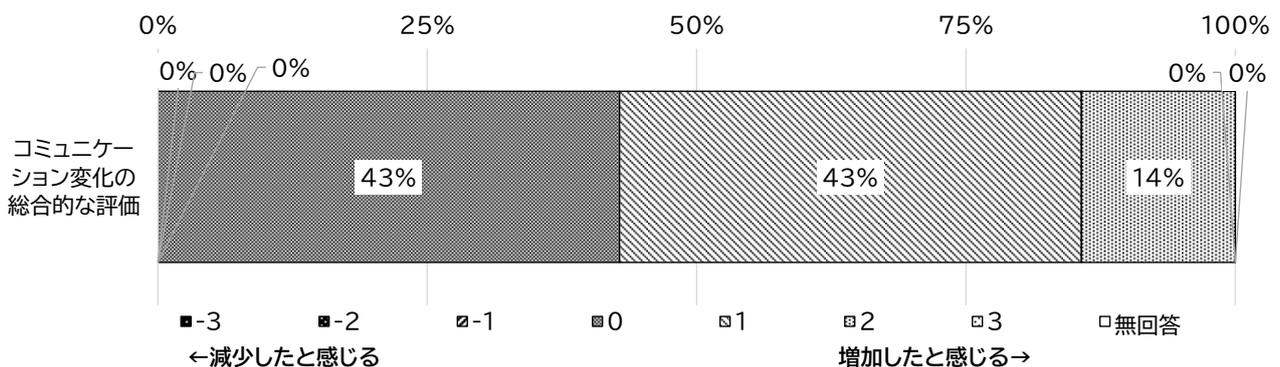
n=20

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

図表 VIII-102 施設種別 介護助手によるコミュニケーション変化の総合的な評価
(認知症対応型共同生活介護)

コミュニケーション変化の総合的な評価	人数(人) 割合	←減少したと感じる				増加したと感じる→				無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
		0	0	0	9	9	3	0	0	21	
		0%	0%	0%	43%	43%	14%	0%	0%	100%	



n=21

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

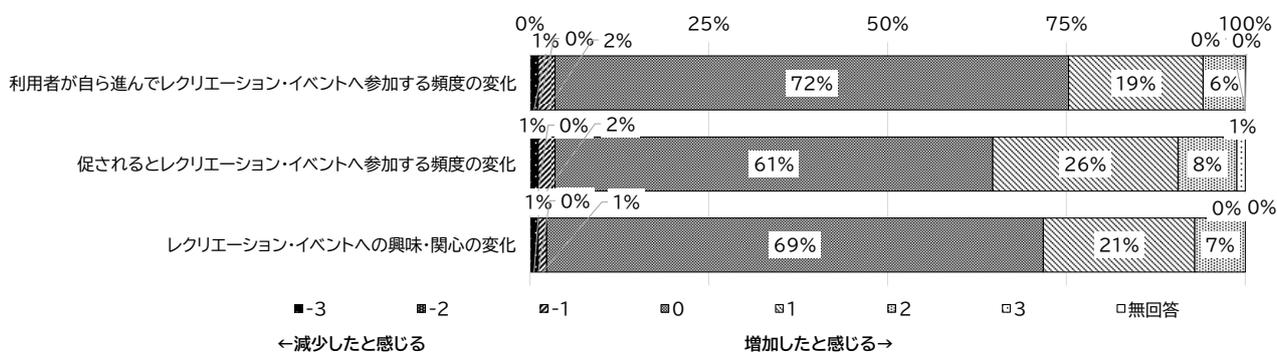
介護助手導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化では、全体で見ると、増加したと感じ

る(1~3)の割合は、「利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化」25%、「促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化」35%、「レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化」28%であった。

サービス種別ごとにみると、介護老人福祉施設において、増加したと感じる(1~3)の割合は、「利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化」25%、「促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化」27%、「レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化」30%であった。介護老人保健施設において、増加したと感じる(1~3)の割合は「利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化」45%、「促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化」45%、「レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化」35%であった。認知症対応型共同生活介護において、増加したと感じる(1~3)の割合は、「利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化」5%、「促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化」43%、「レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化」19%であった。

図表 VIII-103 全体 介護助手によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

	←減少したと感じる→							増加したと感じる→		無回答	合計
	-3	-2	-1	0	1	2	3				
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	人数(人) 1	0	2	61	16	5	0	0	0	85	
割合	1%	0%	2%	72%	19%	6%	0%	0%	0%	100%	
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	人数(人) 1	0	2	52	22	7	1	0	0	85	
割合	1%	0%	2%	61%	26%	8%	1%	0%	0%	100%	
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	人数(人) 1	0	1	59	18	6	0	0	0	85	
割合	1%	0%	1%	69%	21%	7%	0%	0%	0%	100%	



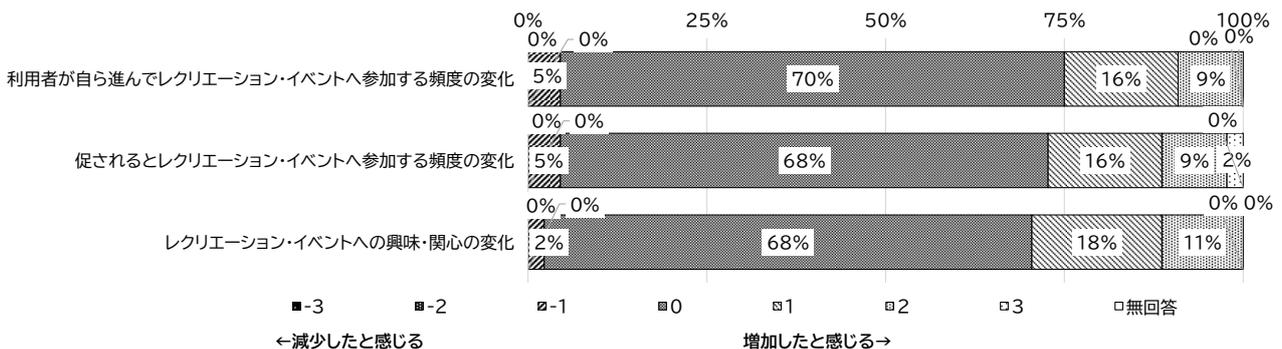
n=85

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

図表 VIII-104 施設種別 介護助手によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化
(介護老人福祉施設)

		←減少したと感じる→					増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	人数(人)	0	0	2	31	7	4	0	0	44	
	割合	0%	0%	5%	70%	16%	9%	0%	0%	100%	
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	人数(人)	0	0	2	30	7	4	1	0	44	
	割合	0%	0%	5%	68%	16%	9%	2%	0%	100%	
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	人数(人)	0	0	1	30	8	5	0	0	44	
	割合	0%	0%	2%	68%	18%	11%	0%	0%	100%	



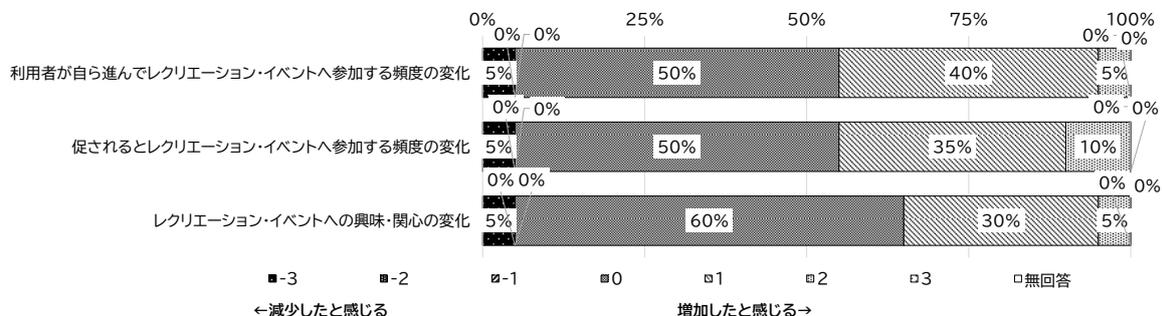
n=44

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

図表 VIII-105 施設種別 介護助手によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化
(介護老人保健施設)

		←減少したと感じる→					増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	人数(人)	1	0	0	10	8	1	0	0	20	
	割合	5%	0%	0%	50%	40%	5%	0%	0%	100%	
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	人数(人)	1	0	0	10	7	2	0	0	20	
	割合	5%	0%	0%	50%	35%	10%	0%	0%	100%	
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	人数(人)	1	0	0	12	6	1	0	0	20	
	割合	5%	0%	0%	60%	30%	5%	0%	0%	100%	



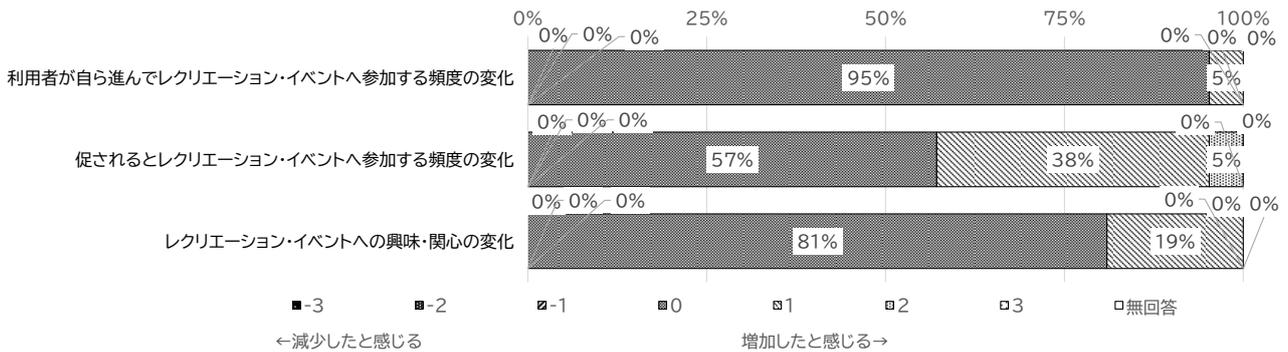
n=20

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

図表 VIII-106 施設種別 介護助手によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化
(認知症対応型共同生活介護)

		←減少したと感じる						増加したと感じる→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	人数(人)	0	0	0	20	1	0	0	0	0	21
	割合	0%	0%	0%	95%	5%	0%	0%	0%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	人数(人)	0	0	0	12	8	1	0	0	0	21
	割合	0%	0%	0%	57%	38%	5%	0%	0%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	人数(人)	0	0	0	17	4	0	0	0	0	21
	割合	0%	0%	0%	81%	19%	0%	0%	0%	0%	100%



n=21

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

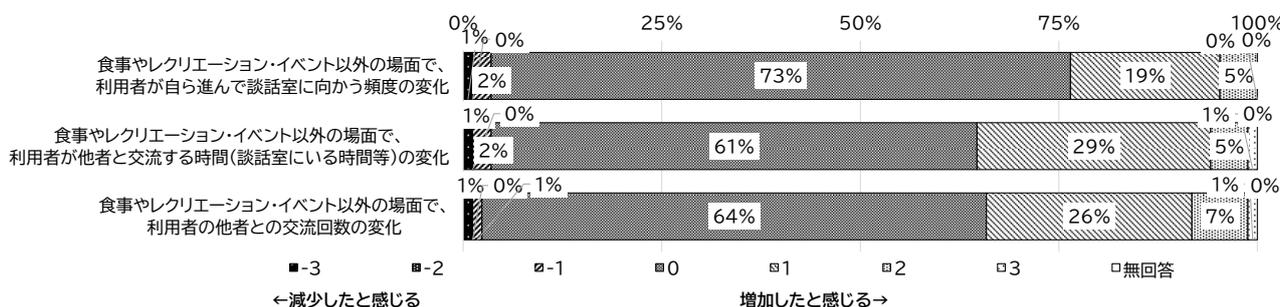
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

介護助手導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化では、全体で見ると、増加したと感じる(1~3)の割合は、「食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化」24%、「食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化」35%、「食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化」34%であった。

サービス種別ごとでは、増加したと感じる(1~3)の割合は、介護老人福祉施設においては、「食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化」30%、「食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化」34%、「食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化」30%であった。介護老人保健施設においては、「食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化」30%、「食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化」45%、「食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化」45%であった。認知症対応型共同生活介護においては、「食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化」5%、「食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化」29%、「食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化」33%であった。

図表 VIII-107 全体 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

		←減少したと感じる→						増加したと感じる→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	人数(人)	1	0	2	62	16	4	0	0	85	
	割合	1%	0%	2%	73%	19%	5%	0%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	人数(人)	1	0	2	52	25	4	1	0	85	
	割合	1%	0%	2%	61%	29%	5%	1%	0%	100%	
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	人数(人)	1	0	1	54	22	6	1	0	85	
	割合	1%	0%	1%	64%	26%	7%	1%	0%	100%	



n=85

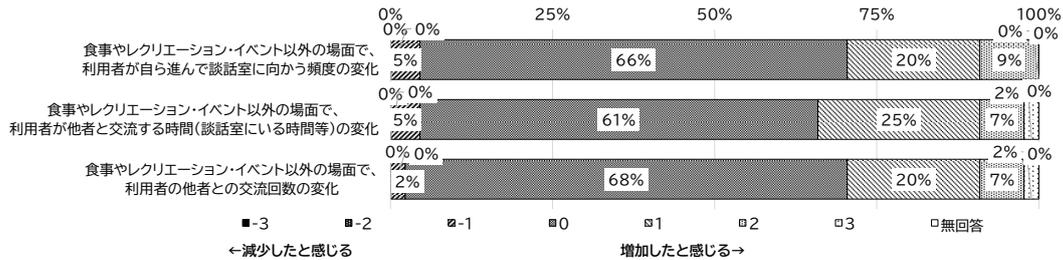
※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

図表 VIII-108 施設種別 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

(介護老人福祉施設)

		←減少したと感じる							増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3					
食事やレクリエーション・イベント以外の 場面で、利用者が自ら進んで談話室に 向かう頻度の変化	人数(人)	0	0	2	29	9	4	0	0	0	44		
	割合	0%	0%	5%	66%	20%	9%	0%	0%	100%			
食事やレクリエーション・イベント以外の 場面で、利用者が他者と交流する時間 (談話室にいる時間等)の変化	人数(人)	0	0	2	27	11	3	1	0	44			
	割合	0%	0%	5%	61%	25%	7%	2%	0%	100%			
食事やレクリエーション・イベント以外の 場面で、利用者の他者との交流回数 の変化	人数(人)	0	0	1	30	9	3	1	0	44			
	割合	0%	0%	2%	68%	20%	7%	2%	0%	100%			

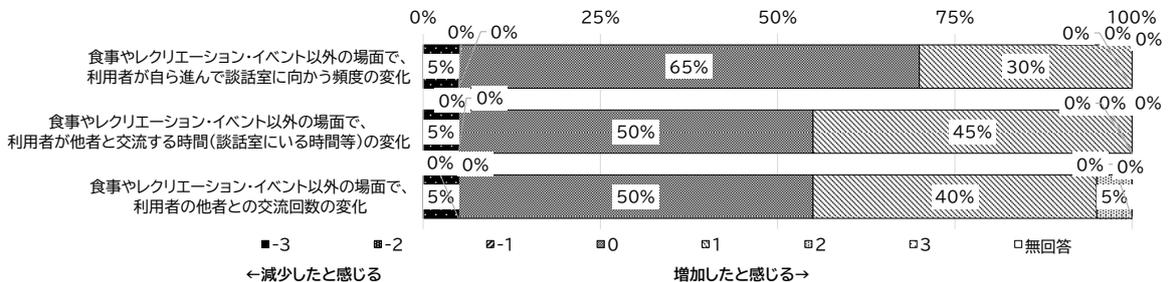


n=44

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。
 ※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

図表 VIII-109 施設種別 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化
 (介護老人保健施設)

		←減少したと感じる							増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3					
食事やレクリエーション・イベント以外の 場面で、利用者が自ら進んで談話室に 向かう頻度の変化	人数(人)	1	0	0	13	6	0	0	0	20			
	割合	5%	0%	0%	65%	30%	0%	0%	0%	100%			
食事やレクリエーション・イベント以外の 場面で、利用者が他者と交流する時間 (談話室にいる時間等)の変化	人数(人)	1	0	0	10	9	0	0	0	20			
	割合	5%	0%	0%	50%	45%	0%	0%	0%	100%			
食事やレクリエーション・イベント以外の 場面で、利用者の他者との交流回数 の変化	人数(人)	1	0	0	10	8	1	0	0	20			
	割合	5%	0%	0%	50%	40%	5%	0%	0%	100%			

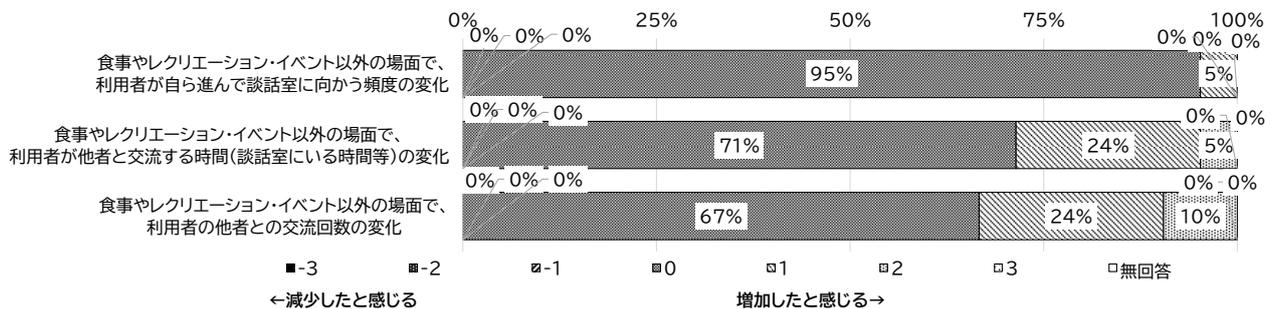


n=20

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。
 ※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

図表 VIII-110 施設種別 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化
(認知症対応型共同生活介護)

		←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2		
食事やレクリエーション・イベント以外の 場面で、利用者が自ら進んで談話室に 向かう頻度の変化	人数(人)	0	0	0	20	1	0	0	21
	割合	0%	0%	0%	95%	5%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の 場面で、利用者が他者と交流する時間 (談話室にいる時間等)の変化	人数(人)	0	0	0	15	5	1	0	21
	割合	0%	0%	0%	71%	24%	5%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の 場面で、利用者の他者との交流回数 の変化	人数(人)	0	0	0	14	5	2	0	21
	割合	0%	0%	0%	67%	24%	10%	0%	100%



n=21

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。+1~+3のいずれかに該当すると回答された利用者の割合を示している(回答は職員が実施)。

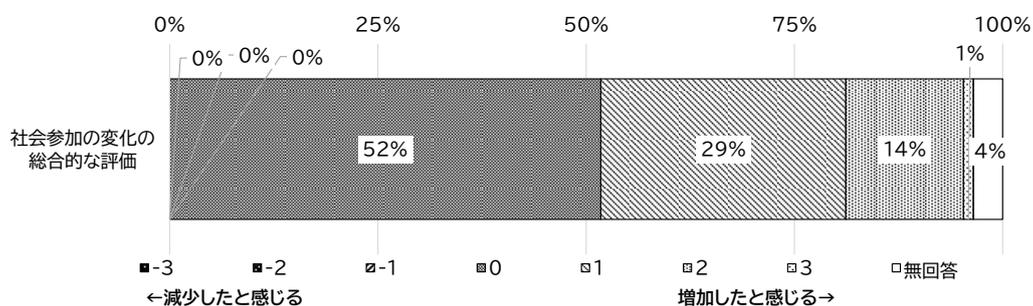
キ. 介護助手導入による社会参加の変化

介護助手導入による社会参加の変化の総合的な評価では、全体でみると、増加したと感じる(1～3)の割合は45%であった。

サービス種別ごとでは、増加したと感じる(1～3)の割合は、介護老人福祉施設 43%、介護老人保健施設 50%、認知症対応型共同生活介護 48%であった。

図表 VIII-111 全体 介護助手導入による社会参加の変化の総合的な評価

社会参加の変化の総合的な評価	人数(人)	←減少したと感じる→							増加したと感じる→	無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
	0	0	0	0	44	25	12	1	3	85	
	割合	0%	0%	0%	52%	29%	14%	1%	4%	100%	



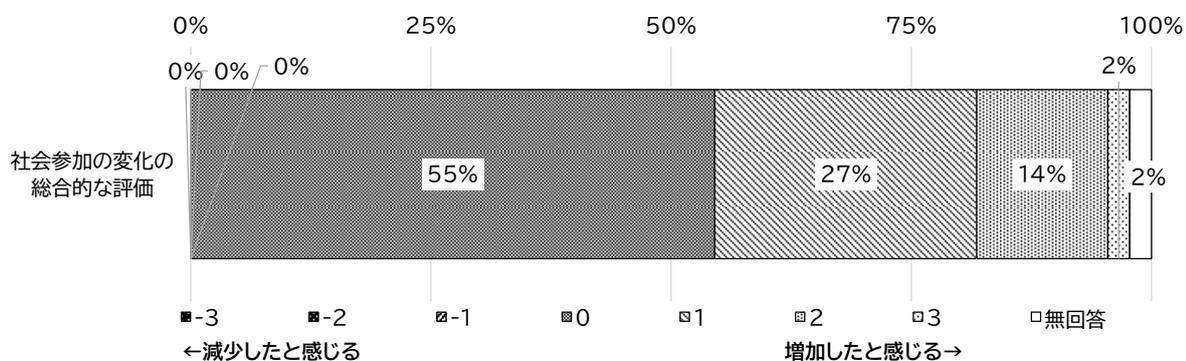
n=85

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 VIII-112 施設種別 介護助手導入による社会参加の変化の総合的な評価(介護老人福祉施設)

社会参加の変化の総合的な評価	人数(人)	←減少したと感じる→							増加したと感じる→	無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
	0	0	0	0	24	12	6	1	1	44	
	割合	0%	0%	0%	55%	27%	14%	2%	2%	100%	



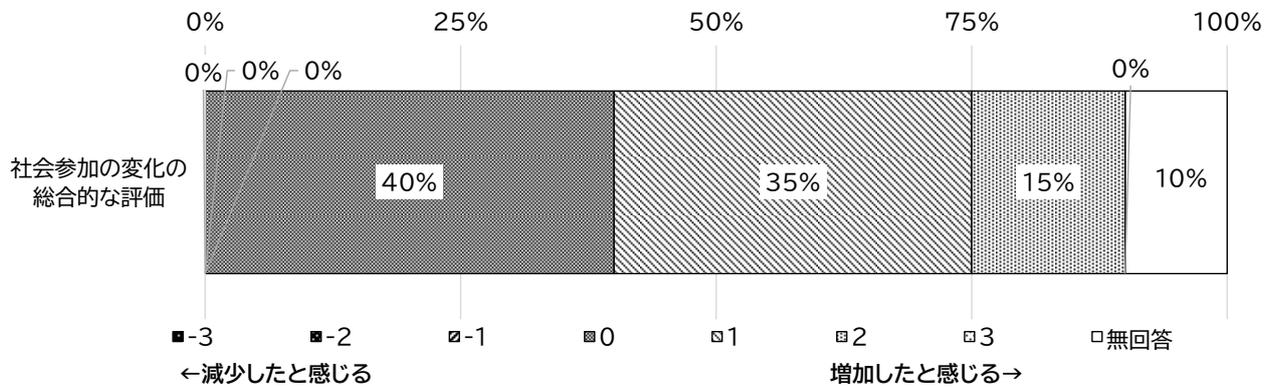
n=44

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 VIII-113 施設種別 介護助手導入による社会参加の変化の総合的な評価(介護老人保健施設)

		←減少したと感じる						増加したと感じる→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
社会参加の変化の総合的な評価	人数(人)	0	0	0	8	7	3	0	2	20	
	割合	0%	0%	0%	40%	35%	15%	0%	10%	100%	



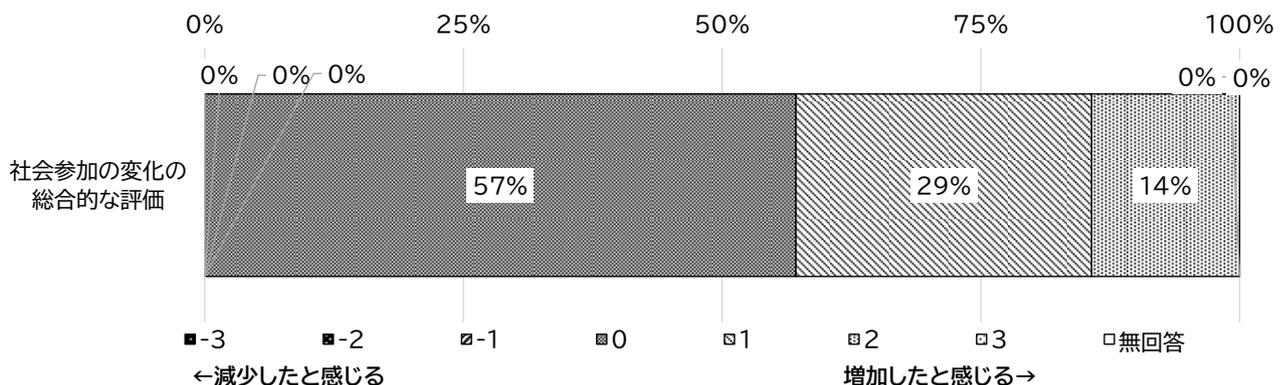
n=20

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 VIII-114 施設種別 介護助手導入による社会参加の変化の総合的な評価
(認知症対応型共同生活介護)

		←減少したと感じる						増加したと感じる→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
社会参加の変化の総合的な評価	人数(人)	0	0	0	12	6	3	0	0	21	
	割合	0%	0%	0%	57%	29%	14%	0%	0%	100%	



n=21

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

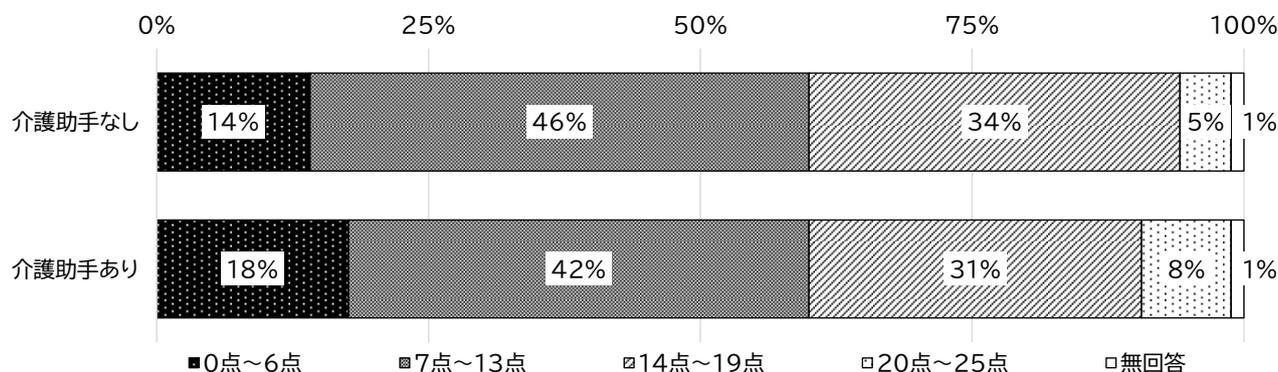
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

ク. 利用者の QOL

「介護助手なし」および「介護助手あり」にて、利用者の QOL の変化を比較した。全体で見ると、0 点～6 点の割合は「介護助手なし」14%、「介護助手あり」18%と微増し、7 点～13 点の割合は「介護助手なし」46%、「介護助手あり」42%と微減していた。その他の項目は大きな変化は見られなかった。

図表 VIII-115 全体 利用者の QOL(WHO-5 精神的健康状態表)

			0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
介護老人福祉施設	介護助手なし	人数(人) 割合	5 11%	25 57%	12 27%	1 2%	1 2%	44 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	6 14%	19 43%	15 34%	3 7%	1 2%	44 100%
介護老人保健施設	介護助手なし	人数(人) 割合	1 5%	4 20%	13 65%	2 10%	0 0%	20 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	1 5%	8 40%	8 40%	3 15%	0 0%	20 100%
認知症対応型 共同生活介護	介護助手なし	人数(人) 割合	6 29%	10 48%	4 19%	1 5%	0 0%	21 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	8 38%	9 43%	3 14%	1 5%	0 0%	21 100%
総数	介護助手なし	人数(人) 割合	12 14%	39 46%	29 34%	4 5%	1 1%	85 100%
	介護助手あり	人数(人) 割合	15 18%	36 42%	26 31%	7 8%	1 1%	85 100%



介護助手なし n=85、介護助手あり n=85

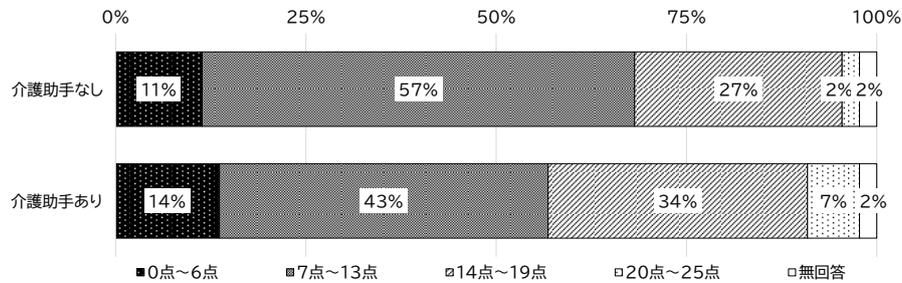
※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

図表 VIII-116 施設種別 利用者の QOL(WHO-5 精神的健康状態表)(介護老人福祉施設)

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
介護助手なし	人数(人)	5	25	12	1	1	44
	割合	11%	57%	27%	2%	2%	100%
介護助手あり	人数(人)	6	19	15	3	1	44
	割合	14%	43%	34%	7%	2%	100%



介護助手なし n=44、介護助手あり n=44

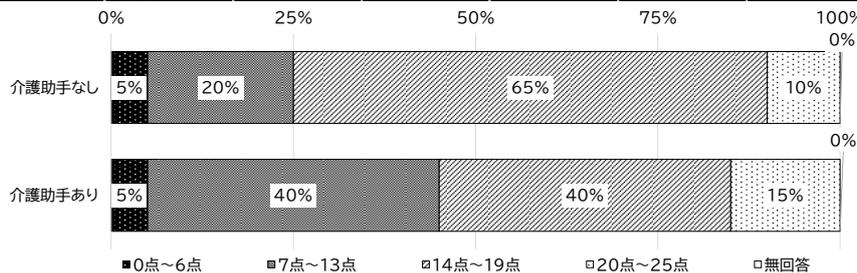
※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

図表 VIII-117 施設種別 利用者の QOL(WHO-5 精神的健康状態表)(介護老人保健施設)

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
介護助手なし	人数(人)	1	4	13	2	0	20
	割合	5%	20%	65%	10%	0%	100%
介護助手あり	人数(人)	1	8	8	3	0	20
	割合	5%	40%	40%	15%	0%	100%



介護助手なし n=20、介護助手あり n=20

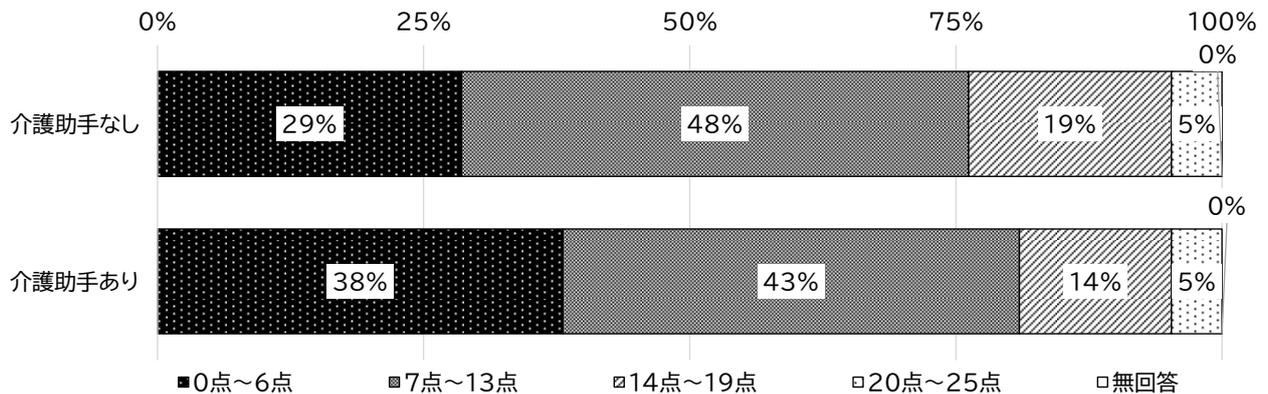
※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

図表 VIII-118 施設種別 利用者の QOL(WHO-5 精神的健康状態表)
(認知症対応型共同生活介護)

		0点~6点	7点~13点	14点~19点	20点~25点	無回答	合計
介護助手なし	人数(人)	6	10	4	1	0	21
	割合	29%	48%	19%	5%	0%	100%
介護助手あり	人数(人)	8	9	3	1	0	21
	割合	38%	43%	14%	5%	0%	100%



介護助手なし n=21、介護助手あり n=21

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※事前または事後で、各5項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

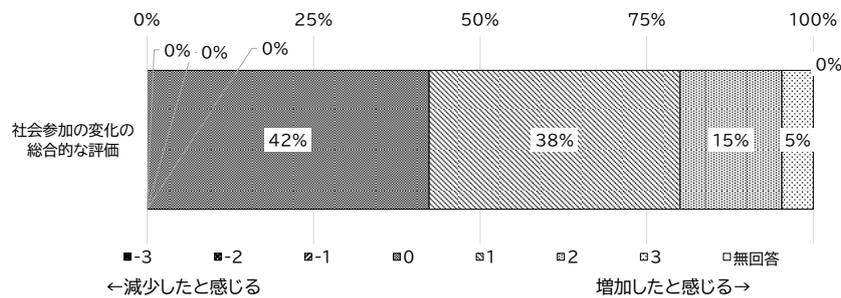
※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)~0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

介護助手導入による QOL 変化の総合的な評価では、全体で見ると、増加したと感じる(1～3)の割合は 58%であった。

サービス種別ごとでは、増加したと感じる(1～3)の割合は、介護老人福祉施設 68%、介護老人保健施設 55%、認知症対応型共同生活介護 38%であった。

図表 VIII-119 全体 介護助手導入による QOL 変化の総合的な評価

社会参加の変化の 総合的な評価	人数(人) 割合	←減少したと感じる→			増加したと感じる→				無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3		
		0	0	0	36	32	13	4	0	85
		0%	0%	0%	42%	38%	15%	5%	0%	100%



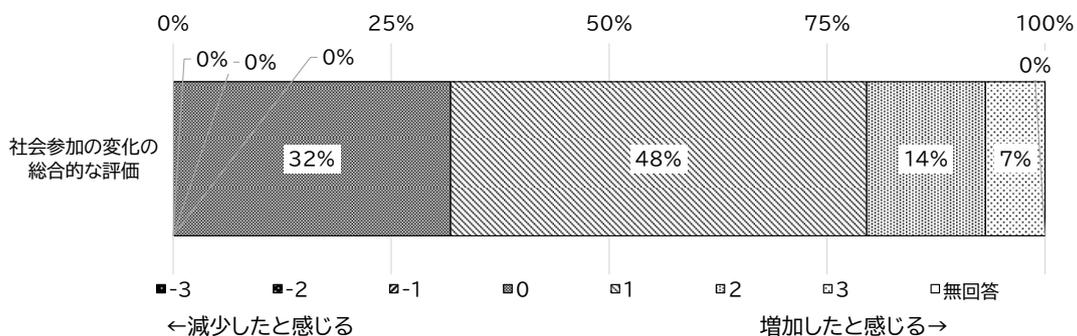
n=85

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 VIII-120 施設種別 介護助手導入による QOL 変化の総合的な評価
(介護老人福祉施設)

社会参加の変化の 総合的な評価	人数(人) 割合	←減少したと感じる→			増加したと感じる→				無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3		
		0	0	0	14	21	6	3	0	44
		0%	0%	0%	32%	48%	14%	7%	0%	100%



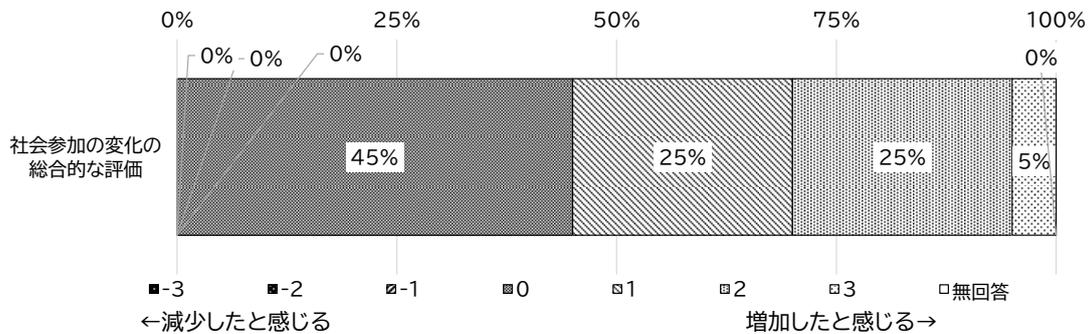
n=44

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 VIII-121 施設種別 介護助手導入による QOL 変化の総合的な評価
(介護老人保健施設)

		←減少したと感じる							増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3					
社会参加の変化の総合的な評価	人数(人)	0	0	0	9	5	5	1	0	20			
	割合	0%	0%	0%	45%	25%	25%	5%	0%	100%			



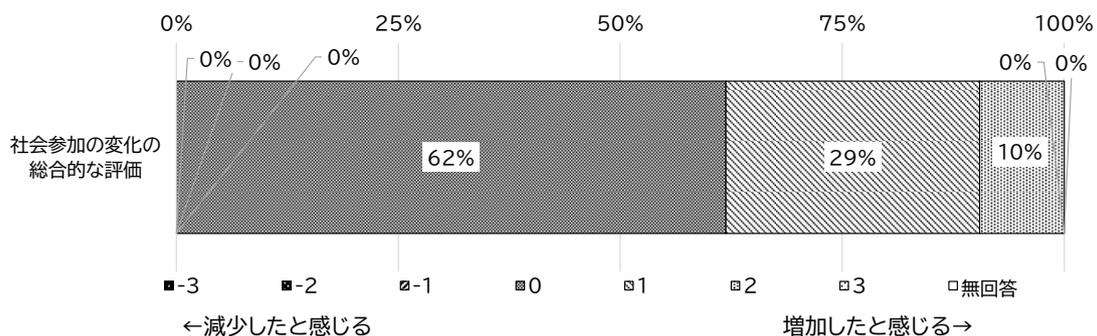
n=20

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 VIII-122 施設種別 介護助手導入による QOL 変化の総合的な評価
(認知症対応型共同生活介護)

		←減少したと感じる							増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3					
社会参加の変化の総合的な評価	人数(人)	0	0	0	13	6	2	0	0	21			
	割合	0%	0%	0%	62%	29%	10%	0%	0%	100%			



n=21

※事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

(6) ヒアリング調査結果

実証完了後、実証施設へのヒアリング調査を実施した。調査結果の概要は以下のとおり。

ア. 実証施設における介護助手の活動状況

実証施設に勤務する介護助手の活動状況として、主に以下のような回答があった。

カテゴリ	施設種別	主な回答
介護助手の勤務頻度・勤務期間・勤務者の特性	介護老人福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護助手は<u>高齢者が多い</u>。1日 5 時間程度で週4日ほど勤務している。1年以上勤務しており、介護職員にも馴染んで業務に取り組んでいる。 ・ 現在雇用している介護助手は 50 代、60 代の方であり、介護業務の経験のある方もいる。 ・ 30 代、60 代の介護助手がおり、年齢によらず同じ業務を担っていただいている。それぞれの事情に合わせて、週 4・5 日程度勤務している。 ・ <u>高齢者や主婦の方にご勤務いただき、常勤の障害者雇用も行っている</u>。週 3・4 日程度の頻度で1日 3～4 時間ほど勤務している。 ・ <u>過去に介護現場で勤務した経験のある介護助手と、介護業界は未経験の介護助手がいる</u>。 ・ 介護職員の再雇用、短時間勤務希望の方、障害者雇用の方が介護助手として勤務している。
	介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の介護助手だけでなく、20 代の介護助手も雇用している。 ・ 高齢者の介護助手3名に勤務いただき、人間関係も良好であり長く勤務している。 ・ 2 名の介護助手がおり、1名は介護業界での勤務経験のない方、もう1名は元准看護師である。
	認知症対応型共同生活介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 60 代の介護助手を雇用し、平日5日間で1日8時間の勤務をしている。 ・ 高齢者の介護助手が多い。週2日で1日2時間のみ勤務している。 ・ 元看護師の介護助手がおり、医学的な観点で介護職員がアドバイスをもらっており、助かっている。
介護助手の業務内容【「その他」に該当する業務について】	介護老人福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護施設の勤務経験がない介護助手には、<u>ごみ捨て、車椅子清掃、食事の提供等を依頼し、直接利用者に関わるような業務を依頼していない</u>。 ・ 居室清掃やベッドメイキング等、利用者の生活環境の整備だけでなく、施設共用部分の清掃(草むしり等含む)も担当いただいている。 ・ 介護助手もレクリエーションを行うことがある。

カテゴリ	施設種別	主な回答
	介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 清掃などの業務に加えて、朝に介護職員が離床対応に集中する時間には利用者の見守りなども対応してくれる。 ・ 利用者と一緒におしぼりを巻く作業をする等も対応いただいている。
	認知症対応型共同生活介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>利用者と一緒に行動することが前提であるため、介護職員の業務と介護助手の業務を完全に分けられないところがある。</u> ・ 介護助手も体操や歌等のレクリエーション業務の準備・実施をしている。 ・ 介護助手に依頼している清掃業務について、利用者と一緒に清掃することもある。介護助手と利用者が一緒に動作を行うことも多い。
勤務上の課題【介護職員】	介護老人福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ はじめは介護職員の理解を得るのに苦労した。介護助手が利用者から声をかけられた場合に、どこまで対応してよいのか、どこまで介護助手に業務依頼できるのか、どこから介護職員へ依頼すべきなのか等、<u>利用者に関わる業務の整理が大変だった。</u> ・ 介護助手の導入当初は、介護職員との業務区別の整理に関する課題や介護職員の考えの行き違いなどが生じた。 ・ 介護助手がいることで現場の業務負担軽減に貢献している一方、介護助手はあくまで助手である。介護助手を増やしたとしても、直接介護やアセスメントはできない。人数を増やせば増やすほど良いかという、そうではないと感じている。 ・ 特に課題はなく、介護職員からは「介護助手がいることで助かる」との声が多く、介護職員ともうまくやっていたと感じる。 ・ 介護助手を雇用する前に、介護職員で業務分担を明確にしていたため、介護職員からみた介護助手の勤務にあたっての課題はなかった。
	介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>任せられる業務の範囲・境目の判断が難しく、職員の経験にもよる。</u> ・ 職員との関係性も良好で、特に課題を感じていない。 ・ 利用者に関わる時間が増えた一方で、いかにその時間を介護職員としての業務に有効活用するかが課題である。
	認知症対応型共同生活介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の知識がないと介護助手では対応が難しいと感じる場面がある。 ・ 介護助手には清掃業務を担ってもらっているが、介護職員は直接介護をしているため、介護助手の立場を下に見てしまうところがある。 ・ 元看護師の介護助手のため、直接介護に近い部分(見守り、傾聴)も担っていただいているが、グループホームでは特に直接介護と間接業務の区分けが難しいと感じる。
勤務上の課題	介護老人福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ もともと清掃スタッフが勤務していたため、介護職員とは異なる職

カテゴリ	施設種別	主な回答
課題【利用者】	祉施設	<p>位の介護助手を導入しても、利用者に混乱等はなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回の実証は、認知症の利用者が入居しているフロアを対象としたが、課題はあまり感じなかった。利用者への適切な声掛け等について、介護職員に対する教育内容とは異なるものの、介護助手にも指導している。
	介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> 利用者から介護助手へ直接介護に関して依頼することもあり、利用者は「なぜこの人はやってくれないのか」と思っているかもしれない。
	認知症対応型共同生活介護	<ul style="list-style-type: none"> 利用者は職員と介護助手の区別がつかないところがあるため、声を掛けたのに対応してくれないと感じ、混乱されることがある。 元々清掃職員がおり、利用者の混乱等なく、特に課題は感じていない。
勤務上の課題【介護助手】	介護老人福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> 短時間勤務であり、各々の事情に合わせて勤務しているため、<u>介護助手の働き方が難しいと感じる</u>。あまり業務を依頼しすぎないように配慮し、勤務日に可能な範囲の仕事を頼むようにしている。 施設側として勤務してほしい時間帯に、介護助手が勤務できないことがある。介護助手の都合に合わせて勤務調整している。 介護助手の勤務時間・勤務日に関する希望や、介護業務経験・本人の能力に合わせて、依頼する業務内容を変えている。施設側の要望と合わないこともあり、うまく折り合いをつける必要がある。 障害者雇用や持病のある方も介護助手として雇用しており、介護助手自身の性格や能力に合わせて、寛容に対応する必要がある。 高齢の介護助手のため、重い荷物を運ぶことは難しい。また、介護助手本人のペースがあるため、あれもこれもとは頼めないところがある。 短時間勤務のため、施設内の情報が行きわたらないという課題があった。情報共有の方法を工夫することで改善している。
	介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> 介護助手が高齢のため、能力に合わせて業務を分担する必要がある。 なかにはコミュニケーションが難しい介護助手もいるので、その介護助手に合った業務分担が難しい。介護助手により依頼内容が異なる。 元気高齢者を多く雇用しており、体調を崩される、家庭の事情等により、急遽不在となる場合もあり、介護職員の業務分担が大変である。 高齢者の介護助手が認知症になる場合もあり、介護助手の能力を確

カテゴリ	施設種別	主な回答
		<p>認しながら、安全に業務ができるよう配慮が必要である(業務に支障をきたす場合は、勤務をお断りすることもある)。</p>
	認知症対応型共同生活介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ どこまで介護助手が介入してよいのかと困る点がある。 ・ 個々の能力も異なるため、介護助手によって担っている業務が異なる。 ・ 高齢者の介護助手を雇用しているが、はじめ多く勤務いただいたものの、体調不良などで退職する方が多い。 ・ 高齢のためできないこともあり、配慮して業務を分担する必要がある。
勤務上の課題【施設】	介護老人福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護助手には、食事支援を主に担っていただきたいところであるが、<u>朝・夕の時間帯に勤務できないことが多い。マッチングが難しい。</u> ・ 介護助手が高齢な場合、急なお休みが生じることや、長期間の勤務が難しいことがあり、<u>安定的に勤務いただくことが課題</u>と感じている。 ・ 最低賃金が上がっており、収入制限や年金等との兼ね合いで、勤務日数は減っている傾向があり、<u>雇用に関する経済的な課題</u>を感じている。 ・ 介護助手によって、介護業務経験や能力は様々なため、それぞれの介護助手に合わせて業務を振り分けている。 ・ 介護職員の人材不足に対するフォローはしてもらえが、無資格者の介護助手に求めすぎると様々なリスクは伴うことが想定されるので、<u>業務の割り振りについてはよく精査しないといけない</u>と感じている。
	介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の介護助手を採用した場合、個々の能力にもよるところがあり、業務の標準化が困難になる懸念がある。今後マニュアル等を整備する上で、整理できればと思う。 ・ <u>最低賃金が上がっており、今後、費用対効果の面で、雇用に限界があるのではないかと</u>感じている。 ・ 特に課題は感じていないが、介護助手が不在の際の不安感がある。
	認知症対応型共同生活介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特養、老健に比べ、利用者が活動的なため、介護助手も利用者にもっと配慮してほしいところはあるが、どこまで求めて良いものか。<u>グループホームは共同生活の場のため、業務整理の線引きが難しい。</u>見守りや傾聴などに時間をかけることが多く、業務分担が難しいと感じる。 ・ 区分けに悩む業務は、随時相談しながら分担し、対応している。

イ. 実証施設において、介護助手に勤務いただく目的・方針の達成状況

実証施設における介護助手導入による効果等として、主に以下のような回答があった。

カテゴリ	施設種別	主な回答
目的・方針の達成状況【利用者】	介護老人福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> 介護職員の<u>直接介護が増えたこと</u>によって、<u>ケアの質は改善している</u>と感じている。 介護助手に食事支援の<u>間接業務を担っていただくこと</u>で、介護職員が食事介助等のケアに注力できて良いと感じる。 介護助手を導入したほうが、介護職員はより手厚く多くのサービスを提供できると感じる。 まだ、ケアの質向上につながったという実感はないが、介護助手がいることによって<u>介護職員の余裕が生まれている</u>と感じる。今後、介護助手を導入したことによって生まれた余裕を、いかにケアへ還元するかが課題と感じている。
	介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の変化なども含め、目の届きにくいところに気づき、介護助手から介護職員へ声をかけてくれる点が良い。 職員が1人になってしまう時間帯に介護助手がいることで、注意が必要な利用者に配慮してもらうことができる。 フロアに介護職員がいる時間が増えたため、利用者の要望に対して対応を早くすることができるようになったと思う。
	認知症対応型共同生活介護	<ul style="list-style-type: none"> <u>介護職員が利用者へ声掛けできる余裕ができた。</u> たまたま音楽の得意な介護助手がおり、利用者と音楽を通じたコミュニケーションをとってくれ、良い効果を与えてくれていると感じる。
目的・方針の達成状況【介護職員】	介護老人福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> 介護助手を導入した目的は、<u>介護職員の業務負担を減らすこと</u>であった。介護助手導入に伴い、介護職員の業務を見直し、<u>介護職員の残業時間は改善している</u>と感じている。 介護職員はなかなか雇用につながらないため、県の介護助手の取組を知ったのをきっかけに導入した。以前は、特に生活環境の整備が行き届きにくくなっていたが、<u>介護助手の導入により改善されている。</u> <u>介護助手を導入した目的は、職員の業務負担を減らす、離職率を減らすこと</u>であった。介護助手を導入し、<u>求めていた効果は達成できている</u>と実感している。 介護職員の人材不足のため、介護助手を導入した。<u>介護職員しかできない業務、介護助手でもできる業務を仕分けし、業務改善に取り組むことができた。</u>

カテゴリ	施設種別	主な回答
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 休暇の取得や残業時間についてはさほど変わらない印象であるが、介護職員の業務負担は減っていると思う。
	介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>職員が1人の時間帯にも、介護助手がいてくれることで、職員の心理的負担が軽減する。</u> ・ <u>介護職員の休暇取得や残業の改善までは至っていないが、勤務時間内の直接介護に注力できる時間が増えている。</u> ・ <u>介護助手の導入効果として一番良かったのは、介護職員の残業が減ったことである。</u> ・ <u>県のモデル事業に参加し、タスクシフトを検討した。介護助手導入によって介護職員が利用者へ目を向ける時間が増えた。</u>
	認知症対応型共同生活介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護職員の確保が難しい状況があった。協会から紹介いただき、介護助手を導入した。介護職員にゆとりが生まれたと感じている。</u> ・ <u>グループホームでは、食事を現場で作るため、業務が多いと感じている。介護助手を採用して、介護職員の業務負担軽減につながった。</u> ・ <u>介護助手に間接業務を担っていただけの分、介護職員は余裕をもてる。</u>
目的・方針の達成状況	介護老人福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護助手と面談したところ、介護助手としての勤務について、社会参加しつつ対価を頂けてやりがいを感じるとの意見を頂いた。</u>
【介護助手】	介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護助手自身も、仕事をすることでやりがいを感じる、利用者との会話が楽しいとの発言があった。</u>
	認知症対応型共同生活介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>仕事に対して、感謝の気持ちを持ってきている。</u> ・ <u>高齢者の介護助手(男性・女性どちらも)生き生き働いている。</u>
目的・方針の達成状況	介護老人福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>費用対効果については、きちんとデータを算出していないので明確には分からないが、介護助手を導入したことにより介護職員の直接介護が増え、残業時間も減っている実感がある。</u> ・ <u>介護助手の導入や技能実習生の導入、それに伴う介護職員の業務の見直し等、複合的な効果によって、夜勤職員の残業はほぼゼロになった。</u> ・ <u>1人の介護職員を雇用するよりは、非正規職員に来てもらう方が、費用対効果は高いと感じている。</u>
【施設】	介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>注意が必要な利用者に対して介護助手にも配慮いただくことで、その点ではリスク低減にもつながっている。</u> ・ <u>介護助手を採用するにあたっての費用負担は小さくなく、採用も介護助手は紹介で繋がり、採用活動の費用も掛からなかった。</u> ・ <u>費用対効果は赤字でも黒字でもないと思う。しかし、介護職員の方の離職率は減っており、効果を感じている。</u>

カテゴリ	施設種別	主な回答
	認知症対応型共同生活介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護助手も利用者に配慮してくれ、リスクが減ったと感じている。</u> ・ <u>費用対効果として、介護助手の時給は高くないので、介護助手に勤務いただいた方がありがたいと感じている。</u> ・ <u>1回あたり2時間の勤務のため、施設側のコスト面では負担になっていない印象である。2時間勤務でも現場として助かっている。</u>
介護助手の方が不在になった場合に想定される懸念事項	介護老人福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護職員の作業やタスクが増え、直接介護が減ることが想定される。そのため、対応が不十分となり介護事故につながる可能性を危惧している。介護助手が不在になると、介護職員の精神的にも負担が増えることが想定され、介護職員から不満が出ると思う。</u> ・ <u>目が行き届かなくなり、利用者のリスクにつながる可能性がある。</u>
	介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>環境整備、リネン交換等を介護職員が実施することとなり、利用者にも目を向ける時間が少なくなるだろう。</u> ・ <u>介護職員の余裕がなくなる。利用者1人1人に対応する時間が減る。</u>
	認知症対応型共同生活介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護職員の業務負担が増加し、休憩が取れなくなるといった負の側面が多いと思う。</u> ・ <u>介護職員の精神面での余裕がなくなる。</u> ・ <u>普段できている業務が滞り、利用者に対して、目が行き届かなくなるのではないかと。</u>

ウ. 実証施設における利用者の変化

実証施設において、介護助手導入による利用者の変化として、主に以下の回答があった。

カテゴリ	施設種別	主な回答
介護職員の直接介護の質・量の改善による変化	介護老人福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護職員は利用者に関わる時間をとれるようになった。</u> ・ <u>施設では看取りも多いため、介護職員の余力を作ることが大事だと思っている。介護助手がいることで介護職員が気持ちの余裕を持つことができ、急な対応にも余裕をもって取り組むことができると感じる。</u> ・ <u>介護助手も、注意が必要な利用者に配慮してくれるため、介護職員は安心して業務にあたることができ、リスクが減っていると思う。</u>
	介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護職員は利用者へ目を向けることができ、生活上のリハビリ等を重点的に実施できる。生活の維持ができていないのではないかと。</u> ・ <u>直接介護の時間が増え、利用者を待たせることが減った。</u>
	認知症対応型共同生活介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護職員の精神面での余裕が生まれた。</u>
介護助手の	介護老人	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護職員と利用者がコミュニケーションをとる機会が増えた。</u>

カテゴリ	施設種別	主な回答
導入による 利用者の変 化	福祉施設	・ <u>介護助手は資格を有していなくとも、人生経験があるので、利用者も安心している印象がある。</u>
	介護老人 保健施設	・ <u>介護助手と利用者は年齢が近い。利用者は介護助手に話しやすいのではないか。</u> 高齢者同士でお話できることでストレス軽減になる。 ・ <u>介護助手も利用者に配慮してくれ、利用者とのコミュニケーションが増えた</u> と思う。 ・ 自宅に咲いたお花を持参してくれる介護助手がおり、それを待ってくれる利用者もいる。利用者の笑顔が増えたと思う。
	認知症対 応型共同 生活介護	・ 介護職員から利用者への声掛けが増えた。 ・ 自室に閉じこもりがちの利用者が、介護助手の音楽を通じたコミュニケーションをきっかけに、団体行動ができるようになったことがあった。 ・ 利用者と一緒に動作を行うことが多いので、 <u>利用者の発話や笑顔を増やすことができたのではないか。</u>
社会参加の 変化	介護老人 福祉施設	・ 社会参加の変化までは実感できていない。
	介護老人 保健施設	・ 社会参加の変化までは実感できていない。
	認知症対 応型共同 生活介護	・ 社会参加の変化までは実感できていない。

Ⅰ. 介護助手に対する教育体制、事故防止対策

実証施設における介護助手への教育体制および事故防止対策として、主に以下の回答があった。

カテゴリ	施設種別	主な回答
介護助手入 職時の教育 体制・研修 の内容	介護老人 福祉施設	・ <u>採用前に施設見学し、施設概要や業務について説明をした上で、雇用している。</u> ・ <u>施設内のマニュアルに基づき、勤務体制、業務内容を説明している。</u> 初回勤務でオリエンテーションし、 <u>具体的な業務指導はOJTが主である。</u> ・ <u>介護助手も介護職員も、入職時は同じオリエンテーションを実施している。</u> 施設内での研修資料も介護助手へ共有し、管理者との面談や目標設定等もしている。 ・ 入職時研修を実施している。 <u>介護助手が無資格の場合、倫理やコミュニケーションの研修等は特に重要視して実施している。</u> 法定研修等、介護職員と同じ研修も受けてもらっている。面接などもしっかり対応するよ

カテゴリ	施設種別	主な回答
		<p>うにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>未経験の介護助手が多いので、施設の制度や特性、感染対策等の研修を実施している。</u>
	介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>初めはOJTを主として業務指導を行っている。利用者との関わり方、留意点、利用者の居室に入る際の声掛けや挨拶などを指導し、実践いただいている。</u> ・ <u>介護助手の手引きを渡し、介護助手の業務範囲を説明し、OJTと合わせて教育している。</u> ・ <u>新規採用の方には、利用者の留意事項について一人一人説明している。</u> ・ <u>環境設定を工夫し、専門知識がなくても、スポットで業務にあたっても、その場でどのような配慮が必要か分かるよう工夫している。</u>
	認知症対応型共同生活介護	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>認知症の方が対象となるため、認知症の基礎知識、利用者様の特性を確認するオリエンテーションを実施している。また、カンファレンスにも介護助手が参加している。</u> ・ <u>介護職員と同様に、施設内のマニュアルに基づき、業務内容を説明し、OJTでの業務指導を行っている。</u> ・ <u>虐待等、施設内での研修を受けてもらっている。e-learningの導入や法定研修を必須とするか等、検討しているところである。</u>
事故発生時の対応	介護老人福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ヒヤリハットレベルの事象は、介護助手も日常的に発見することがある。発見した場合は、介護職員に伝達するように指導している。その後の対応や対策の検討は介護職員で行っている。</u> ・ <u>介護助手による事故の発見はないが、介護助手が危険を感じた際には「歩いてるよ」等、大きな声で周囲に分かるように周知してくれる。また、利用者に話しかけられた際は介護職員に報告してもらい、介護職員との連携を密にしている。</u> ・ <u>介護助手が事故を発見した事例はないが、介護助手も救命救急の研修等を受講し、事故対策委員会に参加している。もし介護助手が事故を発見したら、介護職員に声掛けするよう指導している。</u> ・ <u>介護助手から事故報告を聞くことはほぼない。件数は年間でもほとんどない。利用者の身体状況の変化等、気づいたことは随時報告してもらっている。</u>
	介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護事故・ヒヤリハット等、介護助手からの報告は数年に1度程度。</u> ・ <u>居室内での危険行為(起き上がっていた等)について、介護助手が知らせてくれることがある。</u> ・ <u>介護助手による事故が起こったことはない。利用者の特性を説明した上で、配慮や注意をお願いすることがある。</u>
	認知症対	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護助手による事故の発見はないが、掃除しながら薬を発見することは</u>

カテゴリ	施設種別	主な回答
	応型共同 生活介護	<p>多く、ヒヤリハット報告や対策の検討につながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設内では転倒の事例について報告があるが、夜間での発生が多いので、介護助手がいる日中はほぼない。万が一、ヒヤリハットや介護事故を発見した際には、介護職員に報告するよう指導している。

オ. その他

その他として、以下のような意見があった。

カテゴリ	施設種別	主な意見
介護助手 採用・教育 等における 課題、失敗 談	介護老人 福祉施設	<p>【採用に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域自体が高齢化していることもあってか、介護助手の応募は高齢者が多く、採用募集にあたってはSNS等の活用ではなく、チラシ(紙)を配る方法で募集している。<u>人材募集の案内について、地域の高齢者にどのように情報を伝えるかが課題</u>と感じている。 <u>就労希望のシニアが多く、介護助手の見学(採用希望)の問い合わせが多い</u>。その対応に時間がとられているのが課題ではある。 介護助手の方のバックグラウンドによって利用者への対応は異なると感じており、介護業界の経験者にぜひ活躍していただきたい。 <p>【教育について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特に、<u>認知症の利用者を無資格者がケアすることについて、一歩間違えたら危険だ</u>と感じている。認知症の方の暴言や異常行動について、知識がないと、虐待や介護助手自身の精神的な負担につながる危険はあると思う。しかしながら、<u>介護ロボ等では担えない部分もあり、人の手はどうしても必要な</u>ので、<u>うまく介護助手を活用する必要がある</u>と考えている。 <u>介護助手の業務に見守り・傾聴は業務に入れていないが、利用者に話しかけられる機会も多く、直接介護の線引きが難しい</u>。介護助手には、利用者から話しかけられたら無視はしないよう指導しており、現状はうまく対応いただいているが、介護職員も業務の線引きに戸惑うところがある。 <u>認知症に関する知識や利用者への接遇等、介護助手にも研修が必要</u>と感じるが、時間も多く費やしてしまう。短時間勤務の介護助手が多いため、あまり研修を増やしすぎると、<u>間口が狭まってしまわないか</u>。 <u>無資格者でもできる</u>ところ、<u>できないところを区別して対応</u>するように教育している。介護助手も利用者の話を聞いてもらっているが、介護職員へ情報共有するように教育しており、アセスメントが必要な場合は介

カテゴリ	施設種別	主な意見
		<p>護職員がその後対応するようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時の対応、虐待に関する内容等、研修が必要と感じている。また、介護職員同様に、介護助手も認知症の研修が必須になるのではないか。
	介護老人 保健施設	<p>【採用・勤務に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 知り合いからの声掛けで紹介いただき、採用することが多い。 ・ 介護助手同士で息が合わないこともあり、その場合は配置を変える等の対応をしている。 ・ 有資格者としての業務経験があった高齢の介護助手では、間接業務の受け入れが悪く、介護助手としてうまくやれないこともあった。 <p>【教育に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が受講する認知症基礎研修を介護助手も受講するよう検討している。 ・ 今までトラブルになったことはないが、利用者も介護助手も施設周辺の地域住民である場合もある。個人情報の取り扱いに関する指導の必要性を感じており、研修制度などがあればと思う。 ・ 介護助手の業務は無資格者でもできるように工夫しており、専門知識を教育することの必要性をあまり感じていない。
	認知症対 応型共同 生活介護	<p>【採用・勤務に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護助手導入当初は募集のチラシを作り、説明会を実施した。最近はハローワークを通じて雇用募集している(高齢者雇用専用窓口がある)。 ・ 市で、介護助手の雇用促進窓口があり、そこで募集をしたところからスタートした。今のところ、失敗などはない。 ・ 過去の採用募集にあたって、チラシの費用を県が補助してくれたことがあった。募集を手助けいただけるとありがたい。 ・ 高齢の方が多く長時間・長期間働けない課題がある。また、忘れっぽいところがある。勤務体制もシフトが様々であり、勤務日を間違えることがある。 <p>【教育に関して】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護職員は認知症基礎研修を受講することとなるが、介護助手にはどこまで求められるのか。 ・ 認知症の利用者の声掛けに反応したところ急に立ち上がった等、予期せず直接介護に関わることも多い。介護助手には直接介護と切り分けて対応するよう指導しており、すぐに介護職員へ連携するようにしている。 ・ 介護助手も認知症の研修を受講している。介護助手も前向きに勉強しており、社会参加につながっているとの声もあった。

カテゴリ	施設種別	主な意見
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護助手に認知症基礎研修を受講してもらったが、ICT の操作が大変そうだったため、年齢も配慮し、開催形式は対面も選択できると良いと思った。 ・ 介護助手向けの研修内容について、取り扱う範囲等、悩むことがある。国や都道府県等に支援してもらい、研修等を開催いただけたら嬉しい。介護助手の質を担保していただけるような取組があればありがたい。 ・ 介護職員に対する介護助手の研修や教育も必要ではないか。 ・ 今後、若い方も介護業界の仕事に就ききっかけとして、介護助手の勤務を経験してもらい、介護職員へ昇格するといった体制も検討できればと思う。 ・ 施設内で勤務する介護助手の業務は介護業務ではない認識である。在宅ヘルパーのようなイメージで業務分担している。ただ、送迎の運転手は乗車の見守り(時に介助)が必要になるため、対応に困っているところがある。 ・ 介護助手が広く導入されるように、採用にあたって、補助やインセンティブ(加算)があるとありがたい。

(7) 介護助手の導入に関連する費用調査

ア. 目的

令和4年度および令和5年度実証施設を対象に、介護助手導入に関連する費用を把握し、施設としての費用対効果について検証を行った。なお、本調査の調査対象は実証エリアのみではなく、施設全体について回答を得た。

イ. 調査対象

調査対象は令和4年度および令和5年度実証施設・事業所とし、任意で回答を依頼した。

図表 VIII-123 介護助手の導入に関連する費用調査 調査対象数

	調査依頼数※	回収数	回収率
令和4年度 実証施設	19	11	57.9%
令和5年度 実証施設	18	11	61.1%
合計	37	22	59.5%

※令和4年度および令和5年度で同一の施設を除く

ウ. 調査項目

介護助手の導入に関連する費用調査では、以下について回答を得た。調査票は、XI 参考資料を参照されたい。

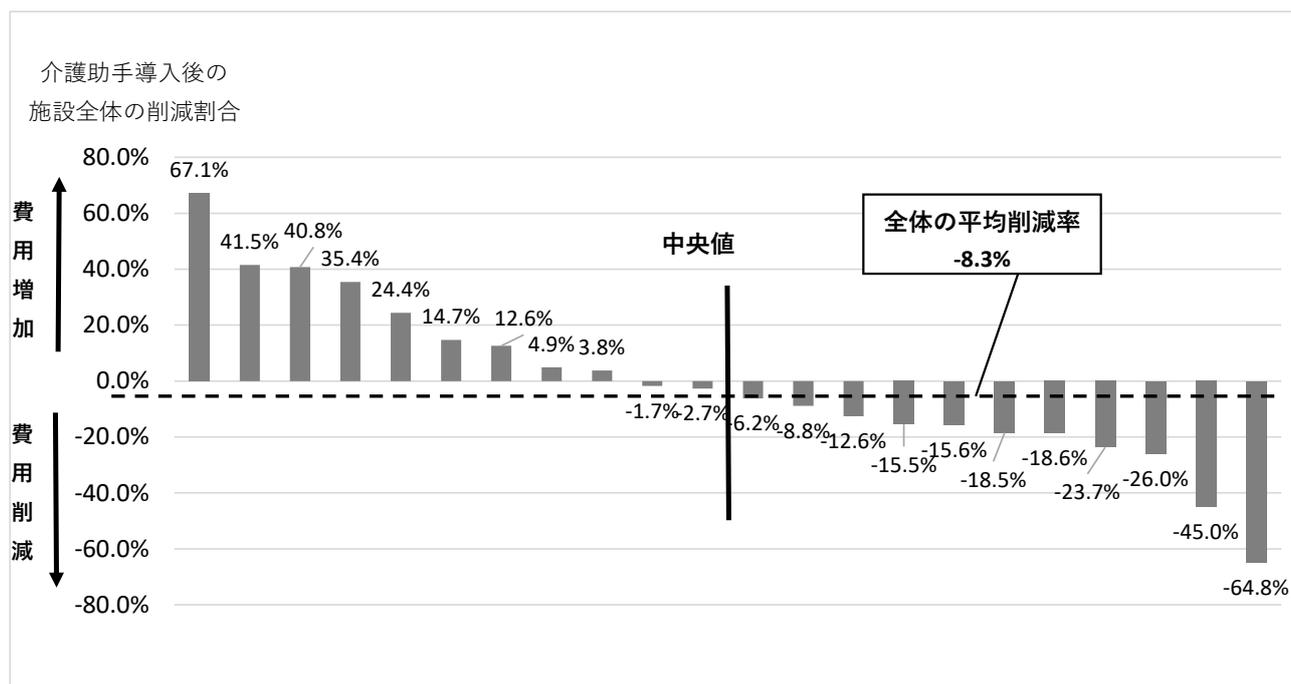
- ・ 常勤介護職員の時間外勤務状況の勤務状況について
1か月当たりの常勤介護職員の時間外手当(総額):介護助手導入前(介護助手導入前の1か月)と介護助手導入後(直近1か月)の2時点
- ・ 非常勤介護職員(パート、派遣職員を含む)の勤務状況について
1か月当たりの非常勤介護職員の給与支払額(総額):介護助手導入前(介護助手導入前の1か月)と介護助手導入後(直近1か月)の2時点
- ・ 介護助手の勤務状況について
1か月当たりの非常勤介護職員の給与支払額(総額):直近1か月

工. 調査結果

1) 介護助手導入後の施設全体の削減割合(施設別)

介護助手導入後の施設全体の削減割合は、平均-8.3%、中央値は-4.4%であった。最も削減割合が大きかった施設では-64.8%だった。

図表 VIII-124 介護助手導入後の施設全体の削減割合(施設別)



22 施設

※介護助手導入後の施設全体の削減割合は、「介護助手導入後削減額÷(介護助手導入前時間外手当+非常勤給与支払総額)」で算出。

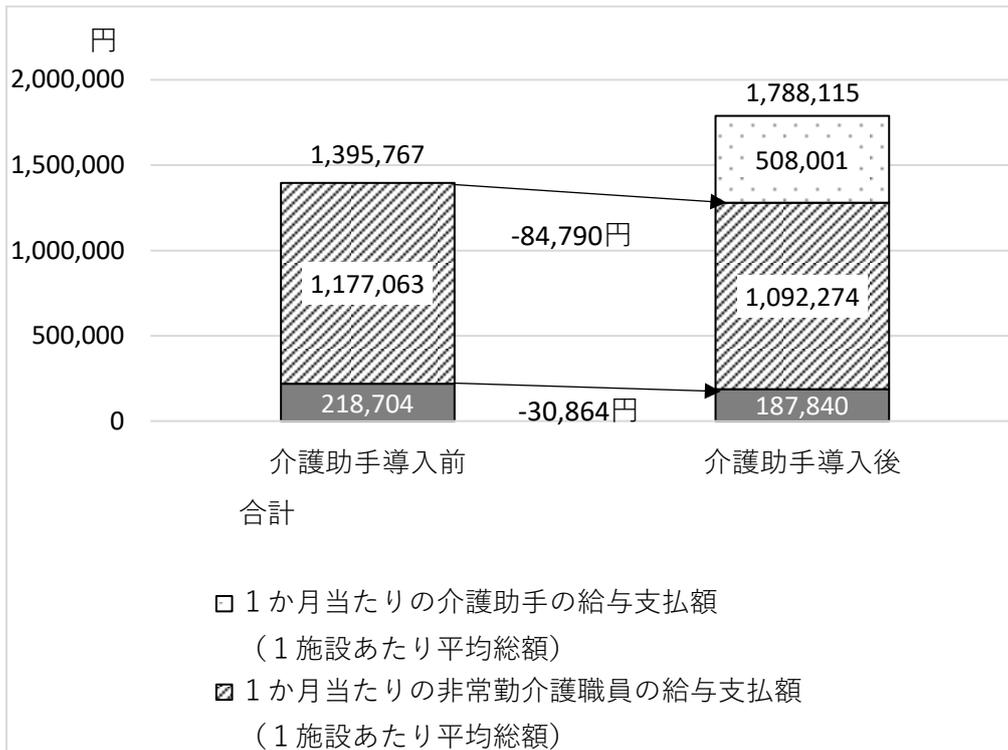
2) 介護助手導入前後(全施設平均)の比較

介護助手導入前後の全施設平均額を比較すると、介護助手導入後、1か月当たりの常勤介護職員の時間外手当は 30,864 円減少、1か月当たりの非常勤介護職員の給与支払額は 84,790 円減少という結果だった。しかし、施設全体の費用としては、1か月当たりの介護助手支払額を含めると、392,348 円増加であり、費用削減の効果は見られなかった。

介護助手導入前の全施設平均額の合計に対する、介護助手導入前後の全施設平均割合を比較した。1か月当たりの常勤介護職員の時間外手当は介護助手導入前が 15.7%から介護助手導入後 13.5%になり、2.2 ポイント減少した。1か月当たりの非常勤介護職員の給与支払額は、介護助手導入前が 84.3%から介護助手導入後 78.3%になり、6.1 ポイント減少した。しかし、施設全体の費用としては、介護助手支払額を含めた施設全体の合計額は 128.1%となった。

図表 VIII-125 介護助手導入前後(全施設平均額)

	1か月当たりの常勤介護 職員の時間外手当 (1施設あたり平均総 額)	1か月当たりの非常勤介 護職員の給与支払額 (1施設あたり平均総 額)	1か月当たりの介護助手 の給与支払額 (1施設あたり平均総 額)	合計
介護助手導入前	218,704	1,177,063	—	1,395,767
介護助手導入後	187,840	1,092,274	508,001	1,788,115
削減額(導入後-導入前)	-30,864	-84,790		392,348



22施設

図表 VIII-126 介護助手導入前後(全施設平均額割合)

	1か月当たりの常勤介護 職員の時間外手当 (1施設あたり平均割 合)	1か月当たりの非常勤介 護職員の給与支払額 (1施設あたり平均割 合)	1か月当たりの介護助手 の給与支払額 (1施設あたり平均割 合)	合計
介護助手導入前	15.7%	84.3%	—	100.0%
介護助手導入後	13.5%	78.3%	—	128.1%
削減割合(導入後-導入前)	-2.2%	-6.1%		28.1%

22施設

※介護助手導入後の割合は、介護助手導入前の合計額を分母とし、介護助手導入後の割合の変化をみた。

3) 介護助手導入後年数による比較

令和4年度および令和5年度実証施設のうち、介護助手の費用調査に関して回答が得られた 22 施設について、介護助手導入後 5 年以上経過している5施設(2017 年までに介護助手を導入した施設)と、介護助手導入後5年未満の 17 施設に分けて比較を行った。

介護助手導入後 5 年以上の施設では、介護助手導入後、1か月当たりの常勤介護職員の時間外手当は 140,745 円減少、1か月当たりの非常勤介護職員の給与支払額は 344,409 円減少となった。しかし、施設全体の費用としては、1か月当たりの介護助手支払額を含めると、460,883 円増加であり、費用削減の効果は見られなかった。

一方、介護助手導入後5年未満の施設では、介護助手導入後、1か月当たりの常勤介護職員の時間外手当は 1,455 円増加、1か月当たりの非常勤介護職員の給与支払額は 8,431 円減少となった。施設全体の費用としては、1か月当たりの介護助手支払額を含めると、372,190 円増加であった。常勤介護職員の時間外手当や費用削減の効果は見られなかった。

図表 VIII-127 介護助手導入前後(施設平均額)

(介護助手導入後 5 年以上経過の施設と、介護助手導入後5年未満の施設との比較)

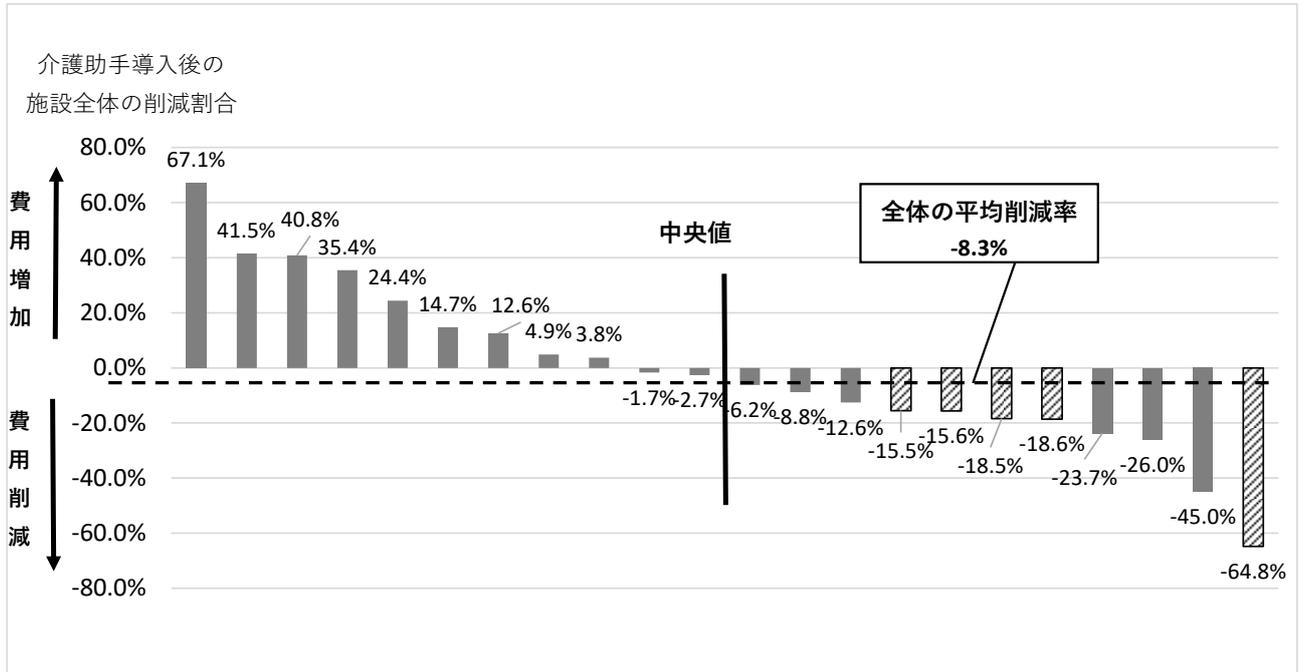
介護助手導入5年以上 (n=5)

	1か月当たりの常勤介護職員の時間外手当 (1施設あたり平均総額)	1か月当たりの非常勤介護職員の給与支払額 (1施設あたり平均総額)	1か月当たりの介護助手の給与支払額 (1施設あたり平均総額)	合計
介護助手導入前	434,236	1,732,302	—	2,166,538
介護助手導入後	293,491	1,387,893	946,038	2,627,421
削減額(導入後-導入前)	-140,745	-344,409		460,883

介護助手導入5年未満 (n=17)

	1か月当たりの常勤介護職員の時間外手当 (1施設あたり平均総額)	1か月当たりの非常勤介護職員の給与支払額 (1施設あたり平均総額)	1か月当たりの介護助手の給与支払額 (1施設あたり平均総額)	合計
介護助手導入前	155,312	1,013,758	—	1,169,070
介護助手導入後	156,767	1,005,327	379,167	1,541,260
削減額(導入後-導入前)	1,455	-8,431		372,190

図表 VIII-128 介護助手導入後の施設全体の削減割合(施設別)【再掲】



■ 介護助手導入5年未満 17 施設

■ 介護助手導入5年以上 5施設

IX. 実証結果:令和 4 年度提案手法の更なる検証

1. 実証概要

(1) 実証目的

令和4年度「介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業」において「介護事業者等からの提案手法による生産性向上の取組に関する実証」を実施した。当該実証と同様にテクノロジーの導入、介護職員の業務の整理等の取組について実証を行い、特に介護サービスの質の維持・向上、効率的な人員配置の実現等の観点の評価検討に資するデータを整備することを目的とした。

(2) 実証施設の募集

ア. 募集の方法

一般社団法人全国介護付きホーム協会において、本実証に係る募集を掲載した。その上で、専用の受付を設け、参画を募った。加えて、一般社団法人全国介護事業者連盟において、参加意向のある施設を募集した。

図表 IX-1 募集ページ(抜粋)

2023年5月29日 お知らせ

(行政情報) 「介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業」実証協力施設募集のご案内

厚生労働省および委託先の三菱総合研究所が実施している「介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業」につきまして、会員法人・施設への周知の依頼を厚生労働省から受けております。

つきましては、添付PDFをご参考のうえ、本実証へのご協力・参画を検討ください。

■実証への参画方法

本事業にご賛同の上、実証にご協力頂ける施設におかれましては、以下情報を記載の上、事務局となる三菱総合研究所のメールアドレス【r5_kaigorobo_tokutei@ml.mri.co.jp】までご連絡ください。

- ・法人名
- ・施設名
- ・担当者
- ・連絡先：電話番号
- ・連絡先：メールアドレス

イ. 実証対象の法人・施設

募集を受け付け、以下の3法人5施設を実証対象とした。

No	法人名	施設名	施設種別
1	株式会社チャーム・ケア・コーポレーション	チャームスイート宝塚売布	特定施設入居者生活介護 有料老人ホーム
2	株式会社チャーム・ケア・コーポレーション	チャーム四條畷	特定施設入居者生活介護 有料老人ホーム
3	ALSOK 介護株式会社	介護付有料老人ホーム アミカの郷川口	特定施設入居者生活介護 有料老人ホーム
4	ALSOK 介護株式会社	介護付有料老人ホームすこや家・北新横浜	特定施設入居者生活介護 有料老人ホーム
5	株式会社ウチヤマホールディングス	介護付有料老人ホームさわやか宗像館	特定施設入居者生活介護 有料老人ホーム

(3) 実証の実施期間

採択された3法人とも、採択日より、令和5年10月までに実証を終了した。

(4) 実証方法

調査対象となった3法人について、事前、事後調査時点における人員配置および業務時間の変化等に関して、調査を行った。

ア. 実証調査の概要

テクノロジーや介護助手の導入による現場の介護プロセスを変更することで介護の「品質」を維持し介護職員への負担を増大させずに生産性を向上することを目的とした。

また実証の実施時期は以下の通りである。

図表 IX-2 実証の実施時期

調査	時期
事前調査	令和5年7月上旬
事後調査	令和5年8月下旬～9月下旬
ヒアリング調査	令和5年10月中旬

イ. 実証機器

以下の実証機器を用い実証を行った。

図表 IX-3 実証の開始前から導入していた機器(株式会社チャーム・ケア・コーポレーション)

施設名	区分	機器名
宝塚売布	見守り	ライフリズムナビ+Dr
	コミュニケーション	LOVOT
	インカム	buddycom
	業務管理	業務スケジュール管理システム KitFit シルバーランド
	業務管理	記録システム KitFit シルバーランド
	体位交換	体位交換器
	アセスメント	ポータブルエコー
四条畷	インカム	buddycom
	業務管理	業務スケジュール管理システム KitFit シルバーランド
	業務管理	記録システム KitFit シルバーランド

図表 IX-4 実証後に導入した機器(株式会社チャーム・ケア・コーポレーション)

施設名	区分	機器名
宝塚売布	食事支援	配膳ロボット
	アセスメント	車椅子体重計
	その他	速乾ドライヤー
四条畷	見守り	眠りスキャン
	食事支援	配膳ロボット
	体位交換	体位変換器
	アセスメント	車椅子体重計
	アセスメント	ポータブルエコー
	その他	速乾ドライヤー

図表 IX-5 実証の開始前から導入していた機器(ALSOK 介護株式会社)

施設名	区分	機器名
アミカの郷 川口	見守り	眠リスキャン
	インカム	インカム
	入浴支援	マイクロファインバブル発生装置(サイエンス社)
	体位交換	自動体位交換器 ラグーナ
	業務管理	ブルーオーシャンノート
すこや家・ 北新横浜	見守り	眠リスキャン
	その他	服薬支援機器(服やっくん)
	その他	速乾ドライヤー(SALONIA)
	業務管理	ブルーオーシャンノート

図表 IX-6 実証後に導入した機器(ALSOK 介護株式会社)

施設名	区分	機器名
アミカの郷 川口	見守り	眠リスキャン
	入浴支援	マイクロファインバブル発生装置(ピュアット)
	移乗支援機器	アシストスーツ(マッスルスーツ)
	その他	服薬支援機器(服やっくん)
	食事支援	とろみサーバー
	排泄支援	多機能排泄カート
	アセスメント	自動体重測定器
	その他	速乾ドライヤー(SALONIA)
	業務管理	スマートフォン
	業務管理	チャットツール(LineWorks)
	体位交換	自動体位交換器(ラグーナ)
すこや家・ 北新横浜	食事支援	温冷カート
	入浴支援	マイクロファインバブル発生装置(ピュアット)
	その他	速乾ドライヤー(SALONIA)
	アセスメント	自動体重測定器
	業務管理	スマートフォン
	業務管理	チャットツール(LineWorks)
	体位交換	自動体位交換器(オスカー)

図表 IX-7 実証の開始前から導入していた機器(株式会社ウチャマホールディングス)

施設名	区分	機器名
さわやか宗 像館	見守り	睡眠センサー(アンシエル)(一部)
	業務管理	記録システム(FonLog)

図表 IX-8 実証後に導入した機器(株式会社ウチャマホールディングス)

施設名	区分	機器名
さわやか宗 像館	見守り	睡眠センサー(アンシエル)(全床)
	体位交換	自動体位交換器(ラグーナ)
	その他	速乾ドライヤー(ダイソン スーパーソニックシャイン)
	その他	スティック型掃除機(ダイソン CYCLONE V10)
	その他	回転モップ(neo プラス)

ウ. オペレーションの変更

以下の通り、オペレーション変更を実施した。

図表 IX-9 取組内容(株式会社チャーム・ケア・コーポレーション)

通常の実業・課題	見守り機器導入後のオペレーション	オペレーション変更の目的・目指すところ
<ul style="list-style-type: none"> ・複数業務を行う中で、施設内の職員の移動導線や人員体制の適正化において改善ができる可能性がある ・職員間での情報共有の方法について課題あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の洗い出しを通じ、介護助手、清掃等業務のアウトソーシングを活用し、間接業務にかかる負担の軽減 ・主に見守り機器やインカムの導入を行い、効果的な直接介護・ケア提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・マルチタスクの業務の中で、介護助手やアウトソーシング、テクノロジーの活用により、タスクシフトを実現し、直接介護・間接業務の効果的な整理と業務の再分配の実現(職種に応じた最適な業務実現)

図表 IX-10 取組内容(ALSOK 介護株式会社)

通常の実業・課題	見守り機器導入後のオペレーション	オペレーション変更の目的・目指すところ
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の業務に加えて、施設全体の人員配置やオペレーションについて更なる効率化が可能な状態である ・職員間の情報共有や入浴業務について課題あり 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月より業務改善委員会を立ち上げ、実証状況やオペレーション変更等の状況を把握 ・実証前と実証後の比較として、4月～9月に人員配置を確認 ・業務の洗い出しを通じたオペレーション変更及びテクノロジーと介護助手の活用 ・入浴支援や排泄支援、介護業務支援機器等のテクノロジーを導入し、間接介護の改善を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・テクノロジーや介護補助者の活用およびオペレーションの見直しを行うことで、介護職員の業務負担軽減を図ると共に、介護職員が利用者様に費やす時間を増加 ・上記取り組みにより、介護職員の余裕時間を作ることで、ケアプランやサービスの見直しを行いサービス品質を向上

図表 IX-11 取組内容(株式会社ウチヤマホールディングス)

通常の実業・課題	見守り機器導入後のオペレーション	オペレーション変更の目的・目指すところ
<ul style="list-style-type: none"> ・施設内各階での繁忙期、繁閑の差が存在しており、全体最適化が可能な状態である ・職員間での情報共有方法について課題あり ・職員間で業務スキルが一定ではない 	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティブシニアや介護助手の雇用を行い、間接業務等に対応 ・見守りセンサー、体位交換器、インカム等のテクノロジーを導入し間接業務の効率化を実施 ・検証施設内で、取組内容の共有等を目的としたワーキンググループを設立予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体業務の分業による、個別職員の負担軽減と質の向上 ・ケア実績の可視化による個々のサービス量等の共有(特に夜間帯での排泄ケアの最適化を検討)により夜勤業務の負担軽減及び利用者の夜間良眠ケア向上を実現 ・テクノロジーの活用によりエビデンスに基づいたケアを実現

エ. 調査項目

調査項目として、タイムスタディ調査及び職員向けアンケート調査、利用者向けアンケート調査、ヒアリング調査を行った。

① タイムスタディ調査

タイムスタディ調査の調査項目では、「A.直接介護(小分類 5 つ)」「B.間接業務(小分類 3 つ)」「C. 休憩・待機・仮眠」「D. その他、未記入」の 4 分類で整理し、計24項目を用意した。

図表 IX-12 タイムスタディ調査 項目

NO	分類	Sub-NO	項目
A	直接介護(※1)	1	移動・移乗・体位交換
		2	排泄介助・支援
		3	入浴・整容・更衣
		4	利用者とのコミュニケーション
		5	日常生活自立支援(※2)
		6	行動上の問題への対応(※3)
		7	食事支援
		8	機能訓練・リハビリテーション・医療的処置
		9	その他の直接介護
B	間接業務	10	巡回・移動
		11	記録・文書作成・連絡調整等(※4)
		12	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
		13	見守り機器の使用・確認
		14	介護ロボット・ICT 機器の準備・調整・片付け(※5)
		15	他の職員に対する指導・教育(※6)
		16	食事・おやつ・配膳・下膳等
		17	入浴業務の準備等
		18	リネン交換・ベッドメイク
		19	居室清掃・片付け
		20	消毒などの感染症対応
		21	その他の間接業務(※7)
C	休憩	22	休憩・待機・仮眠
D	その他	23	その他
E	余裕時間	24	余裕時間(突発でのケアや対応ができる状態)

※1 見守りによる介助を含む

※2 入眠起床支援、訴えの把握、日常生活の支援

※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等

※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、片付け作業等

※6 ケアの内容や方法に関する指導、OJT 等

※7 レクリエーションの準備等

② 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、機器導入やオペレーション変更を行う前の事前、機器導入やオペレーション変更を実施した後の事後の 2 種類の調査票で調査を行った。調査票は、XI 参考資料に示す。

③ 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査では、機器導入やオペレーション変更を行う前の事前、機器導入やオペレーション変更を実施した後の事後の 2 種類の調査票で調査を行った。調査票は、XI 参考資料に示す。

④ ヒアリング調査

上記調査終了後、ヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査では、対象施設の職員に対し調査を行った。

(5) 実証方法:共通 人員配置、業務時間に係る調査

調査対象となった 3 法人について、事前、事後調査時点における人員配置および業務時間の変化に関して、調査を行った。

2. 実証結果(3 法人 5 施設)

(1) 利用者・職員概要

ア. 利用者概要

図表 IX-13 利用者概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
特定施設	人数(人)	70	259	10	339
入居者生活介護	割合	21%	76%	3%	100%

図表 IX-14 利用者概要:年齢

		70歳未満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳未満	95歳以上	無回答	合計
特定施設	人数(人)	7	4	13	47	82	104	79	3	339
入居者生活介護	割合	2%	1%	4%	14%	24%	31%	23%	1%	100%

図表 IX-15 利用者概要:要介護

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支 援	その他(区 分申請中等)	無回答	合計
特定施設	人数(人)	97	59	64	50	27	29	8	5	339
入居者生活介護	割合	29%	17%	19%	15%	8%	9%	2%	1%	100%

イ. 職員概要

図表 IX-16 職員概要:性別

		男性	女性	無回答	合計
特定施設	人数(人)	39	74	6	119
入居者生活介護	割合	33%	62%	5%	100%

図表 IX-17 職員概要:年齢

		20歳未 満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代 ～	無回答	合計
特定施設	人数(人)	1	17	22	23	33	17	2	4	119
入居者生活介護	割合	1%	14%	18%	19%	28%	14%	2%	3%	100%

図表 IX-18 職員概要:職種

		介護福 社士	介護職 員(介護福 社士以外)	看護職 員	リハビリ 職(機能訓 練指導員 を含む)	相談員	事務職 員	その他	無回答	合計
特定施設	人数(人)	47	60	9	0	0	0	3	0	119
入居者生活介護	割合	39%	50%	8%	0%	0%	0%	3%	0%	100%

図表 IX-19 職員概要:役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
特定施設 入居者生活介護	人数(人)	0	14	78	10	17	119
	割合	0%	12%	66%	8%	14%	100%

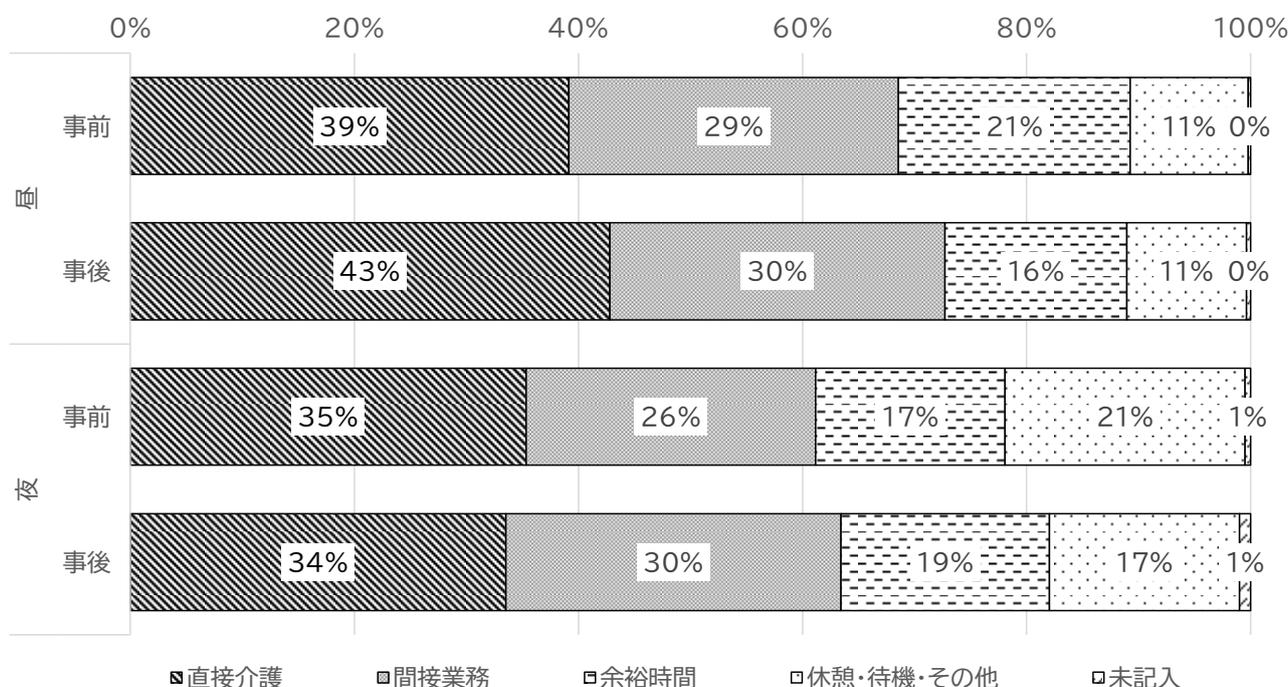
(2) タイムスタディ調査結果

実証施設全体を対象に事前と事後のタイムスタディ調査結果を比較すると、全体では直接介護が事前で38%、事後で41%、間接業務では事前が29%、事後が30%となった。

図表 IX-20 タイムスタディ調査結果

		直接介護	間接業務	余裕時間	休憩・待機・その他	未記入
昼	事前	39%	29%	21%	11%	0%
	事後	43%	30%	16%	11%	0%
夜	事前	35%	26%	17%	21%	1%
	事後	34%	30%	19%	17%	1%
全体	事前	38%	29%	20%	12%	0%
	事後	41%	30%	17%	12%	0%

事前 n=569、事後 n=544



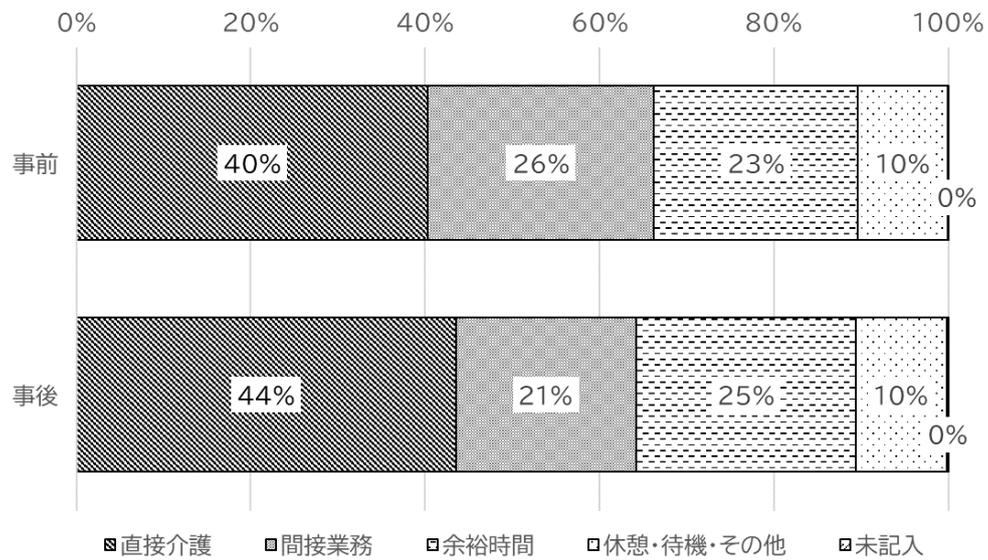
事前 n=569、事後 n=544

また、令和4年度「介護ロボット等の効果測定事業一式」¹にて示された SOMPO ケア株式会社の12施設におけるタイムスタディ調査の結果を用い、今年度の結果と合わせ、事前事後での全体の比較を行った。なお、施設において、未記入時間を含めて換算した「直接介護」「間接業務」「余裕時間」「休憩・待機・その他」の時間に関し、事前調査と事後調査の2群について、Wilcoxon の符号付順位和検定を行うと、「直接介護」「間接業務」「休憩・待機・その他」では $p < 0.05$ となり、有意差があった。

¹ 令和4年度「介護ロボット等の効果測定事業一式」、厚生労働省、<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209634.html>、閲覧日 2024年1月23日

図表 IX-21 タイムスタディ調査結果(SOMPO ケア株式会社の 12 施設を含めた結果)

		直接介護	間接業務	余裕時間	休憩・待機・その他	未記入
全体	事前	40%	26%	23%	10%	0%
	事後	44%	21%	25%	10%	0%



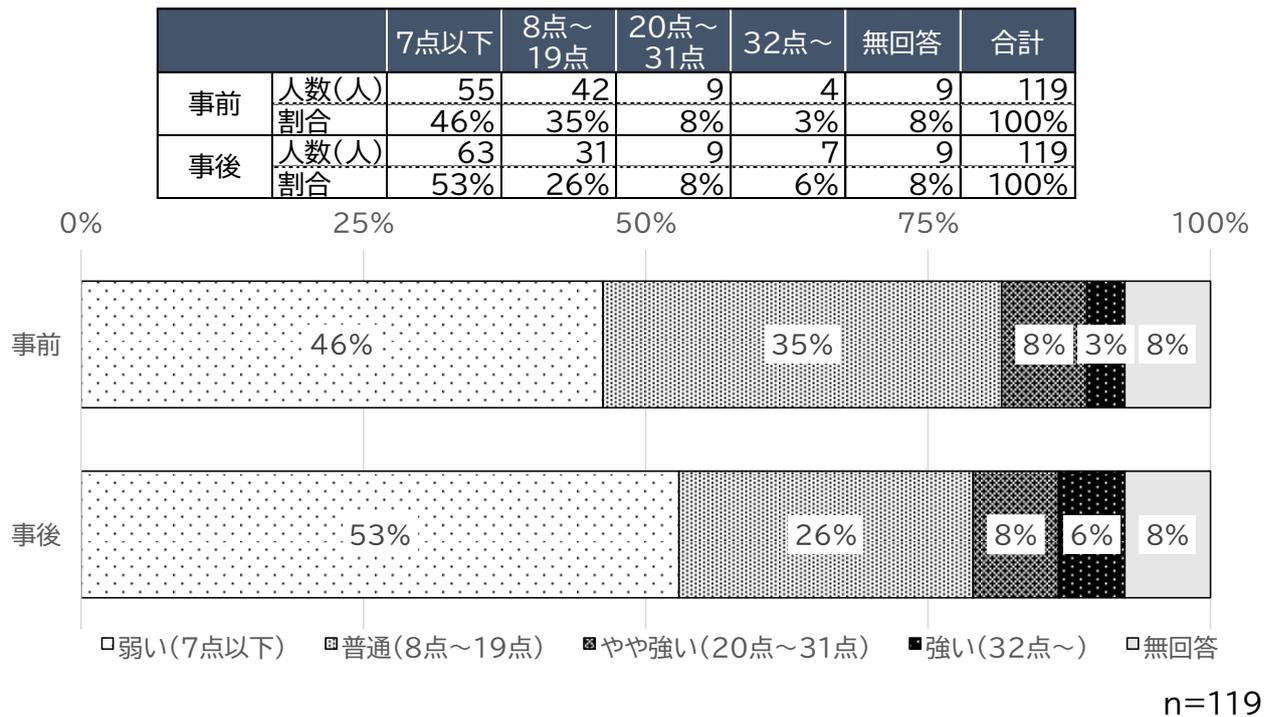
事前 n=12、事後 n=12(事前、事後とも施設単位でのタイムスタディ調査の結果を用いて作成)

(3) 職員向けアンケート調査結果

ア. 心理的負担評価

事前調査と事後調査で、心理的ストレス反応測定尺度合計点を比較すると、「弱い(7点以下)」が事前の46%から事後の53%に増加した。

図表 IX-22 心理的負担評価

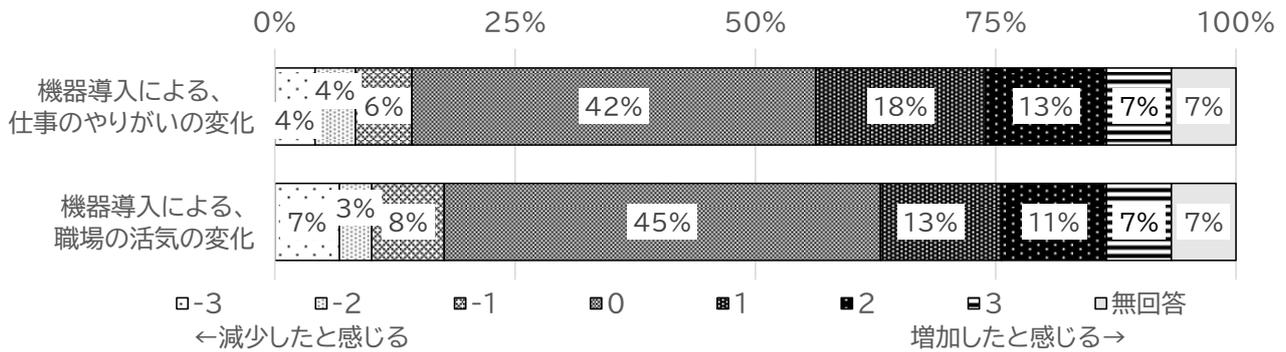


イ. 機器導入によるモチベーションの変化

事後調査における機器導入による職員のモチベーションの変化は、「仕事のやりがいの変化」では「増加したと感じる」(1~3)が38%で、「職場の活気の変化」では「増加したと感じる」(1~3)が31%であった。

図表 IX-23 機器導入によるモチベーションの変化

		←減少したと感じる				増加したと感じる→				無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
機器導入による、仕事のやりがいの変化	人数(人)	5	5	7	50	21	15	8	8	119	
	割合	4%	4%	6%	42%	18%	13%	7%	7%	100%	
機器導入による、職場の活気の変化	人数(人)	8	4	9	54	15	13	8	8	119	
	割合	7%	3%	8%	45%	13%	11%	7%	7%	100%	



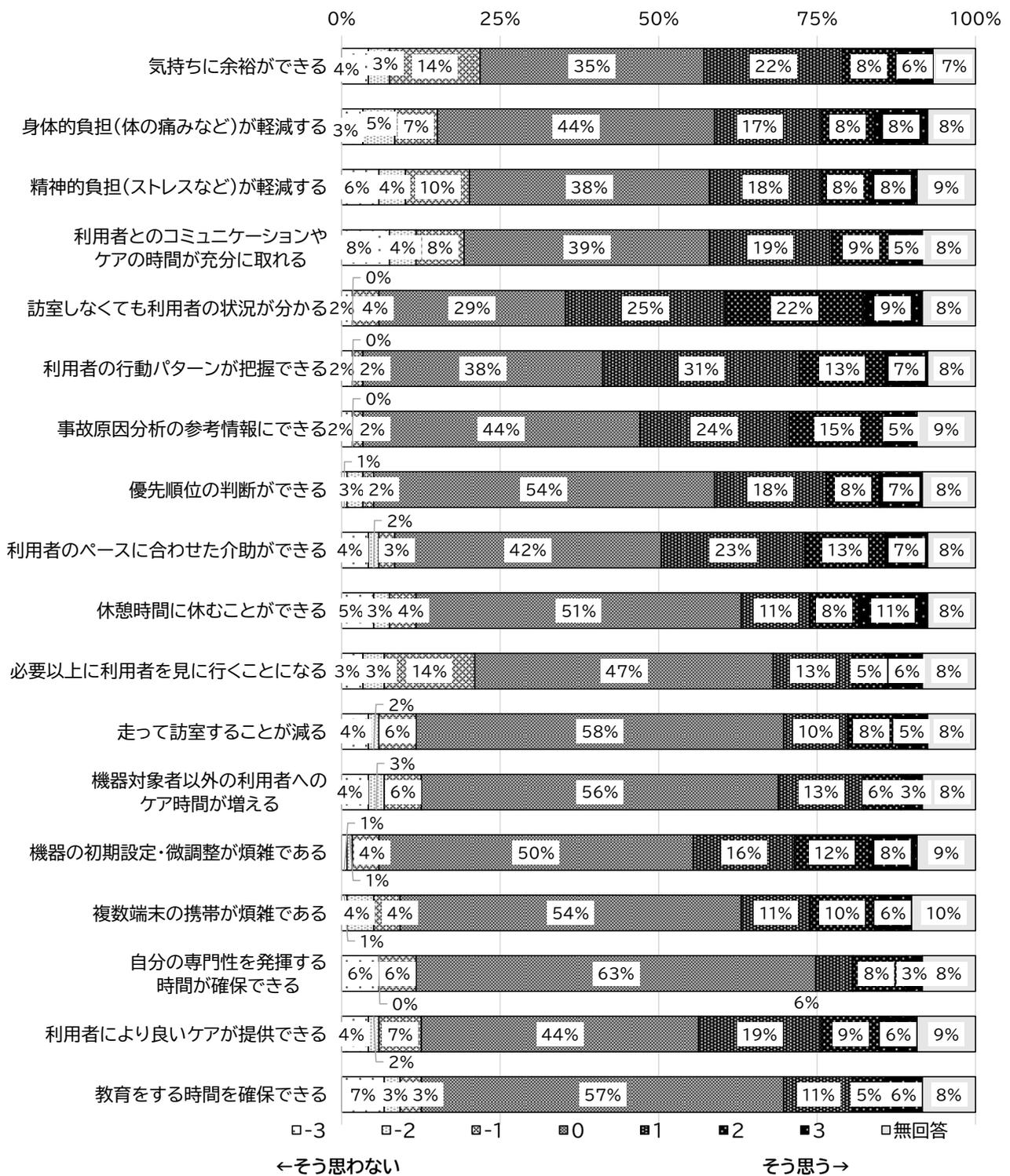
n=119

ウ. 機器導入による職員や施設業務の変化

事後調査における機器導入による職員や施設業務の変化は、「訪室しなくても利用者の状況が分かる」は「そう思う」(1~3)が56%、「利用者の行動パターンが把握できる」は「そう思う」(1~3)が51%であった。

図表 IX-24 機器導入による職員や施設業務の変化

		←そう思わない		変化なし			→そう思う→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
気持ちに余裕ができる	人数(人)	5	4	17	42	26	10	7	8	119	
	割合	4%	3%	14%	35%	22%	8%	6%	7%	100%	
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	人数(人)	4	6	8	52	20	10	10	9	119	
	割合	3%	5%	7%	44%	17%	8%	8%	8%	100%	
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	人数(人)	7	5	12	45	21	9	9	11	119	
	割合	6%	4%	10%	38%	18%	8%	8%	9%	100%	
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	人数(人)	9	5	9	46	23	11	6	10	119	
	割合	8%	4%	8%	39%	19%	9%	5%	8%	100%	
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	人数(人)	2	0	5	35	30	26	11	10	119	
	割合	2%	0%	4%	29%	25%	22%	9%	8%	100%	
利用者の行動パターンが把握できる	人数(人)	2	0	2	45	37	16	8	9	119	
	割合	2%	0%	2%	38%	31%	13%	7%	8%	100%	
事故原因分析の参考情報にできる	人数(人)	2	0	2	52	28	18	6	11	119	
	割合	2%	0%	2%	44%	24%	15%	5%	9%	100%	
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	人数(人)	1	3	2	64	21	10	8	10	119	
	割合	1%	3%	2%	54%	18%	8%	7%	8%	100%	
利用者のペースに合わせた介助ができる	人数(人)	5	2	3	50	27	15	8	9	119	
	割合	4%	2%	3%	42%	23%	13%	7%	8%	100%	
休憩時間に休むことができる	人数(人)	6	3	5	61	13	9	13	9	119	
	割合	5%	3%	4%	51%	11%	8%	11%	8%	100%	
必要以上に利用者を見に行くことになる	人数(人)	4	4	17	56	15	6	7	10	119	
	割合	3%	3%	14%	47%	13%	5%	6%	8%	100%	
走って訪室することが減る	人数(人)	5	2	7	69	12	9	6	9	119	
	割合	4%	2%	6%	58%	10%	8%	5%	8%	100%	
機器対象者以外の利用者へのケア時間が	人数(人)	5	3	7	67	16	7	4	10	119	
	割合	4%	3%	6%	56%	13%	6%	3%	8%	100%	
機器の初期設定・微調整が煩雑である	人数(人)	1	1	5	59	19	14	9	11	119	
	割合	1%	1%	4%	50%	16%	12%	8%	9%	100%	
複数端末の携帯が煩雑である	人数(人)	1	5	5	64	13	12	7	12	119	
	割合	1%	4%	4%	54%	11%	10%	6%	10%	100%	
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	人数(人)	7	0	7	75	7	10	3	10	119	
	割合	6%	0%	6%	63%	6%	8%	3%	8%	100%	
利用者により良いケアが提供できる	人数(人)	5	2	8	52	23	11	7	11	119	
	割合	4%	2%	7%	44%	19%	9%	6%	9%	100%	
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	人数(人)	8	3	4	68	13	6	7	10	119	
	割合	7%	3%	3%	57%	11%	5%	6%	8%	100%	



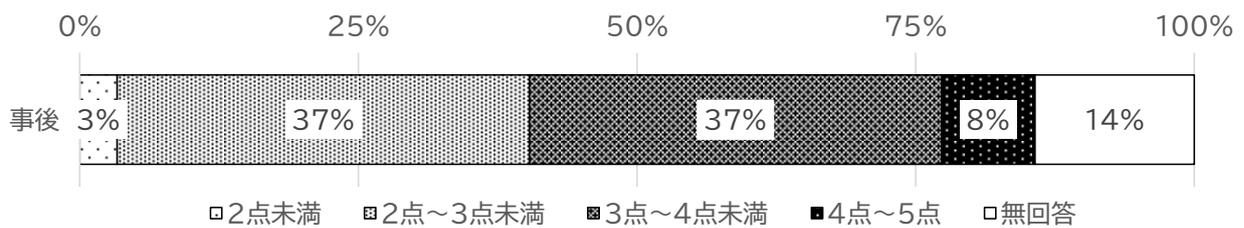
n=119

エ. 導入機器の満足度評価

事後調査における導入機器の満足度評価は、「2点～3点未満」、「3点～4点未満」が37%と最も多かった。

図表 IX-25 導入機器の満足度評価

		2点未満	2点～3点未満	3点～4点未満	4点～5点	無回答	合計
事後	人数(人)	4	44	44	10	17	119
	割合	3%	37%	37%	8%	14%	100%



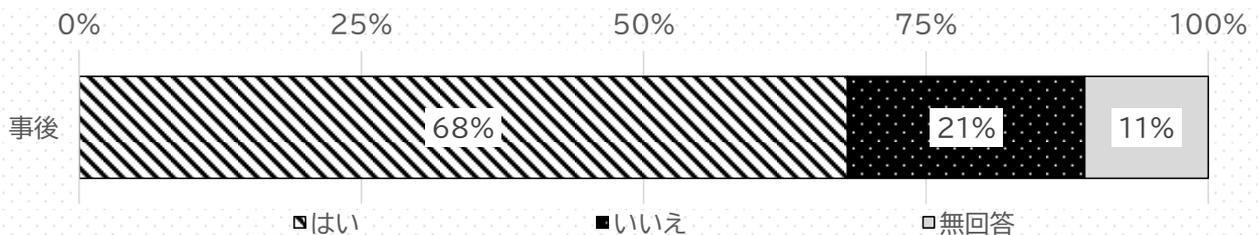
n=119

オ. 機器の継続利用意向

事後調査における機器の継続利用意向は、「はい」と回答した職員は68%であった。

図表 IX-26 機器の継続利用意向

		はい	いいえ	無回答	合計
事後	人数(人)	81	25	13	119
	割合	68%	21%	11%	100%



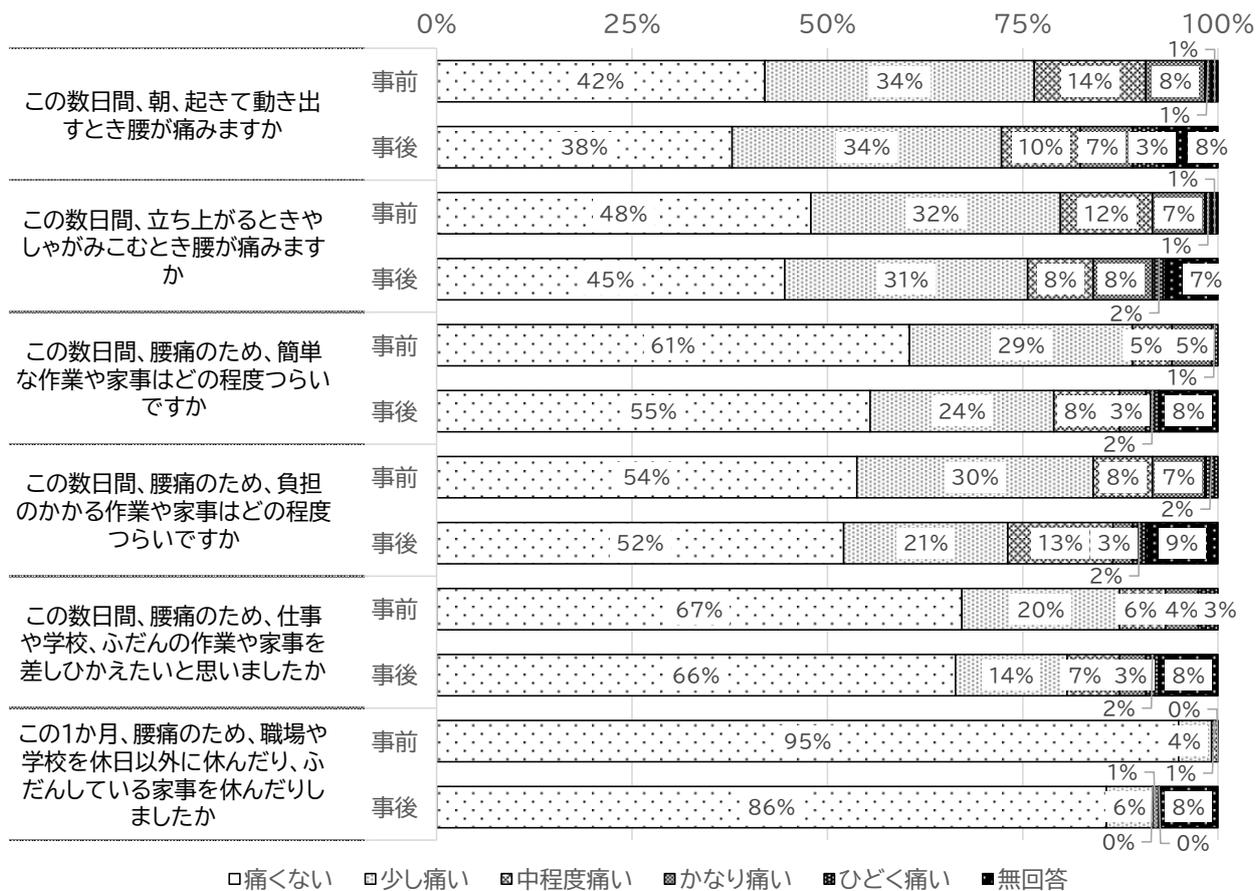
n=119

カ. 腰の状態について

事前調査と事後調査の腰の状態について比較すると、すべての項目で、事後において大きな変化は見られなかった。

図表 IX-27 腰の状態の変化

			痛くない	少し痛い	中程度痛い	かなり痛い	ひどく痛い	無回答	合計
この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	事前	人数(人)	50	41	17	9	1	1	119
		割合	42%	34%	14%	8%	1%	1%	100%
	事後	人数(人)	45	41	12	8	4	9	119
		割合	38%	34%	10%	7%	3%	8%	100%
この数日間、立ち上がる時やしゃがみこむとき腰が痛みますか	事前	人数(人)	57	38	14	8	1	1	119
		割合	48%	32%	12%	7%	1%	1%	100%
	事後	人数(人)	53	37	10	9	2	8	119
		割合	45%	31%	8%	8%	2%	7%	100%
この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	事前	人数(人)	72	34	6	6	1	0	119
		割合	61%	29%	5%	5%	1%	0%	100%
	事後	人数(人)	66	28	10	4	2	9	119
		割合	55%	24%	8%	3%	2%	8%	100%
この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	事前	人数(人)	64	36	9	8	2	0	119
		割合	54%	30%	8%	7%	2%	0%	100%
	事後	人数(人)	62	25	16	3	2	11	119
		割合	52%	21%	13%	3%	2%	9%	100%
この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いませんか	事前	人数(人)	80	24	7	5	3	0	119
		割合	67%	20%	6%	4%	3%	0%	100%
	事後	人数(人)	79	17	8	4	2	9	119
		割合	66%	14%	7%	3%	2%	8%	100%
この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	事前	人数(人)	113	5	1	0	0	0	119
		割合	95%	4%	1%	0%	0%	0%	100%
	事後	人数(人)	102	7	0	1	0	9	119
		割合	86%	6%	0%	1%	0%	8%	100%



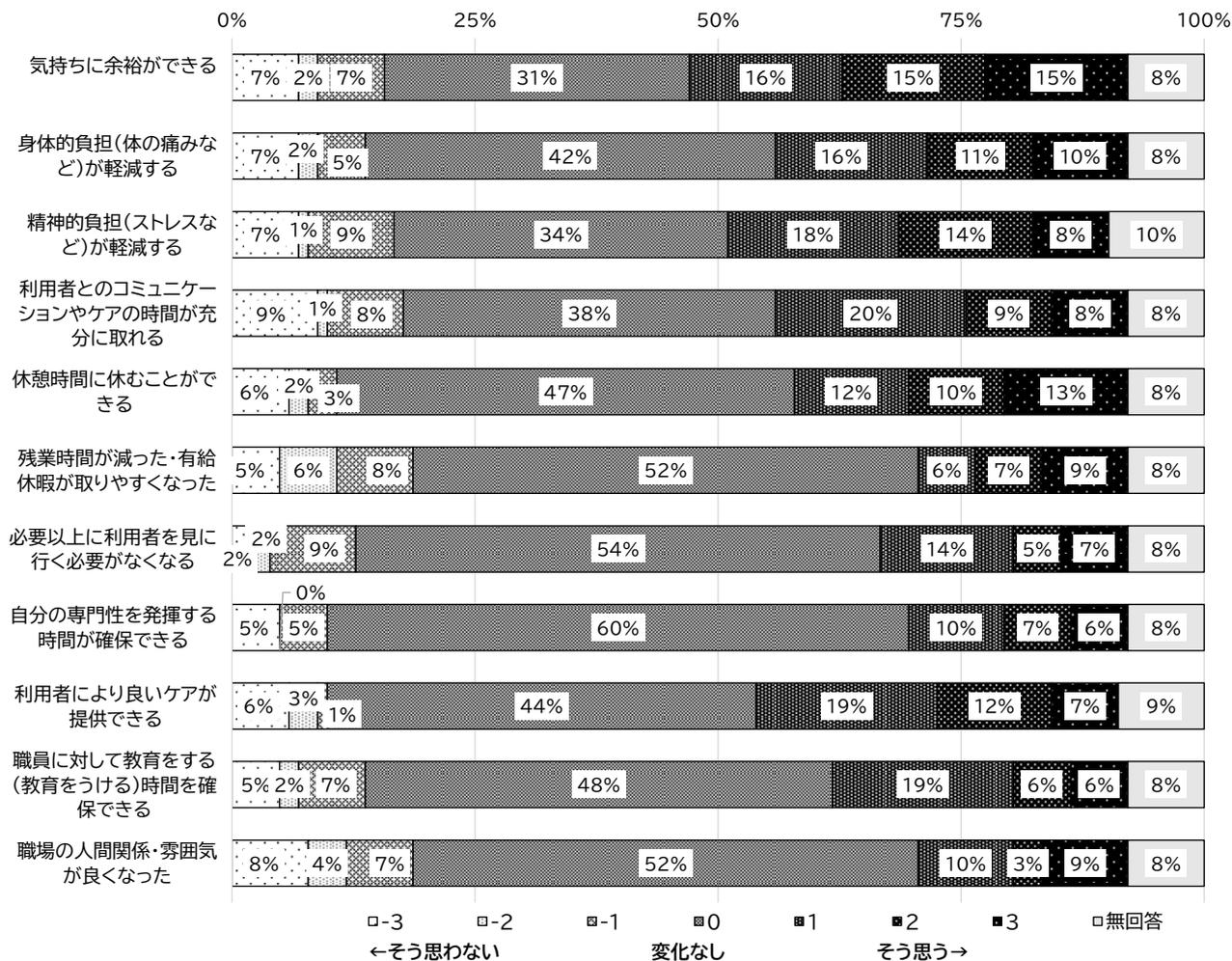
n=119

キ. 介護助手導入による職員や施設業務の変化

事後調査における介護助手導入による職員や施設業務の変化は、「気持ちに余裕ができる」で、「思う」(1～3)が46%であった。

図表 IX-28 介護助手導入による職員や施設業務の変化

		←そう思わない		変化なし				→思う→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
気持ちに余裕ができる☑	人数(人)	7	2	7	32	16	15	15	8	102	
	割合	7%	2%	7%	31%	16%	15%	15%	8%	100%	
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	人数(人)	7	2	5	43	16	11	10	8	102	
	割合	7%	2%	5%	42%	16%	11%	10%	8%	100%	
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	人数(人)	7	1	9	35	18	14	8	10	102	
	割合	7%	1%	9%	34%	18%	14%	8%	10%	100%	
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	人数(人)	9	1	8	39	20	9	8	8	102	
	割合	9%	1%	8%	38%	20%	9%	8%	8%	100%	
休憩時間に休むことができる	人数(人)	6	2	3	48	12	10	13	8	102	
	割合	6%	2%	3%	47%	12%	10%	13%	8%	100%	
残業時間が減った・有給休暇が取りやすくなった	人数(人)	5	6	8	53	6	7	9	8	102	
	割合	5%	6%	8%	52%	6%	7%	9%	8%	100%	
必要以上に利用者を見に行く必要がなくなる	人数(人)	2	2	9	55	14	5	7	8	102	
	割合	2%	2%	9%	54%	14%	5%	7%	8%	100%	
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	人数(人)	5	0	5	61	10	7	6	8	102	
	割合	5%	0%	5%	60%	10%	7%	6%	8%	100%	
利用者により良いケアが提供できる	人数(人)	6	3	1	45	19	12	7	9	102	
	割合	6%	3%	1%	44%	19%	12%	7%	9%	100%	
職員に対して教育をする(教育をうける)時間を確保できる	人数(人)	5	2	7	49	19	6	6	8	102	
	割合	5%	2%	7%	48%	19%	6%	6%	8%	100%	
職場の人間関係・雰囲気が悪くなった	人数(人)	8	4	7	53	10	3	9	8	102	
	割合	8%	4%	7%	52%	10%	3%	9%	8%	100%	



n=102

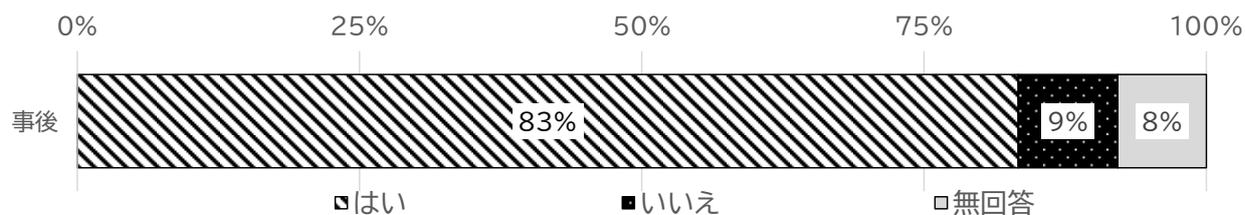
※事後調査において、介護助手を導入していない施設からの回答を除き集計

ク. 介護助手に対する継続した勤務意向

事後調査における介護助手に対する継続した勤務意向は、「はい」という回答が 83%であった。

図表 IX-29 介護助手に対する継続した勤務意向

		はい	いいえ	無回答	合計
事後	人数(人)	85	9	8	102
	割合	83%	9%	8%	100%



n=102

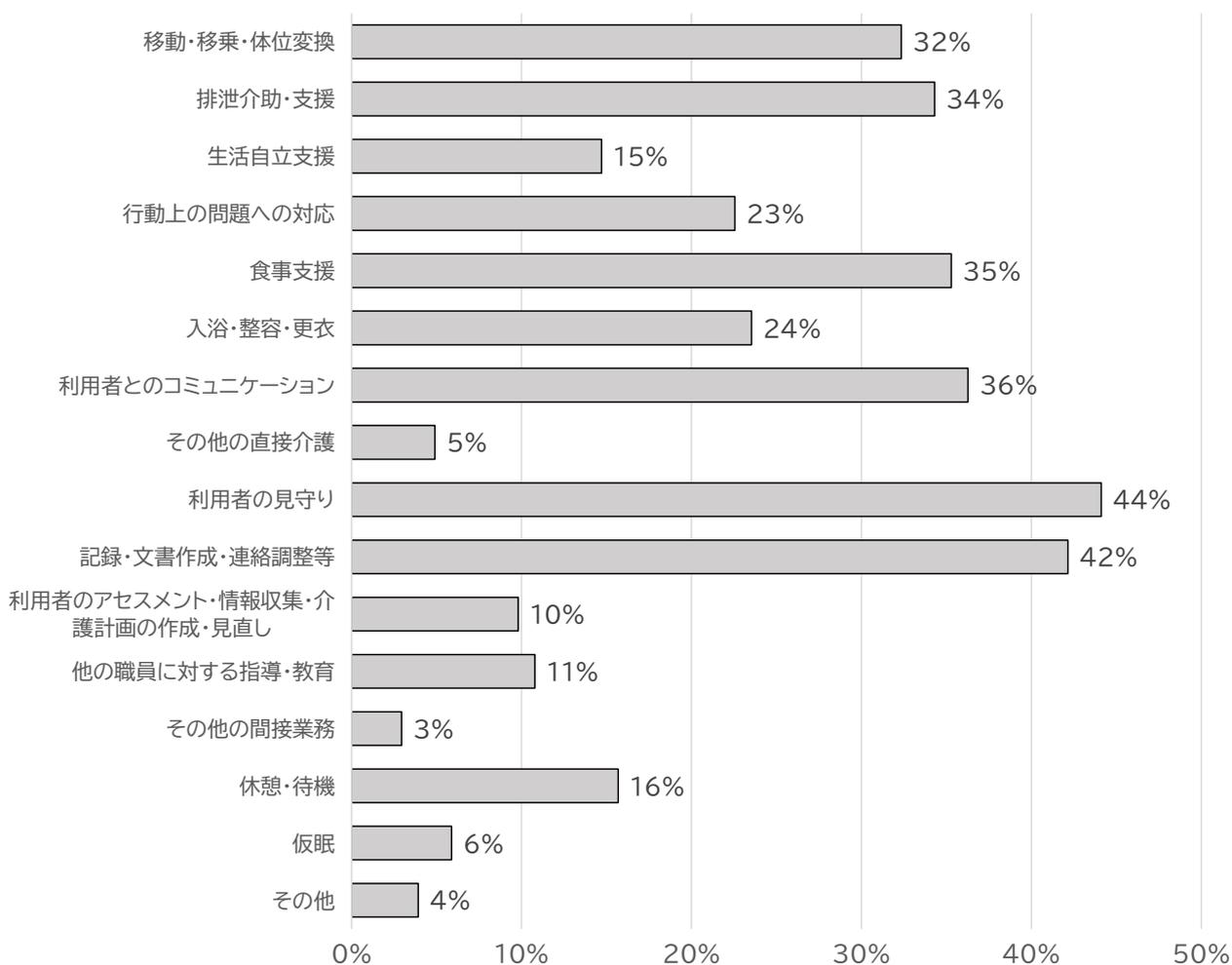
※事後調査において、介護助手を導入していない施設からの回答を除き集計

ケ. 介護助手の活用により増やすことができた時間

事後調査における介護助手の活用により増やすことができた時間は、直接介護については「利用者とのコミュニケーション」が36%で最も多かった。また、間接業務については「利用者の見守り」が44%で最も多かった。

図表 IX-30 介護助手の活用により増やすことができた時間

	直接介護								間接業務					休憩		その他	合計（回答数）
	移動・移乗・体位変換	排泄介助・支援	生活自立支援	行動上の問題への対応	食事支援	入浴・整容・更衣	利用者とのコミュニケーション	その他の直接介護	利用者の見守り	記録・文書作成・連絡調整等	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	他の職員に対する指導・教育	その他の間接業務	休憩・待機	仮眠	その他	
回答数	33	35	15	23	36	24	37	5	45	43	10	11	3	16	6	4	102
割合	32%	34%	15%	23%	35%	24%	36%	5%	44%	42%	10%	11%	3%	16%	6%	4%	100%



n=102

※事後調査において、介護助手を導入していない施設からの回答を除き集計

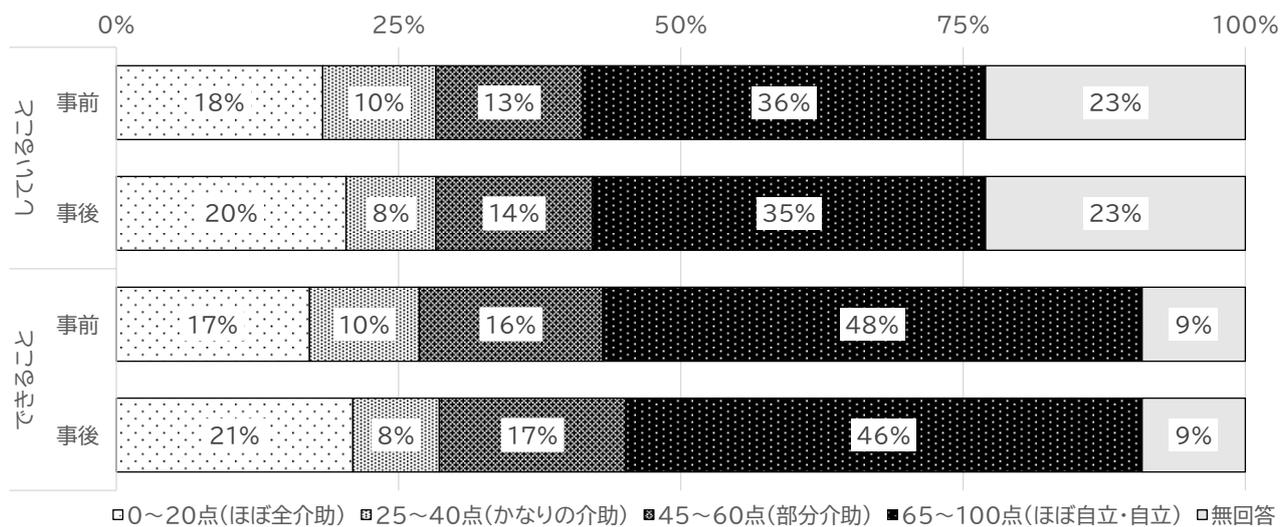
(4) 利用者向けアンケート調査結果

ア. ADLの変化

事前調査と事後調査で、利用者の日常生活動作(ADL)の変化を比較すると、各項目について大きな変化はなかった。

図表 IX-31 ADLの変化

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人)	62	34	44	121	78	339
		割合	18%	10%	13%	36%	23%	100%
	事後	人数(人)	69	27	47	118	78	339
		割合	20%	8%	14%	35%	23%	100%
できること	事前	人数(人)	58	33	55	162	31	339
		割合	17%	10%	16%	48%	9%	100%
	事後	人数(人)	71	26	56	155	31	339
		割合	21%	8%	17%	46%	9%	100%



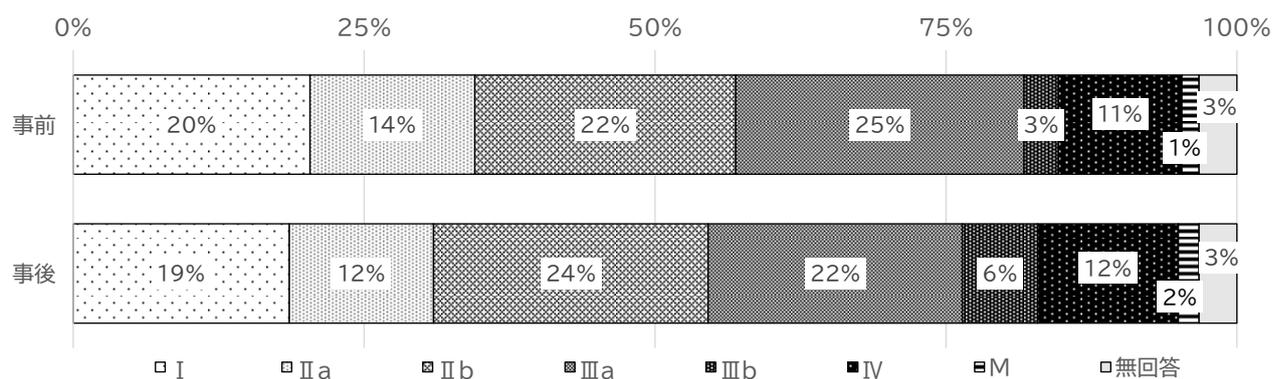
n=339

イ. 認知症高齢者の日常生活自立度

事前調査と事後調査で、認知症高齢者の日常生活自立度を比較すると、各段階の割合について大きな変化は見られなかった。

図表 IX-32 認知症高齢者の日常生活自立度

		I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答	合計
事前	人数(人)	69	48	76	84	10	36	5	11	339
	割合	20%	14%	22%	25%	3%	11%	1%	3%	100%
事後	人数(人)	63	42	80	74	22	41	6	11	339
	割合	19%	12%	24%	22%	6%	12%	2%	3%	100%



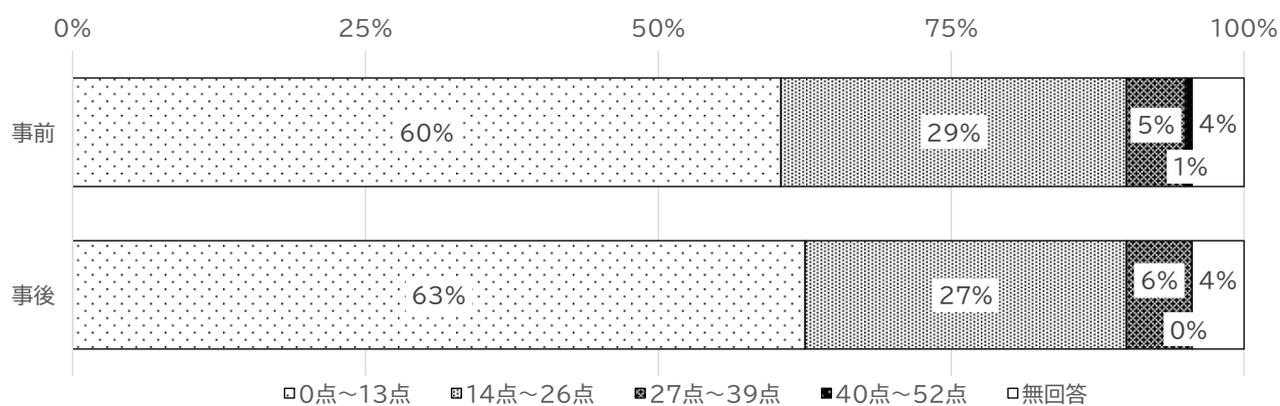
n=339

ウ. 認知症行動(DBD13)の変化

事前調査と事後調査で、認知症行動(DBD13)の変化を比較すると、各段階の割合について大きな変化は見られなかった。

図表 IX-33 認知症行動(DBD13)の変化

		0点～ 13点	14点～ 26点	27点～ 39点	40点～ 52点	無回答	合計
事前	人数(人)	205	100	17	2	15	339
	割合	60%	29%	5%	1%	4%	100%
事後	人数(人)	212	93	19	0	15	339
	割合	63%	27%	6%	0%	4%	100%



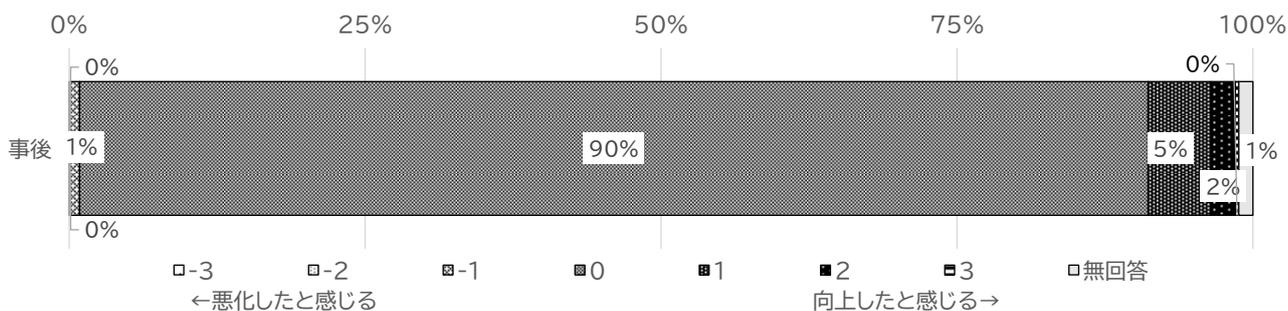
n=339

エ. 認知機能変化の総合的な評価

事後調査における認知機能変化の総合的な評価は、「向上したと感じる」(1~3)が7%増加した。

図表 IX-34 認知機能変化の総合的な評価

		←悪化したと感じる→			向上したと感じる→			無回答	合計	
		-3	-2	-1	0	1	2	3		
事後	人数(人)	0	0	3	306	18	7	1	4	339
	割合	0%	0%	1%	90%	5%	2%	0%	1%	100%



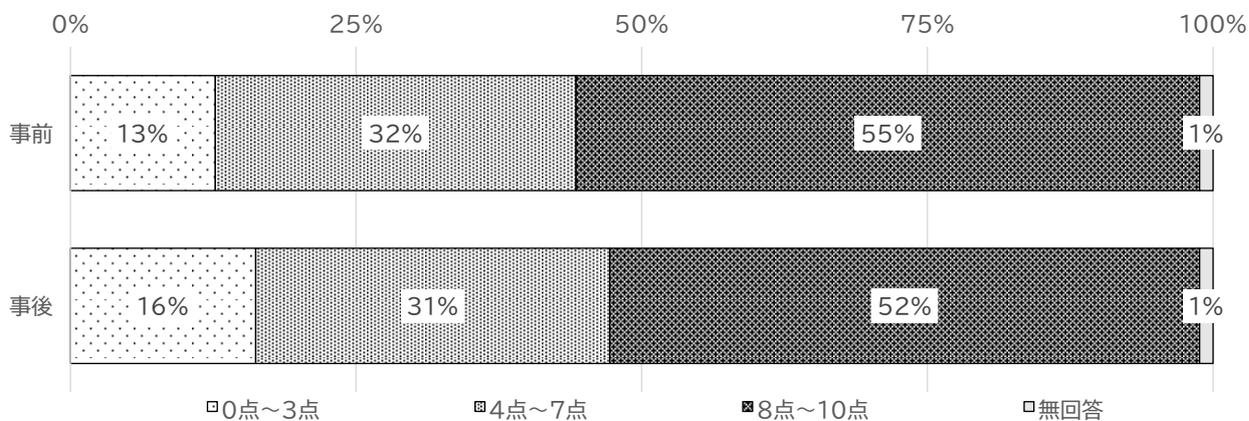
n=339

オ. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

事前調査と事後調査で、利用者の意欲(Vitality Index)の合計点数を比較すると、各段階の割合について大きな変化は見られなかった。

図表 IX-35 利用者の意欲(Vitality Index)

		0点~3点	4点~7点	8点~10点	無回答	合計
事前	人数(人)	43	107	185	4	339
	割合	13%	32%	55%	1%	100%
事後	人数(人)	55	105	175	4	339
	割合	16%	31%	52%	1%	100%



n=339

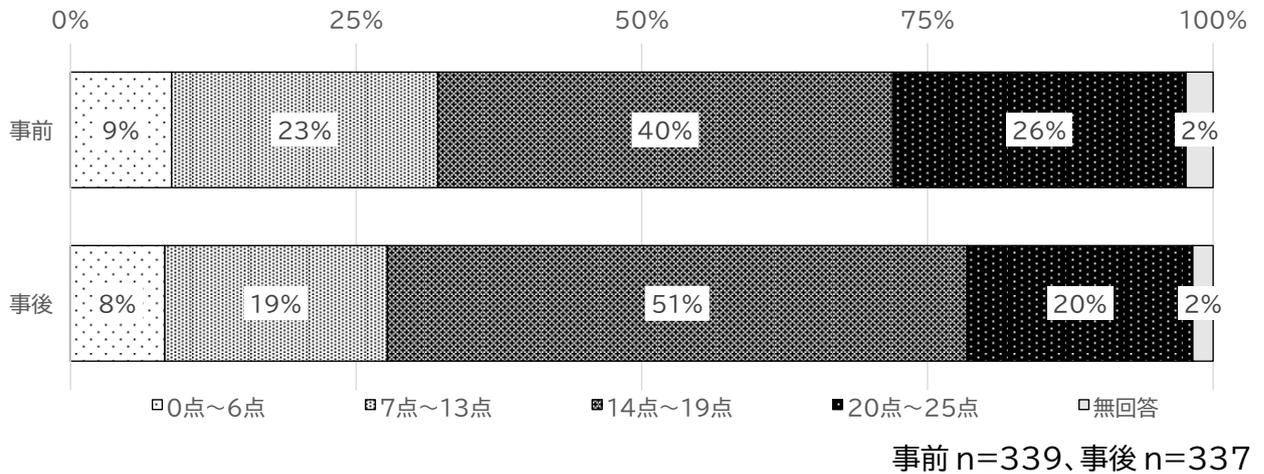
カ. QOL(WHO-5 精神的健康状態表)の変化

事前調査と事後調査で利用者のQOLの変化を比較すると、「14点～19点」が事前の40%から事後は51%に増加した。

一方、「0点～6点」が事前の9%から事後は8%に、「7点～13点」が事前の23%から事後は19%に、「20～25点」が事前の26%から事後は19%に、いずれも減少した。

図表 IX-36 QOL(WHO-5 精神的健康状態表)の変化

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
事前	人数(人)	30	79	135	87	8	339
	割合	9%	23%	40%	26%	2%	100%
事後	人数(人)	28	66	172	67	6	339
	割合	8%	19%	51%	20%	2%	100%

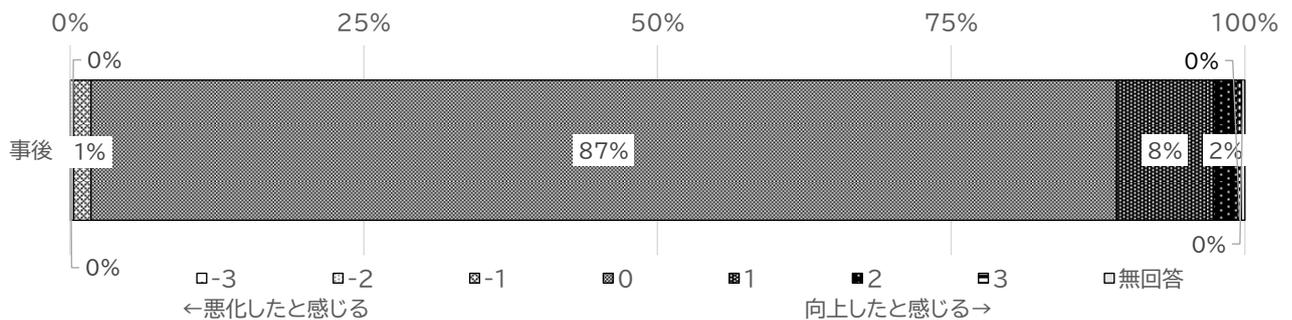


キ. QOLの総合的な評価

事後調査にて、QOLの総合的な評価を調査した。事前と比較して利用者のQOLが「向上したと感じる」(1～3)は10%で、大部分の87%が「変化なし」(0)という回答であった。

図表 IX-37 QOL(WHO-5 精神的健康状態表)の総合的な評価

		← 悪化したと感じる →							向上したと感じる →		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3				
事後	人数(人)	0	1	5	296	28	7	1			1	339
	割合	0%	0%	1%	87%	8%	2%	0%			0%	100%



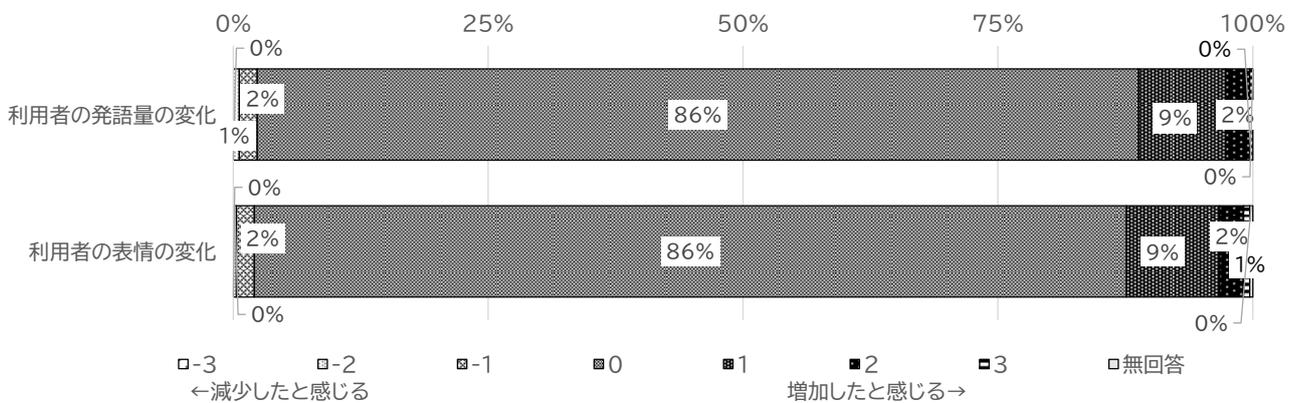
n=339

ク. 機器導入によるコミュニケーションの変化

事前調査と事後調査で、機器導入によるコミュニケーションの変化を調査した。「利用者の発語量の変化」「利用者の表情の変化」いずれも、事前と比較して「増加したと感じる」(1~3)は 11~12%で、大部分の 86%が「変化なし」(0)であった。

図表 IX-38 機器導入後におけるコミュニケーションの変化

		←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計	
		-3	-2	-1	0	1	2			3
利用者の発語量の変化	人数(人)	0	2	6	293	29	8	1	0	339
	割合	0%	1%	2%	86%	9%	2%	0%	0%	100%
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	人数(人)	0	1	6	290	31	8	2	1	339
	割合	0%	0%	2%	86%	9%	2%	1%	0%	100%



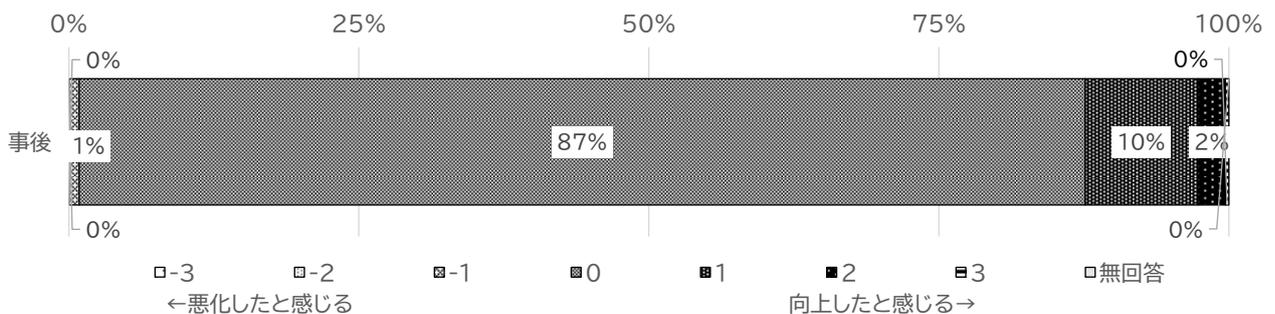
n=339

ケ. 機器導入によるコミュニケーション変化の総合的な評価

事後調査にて、機器導入によるコミュニケーション変化の総合的な評価を調査した。事前と比較して利用者の認知機能が「増加したと感じる」(1~3)が 12%で、大部分の 87%が「変化なし」(0)という回答であった。

図表 IX-39 機器導入によるコミュニケーション変化の総合的な評価

		←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計	
		-3	-2	-1	0	1	2			3
事前	人数(人)	0	0	3	294	33	8	1	0	339
	割合	0%	0%	1%	87%	10%	2%	0%	0%	100%



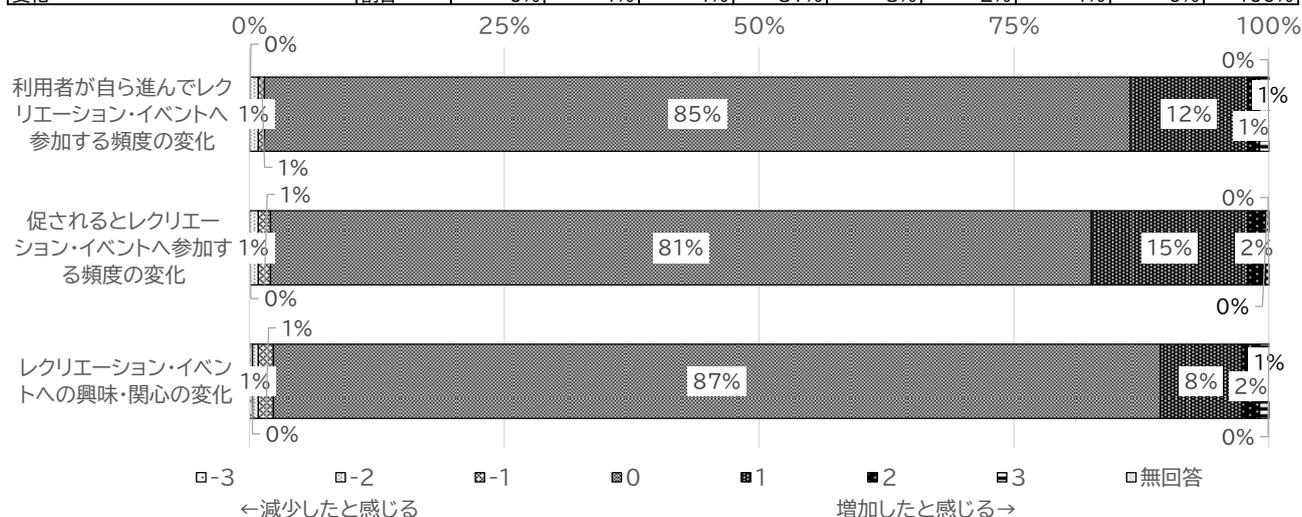
n=339

コ. 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

事後調査にて、機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化を調査した。事前と比較して「増加したと感じる」(1~3)は8%から15%程度で、大部分が「変化なし」(0)という回答であった。

図表 IX-40 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

		←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計	
		-3	-2	-1	0	1	2			3
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	人数(人)	0	3	2	288	39	4	3	0	339
	割合	0%	1%	1%	85%	12%	1%	1%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	人数(人)	0	3	4	273	52	6	1	0	339
	割合	0%	1%	1%	81%	15%	2%	0%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	人数(人)	1	2	5	295	27	6	3	0	339
	割合	0%	1%	1%	87%	8%	2%	1%	0%	100%



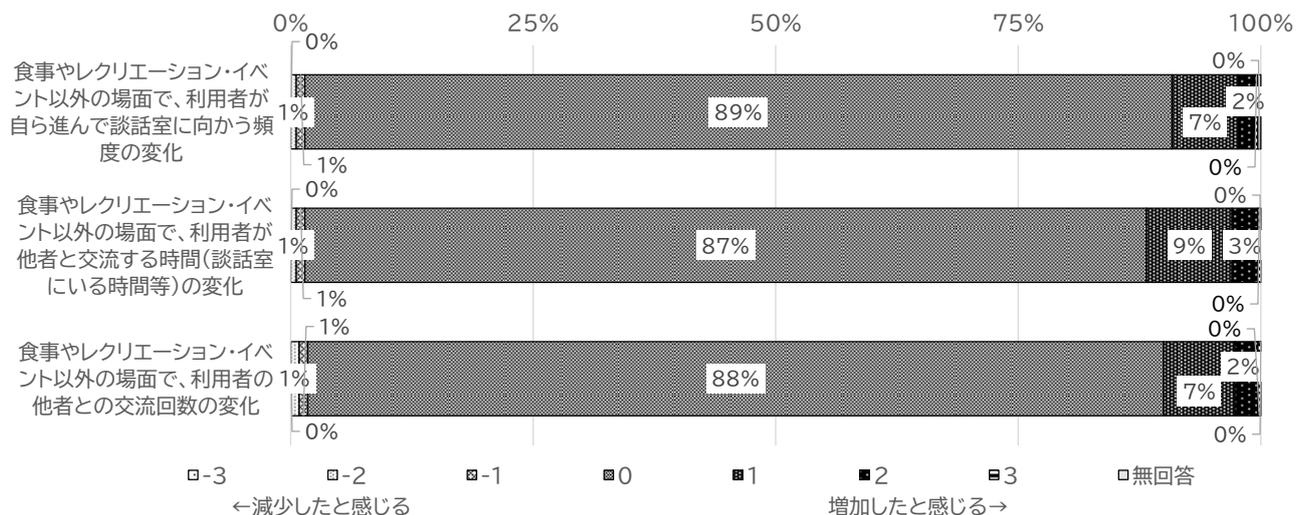
n=339

サ. 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

事後調査にて、機器導入による食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化を調査した。「増加したと感じる」(1~3)がいずれも 9~12%で、大部分が「変化なし」(0)という回答であった。

図表 IX-41 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

		←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計	
		-3	-2	-1	0	1	2			3
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	人数(人)	0	2	3	303	23	6	1	1	339
	割合	0%	1%	1%	89%	7%	2%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	人数(人)	0	2	3	294	30	9	1	0	339
	割合	0%	1%	1%	87%	9%	3%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	人数(人)	0	3	3	299	25	8	1	0	339
	割合	0%	1%	1%	88%	7%	2%	0%	0%	100%

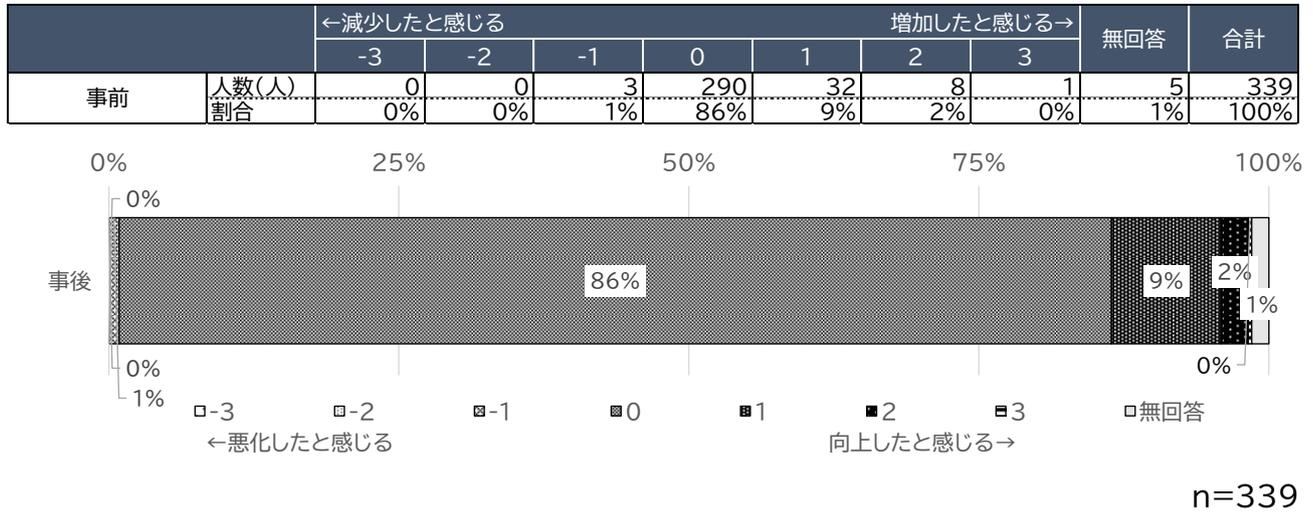


n=339

シ. 機器導入による社会参加の変化の総合的な評価

事後調査にて、機器導入による社会参加の変化の総合的な評価を調査した。事前と比較して利用者の認知機能が「増加したと感じる」(1~3)は11%で、大部分の86%が「変化なし」(0)という回答であった。

図表 IX-42 機器導入による社会参加の変化の総合的な評価

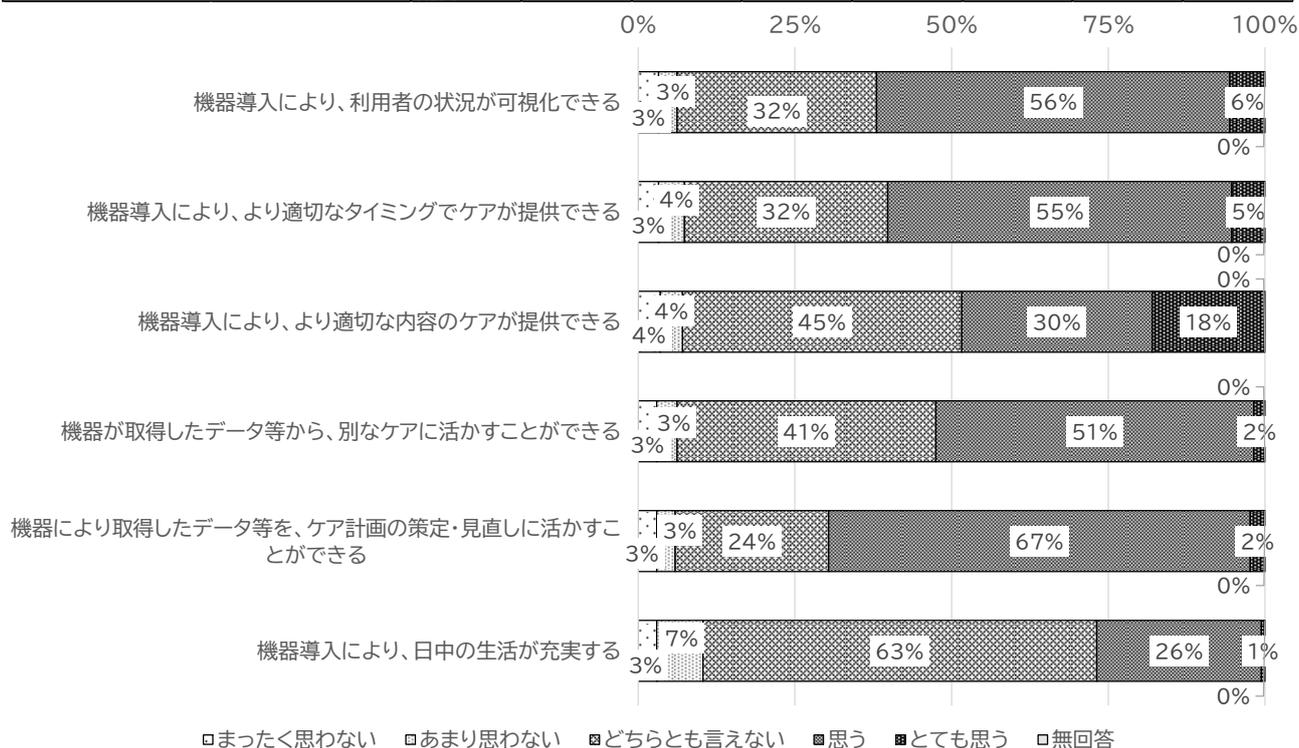


ス. 機器導入によるケア内容の変更

事後調査にて、機器導入によるケア内容の変更を調査した。事前と比較して、「機器導入により、利用者の状況が可視化できる」「機器導入により、より適切なタイミングでケアが提供できる」「機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる」「機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる」で「思う」が最も多かった。「機器導入により、より適切な内容のケアが提供できる」「機器導入により、日中の生活が充実する」については、「どちらとも言えない」が最も多かった。

図表 IX-43 機器導入による社会参加の変化の総合的な評価

		まったく 思わない	あまり 思わない	どちらとも 言えない	思う	とても 思う	無回答	合計
機器導入により、利用者の状況が可視化できる	人数(人)	11	10	108	191	19	0	339
	割合	3%	3%	32%	56%	6%	0%	100%
機器導入により、より適切なタイミングでケアが提供できる	人数(人)	11	14	110	186	18	0	339
	割合	3%	4%	32%	55%	5%	0%	100%
機器導入により、より適切な内容のケアが提供できる	人数(人)	12	12	151	103	61	0	339
	割合	4%	4%	45%	30%	18%	0%	100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	人数(人)	10	11	140	172	6	0	339
	割合	3%	3%	41%	51%	2%	0%	100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	人数(人)	10	10	83	228	8	0	339
	割合	3%	3%	24%	67%	2%	0%	100%
機器導入により、日中の生活が充実する	人数(人)	10	25	213	89	2	0	339
	割合	3%	7%	63%	26%	1%	0%	100%



n=339

(5) ヒアリング調査結果

ア. ヒアリング調査結果:株式会社チャーム・ケア・コーポレーション

ヒアリング調査では、以下の6項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

① 実証を通じ確保できた時間の活用先

図表 IX-44 実証を通じ確保できた時間の活用先

施設	カテゴリ	主なご意見
宝塚売布	時間活用	・ アウトソーシングの活用が大きな効果だろう。 <u>間接業務をアウトソーシングし、直接介護に時間を使えた。特に見守りや記録業務、記録を閲覧することができたと思う。</u>
		・ 日中時間では、間接業務を減らせた分、新規利用者にて食事介助が必要な方に対する直接介護時間に使うことができた。
四条畷	定時巡回	・ 事前調査の段階では一律に定時での巡回(安否確認)をしており、それに2、3時間を要していた。 ・ 見守りにて眠りスキャンを導入した。13名分について定時の安否確認をなくした。空いた時間により、 <u>コール対応等で利用者を待たせることがなく対応できたり、当該時間で翌日の入浴準備等に時間を活用できた。</u>

② 複数機器・介護助手による相乗効果

図表 IX-45 複数機器・介護助手による相乗効果

施設	カテゴリ	主なご意見
宝塚売布	業務の集中	・ アウトソーシングとの組み合わせとして、洗濯やシーツ交換、清掃をアウトソーシングすることでスタッフが直接介護に集中でき、業務の専門性が高くなった。
	ケア計画への反映	・ 見守り機器は既存で入れていたが、導入当初よりも大分使えるようになった。当初よりも抵抗感は大分なくなったと思う。見守り機器は24時間見ることができ、1年くらい使い、データも蓄積してきた。 ・ <u>そのデータから睡眠状態をみて、ケアの計画検討に効果があった。</u> 訪室の負担が減り、他方で見守り機器を用いたモニタリングスキルが向上した。
四条畷	服薬	・ 眠りスキャンではバイタル、呼吸数等が確認できる。 <u>眠前薬の服薬のタイミングを変更した例はある。睡眠データから眠前薬の服薬タイミングを変える際には看護師と相談した。</u> ・ これまでは眠前薬投与後、いつ頃寝ているかわからなかったのも、タイミングが回り切れなかった。眠りスキャンを用いた良い効果があった。

③ 実証結果に関する確認

図表 IX-46 実証結果に関する確認

施設	カテゴリ	主なご意見
宝塚売布	アウトソーシング	・ アウトソーシングにより、隙間時間を直接介護、特に入浴介助に時間を使えたと思う。
	業務の組み替え	・ <u>業務見直しとして、これまでは介護の度合いにかかわらず、機械浴や一般浴を曜日固定し一定に行っていた。それらを曜日ごとのスケジュールとして組み替えを実施することで、より効果的にケア提供に繋げることができた。</u>
	職員の心理的負担	・ 「機器導入による、職場の活気の変化」のうち、「減少したと感じる」と回答した方 27%となった理由としては、 <u>導入機器等に慣れる前に事後実証が終わってしまった可能性が考えられる。</u> ・ 実態として、ライン数を減らしたり、 <u>実証時期に職員の退職が重なったことや取組期間中の職員の体調不良、コロナによる欠員等で心理的負担につながった可能性がある。</u>
	利用者の QOL	・ 利用者の QOL の変化について、実証期間として短期間な中で、職員の業務スケジュール、入浴の組み替え等を行い、利用者の日ごろの導線を少なからず変更した。それに対し慣れる前にアンケート調査をしたことが一つの理由だろう。ただし、現在はその状態に慣れ、問題なく生活を送られている。
四条畷	アウトソーシング	・ シーツ交換や居室、共用部の掃除に関してアウトソーシングし、7月末から実施した。 ・ 居室の清掃は数があり、これまでも時間がかかる間接業務であった。 <u>アウトソーシングの活用は介護スタッフからも評判が良かった。その結果、介護スタッフも直接介護の時間が増えた。</u>
	介護助手	・ 介護助手では配膳、食事前準備、居室ごみの回収を行った。
	職員の心理的負担	・ 業務の改善が7月1日からであり、8ラインを6ラインにした。 <u>環境に慣れずに負担であった可能性がある。今では慣れている。当時は様子をみながらでやっていた。</u> ・ <u>タイトなスケジュールの中で機器導入があり、当初は機器に不慣れであった。複数機器の導入時期が重なったことも一要因。</u>
	利用者の QOL	・ 業務改善により食事や入浴の時間を大きく変更した。これまで午前や午後と入浴の時間を設定していたものを、業務改善として午後に集約した、入浴回数は変わっていない。また食事では提供のタイミングをフロアごとに変えたりしたことで、 <u>利用者が当初不慣れとなった影響かもしれない。</u> ・ ちょっとした利用者のルーティンの変化がこの結果になったかもしれない。現在は問題ない。

④ オペレーション、機器等の利用、介護助手の業務状況

図表 IX-47 オペレーション、機器等の利用、介護助手の業務状況

施設	カテゴリ	主なご意見
宝塚売布	タスクシフト・圧縮(効率化)にかかる状況	<ul style="list-style-type: none"> 事後実証の際には、ライン数は早出と遅出で5本ずつの計10本。加えて、夜勤が3本。それに非常勤が朝と夜に加わる。また介護助手として、常勤換算で0.8人を追加していた。実証前は、遅出が6本。早出は4本としていた。夜勤は4本。 実証前は夜勤が4人だったため、組み替え後の3人でモーニングケアを行うのは大変であった。そのため、早出を1本増やした。 夜勤者の夜勤手当が減った分、人件費が圧縮され、経済効果があった。
	機器の活用	<ul style="list-style-type: none"> 配膳ロボット導入はよかった。<u>浸透には時間がかかったが、配膳時の職員の行き来にかかる工数は減った印象。</u> 活用方法として、食堂内の配膳だけでなく、居室への配食にも活用。2名ほど居室で食事をされる方がおり、トライアル的に使用してみた。
	介護助手	<ul style="list-style-type: none"> 介護助手は0.8名。従来は入浴介助に専念をしていた。<u>取組として間接業務に専従とし、入浴に係る前後の準備や衣類整理等を担当した。</u> 入浴介助では居室からの移動⇒着替え⇒入浴⇒着替え⇒居室に戻る、というプロセスの中で、<u>サポートや誘導等、直接介護と間接業務の役割をはっきりさせることで工数は減った。</u>
四条畷	タスクシフト・圧縮(効率化)にかかる状況	<ul style="list-style-type: none"> 業務の組み直しが大変だった。朝食であれば、<u>提供時間に応じて起床介助の時間を個人のオーダーメイドで変更した。例えば、8時からの食事であれば起床介助は7時、食事が8時半であれば起床は7時半などである。</u> 机上では方法論を想像できても実際にやってみると難しい部分や改善点が出てくる。 以前はおしぼり機器を使っていたが、ロール紙や消毒薬の交換等で手間がかかっていた。<u>今回の業務改善により、個包装のものにアウトソーシング活用した。ウォーマーも既存の温熱カートを併用することができ、スムーズに業務改善できた。特に業務時間に係る効果があった。</u> アウトソーシングの活用に伴う費用対効果も出ている認識である。
	介護助手	<ul style="list-style-type: none"> 介護助手の担当者は2名いて、毎日1名が勤務している。 勤務時間が8時～12時である。現在は午前だけの勤務であるが、今後は午後～夕方にて、配膳や洗濯などを任せていきたい。 業務が集中するコアタイムを午前から午後に移しており、その部分で介護助手の活用をさらに進めていきたいと考えている。

⑤ オペレーション変更、機器導入の目的・方針の達成状況

図表 IX-48 オペレーション変更、機器導入の目的・方針の達成状況

施設	カテゴリ	主なご意見
宝塚売布	スタッフへの浸透と理解	・ 機器や業務の組み替えに慣れること、業務への理解、業務を分解することに対してスタッフに理解いただくことが重要。
	業務への専念	・ 直接介護と間接業務と分けることで、専念できる一方で、各業務に対しより深い専門性が必要となる。 ・ <u>また分けることで、隙間時間で洗濯を回さないといけない等を気にする必要がなくなったことは業務効率にも寄与した。</u>
四条畷	介護助手、機器の活用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>配膳ロボットに関して、配膳時間の事前事後比較だと、開始から終了で 20 分位⇒8 分位に短縮した。</u>空いた時間で食事介助にもゆとりができた。コミュニケーションに活用できている。 ・ 配膳のオペレーションとして、以前は、温熱カートに食事形態別で食事を配置していた。<u>それを給食の委託先の協力のもと、配膳の順番別に配置を変更した。配膳の導線を考え、再編成したものである。</u> ・ 眠リスクにはいろいろな機能があってよいが、それを今後さらに有効活用ができればと思う。<u>リアルタイムで起床状況がわかるが、導入時はスタッフがモニターを見すぎていた。そのせいでかえって訪室回数が増えたこともあった。</u> ・ 配膳ロボットについて、下膳には使えていない。2 階は構成を 2 画に分けており食事時間が異なる。配膳ロボットを使えば、2 階フロアにてさらに活用可能性は広がる。食事時間が異なるため、配膳ロボットをフル活用できる可能性がある。

⑥ ケアの質の向上につながった利用者の事例とその内容

図表 IX-49 ケアの質の向上につながった利用者の事例とその内容

施設	カテゴリ	主なご意見
宝塚売布	ADL への認識	・ 利用者に対し適切量の介助を行えたことで、これまで認知できていなかったできることの ADL に対し発見があった。利用者のできることを新たに発見できた。
	安全面	・ 安全面のトラブルはなかった。
四条畷	コミュニケーション	・ 入居者とかかわる時間は確実に増えている。 <u>配膳時間や間接業務時間も減っており、それがコミュニケーションに使えている。</u> 通常慌ただしくなりがちところが改善され、介護の質が向上した。
	自立度の維持	・ 配膳ロボットの場合、利用者の方がボタンを押したりする。それにより自立度を維持し、高める点にも役立っている。
	安全面	・ 安全面のトラブルはなかった。

⑦ その他

図表 IX-50 その他

施設	カテゴリ	主なご意見
宝塚売布	機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器に頼り切ってはいけないと思っており、また業務上、使いこなせることが効率化の前提になる。 ・ 有効的に使えているかはまだまだの認識。無駄がないか、引き続き見極めたい。
	意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 別施設や法人との意見交換等も有効と思う。
四条躰	補助金	<ul style="list-style-type: none"> ・ 費用面に対する支援要望をしたい。
	機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機器導入して、業務が回り始めると機器はかかせない。 ・ 配膳ロボットであれば、入れてみて、効果を実感すると手放せなくなる。以前にロボットの充電がうまくいっていないときがあったが、その際には職員が困っていた。
	介護報酬	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大阪エリアにおいて最低賃金が上がったが、介護報酬に変化がない。社会背景をもとに介護報酬についても検討してもらえるとありがたい。
	法人内展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生産性向上の取組は法人内で水平展開していく予定である。まずは機器を必要としない業務スケジュールの見直しから着手する。

イ. ヒアリング調査結果:ALSOK 介護株式会社

ヒアリング調査では、以下の6項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

① 実証を通じ確保できた時間の活用先

図表 IX-51 実証を通じ確保できた時間の活用先

施設	カテゴリ	主なご意見
アミカの郷 川口	全体	・ Lineworks とスマートフォンを導入し全てのスタッフに配布し <u>連絡がスムーズになったことで伝達にかかる時間は減少した</u> と考えている。
	夜間	・ 夜間において、 <u>眠りスキャンを導入することで見守りにかかる時間を削減</u> できたと思っている。
すこや家・ 北新横浜	全体	・ <u>利用者とのコミュニケーション機会が増加した。利用者の希望をかなえる機会</u> となった。 ・ <u>職員と利用者の雑談等</u> が増えることで関係性が向上しケアを実施しやすくなった。
	夜間	・ 夜間において、 <u>眠りスキャンを導入することで見守りにかかる時間を削減</u> できたと感じた。

② 実証結果に関する確認

図表 IX-52 実証結果に関する確認

施設	カテゴリ	主なご意見
アミカの郷 川口	アウトソーシング	・ クリーンヘルパーにリネン交換、洗濯物の返却を外部委託した。
	プロジェクトチーム 発足	・ <u>オペレーション変更のためパートタイマー、介護職員、主任等各職種のメンバーを含めたプロジェクトチームを立ち上げ</u> 、オペレーションの変更や利用機器等の変更について議論を行った。
	業務の効率化	・ 各階で独立していた入浴方式を <u>変更し全階一斉に入浴を実施することで業務の効率化を実施</u> した。これにより全階合計で 1 時間程度業務を短縮できた。
すこや家・ 北新横浜	アウトソーシング	・ 業務はアウトソーシングしていない。もともとアウトソーシングしていた食事、洗濯等は継続しており、今回も変更していない。
	介護助手の活用	・ 介護助手の活用について、介護助手が増えることで洗濯業者に渡す前の予洗い等を介護助手に寄せた。 <u>介護福祉士が行う間接業務が減ったのではないか。</u> ・ 介護助手としての業務の中で、 <u>ケアプランの見直しや施設内のサービス内容の検討</u> を行った。

③ オペレーション、機器等の利用、介護助手の業務状況

図表 IX-53 オペレーション、機器等の利用、介護助手の業務状況

施設	カテゴリ	主なご意見
アミカの郷 川口	ライン数	・ ライン数は事前調査で 23、事後調査で 19 と減少した。
	業務の疎密	・ 今まで介護が集中していた時間について、オペレーションを変更する

施設	カテゴリ	主なご意見
		ことで介護の繁忙を平準化できたと感じている。
	休憩・余裕時間	・ 休憩は今まで通り取得している。
	介護助手	・ 業務改善の過渡期だったことから計画的な介護助手の導入は困難だったが、あってもその反省を生かしてオペレーションを改善中である。 ・ 介護助手が直接介護の支援に回ることもあった。
すこや家・北新横浜	介護助手の活用	・ まだ全業務を介護助手に任せきれていない。また、介護助手の雇用人数が不足していた。
	職員の負担感	・ 業務負担について、夜勤者は人数が減っていることで負担が増えている。 ・ 昼間は入浴等の業務にかかる時間は短縮されたが、その分ほかの業務を実施しているため、職員の業務負担感は増している可能性がある。もし事前調査と同様の業務量だった場合は負担感は減っていただろう。

④ オペレーション変更、機器導入の目的・方針の達成状況

図表 IX-54 オペレーション変更、機器導入の目的・方針の達成状況

施設	カテゴリ	主なご意見
アミカの郷川口	業務軽減	・ <u>見守り、体位交換にかかる時間は大幅削減された。</u>
		・ <u>眠りスキャンにより夜勤対応者の負担軽減が可能になった。</u>
すこや家・北新横浜	介護助手の役割把握	・ <u>介護助手の役割についての理解が難しく、役割の割り当ての説明に時間を要した。</u> ・ 職員側で業務を切り分けていても利用者からするとその切り分けはわからないため、介護助手として勤務する職員が利用者に直接介護を依頼されて対応できず、他の職員がフォローするケースがあった。 <u>業務の切り分けについて利用者に説明する等対策が必要である。</u>

⑤ ケアの質の向上につながった利用者の事例とその内容

図表 IX-55 ケアの質の向上につながった利用者の事例とその内容

施設	カテゴリ	主なご意見
アミカの郷川口	機器導入の効果	・ <u>自動体位交換気やおむつの見直しで安眠や生活の阻害がなくなった。</u>
		・ <u>ピュアットは肌の手入れの向上、褥瘡防止につながったと感じる。</u>
すこや家・北新横浜		・ <u>ピュアットにより拘縮のある方のニオイが取れるなど、職員内での機器の評判はよい。時間の短縮も兼ねており、利用者も職員も満足している。</u>

⑥ その他

図表 IX-56 その他

施設	カテゴリ	主なご意見
アミカの郷川口	機器利用への意欲	・ <u>高齢スタッフについて、当初は機器導入の抵抗感があったようだが問題なく機器を利用するようになった。</u>
		・ <u>今回の実証を通じて介護ロボットを利用しようという意識づけができた。見守りは1日に〇回実施しなければならない、という形で教育</u>

施設	カテゴリ	主なご意見
		<p>を受けていた方の意識改革が進んできたが、いまだに昔のやり方にこだわるスタッフもいるため、引き続き意識改革が必要である。</p>
すこや家・北新横浜	介護職員のキャリアプラン	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>介護職員が減っていく中、介護職員としての業務が厳しくなった職員を介護助手として再雇用する等の新しいキャリアプランを社内で描ける可能性がある。</u>
	機器導入コスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>まだ機器の導入コストが高い。低価格な機器を希望する。</u>
	介護助手に必要なとされる体力	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>業務として間接介護のみを実施する場合、体力の必要となる仕事が連続するため、体力がないと業務負担が強まる。<u>シニアを活用しよう</u>と思っただが、8時間連続で介護助手として勤務するのは困難だろう。</u>

ウ. ヒアリング調査結果:株式会社ウチャマホールディングス

ヒアリング調査では、以下の6項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

1) 実証を通じ確保できた時間の活用先

図表 IX-57 実証を通じ確保できた時間の活用先

施設	カテゴリ	主なご意見
さわやか宗像館	業務の効率化	・ 特定の時間帯に業務が集中することが多かったが、ドライヤーを活用することで乾かす時間が短くなった。 <u>1フロアで1人あたり1~2分×30人分の時間短縮につながった。</u> その分、 <u>入浴の援助を丁寧にできる、余裕を持った対処ができるようになった。</u>
	介護の質向上	・ 余裕時間は <u>フロアカンファレンスの実施、利用者と一緒にコミュニケーションする時間等</u> に充てた。 <u>職員側のイベントの企画意欲も向上した。</u>

2) 実証結果に関する確認

図表 IX-58 実証結果に関する確認

施設	カテゴリ	主なご意見
さわやか宗像館	食事	・ 食事の時間については入居者の入れ替えがあった。
	睡眠	・ 夜の直接介護の時間はおむつ交換の回数が減少したことで減少している。 ・ 体位交換機 5 台、実働 3 台も入っているが対象者が入院したことで効果が測定しにくかった。体位交換必要だが睡眠を妨げたくない方に体位交換機を使用し、睡眠を妨げず体位交換できた。利用者の睡眠の質が良くなった。 ・ ただし、治療中の方には機器使用は適さなかった。

3) オペレーション、機器等の利用の業務状況

図表 IX-59 オペレーション、機器等の利用、介護助手の業務状況

施設	カテゴリ	主なご意見
さわやか宗像館	オペレーション	・ <u>2時間おきの巡視を減らしてモニターを1時間1回確認することとした。</u> 20分不在でアラートが出るようにしている。25時の巡視は実施している。巡視は1回15分~30分程度かかる。
	機器の最適化	・ <u>本実証用に使用したおむつへの変更も一定の効果があった。</u> たいてい巡視のたびにおむつ交換を行っていたが、夜間の交換が1-2回に減った。

4) オペレーション変更、機器導入の目的・方針の達成状況

図表 IX-60 オペレーション変更、機器導入の目的・方針の達成状況

施設	カテゴリ	主なご意見
さわやか宗像館		・ <u>まだ変革期であり、業務オペレーションの変更が十分にはできていなかった。</u>
		・ <u>夜間の見守り負担が減り、事故等の状況が明確になった。</u> 夜間転倒していた方がいて、ちょうど早く見つけることができた。

5) ケアの質の向上につながった利用者の事例とその内容

図表 IX-61 ケアの質の向上につながった利用者の事例とその内容

施設	カテゴリ	主なご意見
さわやか宗像館		・ 体位交換必要だが睡眠を妨げたくない方に体位交換機を使用し、睡眠を妨げず体位交換できた。 <u>利用者の睡眠の質が良くなった。</u>

6) その他

図表 IX-62 その他

施設	カテゴリ	主なご意見
さわやか宗像館	国からの支援の期待	・ 介護記録システムは大学と協業して構築したが、何の機器と連結できるか等調べるのも難しく、 <u>国の推奨などがあるとわかりやすいのではないか。</u> ・ コストの面も課題。機器導入のほか、環境整備にも費用がかかる。
	今回の実証の反省	・ 根拠なくいつも通りのルールを守っていた。そもそも必要なのか、といった指摘や解釈の視点が得られた。当たり前と思っていた運用の見直し、保険外の外注に頼る等、 <u>他社の事例を学べた。</u> ・ 他施設でも同様に SOMPO ケアと協業し検証を行っている。事例を作り、マニュアル・テキスト化してできれば横展開を行いたい。

3. 実証結果:3 法人における人員配置、業務時間の変化について

(1) 人員配置

実証対象である3法人5施設について、事前調査時、事後調査時の人員配置について確認をした。

全体でみると、事前の人員配置は2.73:1であり、事後では2.86:1となった。うち2施設において、人員配置が3:1を超えた。

図表 IX-63 事前、事後時における人員配置

法人名	事前			事後			
	①入居数 換算値	②在籍人 員	③人員配 置(①/②)	④入居数 換算値	⑤在籍人 員	⑥介護助 手人員	⑦人員配 置(①/(⑤ +⑥))
チャーム・ケア・コー ポレーション	89	32.2	2.76	93.7	29.4	1.11	3.07
チャーム・ケア・コー ポレーション	53.1	19.8	2.68	51.1	17.7	1.33	2.68
ALSOK 介護	84	31.7	2.65	86.1	26.9	4.52	2.74
ALSOK 介護	49.1	18.4	2.67	49.8	14.2	4.23	2.70
ウチャマホールデイ ングス	54.4	18.8	2.89	55.1	17.9	0	3.08
全体	65.9	24.2	2.73	67.2	21.2	2.2	2.86

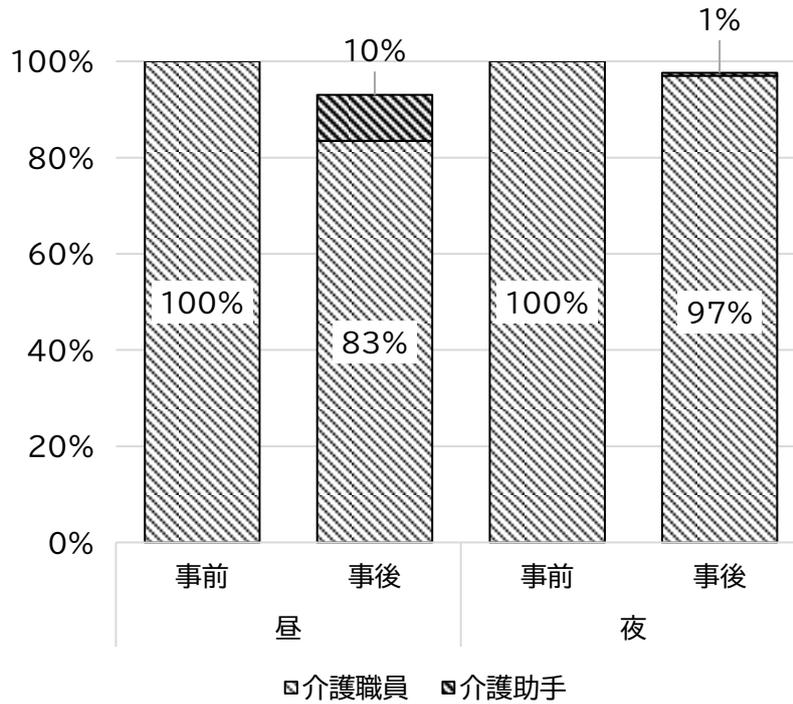
※1 仮に事前と同じ利用者数(53.1人)の場合、3.01:1となる計算

(2) 業務時間の変化

実証対象である 3 法人 5 施設について、事前、事後での業務量をタイムスタディ調査の結果を用いて集計した。

介護職員の昼間の業務時間は事前と比較して事後が 83%、夜間の業務時間は事前と比較して事後が 97%となった。

図表 IX-64 業務時間の変化



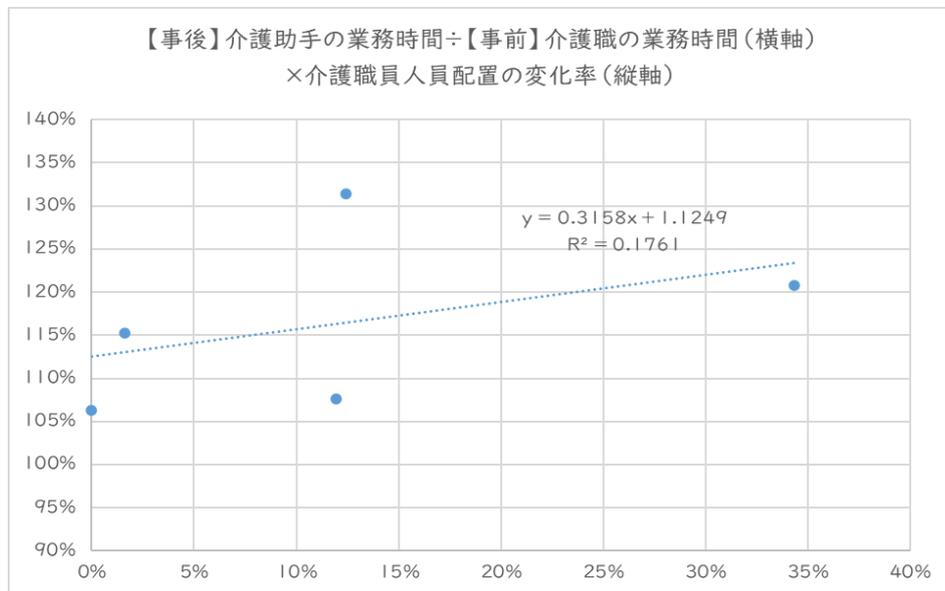
事前 n=569、事後 n=544

(3) 人員配置及び各種取組効果に関する考察

本実証では3法人5施設においてテクノロジーや介護助手の導入を通じ、オペレーション変更等を実施の上、事前と事後による比較を行った。本項では、それらの取組が人員配置に与える影響について考察する。

以下の図では、横軸に「【事後】介護助手の業務時間÷【事前】介護職の業務時間」をとり、縦軸に「介護職員人員配置の変化率」を示したものである。5施設のデータに基づき、近似直線を作成すると $y=0.3158x+1.1249$ であり、 x に0%、10%、15%を代入すると以下の通りである。この時、0%とは介護助手が導入されていない状態を示しており、約12.5%とは介護助手を除く取組効果として人員配置に影響した大きさと捉えることができる。

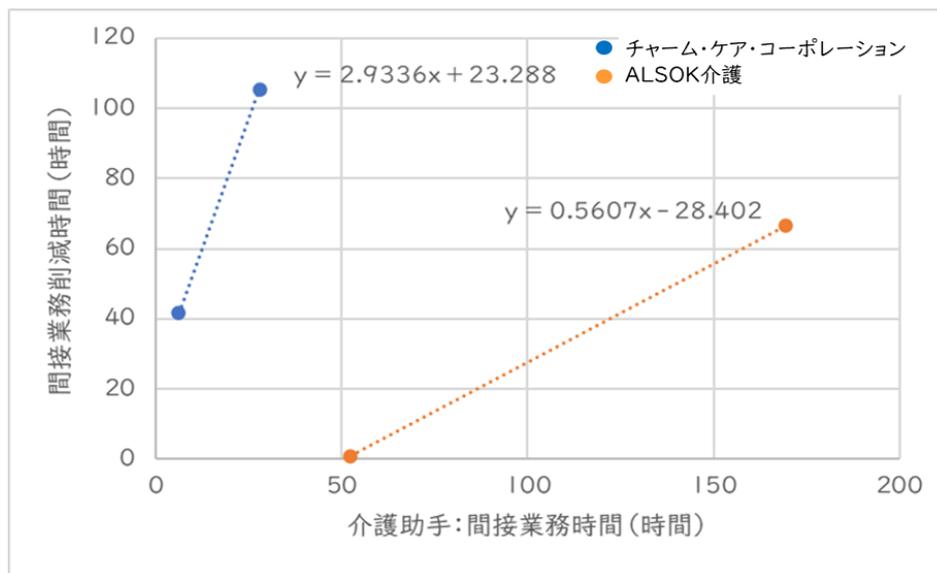
図表 IX-65 介護助手による業務の代替による人員配置の変化率への効果



xの値(横軸)	0%	10%	15%
yの値(縦軸)	約12.5%	約115%	約117%

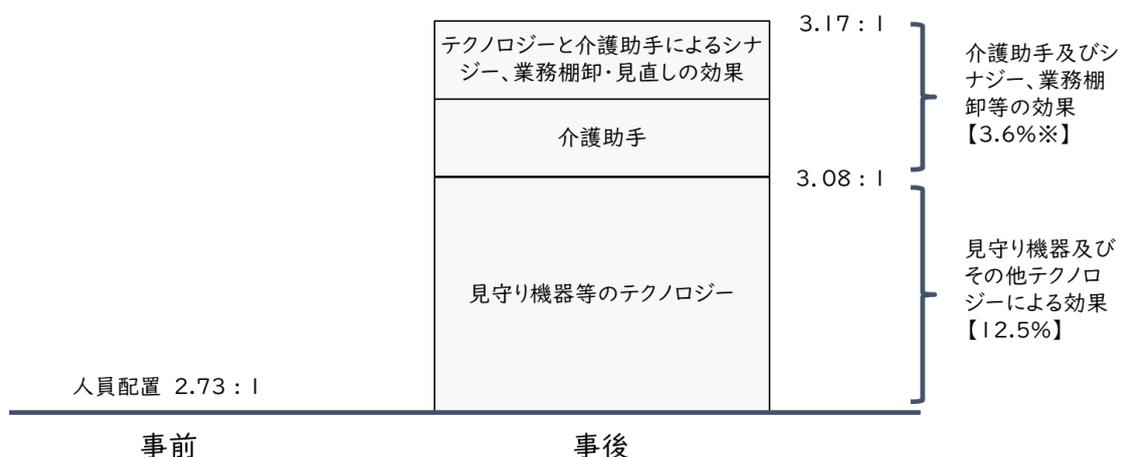
次に、介護助手による間接業務時間と当該施設における間接業務時間(全体)の削減時間を確認した。以下では、チャーム・ケア・コーポレーション及び ALSOK 介護における間接業務削減時間を示した図表である。チャーム・ケア・コーポレーションでは、介護助手が約 20 時間の間接業務をすると、全体において約60 時間分の間接業務時間の削減効果が確認でき、ALSOK 介護では、介護助手が約80 時間の間接業務をすると、全体において約20時間分の間接業務時間の削減効果が確認できた。

図表 IX-66 介護助手の間接業務時間と間接業務削減時間



以上から、「見守り機器等のテクノロジー」「介護助手」「テクノロジーと介護助手によるシナジー、業務棚卸・見直しの効果」の 3 項目について、事前と事後の人員配置を比較し、その効果の大きさを以下に図示する。3 項目の効果により、人員配置は事前から事後で2.73から3.17に変化し、見守り機器及びその他テクノロジーによる効果は12.5%、介護助手及びシナジー、業務棚卸等の効果は 3.6%となった。

図表 IX-67 取組効果と事前・事後での人員配置の変化



※3.6%は、2.73を基準とし、見守り機器及びその他テクノロジーによる効果 12.5%にて3.08となった人員配置より、事後の人員配置である3.17を用い計算したものの。

X. 実証結果:匿名調査

1. 調査概要

(1) 調査目的

介護ロボット等及び介護助手による生産性向上の取組について、職員および利用者家族の忌憚ない意見を把握することを目的とし、匿名調査を行った。

(2) 調査対象

実証対象となった施設の職員および利用者家族を対象に調査を行った。利用者家族向け調査については、介護助手の実証を行った施設は、特定の利用者に限定した取り組みではなかったため、調査対象外とした。

(3) 調査方法

職員向け調査は、施設を通して実施した職員向け調査の事後調査の調査票に QR コードを掲載し、WEB アンケートに回答いただいた。

利用者家族向け調査は、施設のご協力をいただき、実証対象の利用者家族に協力依頼の文書を配布し、QR コードより WEB アンケートに回答いただいた。いずれの調査についても任意回答とした。

(4) 調査項目

調査項目は、以下の通り。

図表 X-1 匿名調査の調査項目

	調査項目
職員向け調査	<ul style="list-style-type: none">勤務している介護施設の施設名介護ロボット等の機器の導入や機器を使ったケア、介護助手についての満足度満足度の理由介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見
利用者家族向け	<ul style="list-style-type: none">ご家族が入所されている施設名

	調査項目
調査	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護ロボット等を活用したケアについての満足度 ・ 満足度の理由 ・ 介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてのご意見 ・ 見守り機器の活用を通じて、家族に感じた変化

(5) 回収状況

回収状況は、以下の通り。

図表 X-2 カテゴリ別の回収状況

	テーマ	職員向け調査 回答件数	利用者家族向け調査 回答件数
1	夜間見守り	12	6
2	パッケージ	180	20
	見守り×介護業務支援	16	3
	排泄支援×介護業務支援	21	7
	入浴支援×移乗支援	84	10
	排泄支援×移乗支援	34	0
	排泄支援	25	0
3	介護助手	19	-
4	令和4年度提案手法の更なる検証	40	19
	合計	251	45

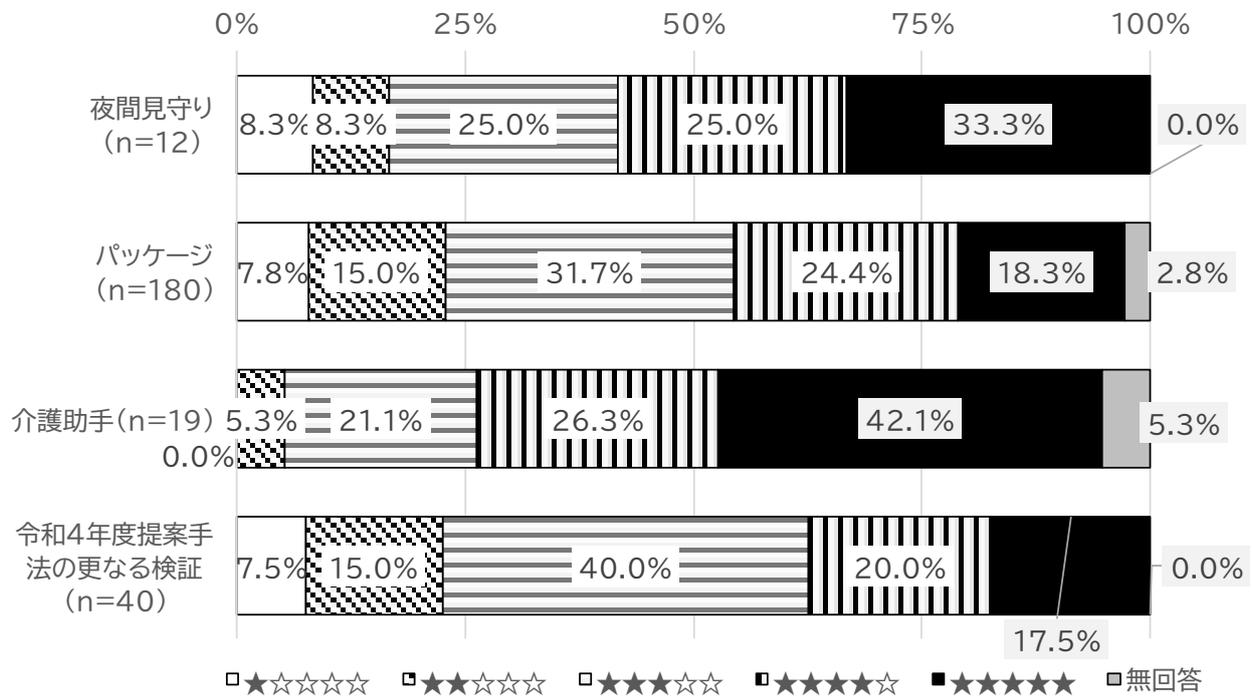
2. 調査結果

(1) 職員向け調査結果

ア. 機器の導入や機器を使ったケア、介護助手についての満足度

機器の導入や機器を使ったケアについての満足度は、夜間見守り、介護助手について、5 つ星評価の高評価(4 つ星、5 つ星)が 5 割以上であった。

図表 X-3 機器の導入や機器を使ったケア、介護助手についての満足度(職員)



イ. 満足度の理由、介護現場の生産性向上の取組についての自由意見

満足度の理由、介護ロボット等による生産性向上の取組についての職員の自由意見は以下の通り。

テーマ	主な回答
夜間見守り	<ul style="list-style-type: none"> 見守り機器があることで巡視が簡略化できる。コールの優先度を見守り機器で判断できる。(★5) 毎回巡視に行かなくても良いから。高齢者の眠りの妨げを防止出来る。(★5) 頻回に様子を見に行かなくても良くなり時間に余裕が出てきた(★4) 見守り機器の対象者の巡視はパソコン上で確認し、毎回訪室しなかった。睡眠状態を確認できるため安心できた。(★3)

テーマ	主な回答
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族様に状況を提供しているがグラフの説明が難しく理解が難しい。(★2) ・ 少しの体動、無呼吸で離床反応が多すぎる。就寝状態が分かるのは安心出来ます。(★1)
見守り×介護業務支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 慣れるまでは大変でしたが、食事量を覚えておくなどの記録に関しては、その場で別の行動をしながら記録できるのが楽で、安心です。(★5) ・ 居室に伺わなくても、寝ている様子が分かるのがとてもいいと思いました。扉を開ける音で起きてしまう方もいるので。(★5) ・ 記録や巡視の業務が改善された。他の業務をしながら記録できる。不用意な巡視で睡眠を妨げる事が減った。(★4) ・ テクノロジー自体は情報コントロールがうまくできれば、活用性が高く生産性が高まるのはわかる。しかしながら、活用していくための人の手が不足していることは事実(★3) ・ まだまだ慣れない現状がある(★3)
排泄支援×介護業務支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務における巡視の負担がとても軽減された(★5) ・ 居室内をモニターで見ることで、利用者の行動把握を確認することが容易に出来ると思う。(★4) ・ 排泄状況やお客様の様子が伺えるので良いと思います。(★4) ・ 実際に活用してもどのようになっているかわからない為実感が無い。(★1)
入浴支援×移乗支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご利用者様に安全に出来る事がとても良いと思いました。また、腰等にも負担がかからないと感じました。(★5) ・ 2人介助で排泄介助等をしなければならなかったが、1人でできて身体も楽なので良い(★4) ・ オムツ交換時の中腰の姿勢や、移乗介助時の姿勢が少し楽になっているような感じがした。使用しているうちにベルトが緩くなっていくなど、調整が必要になったりする。(★3) ・ 利用者の靴を履かせたり、座位の状態ズボン履かせたり、車いすのステップの上げ下げ等かがむ動作も多いため、その都度肩のベルトを緩めないといけないため手間だと思ふ事が多かった。(★2) ・ 靴を履かせる時等しゃがむ動作がしづらい。装着時との差は無かった。腰のみサポートするものが良い。(★1)
排泄支援×移乗支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二人で介助が一人で楽々と介助できました。また、排尿時間も分かって仕事がやりやすくなりました。(★5) ・ とにかく良かった！生産性が向上したと感じた。(★5)

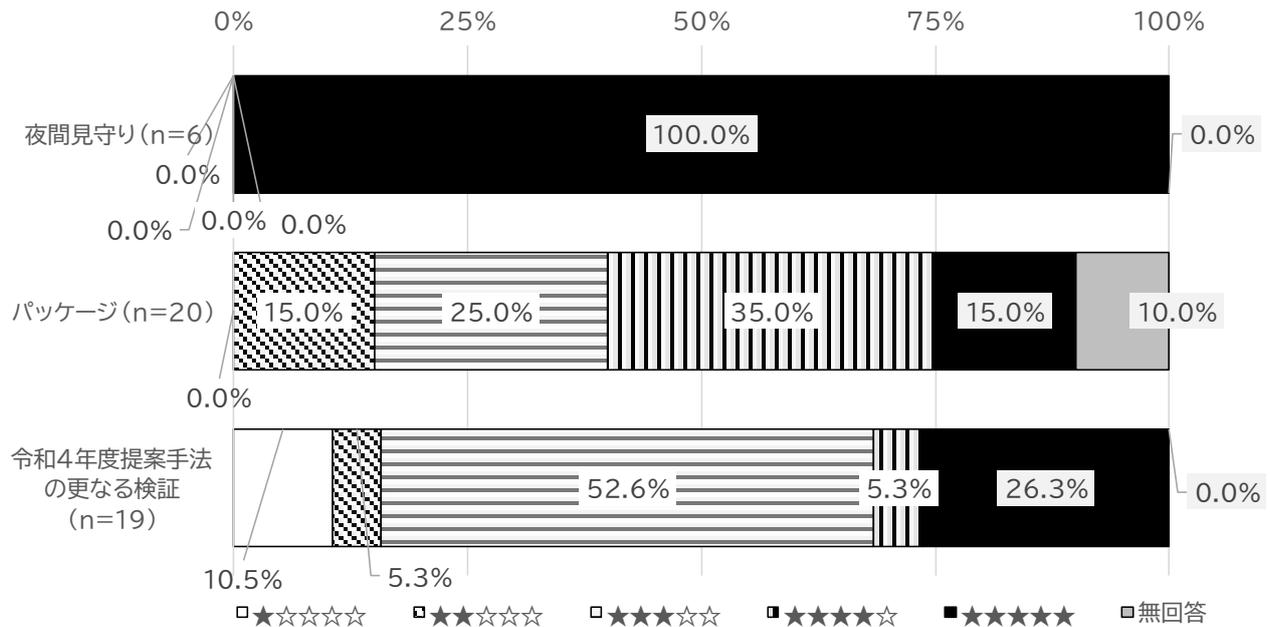
テーマ	主な回答
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切なタイミングでトイレ誘導を行えたが空振りも多かった(★4) ・ アシスト自体はとても素晴らしかったが、移乗の時に肩へ負荷がかかると肩のバックルの紐が急激に緩むことがあり介助中危険だと感じたため(★3) ・ 移乗支援機器を使用する事により他スタッフを応援に呼ぶ必要なく良かった。しかし、ロボットが立ち上がらせてくれるとはいえ、立位が不安定な人、しっかり手すりを握れない人には危険だという事が分かった。(★2)
排泄支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 頻回なトイレの訴えのある方に対して、機器の説明をすると納得され結果的にトイレの回数が減った。(★5) ・ 多量の排便失禁に至る前に気付く事ができた。また、排尿がない人の排泄交換(空振り)にもなりにくく、すこし余裕ができた。(★4) ・ 移乗支援機器はとても良かった。介護者の負担軽減、利用者の残存機能維持に効果的と感じた。排泄支援機器は運用がやや難しく、短期間では使いこなせなかった。(★3) ・ モニターで排尿の有無が分かるのはいいが性能が曖昧な気がする(★2)
介護助手	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材難の中、介護助手を採用することで直接介護に専念できる環境を作ることが出来る。しかしながら、介護補助の職員が病欠などで長期の欠勤が続くと負担が増したように感じます。(★5) ・ 普段、介護職員がしていることを介護助手を採用することで、業務効率が向上したこと。また、作業の分担ができ、明確化になったことで、無駄な動きがなくなった(★4) ・ 業務の負担は少し軽減されたが、欠勤続きで生産性向上出来ているかと今はなんとも言えない(★3)
令和4年度提案手法の更なる検証	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見守り機器は満足しています。訪室する事で、ご入居者様の睡眠の妨害になるので。配膳ロボットはよく動かなくなることがある。出来れば早くにお食事席に着かれた方からお出したい気持ちもあるので、なんとも言えない。(★4) ・ 見守り機器に関してはご入居者様の状態が一目で分かるのでとても便利です。(★4) ・ 導入いただいた機器を未だ完全に使いこなせていないから。(★3) ・ 夜勤の訪室回数が減ったのは良かった。その分夜勤の人数が減った事、夜勤の回数が減り賃金が下がったので手放しに良かったと言えない。(★2) ・ 必要性のあるホームもあるかと思いますが、自分のホームでは特に必要性を感じなかった。(★1)

(2) 利用者・家族向け調査結果

ア. 機器の導入や機器を使ったケアについての満足度

機器の導入や機器を使ったケアについての満足度は以下の通り。パッケージでは5つ星評価の高評価(4つ星、5つ星)が5割であった。

図表 X-4 機器の導入や機器を使ったケアについての満足度(利用者家族)



イ. 満足度の理由、介護ロボット等の生産性向上の取組についての自由意見

満足度の理由、介護ロボット等による生産性向上の取組についての職員の自由意見は以下の通り。

テーマ	主な回答
夜間見守り	<ul style="list-style-type: none"> よく母親がベッドから降りて座っていたり落ちたりしているので、転倒防止になると思います。(★5) 職員さんの負担が楽になるから(★5) ベッドから落ちないように対策して頂いてる(★5) 父が安全に過ごせるようにしていただいている(★5)
パッケージ	<ul style="list-style-type: none"> ロボットを使う事で歩く意欲につながっていると思います。(★5) 手厚い介護が受けられる。(★4) ケアのクオリティーを維持しつつ介護者の負担を軽減できる取り組みであれば実装に向けて知見を重ねていただければと思います。(★4) 体重が重い要介護者に対しては介護士さんの負担も多いと思うので、負担軽減になれば、どんどん使用した方がいいと思います。(★4)

テーマ	主な回答
	・ 使っているところを見たことがないので、分からない。(★2)
令和4年度提案 手法の更なる検 証	・ テクノロジーがよくわからない(★3)

ウ. 見守り機器の活用を通じて、家族に感じた変化についての自由意見

テーマ	主な回答
夜間見守り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特にはありませんが、安心して見てもらえるのが嬉しいです。 ・ 面会でしか会っていないため特にない。
パッケージ	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタッフに気を遣いすぎずに介護を受けられている。 ・ 内出血などの報告が減った。 ・ 食事をする意欲につながってのではないのでしょうか。 ・ 特に変化は感じないですが、拒否している様子も見受けません。 ・ 本人は何も感じていないようなので、変化がないことも良いことだと思います。
令和4年度提案 手法の更なる検 証	<ul style="list-style-type: none"> ・ まだ感じられない。 ・ ほぼ寝たきりですが、床擦れが起きていないようです。

以上

XI. 参考資料

1. 夜間見守り

(1) タイムスタディ調査票(新規/追加・事前事後共通)

夜間見守り(新規・追加)

職員向けタイムスタディ調査票

夜間見守り実証事前事後共通

所属名		担当しているユニット・フロア名	
施設ID	000	職員ID	000
調査実施日	月 日 (曜日)	所定勤務時間	～ ～
		実働時間(残業時間含む)	～ ～

※10分間のうち、実施した業務について、その時間数(整数)を記入して下さい。記載例を参考に下さい。
 記載例①: 16:巡回・移動を4分間、1:移動・移身・体位変換を6分間、実施した場合、記載例②: 1:1、仮眠を10分間した場合

NO	分類	Sub* NO	項目	21時台		22時台		23時台		24時台		1時台	
				00分~09分	10分~19分								
	巡回介護	1	移動・移身・体位変換										
		2	排泄介助・支援										
		3	日常生活自立支援(※1)										
		4	行動上の問題への対応(※2)										
		5	利用者とのコミュニケーション										
		6	機能訓練・リハビリ・リフト・リフト・医療的処置										
		7	その他の介護介助										
	間接業務	8	巡回・移動										
		9	記録・文書作成・連絡調整等(※3)										
		10	看守機器の使用・確認										
		11	食事・おやつ配膳・下膳等										
		12	その他の間接業務										
	休憩	13	休憩・待機										
		14	仮眠										
		15	その他										
			備考・補記等										

※1 入居起床支援、着衣の把握、日常生活の支援
 ※2 徘徊、不潔行為、暴言・暴行に対する対応等
 ※3 利用者に与える記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

NO	分類	Sub* NO	項目	2時台		3時台		4時台		5時台		6時台	
				00分~09分	10分~19分								
	巡回介護	1	移動・移身・体位変換										
		2	排泄介助・支援										
		3	日常生活自立支援(※1)										
		4	行動上の問題への対応(※2)										
		5	利用者とのコミュニケーション										
		6	機能訓練・リハビリ・リフト・リフト・医療的処置										
		7	その他の巡回介護										
	間接業務	8	巡回・移動										
		9	記録・文書作成・連絡調整等(※3)										
		10	看守機器の使用・確認										
		11	食事・おやつ配膳・下膳等										
		12	その他の間接業務										
	休憩	13	休憩・待機										
		14	仮眠										
		15	その他										
			備考・補記等										

※1 入居起床支援、着衣の把握、日常生活の支援
 ※2 徘徊、不潔行為、暴言・暴行に対する対応等
 ※3 利用者に与える記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

(5) 職員向けアンケート調査票(事前調査用)

夜間見守り・事前調査用	
施設ID	施設名
000	

職員向け調査票

(職員各自が記入)

職員ID	記入日
000	年 月 日

※職員向け調査票は、事前調査の対象となる職員の方全員に、事前調査期間中に1回ご回答いただきます。

1. 職員概要

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代 ・ 20歳代 ・ 30歳代 ・ 40歳代 ・ 50歳代 ・ 60歳代 ・ 70歳代～
職種	1:介護福祉士 2:介護職員(介護福祉士以外) 3:看護職員 4:リハビリ職(機能訓練指導員を含む) 5:相談員 6:事務職員 7:その他()		
役職	1:経営層 2:管理者・リーダー 3:一般職 4:その他()		
現在の職種での経験年数	年 ヶ月		

2. 心理的負担評価

※出典:心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

※ 裏面へ続く

3. 夜間見守り業務の課題

※ この設問では、日々の夜間見守り業務における課題についてお伺いします。それぞれ、あてはまるものに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 定期巡回時の訪室が多く大変である	0	1	2	3
2 利用者が睡眠できているかわからない	0	1	2	3
3 訪室によって利用者の睡眠を妨げてしまう	0	1	2	3
4 心拍、呼吸等の容態の異変に気付にくい	0	1	2	3
5 睡眠状況がわからないので、家族への報告が難しい	0	1	2	3

職員向け調査票は以上です。

(6) 職員向けアンケート調査票(事後調査用)

夜間見守り・事後調査用

職員向け調査票

施設ID	施設名

(各調査期間中に職員各自が
1回ご回答ください)

職員ID	記入日
	年 月 日

1. 職員概要

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代 ・ 20歳代 ・ 30歳代 ・ 40歳代 ・ 50歳代 60歳代 ・ 70歳代~
職種	1:介護福祉士 2:介護職員(介護福祉士以外) 3:看護職員 4:リハビリ職(機能訓練指導員を含む) 5:相談員 6:事務職員 7:その他()		
役職	1:経営層 2:管理者・リーダー 3:一般職 4:その他()		
現在の職種 での経験年数	年	ヶ月	

2. 心理的負担評価 ※出典:心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いづらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

3. 機器導入によるモチベーションの変化

※ この設問では、本実証で介護ロボットを導入（全床導入の場合は人員配置を変更）する前後のモチベーションの変化についてお伺いします。

	←減少したと感じる				増加したと感じる→		
1 機器導入による、仕事のやりがいの変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 機器導入による、職場の活気の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

4. 機器導入による職員や施設業務の変化

※ この設問では、本実証で介護ロボットを導入（全床導入の場合は人員配置を変更）する前後の施設業務等の変化についてお伺いします。

	←そう思わない			変化なし		→思う→	
1 気持ちに余裕ができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 身体的負担（体の痛みなど）が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 精神的負担（ストレスなど）が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
4 利用者とのコミュニケーションやケアの時間が十分に取れる	-3	-2	-1	0	1	2	3
5 訪室しなくても利用者の状況が分かる（即時性）	-3	-2	-1	0	1	2	3
6 利用者の行動パターンが把握できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
7 事故原因分析の参考情報にできる	-3	-2	-1	0	1	2	3
8 優先順位の判断ができる（同時コールの発生、他の利用者の介護中）	-3	-2	-1	0	1	2	3
9 利用者のペースに合わせた介助ができる（予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等）	-3	-2	-1	0	1	2	3
10 休憩時間に休むことができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
11 必要以上に利用者を見に行くことになる	-3	-2	-1	0	1	2	3
12 走って訪室することが減る	-3	-2	-1	0	1	2	3
13 機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	-3	-2	-1	0	1	2	3
14 機器の初期設定・微調整が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
15 複数端末の携帯が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
16 自分の専門性を発揮する時間が確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
17 利用者により良いケアが提供できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
18 教育をする（教育をうける）時間を確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3

5. 【導入後調査で回答】導入機器の満足度評価 ※出典：QUEST 福祉用具満足度評価

※ この設問では、本実証で導入した介護ロボットについてお伺いします。

	全く満足 していない	あまり 満足 していない	やや満足 している	満足して いる	非常に 満足 している
1 その福祉用具の大きさ(サイズ, 高さ, 長さ, 幅)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
2 その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
3 その福祉用具の調節しやすさ(部品の取り付け方法や部品の調整方法)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
4 その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
5 その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
6 その福祉用具の使いやすさ(簡単に使えるかどうか)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
7 その福祉用具の使い心地の良さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
8 その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
9 その福祉用具の取得手続きと期間(手に入れるまでの手続きや期間)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
10 その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
11 その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
12 その福祉用具のアフターサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
13 今後、今回導入した介護ロボットを継続して利用したいですか?	1 はい →7.へ 2 いいえ →14へ				
14 (13にていいえの方のみご回答ください) 継続して利用したいと思わない理由は何ですか?該当する項目の番号を○で囲ってください。(複数回答可)					
1 使用上の効果が実感できなかった					
2 コストが高すぎる					
3 他の介護ロボットも検討してみたい					
4 必要とする利用者がいない					
5 介護ロボットを使いこなせる気がなかった					
6 介護ロボットを設置するスペースを十分に確保できない					
7 人間による介助のほうが利用者にとって良いと感じた					
8 他に解決すべき課題があり、今回導入した介護ロボット導入の優先順位は低い					
9 導入のためのオペレーション変更等準備に時間がかかりすぎる					
10 その他 (自由記述: _____)					

6. 夜間見守り業務の質の向上

※ この設問では、日々の夜間見守り業務における課題についてお伺いします。それぞれ、あてはまるものに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 定期巡回時の訪室回数が減った	0	1	2	3
2 入居者の睡眠に関する情報がわかりやすくなった	0	1	2	3
3 訪室回数の減少によって入居者の睡眠を妨げることが減った	0	1	2	3
4 心拍数、呼吸数等から異変に気づきやすくなった	0	1	2	3
5 睡眠状況等を家族への状況報告に活用できた	0	1	2	3

7. 貴施設への機器導入前後における未然に防げた・未然に防げる可能性のある事故やヒヤリ・ハット

※ この設問では、貴施設に介護ロボット(見守り機器)を導入する前後の時期を振り返り、見守り機器の導入により未然に防げた・防げる可能性のある事故やヒヤリ・ハットの内容やご意見をご記入ください。(本実証以前に導入した見守り機器も含めてお答えください)。

事故	
ヒヤリ・ハット	

調査へのご協力、ありがとうございました。本実証調査では、職員様向けに無記名の調査も実施しております。介護ロボット(見守り機器)を活用したケアに関する率直なご意見を頂きたく、QRコードよりアンケートにご協力ください。

<https://forms.office.com/r/6ZZlgHETTB> ※貴施設に回答した内容が伝わることはありません。



職員向け調査票は以上です。

(7) 利用者向けアンケート調査票(事前調査用)

夜間見守り・事前調査用		利用者向け調査票	
施設ID	施設名	(職員が記入)	利用者ID
000			記入日
			年 月 日

1. 【導入前調査にて回答】対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
機器導入の目的・目標(複数選択可)	1: 職員の負担軽減 2: 利用者の転倒・転落リスクの軽減 3: 入眠状況の把握 4: 夜間帯の行動の把握 5: 利用者の起き上がりや離床の把握 6: その他()		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		

2. 【導入前調査で回答】対象利用者におけるADLの変化

(1) 【導入前の状態について回答】ADLの変化(Barthel Index)の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		導入前評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える 部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう) 全介助	10 5 0	10 5 0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、プレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む) 軽度の部分介助または監視を要する 座ることは可能であるがほぼ全介助 全介助または不可能	15 10 5 0	15 10 5 0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り) 部分介助または不可能	5 0	5 0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む 部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する 全介助または不可能	10 5 0	10 5 0
5 入浴	自立 部分介助または不可能	5 0	5 0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない 45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む 歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能 上記以外	15 10 5 0	15 10 5 0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない 介助または監視を要する 不能	10 5 0	10 5 0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む 部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える 上記以外	10 5 0	10 5 0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能 ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む 上記以外	10 5 0	10 5 0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能 時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む 上記以外	10 5 0	10 5 0
合計(100点満点)			

3.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度
機器導入前にて、いずれかのランクに○をしてください。

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	導入前 (いずれかに○)
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
	II a 家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
	II b 家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
	III a 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
	III b 夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIII aに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD)3)

【導入前調査の過去1週間】		まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
1	同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2	よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3	日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4	特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5	特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6	昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7	やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8	同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9	口汚くののしる	0	1	2	3	4
10	場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11	世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12	明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13	引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

4. 【導入前、導入後調査で回答】利用者への心理的な影響 ※出典:意欲の指標 (Vitality index)

機器を使う前の対象者の意欲について、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		導入前
1) 起床 薬剤の影響(睡眠薬など)を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさないと起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2) 意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3) 食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしな	0
4) 排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5) リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典:WHO-5 精神的健康状態表

最近2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください						
	いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1 明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3 意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4 ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

利用者向け調査票は以上です。

(8) 利用者向けアンケート調査票(事後調査用)

夜間見守り・事後調査用		利用者向け調査票	
施設ID	施設名	(職員が記入)	
000			
利用者ID	記入日		
000	年 月 日		

1. 対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
機器導入の目的・目標(複数選択可)	1: 職員の負担軽減 2: 利用者の転倒・転落リスクの軽減 3: 入眠状況の把握 4: 夜間帯の行動の把握 5: 利用者の起き上がりや離床の把握 6: その他()		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		

2. 対象利用者におけるADLの変化

(1)【導入後の状態について回答】ADLの変化(Barthel Index)の得点
各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		導入後評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える 部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう) 全介助	10 5 0	10 5 0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む) 軽度の部分介助または監視を要する 座ることは可能であるがほぼ全介助 全介助または不可能	15 10 5 0	15 10 5 0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り) 部分介助または不可能	5 0	5 0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む 部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する 全介助または不可能	10 5 0	10 5 0
5 入浴	自立 部分介助または不可能	5 0	5 0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない 45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む 歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能 上記以外	15 10 5 0	15 10 5 0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない 介助または監視を要する 不能	10 5 0	10 5 0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む 部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える 上記以外	10 5 0	10 5 0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能 ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む 上記以外	10 5 0	10 5 0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能 時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む 上記以外	10 5 0	10 5 0
合計(100点満点)			

3. 対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度
機器導入後にて、いずれかのランクに○をしてください。

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	導入後 (いずれかに○)
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
IIa	家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
IIb	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
IIIa	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
IIIb	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIIIaに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度 (Dementia Behavior Disturbance Scale:DBDI3)

【導入後調査の過去1週間】		まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
1	同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2	よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3	日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4	特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5	特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6	昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7	やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8	同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9	口汚くののしる	0	1	2	3	4
10	場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11	世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12	明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13	引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

(3) その他の認知機能の変化 (導入後調査の時点)

機器導入による 認知機能の変化	
--------------------	--

(4) (1)～(3)を踏まえた機器導入による認知機能変化の総合的な評価

←悪化したと感じる						向上したと感じる→
-3	-2	-1	0	1	2	3

4. 利用者への心理的な影響 ※出典:意欲の指標 (Vitality index)

今回導入した見守り機器を利用することによって、対象者の意欲がどの程度変化したか、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		導入後
1) 起床 薬剤の影響(睡眠薬など)を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさないと起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2) 意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3) 食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしな	0
4) 排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5) リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5. 対象利用者におけるコミュニケーションの変化

(1) 機器導入によるコミュニケーションの変化

	←減少したと感じる				増加したと感じる→		
1 利用者の発語量の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) その他のコミュニケーションの変化(導入後調査の時点)

機器導入による コミュニケーション の変化	
-----------------------------	--

(3) (1)(2)を踏まえた機器導入によるコミュニケーション変化の総合的な評価

←減少したと感じる				増加したと感じる→			
-3	-2	-1	0	1	2	3	

6. 対象利用者における社会参加の変化

(1) 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

		←減少したと感じる				増加したと感じる→		
1	利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2	促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3	レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

		←減少したと感じる				増加したと感じる→		
1	食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2	食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間（談話室にいる時間等）の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3	食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(3) その他の社会参加の変化（導入後調査の時点）

機器導入による社会参加の変化	
----------------	--

(4) (1)～(3)を踏まえた機器導入による社会参加の変化の総合的な評価

←減少したと感じる				増加したと感じる→			
-3	-2	-1	0	1	2	3	

7. 対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典:WHO-5 精神的健康状態表

最近2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください		いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったく
1	明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2	落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3	意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4	ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5	日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

(2) その他のQOLの変化（導入後調査の時点）

機器導入によるQOLの変化	
---------------	--

(3) (1)(2)を踏まえた機器導入によるQOL変化の総合的な評価

←悪化したと感じる				向上したと感じる→			
-3	-2	-1	0	1	2	3	

8. 対象利用者へのケアの変更

(1) 機器導入によるケア内容の変更

		全く思わない	あまり思わない	どちらとも言えない	思う	とても思う
1	機器導入により、利用者の状況が可視化できる	1	2	3	4	5
2	機器導入により、より適切なタイミングでケアが提供できる	1	2	3	4	5
3	機器導入により、より適切な内容のケアが提供できる	1	2	3	4	5
4	機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	1	2	3	4	5
5	機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	1	2	3	4	5
6	機器導入により、日中の生活が充実する	1	2	3	4	5

9. 対象利用者のご意見等

※可能な範囲で、機器導入に関する対象利用者のご意見等をご記入ください。

機器導入に関する 対象利用者のご意見等	
------------------------	--

利用者向け調査票は以上です。

(9) 訪室回数・排泄ケア記録調査票(事前・事後共通)

夜間見守り	訪室回数・排せつケア記録調査				施設ID 000	
月 日()	記入職員ID 000	利用者ID 000		リーダー確認欄		
※日付を忘れずに記入して下さい			※記載内容を確認し、漏れや不明等なければチェック			
	目的別の訪室回数 <small>※正の字で回数を記録する</small>		排せつ確認・対応の場合にはケアの内容についてご記入ください。			利用者の状況や、 気づいたことなどをメモ
	定時巡視 利用者の 離床 不穏な 動きの 確認 容態 変化	排せつ 確認・ 対応	排せつ時の状態・職員による排せつケアの内容 <small>※正の字で回数を記録する</small>			利用者の状況や、夜間の起きたし、転倒、 排せつに関するナースコール、その他気づいたこと (不穏な言動等)
			トイレ誘導			
			尿意 確認	自力で 排せつ	排せつなし (空振り)	おむつ・ パッド 確認
				おむつ・ パッド 交換	おむつ・ パッド 確認	尿器・カテー テル等での 排尿
					排せつなし (空振り)	
21:00~						
22:00~						
23:00~						
24:00~						
1:00~						
2:00~						
3:00~						
4:00~						
5:00~						
6:00~						

(10) 利用者数調査票(事前)

利用者のご状況

施設ID	施設名
000	

夜間見守り

■以下につきまして、実証対象のユニットもしくはフロアにおいて、事前調査の調査初日時点にてご回答ください。

【事前調査初日時点】

記入日	月	日
-----	---	---

	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	その他 (申請中等)
総利用者数	人	人	人	人	人	人
実証対象のユニット(フロア) の利用者数	人	人	人	人	人	人
うち、導入する介護ロボットを 使用予定の利用者数	人	人	人	人	人	人

(11) 利用者数調査票(事後)

利用者のご状況

施設ID	施設名
000	

夜間見守り

■以下につきまして、実証対象のユニットもしくはフロアにおいて、事後調査の調査初日時点にてご回答ください。

【事後調査初日時点】

記入日	月	日
-----	---	---

	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	その他 (申請中等)
総利用者数	人	人	人	人	人	人
実証対象のユニット(フロア) の利用者数	人	人	人	人	人	人
うち、導入する介護ロボットを 使用予定の利用者数	人	人	人	人	人	人

(2) 職員向けアンケート調査票(事前調査用)

①見守り×介護業務支援・事前調査	
施設ID	施設名

職員向け調査票 (職員各自が記入)

職員ID	記入日
	年 月 日

1. 職員概要

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代～
職種	1:介護福祉士 2:介護職員(介護福祉士以外) 3:看護職員 4:リハビリ職(機能訓練指導員を含む) 5:相談員 6:事務職員 7:その他()		
役職	1:経営層 2:管理者・リーダー 3:一般職 4:その他()		
現状の職種での経験年数	年	ヶ月	

2. 心理的負担評価 ※出典:心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

※ 裏面へ続く

3. 腰の状態について

※出典：疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度
(JLEQ：Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire)

※ この設問では、腰の痛みの程度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
2 この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
3 この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
4 この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
5 この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたか	1 思わなかった	2 たまに思った	3 ときどき思った
	4 しばしば思った	5 いつも思っていた	
6 この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	1 休まなかった	2 1-3日休んだ	3 半日以上休んだ
	4 半分程度休んだ	5 ほとんど休んだ	

4. 記録業務の課題

※ この設問では、日々の記録業務における課題についてお伺いします。それぞれ、あてはまるものに○をつけてください。

	全く ちがう	い くら か そ う だ	ま あ そ う だ	そ の 通 り だ
1 介護業務の合間や後に記録業務を行うことが負担である	0	1	2	3
2 介護業務の合間や後に記録業務を行うのに時間がかかる	0	1	2	3
3 介護業務の合間や後に記録業務を行うのに手間がかかる	0	1	2	3
4 介護業務の合間に記録のためのメモを取るのが手間である	0	1	2	3
5 介護業務の合間に記録のためのメモを取りにくいことがある	0	1	2	3
6 介護業務の合間に記録のためのメモを取り忘れることがある	0	1	2	3
7 介護業務の合間や後に記録のために業務内容を思い出すのが難しい	0	1	2	3
8 介護業務の合間や後に業務内容を正確に記録することが難しい	0	1	2	3
9 他の人の介護記録を理解しにくい場合がある	0	1	2	3

5. 見守り業務の課題

※ この設問では、日々の見守り業務における課題についてお伺いします。それぞれ、あてはまるものに○をつけてください。

	全く ちがう	い くら か そ う だ	ま あ そ う だ	そ の 通 り だ
1 定期巡回時の訪室が多く大変である	0	1	2	3
2 利用者が睡眠できているかわからない	0	1	2	3
3 訪室によって利用者の睡眠を妨げてしまう	0	1	2	3
4 心拍、呼吸等の容態の異変に気づきにくい	0	1	2	3
5 睡眠状況がわからないので、家族への報告が難しい	0	1	2	3

職員向け調査票は以上です。

(3) 職員向けアンケート調査票(事後調査用)

見守り×介護業務支援・事後調査用	
施設ID	施設名

職員向け調査票
(職員各自が記入)

職員ID	記入日
	年 月 日

1. 職員概要

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代 ・ 20歳代 ・ 30歳代 ・ 40歳代 ・ 50歳代 60歳代 ・ 70歳代～
職種	1:介護福祉士 2:介護職員(介護福祉士以外) 3:看護職員 4:リハビリ職(機能訓練指導員を含む) 5:相談員 6:事務職員 7:その他()		
役職	1:経営層 2:管理者・リーダー 3:一般職 4:その他()		
現状の職種での経験年数	年	ヶ月	

2. 心理的負担評価 ※出典:心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

3. 機器導入によるモチベーションの変化

※ この設問では、本実証で介護ロボットを導入する前後のモチベーションの変化についてお伺いします。

	←減少したと感じる				増加したと感じる→		
1 機器導入による、仕事のやりがいの変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 機器導入による、職場の活気の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

4. 機器導入による職員や施設業務の変化

※ この設問では、本実証で介護ロボットを導入する前後の施設業務等の変化についてお伺いします。

	← そう思わない		変化なし			→ そう思う →	
1 気持ちに余裕ができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 精神的負担(ストレスなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
4 利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	-3	-2	-1	0	1	2	3
5 訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	-3	-2	-1	0	1	2	3
6 利用者の行動パターンが把握できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
7 事故原因分析の参考情報にできる	-3	-2	-1	0	1	2	3
8 優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	-3	-2	-1	0	1	2	3
9 利用者のペースに合わせた介助ができる(予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	-3	-2	-1	0	1	2	3
10 休憩時間に休むことができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
11 必要以上に利用者を見に行くことになる	-3	-2	-1	0	1	2	3
12 走って訪室することが減る	-3	-2	-1	0	1	2	3
13 機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	-3	-2	-1	0	1	2	3
14 機器の初期設定・微調整が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
15 複数端末の携帯が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
16 自分の専門性を発揮する時間が確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
17 利用者により良いケアが提供できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
18 教育をする(教育をうける)時間を確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3

5. 【導入後調査で回答】導入機器の満足度評価 ※出典:QUEST 福祉用具満足度評価

※ この設問では、本実証で導入した介護ロボットについてお伺いします。

	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している
1 その福祉用具の大きさ(サイズ、高さ、長さ、幅)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
2 その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
3 その福祉用具の調節しやすさ(部品の取り付け方法や部品の調整方法)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
4 その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
5 その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
6 その福祉用具の使いやすさ(簡単に使えるかどうか)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
7 その福祉用具の使い心地の良さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
8 その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
9 その福祉用具の取得手続きと期間(手に入れるまでの手続きや期間)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
10 その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
11 その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
12 その福祉用具のアフターサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5

13 今後、今回導入した介護ロボットを継続して利用したいですか？	1 はい →6.へ	2 いいえ →14へ
14 (13にていいえの方のみご回答ください) 継続して利用したいと思わない理由は何ですか？該当する項目の番号を○で囲ってください。(複数回答可)		
1 使用上の効果が実感できなかった		
2 コストが高すぎる		
3 他の介護ロボットも検討してみたい		
4 必要とする利用者がいない		
5 介護ロボットを使いこなせる気がしなかった		
6 介護ロボットを設置するスペースを十分に確保できない		
7 人間による介助のほうが利用者にとって良いと感じた		
8 他に解決すべき課題があり、今回導入した介護ロボット導入の優先順位は低い		
9 導入のためのオペレーション変更等準備に時間がかかりすぎる		
10 その他 (自由記述: _____)		

6. 腰の状態について ※出典: 疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度 (JLEQ: Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire)

※ この設問では、腰の痛みの程度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	導入後				
	1	2	3	4	5
1 この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い	4 かなり痛い	5 ひどく痛い
2 この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い	4 かなり痛い	5 ひどく痛い
3 この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい	4 かなりつらい	5 ひどくつらい
4 この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい	4 かなりつらい	5 ひどくつらい
5 この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたが	1 思わなかった	2 たまに思った	3 ときどき思った	4 しばしば思った	5 いつも思っていた
6 この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	1 休まなかった	2 1-3日休んだ	3 半日以上休んだ	4 半分程度休んだ	5 ほとんど休んだ

7. 業務時間の変化

※ この設問では、介護業務支援の導入による記録業務の改善で確保できた時間を、どの業務に活用したかについてお伺いします。介護業務支援機器の導入後に、既存の記録業務の時間に行った業務について、あてはまるものすべてに○をつけて、既存の記録業務の時間のうち、それぞれの業務に使った時間の割合を合計100%になるようにご回答ください。

	行った業務	割合
1 移動・移乗・体位変換		
2 排泄介助・支援		
3 日常生活自立支援(※2)		
4 行動上の問題への対応(※3)		
5 食事支援		
6 入浴・整容・更衣		
7 利用者とのコミュニケーション		
8 機能訓練・リハビリテーション・医療的処置		
9 その他の直接介護(レクリエーション等)		
10 巡回・移動		
11 記録・文書作成・連絡調整等(※4)		
12 利用者へのアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し		
13 見守り機器の使用・確認		
14 介護ロボット・ICT機器の準備・調整・片付け(※5)		
15 他の職員に対する指導・教育(※6)		
16 食事・おやつに関連する準備・片付け等		
17 その他の間接業務(※7)		
18 休憩・待機		
19 その他		

※2 入眠起床支援、訴えの把握、日常生活の支援
 ※3 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等
 ※4 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等
 ※5 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、片付け作業等
 ※6 ケアの内容や方法に関する指導、OJT等
 ※7 レクリエーションの準備等

8. 貴施設への機器導入前後における業務オペレーション等の変化

※ この設問では、貴施設に介護ロボットを導入する前後の業務オペレーションの変化についてお伺いします。
それぞれ、あてはまるものに○をつけてください（本実証以前に導入した介護ロボットも含めてお答えください）。

	全くちがう	いくらかそう うだ	まあそうだ	その通りだ
1 機器導入前のオペレーションに戻すことで、職員の身体的負担が増える	0	1	2	3
2 機器導入前のオペレーションに戻すことで、職員の精神的負担が増える	0	1	2	3
3 機器導入前のオペレーションに戻すことで、ケアの質が低下する	0	1	2	3

9. 機器の組み合わせによる効果

機器導入の効果（見守り機器を新規・追加導入した場合）

	全くちがう	いくらか そうだ	まあ そうだ	その通り だ	見守り機 器を新 規・追 加導 入して いない 場合
1 定期巡回時の訪室回数が減った	0	1	2	3	—
2 入居者の睡眠に関する情報がわかりやすくなった	0	1	2	3	—
3 訪室回数の減少によって入居者の睡眠を妨げることが減った	0	1	2	3	—
4 睡眠状況等を家族への状況報告に活用できた	0	1	2	3	—
5 心拍数、呼吸数等から異変に気づきやすくなった	0	1	2	3	—
6 移乗ニーズを速やかに把握できるようになった	0	1	2	3	—
7 生活リズムが把握しやすくなった	0	1	2	3	—

機器導入の効果（介護業務支援機器を新規導入した場合）

	全くちがう	いくらか そうだ	まあ そうだ	その通り だ	介護業務 支援機 器を 新規 導入 して いな い 場 合
1 介護業務の合間や後に記録業務を行う負担が削減された	0	1	2	3	—
2 介護業務の合間や後に記録業務を行う時間が削減された	0	1	2	3	—
3 介護業務の合間や後に記録業務を行う手間が削減された	0	1	2	3	—
4 介護業務の合間に記録のためのメモを取る手間が削減された	0	1	2	3	—
5 介護業務を行いながら記録をとることで、業務内容を正確に記録できるようになった	0	1	2	3	—
6 他の人の介護記録を理解しやすくなった	0	1	2	3	—

見守り機器と介護業務支援機器を連携した場合の効果

※全職員がご回答ください。

	全くちがう	いくらか そうだ	まあ そうだ	その通り だ
1 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、介護業務の合間や後に記録業務を行う負担が削減された	0	1	2	3
2 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、介護業務の合間や後に記録業務を行う時間が削減された	0	1	2	3
3 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、介護業務の合間や後に記録業務を行う手間が削減された	0	1	2	3
4 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、介護業務の合間に記録のためのメモを取る手間が削減された	0	1	2	3
5 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、従来記録できなかった項目が記録できるようになった	0	1	2	3
6 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、従来より頻繁に記録が残るようになった	0	1	2	3
7 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、記録の正確性が向上された	0	1	2	3
8 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、ヒヤリ・ハットが起こった時間が正確に記録できるようになった	0	1	2	3
9 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、記録の漏れが少なくなった	0	1	2	3

職員向け調査票は以上です。

(4) 利用者向けアンケート調査票(事前調査用)

①見守り×介護業務支援・事前調査		利用者向け調査票 (職員が記入)		利用者ID	記入日
施設ID	施設名				年 月 日

1.【導入前調査にて回答】対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
機器導入の目的・目標(複数選択可)	1: 職員の負担軽減 2: 利用者の転倒・転落リスクの軽減 3: 入眠状況の把握 4: 夜間帯の行動の把握 5: 利用者の起き上がりや離床の把握 6: その他()		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		

2.【導入前調査で回答】対象利用者におけるADLの変化

(1)【導入前の状態について回答】ADLの変化(Barthel Index)の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		導入前評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	10	10
	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	5	5
	全介助	0	0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	15	15
	軽度の部分介助または監視を要する	10	10
	座ることは可能であるがほぼ全介助	5	5
	全介助または不可能	0	0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	5	5
	部分介助または不可能	0	0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む	10	10
	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	5	5
	全介助または不可能	0	0
5 入浴	自立	5	5
	部分介助または不可能	0	0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない	15	15
	45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	10	10
	歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能	5	5
	上記以外	0	0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	10	10
	介助または監視を要する	5	5
	不能	0	0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	10	10
	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	5	5
	上記以外	0	0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	10	10
	ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	10	10
	時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
合計(100点満点)			

3. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度
機器導入前にて、いずれかのランクに○をしてください。

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	導入前 (いずれかに○)
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
	IIa 家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
	IIb 家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
	IIIa 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
	IIIb 夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIIIaに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD)3)

【導入前調査の過去1週間】	まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
1 同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2 よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3 日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4 特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5 特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6 昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7 やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8 同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9 口汚くののしる	0	1	2	3	4
10 場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11 世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12 明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13 引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

4. 【導入前、導入後調査で回答】利用者への心理的な影響 ※出典：意欲の指標 (Vitality index)

機器を使う前の対象者の意欲について、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		導入前
1)起床 薬剤の影響(睡眠薬など)を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさない起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2)意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3)食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしな	0
4)排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5)リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典：WHO-5 精神的健康状態表

最近2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください	いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1 明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3 意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4 ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

利用者向け調査票は以上です。

(5) 利用者向けアンケート調査票(事後調査用)

①見守り×介護業務支援・事後調査用		利用者向け調査票	
施設ID	施設名	(職員が記入)	利用者ID
			記入日
			年 月 日

1. 対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
機器導入の目的・目標(複数選択可)	1: 職員の負担軽減 2: 利用者の転倒・転落リスクの軽減 3: 入眠状況の把握 4: 夜間帯の行動の把握 5: 利用者の起き上がりや離床の把握 6: その他()		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		

2. 対象利用者におけるADLの変化

(1)【導入後の状態について回答】ADLの変化(Bartel Index)の得点
各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		導入後評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	10	10
	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	5	5
	全介助	0	0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	15	15
	軽度の部分介助または監視を要する	10	10
	座ることは可能であるがほぼ全介助	5	5
	全介助または不可能	0	0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	5	5
	部分介助または不可能	0	0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む	10	10
	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	5	5
	全介助または不可能	0	0
5 入浴	自立	5	5
	部分介助または不可能	0	0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない	15	15
	45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	10	10
	歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能	5	5
	上記以外	0	0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	10	10
	介助または監視を要する	5	5
	不能	0	0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱も含む	10	10
	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	5	5
	上記以外	0	0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	10	10
	ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	10	10
	時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
合計(100点満点)			

3. 対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度
機器導入後にて、いずれかのランクに○をしてください。

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	導入後 (いずれかに○)
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
IIa	家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
IIb	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりでは留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
IIIa	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
IIIb	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIIIaに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD)3

【導入後調査の過去1週間】		まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
1	同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2	よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3	日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4	特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5	特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6	昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7	やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8	同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9	口汚くののしる	0	1	2	3	4
10	場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11	世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12	明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13	引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

(3) その他の認知機能の変化(導入後調査の時点)

機器導入による 認知機能の変化	
--------------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた機器導入による認知機能変化の総合的な評価

←悪化したと感じる							向上したと感じる→	
-3	-2	-1	0	1	2	3		

4. 利用者への心理的な影響 ※出典:意欲の指標 (Vitality index)

今回導入した見守り機器を利用することによって、対象者の意欲がどの程度変化したか、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		導入後
1) 起床 薬剤の影響(睡眠薬など)を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさないで起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2) 意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3) 食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしていない	0
4) 排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5) リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5. 対象利用者におけるコミュニケーションの変化

(1) 機器導入によるコミュニケーションの変化

	←減少したと感ずる					増加したと感ずる→	
1 利用者の発語量の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 利用者の表情の変化(笑顔になる頻度等)	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) その他のコミュニケーションの変化(導入後調査の時点)

機器導入による コミュニケーションの変化	
-------------------------	--

(3) (1)(2)を踏まえた機器導入によるコミュニケーション変化の総合的な評価

←減少したと感ずる					増加したと感ずる→		
-3	-2	-1	0	1	2	3	

6. 対象利用者における社会参加の変化

(1) 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

	←減少したと感ずる					増加したと感ずる→	
1 利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

	←減少したと感ずる					増加したと感ずる→	
1 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(3) その他の社会参加の変化(導入後調査の時点)

機器導入による 社会参加の変化	
--------------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた機器導入による社会参加の変化の総合的な評価

←減少したと感ずる					増加したと感ずる→		
-3	-2	-1	0	1	2	3	

7. 対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典:WHO-5 精神的健康状態表

最近2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください		いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1	明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2	落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3	意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4	ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5	日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

(2) その他のQOLの変化 (導入後調査の時点)

機器導入によるQOLの変化	
---------------	--

(3) (1) (2) を踏まえた機器導入によるQOL変化の総合的な評価

←悪化したと感じる	向上したと感じる→
-3 -2 -1 0 1 2 3	

8. 対象利用者へのケアの変更

(1) 機器導入によるケア内容の変更

		全く思わない	あまり思わない	どちらとも言えない	思う	とても思う
1	機器導入により、利用者の状況が可視化できる	1	2	3	4	5
2	機器導入により、より適切なタイミングでケアが提供できる	1	2	3	4	5
3	機器導入により、より適切な内容のケアが提供できる	1	2	3	4	5
4	機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	1	2	3	4	5
5	機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	1	2	3	4	5
6	機器導入により、日中の生活が充実する	1	2	3	4	5

9. 対象利用者のご意見等

※可能な範囲で、機器導入に関する対象利用者のご意見等をご記入ください。

機器導入に関する対象利用者のご意見等	
--------------------	--

利用者向け調査票は以上です。

(6) 訪室回数記録調査票(事前・事後調査共通)

①見守り×介護業務支援 **訪室回数記録調査** 施設ID

月 日() 記入職員ID 利用者ID リーダー確認欄

※記載内容を確認し、誤れや不明等があればチェック

	目的別の訪室回数 ※正の字で回数を記録する					利用者の状況や、気づいたことなどをメモ
	定時巡視	利用者の離床	不穏な動きの確認	容態変化	排せつの確認・対応	利用者の状況や、夜間の起きだし、転倒、排せつに関するナースコール、その他気づいたこと(不穏な言動等)
7:00～						
8:00～						
9:00～						
10:00～						
11:00～						
12:00～						
13:00～						
14:00～						
15:00～						
16:00～						
17:00～						
18:00～						
19:00～						
20:00～						
21:00～						
22:00～						
23:00～						
24:00～						
1:00～						
2:00～						
3:00～						
4:00～						
5:00～						
6:00～						

3. パッケージ:排泄支援×介護業務支援

(1) 職員向けタイムスタディ調査票(事前・事後調査共通)

職員向けタイムスタディ調査票

介護支援×介護業務支援

施設名	田山カトリックホーム	施設種別	介護老人保健施設	調査実施時期	～
施設ID	施設コード	月	日	曜日	～
調査実施日				実施担当者 (姓・名・所属)	

※10分単位で5. 業務上の業務について、その時間数 (曜日) を記入して下さい。記載は参考値です。
記載例: 15. 巡回・移動・休憩・休憩(15分) 洗面(15分)

NO	S.S.	V.A.	項目	時台																															
				00	05	10	15	20	25	30	00	05	10	15	20	25	30	00	05	10	15	20	25	30	00	05	10	15	20	25	30				
5	5分	10分	15分	20分	25分	30分	35分	40分	45分	50分	55分	00分	05分	10分	15分	20分	25分	30分	35分	40分	45分	50分	55分	00分	05分	10分	15分	20分	25分	30分	35分	40分	45分	50分	55分
6	5分	10分	15分	20分	25分	30分	35分	40分	45分	50分	55分	00分	05分	10分	15分	20分	25分	30分	35分	40分	45分	50分	55分	00分	05分	10分	15分	20分	25分	30分	35分	40分	45分	50分	55分
A																																			
B																																			
C																																			
D																																			
E																																			
F																																			
G																																			
H																																			
I																																			
J																																			
K																																			
L																																			
M																																			
N																																			
O																																			
P																																			
Q																																			
R																																			
S																																			
T																																			
U																																			
V																																			
W																																			
X																																			
Y																																			
Z																																			

※1 勤務の予定、セグメント、区別の確認、修正し、声かけ作業

※2 ケアの得意分野に関する数値、OT等

※3 レジリエーションの確保等

(2) 職員向けアンケート調査票(事前調査用)

②排泄支援×介護業務支援・事前調査用

職員向け調査票

(職員各自が記入)

施設ID	施設名

職員ID	記入日
	年 月 日

1. 職員概要

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代 ・ 20歳代 ・ 30歳代 ・ 40歳代 ・ 50歳代 ・ 60歳代 ・ 70歳代～
職種	1:介護福祉士 2:介護職員(介護福祉士以外) 3:看護職員 4:リハビリ職(機能訓練指導員を含む) 5:相談員 6:事務職員 7:その他()		
役職	1:経営層 2:管理者・リーダー 3:一般職 4:その他()		
現状の職種での経験年数	年 ヶ月		

2. 心理的負担評価 ※出典:心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いづらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

※ 裏面へ続く

3. 腰の状態について

※出典：疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度
(JLEQ：Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire)

※ この設問では、腰の痛みの程度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
2 この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
3 この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
4 この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
5 この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたか	1 思わなかった	2 たまに思った	3 ときどき思った
	4 しばしば思った	5 いつも思っていた	
6 この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	1 休まなかった	2 1-3日休んだ	3 半日以上休んだ
	4 半分程度休んだ	5 ほとんど休んだ	

4. 記録業務の課題

※ この設問では、日々の記録業務における課題についてお伺いします。それぞれ、あてはまるものに○をつけてください。

	全く ちがう	いづらか そうだ	まあ そうだ	その 通りだ
1 介護業務の合間や後に記録業務を行うことが負担である	0	1	2	3
2 介護業務の合間や後に記録業務を行うのに時間がかかる	0	1	2	3
3 介護業務の合間や後に記録業務を行うのに手間がかかる	0	1	2	3
4 介護業務の合間に記録のためのメモを取るのが手間である	0	1	2	3
5 介護業務の合間に記録のためのメモを取りにくいことがある	0	1	2	3
6 介護業務の合間に記録のためのメモを取り忘れることがある	0	1	2	3
7 介護業務の合間や後に記録のために業務内容を思い出すのが難しい	0	1	2	3
8 介護業務の合間や後に業務内容を正確に記録することが難しい	0	1	2	3
9 他の人の介護記録を理解しにくい場合がある	0	1	2	3

職員向け調査票は以上です。

(3) 職員向けアンケート調査票(事後調査用)

②排泄支援×介護業務支援・事後調査用

職員向け調査票

(職員各自が記入)

施設ID	施設名

職員ID	記入日
	年 月 日

1. 職員概要

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代 60歳代・70歳代～
職種	1:介護福祉士 5:相談員	2:介護職員(介護福祉士以外) 6:事務職員	3:看護職員 7:その他()
役職	1:経営層	2:管理者・リーダー	3:一般職 4:その他()
現在の職種 での経験年数	年	ヶ月	

2. 心理的負担評価 ※出典:心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

3. 機器導入によるモチベーションの変化

※ この設問では、本実証で介護ロボットを導入する前後のモチベーションの変化についてお伺いします。

	←減少したと感じる					増加したと感じる→	
1 機器導入による、仕事のやりがいの変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 機器導入による、職場の活気の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

4. 機器導入による職員や施設業務の変化

※ この設問では、本実証で介護ロボットを導入する前後の施設業務等の変化についてお伺いします。

	←そう思わない		変化なし			→そう思う→	
1 気持ちに余裕ができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 精神的負担(ストレスなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
4 利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	-3	-2	-1	0	1	2	3
5 訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	-3	-2	-1	0	1	2	3
6 利用者の行動パターンが把握できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
7 事故原因分析の参考情報にできる	-3	-2	-1	0	1	2	3
8 優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	-3	-2	-1	0	1	2	3
9 利用者のペースに合わせた介助ができる(予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	-3	-2	-1	0	1	2	3
10 休憩時間に休むことができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
11 必要以上に利用者を見に行くことになる	-3	-2	-1	0	1	2	3
12 走って訪室することが減る	-3	-2	-1	0	1	2	3
13 機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	-3	-2	-1	0	1	2	3
14 機器の初期設定・微調整が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
15 複数端末の携帯が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
16 自分の専門性を発揮する時間が確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
17 利用者により良いケアが提供できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
18 教育をする(教育をうける)時間を確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3

5. 【導入後調査で回答】導入機器の満足度評価 ※出典:QUEST 福祉用具満足度評価

※ この設問では、本実証で導入した介護ロボットについてお伺いします。

	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している
1 その福祉用具の大きさ(サイズ、高さ、長さ、幅)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
2 その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
3 その福祉用具の調節しやすさ(部品の取り付け方法や部品の調整方法)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
4 その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
5 その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
6 その福祉用具の使いやすさ(簡単に使えるかどうか)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
7 その福祉用具の使い心地の良さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
8 その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
9 その福祉用具の取得手続きと期間(手に入れるまでの手続きや期間)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
10 その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
11 その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
12 その福祉用具のアフターサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
13 今後、今回導入した介護ロボットを継続して利用したいですか?	1 はい →6.へ		2 いいえ →14へ		
14 (13にていいえの方のみご回答ください) 継続して利用したいと思わない理由は何ですか?該当する項目の番号を○で囲ってください。(複数回答可)					
1 使用上の効果が実感できなかった					
2 コストが高すぎる					
3 他の介護ロボットも検討してみたい					
4 必要とする利用者がいない					
5 介護ロボットを使いこなせる気がしなかった					
6 介護ロボットを設置するスペースを十分に確保できない					
7 人間による介助のほうが利用者にとって良いと感じた					
8 他に解決すべき課題があり、今回導入した介護ロボット導入の優先順位は低い					
9 導入のためのオペレーション変更等準備に時間がかかりすぎる					
10 その他(自由記述:)					

6. 腰の状態について

※出典：疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度
(JLEQ : Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire)

※ この設問では、腰の痛みの程度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	導入後		
	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
1 この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
2 この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
3 この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
4 この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
5 この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたか	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
6 この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
	1 思わなかった	2 たまに思った	3 ときどき思った
	4 しばしば思った	5 いつも思っていた	
	1 休まなかった	2 1-3日休んだ	3 半日以上休んだ
	4 半分程度休んだ	5 ほとんど休んだ	

7. 記録業務の質の向上

※ この設問では、日々の記録業務における課題についてお伺いします。それぞれ、あてはまるものに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそ うだ	まあそうだ	その通りだ
1 介護業務の合間や後に記録業務を行う負担が削減された	0	1	2	3
2 介護業務の合間や後に記録業務を行う時間が削減された	0	1	2	3
3 介護業務の合間や後に記録業務を行う手間が削減された	0	1	2	3
4 介護業務の合間に記録のためのメモを取る手間が削減された	0	1	2	3
5 介護業務を行いながら記録をとることで、業務内容を正確に記録できるようになった	0	1	2	3
6 他の人の介護記録を理解しやすくなった	0	1	2	3

8. 業務時間の変化

※ この設問では、介護業務支援の導入による記録業務の改善で確保できた時間を、どの業務に活用したかについてお伺いします。介護業務支援機器の導入後に、既存の記録業務の時間に行った業務について、あてはまるものすべてに○をつけて、既存の記録業務の時間のうち、それぞれの業務に使った時間の割合を合計100%になるようにご回答ください。

	行った業務	割合
1 移動・移乗・体位変換		
2-1 排泄介助・支援(トイレ誘導後、利用者の排泄中に外で待機する時間)		
2-2 排泄介助・支援(上記以外)		
3 日常生活自立支援(※1)		
4 行動上の問題への対応(※2)		
5 食事支援		
6 入浴・整容・更衣		
7 利用者とのコミュニケーション		
8 機能訓練・リハビリテーション・医療的処置		
9 その他の直接介護(日常生活支援、レクリエーション等)		
10 巡回・移動		
11 記録・文書作成・連絡調整等(※3)		
12 利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し		
13 介護ロボット・ICT機器の準備・調整・片付け(※4)		
14 他の職員に対する指導・教育(※5)		
15 食事・おやつに関連する準備・片付け等		
16 その他の間接業務(※6)		
17 休憩・待機		
18 その他		

- ※1 入眠起床支援、訴えの把握、日常生活の支援
- ※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等
- ※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、職員間の連絡調整、文書検索等
- ※4 機器の充電、セッティング、設定の確認・見直し、片付け作業等
- ※5 ケアの内容や方法に関する指導、OJT等
- ※6 レクリエーションの準備等

9. 貴施設への機器導入前後における業務オペレーション等の変化

※ この設問では、貴施設に介護ロボットを導入する前後の業務オペレーションの変化についてお伺いします。
それぞれ、あてはまるものに○をつけてください（本実証以前に導入した介護ロボットも含めてお答えください）。

	全くちがう	いくらかそう うだ	まあそうだ	その通りだ
1 機器導入前のオペレーションに戻すことで、職員の身体的負担が増える	0	1	2	3
2 機器導入前のオペレーションに戻すことで、職員の精神的負担が増える	0	1	2	3
3 機器導入前のオペレーションに戻すことで、ケアの質が低下する	0	1	2	3

10. 機器の組み合わせによる効果

※ この設問では、機器の組み合わせによる効果についてお伺いします。
それぞれ、あてはまるものに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそう うだ	まあそうだ	その通りだ
1 排泄検知機器からの排泄検知内容が介護記録へ自動で転記された	0	1	2	3
2 排泄検知機器から介護記録に自動で排泄検知内容が反映されたことで、介護業務の合間や後に記録業務を行う記録の負担が削減された	0	1	2	3
3 排泄検知機器から介護記録に自動で排泄検知内容が反映されたことで、介護業務の合間や後に記録業務を行う記録の時間が削減された	0	1	2	3
4 排泄検知機器から介護記録に自動で排泄検知内容が反映されたことで、介護業務の合間や後に記録業務を行う記録の手間が削減された	0	1	2	3
5 排泄検知機器から介護記録に自動で排泄検知内容が反映されたことで、介護業務の合間に記録のためのメモを取る手間が削減された	0	1	2	3
6 排泄検知機器から介護記録に自動で排泄検知内容が反映されたことで、従来記録できなかった項目が記録できるようになった	0	1	2	3
7 排泄検知機器から介護記録に自動で排泄検知内容が反映されたことで、排泄ケア記録の正確性が向上した	0	1	2	3
8 排泄検知機器から介護記録に自動で排泄検知内容が反映されたことで、排泄ケア記録の漏れが少なくなった	0	1	2	3

機器導入の効果（見守り機器導入前のオペレーションを実施した施設の場合のみ）

	全くちがう	いくらか そうだ	まあそう だ	その通り だ	見守り機 器を新 規・追加 導入して いない場 合
1 定期巡回時の訪室回数が減った	0	1	2	3	—
2 入居者の睡眠に関する情報がわかりやすくなった	0	1	2	3	—
3 訪室回数の減少によって入居者の睡眠を妨げることが減った	0	1	2	3	—
4 睡眠状況等を家族への状況報告に活用できた	0	1	2	3	—
5 心拍数、呼吸数等から異変に気づきやすくなった	0	1	2	3	—
6 移乗ニーズを速やかに把握できるようになった	0	1	2	3	—
7 生活リズムが把握しやすくなった	0	1	2	3	—
8 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、介護業務の合間や後に記録業務を行う負担が削減された	0	1	2	3	—
9 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、介護業務の合間や後に記録業務を行う時間が削減された	0	1	2	3	—
10 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、介護業務の合間や後に記録業務を行う手間が削減された	0	1	2	3	—
11 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、介護業務の合間に記録のためのメモを取る手間が削減された	0	1	2	3	—
12 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、従来記録できなかった項目が記録できるようになった	0	1	2	3	—
13 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、従来より頻繁に記録が残るようになった	0	1	2	3	—
14 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、記録の正確性が向上された	0	1	2	3	—
15 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、ヒヤリ・ハットが起こった時間が正確に記録できるようになった	0	1	2	3	—
16 見守り機器から介護支援機器に自動で通知内容が反映されたことで、記録の漏れが少なくなった	0	1	2	3	—

職員向け調査票は以上です。

(4) 利用者向けアンケート調査票(事前調査用)

②排泄支援×介護業務支援 事前調査用		利用者向け調査票 (職員が記入)		利用者ID	記入日
施設ID	施設名				年 月 日

1.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		
機器導入前の排泄支援	おむつ利用 ⇒ 1: 終日 2: 夜間のみ 3: その他() ※1日の平均的なオムツ利用枚数()枚 トイレ誘導・介助にて排泄 ⇒ 4: 終日 5: 夜間はポータブルトイレ 6: その他()		
機器導入の目的・目標 (複数選択可)	1: 職員の負担軽減 2: 利用者の転倒・転落リスクの軽減 3: 利用者の排泄の自立 4: 利用者の排泄パターンの把握 5: 褥瘡予防(改善) 6: その他()		

2.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるADLの変化

(1) ADLの変化(Barthel Index)の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	10	10
	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	5	5
	全介助	0	0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	15	15
	軽度の部分介助または監視を要する	10	10
	座ることは可能であるがほぼ全介助 全介助または不可能	5 0	5 0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	5	5
	部分介助または不可能	0	0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む	10	10
	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	5	5
	全介助または不可能	0	0
5 入浴	自立	5	5
	部分介助または不可能	0	0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない	15	15
	45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	10	10
	歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能	5	5
	上記以外	0	0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	10	10
	介助または監視を要する	5	5
	不能	0	0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	10	10
	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	5	5
	上記以外	0	0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	10	10
	ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	10	10
	時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
合計(100点満点)			

3.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	あてはまる ランク いずれかに○
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
	II a 家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
	II b 家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
	III a 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
	III b 夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIII aに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度 (Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD13)

【調査日から過去1週間】		まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
1	同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2	よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3	日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4	特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5	特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6	昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7	やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8	同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9	口汚くののしる	0	1	2	3	4
10	場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11	世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12	明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13	引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

4.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】利用者への心理的な影響の変化 ※出典：意欲の指標（Vitality index）

対象者の意欲について、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		調査時
1)起床 薬剤の影響（睡眠薬など）を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさないと起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2)意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3)食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしていない	0
4)排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5)リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典：WHO-5 精神的健康状態表

調査日から過去2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください		いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1	明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2	落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3	意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4	ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5	日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

6.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】排泄行動について

(1) 排泄行動に係るICFの評価

右の0~4, または8, 9を、以下の評価点の欄にそれぞれ記入してください	0:機能障害なし	1:軽度の機能障害	2:中等度の機能障害
	3:重度の機能障害	4:完全な機能障害	8:詳細不明 9:非該当

		導入前評価
b610	尿排泄機能(尿を濾過し集尿する機能。畜尿機能等)	点
b620	排尿機能(膀胱から尿を排出する機能。失禁等)	点

(2) 排泄行動のプロセス

※出典:排泄ケアナビ

項目ごとに、「できること:○」、「できないのにしていないこと:△」、「できないこと:x」を記入してください。
 あてはまらない項目は空欄にしてください。(例:「自力で起き上がれる」が○の場合、「介助があれば起き上がれる」は空欄)

排泄のプロセス	行動	チェック	No.
尿意・便意の知覚	尿意(便意)を感じることができる		1
	尿意(便意)と排泄を結びつけて自覚できる		2
	尿意(便意)を伝達できる		3
	排泄をある程度我慢できる		4
トイレ(ポータブルトイレ)への移動	自力でベッド上で起き上がれる		5
	自力でベッドまたは椅子に座れる		6
	自力でベッドまたは椅子から立ち上がれる		7
	自力で歩ける(杖などの補助器具の使用も含む)		8
	車椅子を使って自力で移動できる		9
	自力でトイレの扉を開け、入ることができる		10
	介助があればベッド上で起き上がれる		11
	介助があればベッドまたは椅子に座れる		12
	介助があればベッドまたは椅子から立ち上がれる		13
	介助があれば歩ける		14
	介助があれば車椅子を使って移動できる		15
	介助があればトイレの扉を開け、入ることができる		16
排泄準備・排泄	トイレの場所や、トイレまでの道順がわかる		17
	排泄はトイレですするという意識がある		18
	便座を確認できる		19
	自力で便座に座り、立ち上がることができる		20
	自力でズボンや下着を上げ下げできる		21
あとしまつ	介助があれば便座に座り、立ち上がることができる		22
	介助があればズボンや下着を上げ下げできる		23
	自力で排泄後、排水レバーを操作できる		24
	自力でトイレトーパーで陰部を拭ける		25
	自力で手を洗うことができる		26
	介助があれば排泄後、排水レバーを操作できる		27
	介助があればトイレトーパーで陰部を拭ける		28
	介助があれば手を洗うことができる		29

(3) 普段の排泄状況

下記の項目の内、あてはまるものに○をつけてください。

普段の排泄状況	自力または介助があればトイレで排泄ができる	
	ベッド上でおむつ、または尿瓶を使用して排泄している	
	カテーテルを使用して排泄している	

(4) 離床時間

1日の平均離床時間	時間
-----------	----

7. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】排泄ケアの記録について

(1) 排泄ケアの記録状況について

現在の排泄ケアの記録状況についてあてはまるものに○をつけてください。	0:記録できていない 1:利用者への聞き取りにより記録 2:利用者の排泄ケアを実施したときのみ記録 3:その他()
------------------------------------	---

(2) 排泄ケアの記録方法について

現在の排泄ケアの記録方法について、あてはまるものに○をつけてください。	0:記録できていない 1:紙で施設の様式に記録 2:スマホやタブレットを用いて、施設の様式に記録 3:スマホやタブレットを用いて、介護ソフトに直接記録 4:紙で施設の様式に記録しその後介護ソフトに転記 5:スマホやタブレットを用いて、施設の様式に記録しその後介護ソフトに転記 6:その他()
-------------------------------------	--

以上です。ご回答ありがとうございました。

(5) 利用者向けアンケート調査票(事後調査用)

②排泄支援×介護業務支援 事後調査		利用者向け調査票		
施設ID	施設名	(職員が記入)	利用者ID	記入日
				年 月 日

1. 対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		
機器導入後の排泄支援	おむつ利用 ⇒ 1: 終日 2: 夜間のみ 3: その他() ※1日の平均的なオムツ利用枚数()枚 トイレ誘導・介助にて排泄 ⇒ 4: 終日 5: 夜間はポータブルトイレ 6: その他()		

2. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるADLの変化

(1) 【導入後の状態について回答】ADLの変化 (Barthel Index) の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		導入後評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	10	10
	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	5	5
	全介助	0	0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	15	15
	軽度の部分介助または監視を要する	10	10
	座ることは可能であるがほぼ全介助	5	5
	全介助または不可能	0	0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	5	5
	部分介助または不可能	0	0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む	10	10
	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	5	5
	全介助または不可能	0	0
5 入浴	自立	5	5
	部分介助または不可能	0	0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない	15	15
	45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	10	10
	歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能	5	5
	上記以外	0	0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	10	10
	介助または監視を要する	5	5
	不能	0	0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	10	10
	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	5	5
	上記以外	0	0
9 排便コントロール	失禁なし、洗腸、坐薬の取り扱いも可能	10	10
	ときに失禁あり、洗腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	10	10
	時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
合計(100点満点)			

3.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度
機器導入後にて、いずれかのランクに○をしてください。

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	導入後 (いずれかに○)
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にはほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
	II a 家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりて留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
	III a 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
III b	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIII aに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD)3

【導入後調査の過去1週間】		まったく ない	ほとんど ない	ときどき ある	よくある	常にある
1	同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2	よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3	日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4	特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5	特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6	昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7	やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8	同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9	口汚くののしる	0	1	2	3	4
10	場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11	世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12	明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13	引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

(3) その他の認知機能の変化(導入後調査の時点)

機器導入による 認知機能の変化	
--------------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた機器導入による認知機能変化の総合的な評価

←悪化したと感じる							向上したと感じる→	
-3	-2	-1	0	1	2	3		

4.【導入後調査で回答】利用者への心理的な影響 ※出典：意欲の指標（Vitality index）

今回導入した機器を利用することによって、対象者の意欲がどの程度変化したか、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		導入後
1) 起床 薬剤の影響（睡眠薬など）を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさないで起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2) 意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3) 食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしな	0
4) 排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5) リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5.【導入後調査で回答】対象利用者におけるコミュニケーションの変化

(1) 機器導入によるコミュニケーションの変化

	←減少したと感じる					増加したと感じる→	
1 利用者の発語量の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 利用者の表情の変化(笑顔になる頻度等)	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) その他のコミュニケーションの変化(導入後調査の時点)

機器導入による コミュニケーションの変化	
-------------------------	--

(3) (1) (2)を踏まえた機器導入によるコミュニケーション変化の総合的な評価

←減少したと感じる					増加したと感じる→		
-3	-2	-1	0	1	2	3	

6.【導入後調査で回答】対象利用者における社会参加の変化

(1) 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

	←減少したと感じる					増加したと感じる→	
1 利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

	←減少したと感じる					増加したと感じる→	
1 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(3) その他の社会参加の変化(導入後調査の時点)

機器導入による 社会参加の変化	
--------------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた機器導入による社会参加の変化の総合的な評価

←減少したと感じる					増加したと感じる→		
-3	-2	-1	0	1	2	3	

7.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典:WHO-5 精神的健康状態表

最近2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください		いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1	明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2	落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3	意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4	ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5	日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

(2) その他のQOLの変化(導入後調査の時点)

機器導入によるQOLの変化	
---------------	--

(3) (1)(2)を踏まえた機器導入によるQOL変化の総合的な評価

←悪化したと感じる							向上したと感じる→	
-3	-2	-1	0	1	2	3		

8.【導入後調査で回答】対象利用者へのケアの変更

(1) 機器導入によるケア内容の変更

	全く思わない	あまり思わない	どちらとも言えない	思う	とても思う	
1	機器導入により、利用者の状況が可視化できる	1	2	3	4	5
2	機器導入により、より適切なタイミングでケアが提供できる	1	2	3	4	5
3	機器導入により、より適切な内容のケアが提供できる	1	2	3	4	5
4	機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	1	2	3	4	5
5	機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	1	2	3	4	5
6	機器導入により、日中の生活が充実する	1	2	3	4	5

9.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】排泄行動について

(1) 排泄行動に係るICFの評価

右の0~4,または8,9を、以下の 評価点の欄にそれぞれ記入してください	0:機能障害なし 3:重度の機能障害	1:軽度の機能障害 4:完全な機能障害	2:中等度の機能障害 8:詳細不明	9:非該当
---	-----------------------	------------------------	----------------------	-------

	評価
b610 尿排泄機能(尿を濾過し集尿する機能。畜尿機能等)	点
b620 排尿機能(膀胱から尿を排出する機能。失禁等)	点

(2) 排泄行動のプロセス

※出典:排泄ケアナビ

項目ごとに、「できること:○」、「できないのにしていないこと:△」、「できないこと:x」を記入してください。
あてはまらない項目は空欄にしてください。(例:「自力で起き上がれる」が○の場合、「介助があれば起き上がれる」は空欄)

排泄のプロセス	行動	チェック	No.
尿意・便意の知覚	尿意(便意)を感じることができる		1
	尿意(便意)と排泄を結びつけて自覚できる		2
	尿意(便意)を伝達できる		3
	排泄をある程度我慢できる		4
トイレ(ポータブルトイレ) への移動	自力でベッド上で起き上がれる		5
	自力でベッドまたは椅子に座れる		6
	自力でベッドまたは椅子から立ち上がれる		7
	自力で歩ける(杖などの補助器具の使用も含む)		8
	車椅子を使って自力で移動できる		9
	自力でトイレの扉を開け、入ることができる		10
	介助があればベッド上で起き上がれる		11
	介助があればベッドまたは椅子に座れる		12
	介助があればベッドまたは椅子から立ち上がれる		13
	介助があれば歩ける		14
排泄準備・排泄	介助があれば車椅子を使って移動できる		15
	介助があればトイレの扉を開け、入ることができる		16
	トイレの場所や、トイレまでの道順がわかる		17
	排泄はトイレですするという意識がある		18
	便座を確認できる		19
	自力で便座に座り、立ち上がることができる		20
あとしまつ	自力でズボンや下着を上げ下げできる		21
	介助があれば便座に座り、立ち上がることができる		22
	介助があればズボンや下着を上げ下げできる		23
	自力で排泄後、排水レバーを操作できる		24
	自力でトイレットペーパーで陰部を拭ける		25
	自力で手を洗うことができる		26
	介助があれば排泄後、排水レバーを操作できる		27
	介助があればトイレットペーパーで陰部を拭ける		28
	介助があれば手を洗うことができる		29

(3) 普段の排泄状況

下記の項目の内、あてはまるものに○をつけてください。

普段の排泄状況	自力または介助があればトイレで排泄ができる	
	ベッド上でおむつ、または尿瓶を使用して排泄している	
	カテーテルを使用して排泄している	

(4) 離床時間

1日の平均離床時間	時間
-----------	----

10.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】排泄ケアの記録について

(1) 排泄ケアの記録状況について

現在の排泄ケアの記録状況についてあてはまるものに○をつけてください。	0: 排泄検知機器の自動記録のみ 1: 排泄検知機器の自動記録+利用者への聞き取りや排泄介助時等の記録 2: その他()
------------------------------------	---

(2) 排泄ケアの記録方法について

現在の排泄ケアの記録方法について、あてはまるものに○をつけてください。	0: 排泄検知機器の自動記録で十分であるため追加記録はしていない 1: 追加記録は、紙で施設の様式に記録 2: 追加記録は、スマホやタブレットを用いて、施設の様式に記録 3: 追加記録は、スマホやタブレットを用いて、介護ソフトに直接記録 4: 追加記録は、紙で施設の様式に記録しその後介護ソフトに転記 5: 追加記録は、スマホやタブレットを用いて、施設の様式に記録しその後介護ソフトに転記 6: その他()
-------------------------------------	--

11.【導入後調査で回答】機器の組み合わせの活用

下記の項目の内、A: 実施の有無についてあてはまるものに○をつけてください。
また、Aで実施したと回答した場合のみ、Bについてあてはまるものに○をつけてください。

	A: 実施の有無		B: (Aで実施したと回答した場合) 実施した場合の排泄記録の活用効果			
	実施していない	実施した	全く活用できなかった	いくらか活用できた	活用できた	とても活用できた
1 介護業務支援に蓄積された本利用者の排泄記録を、職員が必要な時に自由に閲覧した	0	1	0	1	2	3
2 介護業務支援に蓄積された本利用者の排泄記録を、多職種間での議論に使用した	0	1	0	1	2	3
3 介護業務支援に蓄積された本利用者の排泄記録を基に、再アセスメントを実施した	0	1	0	1	2	3
4 介護業務支援に蓄積された本利用者の排泄記録を基に、ケアプランの見直しを検討した(ケアプラン修正の有無に関わらず、検討した場合)	0	1	0	1	2	3
5 介護業務支援に蓄積された本利用者の排泄記録を基に、ケアプランの修正を実施した	0	1	0	1	2	3
6 介護業務支援に蓄積された排泄記録を、服薬等の変更のため医療連携に活用した	0	1	0	1	2	3
7 介護業務支援に蓄積された排泄記録を、栄養等情報の共有のため医療連携に活用した	0	1	0	1	2	3

12.【導入後調査で回答】対象利用者のご意見等

※可能な範囲で、機器導入に関する対象利用者のご意見等をご記載ください。

機器導入に関する対象利用者のご意見等	
--------------------	--

以上です。ご回答ありがとうございました。

4. パッケージ:入浴支援×移乗支援

(1) 職員向けタイムスタディ調査票(事前・事後調査共通)

職員向けタイムスタディ調査票

③入浴支援×移乗支援

研修名 研修コード 研修実施日 研修実施日 研修実施日	担当して頂くスタッフの氏名 所長が所属する 実施時間(就業時間内) 月 日 (曜日) 日 時 分 ~ 日 時 分	担当して頂くスタッフの氏名 所長が所属する 実施時間(就業時間内) 月 日 (曜日) 日 時 分 ~ 日 時 分
---	--	--

※10分単位で、業務の業務(1~21)のうち、移動支援(移乗)を記入して下さい。移動支援(移乗)を記入する場合は、その際、介助(補助)も記入して下さい。移動支援(移乗)を記入する場合は、その際、介助(補助)も記入して下さい。移動支援(移乗)を記入する場合は、その際、介助(補助)も記入して下さい。

※21(10分単位)移動支援(移乗)を記入する場合は、その際、介助(補助)も記入して下さい。移動支援(移乗)を記入する場合は、その際、介助(補助)も記入して下さい。移動支援(移乗)を記入する場合は、その際、介助(補助)も記入して下さい。

No.	内容	開始時刻				終了時刻				開始時刻				終了時刻			
		00分	10分	20分	30分												
1	移動支援(移乗)																
2	移動支援(移乗)																
3	移動支援(移乗)																
4	移動支援(移乗)																
5	移動支援(移乗)																
6	移動支援(移乗)																
7	移動支援(移乗)																
8	移動支援(移乗)																
9	移動支援(移乗)																
10	移動支援(移乗)																
11	移動支援(移乗)																
12	移動支援(移乗)																
13	移動支援(移乗)																
14	移動支援(移乗)																
15	移動支援(移乗)																
16	移動支援(移乗)																
17	移動支援(移乗)																
18	移動支援(移乗)																
19	移動支援(移乗)																
20	移動支援(移乗)																
21	移動支援(移乗)																
22	移動支援(移乗)																
23	移動支援(移乗)																
24	移動支援(移乗)																
25	移動支援(移乗)																
26	移動支援(移乗)																
27	移動支援(移乗)																
28	移動支援(移乗)																
29	移動支援(移乗)																
30	移動支援(移乗)																
31	移動支援(移乗)																
32	移動支援(移乗)																
33	移動支援(移乗)																
34	移動支援(移乗)																
35	移動支援(移乗)																
36	移動支援(移乗)																
37	移動支援(移乗)																
38	移動支援(移乗)																
39	移動支援(移乗)																
40	移動支援(移乗)																
41	移動支援(移乗)																
42	移動支援(移乗)																
43	移動支援(移乗)																
44	移動支援(移乗)																
45	移動支援(移乗)																
46	移動支援(移乗)																
47	移動支援(移乗)																
48	移動支援(移乗)																
49	移動支援(移乗)																
50	移動支援(移乗)																
51	移動支援(移乗)																
52	移動支援(移乗)																
53	移動支援(移乗)																
54	移動支援(移乗)																
55	移動支援(移乗)																
56	移動支援(移乗)																
57	移動支援(移乗)																
58	移動支援(移乗)																
59	移動支援(移乗)																
60	移動支援(移乗)																
61	移動支援(移乗)																
62	移動支援(移乗)																
63	移動支援(移乗)																
64	移動支援(移乗)																
65	移動支援(移乗)																
66	移動支援(移乗)																
67	移動支援(移乗)																
68	移動支援(移乗)																
69	移動支援(移乗)																
70	移動支援(移乗)																
71	移動支援(移乗)																
72	移動支援(移乗)																
73	移動支援(移乗)																
74	移動支援(移乗)																
75	移動支援(移乗)																
76	移動支援(移乗)																
77	移動支援(移乗)																
78	移動支援(移乗)																
79	移動支援(移乗)																
80	移動支援(移乗)																
81	移動支援(移乗)																
82	移動支援(移乗)																
83	移動支援(移乗)																
84	移動支援(移乗)																
85	移動支援(移乗)																
86	移動支援(移乗)																
87	移動支援(移乗)																
88	移動支援(移乗)																
89	移動支援(移乗)																
90	移動支援(移乗)																
91	移動支援(移乗)																
92	移動支援(移乗)																
93	移動支援(移乗)																
94	移動支援(移乗)																
95	移動支援(移乗)																
96	移動支援(移乗)																
97	移動支援(移乗)																
98	移動支援(移乗)																
99	移動支援(移乗)																
100	移動支援(移乗)																

(2) 職員向けアンケート調査票(事前調査用)

③入浴支援×移乗支援・事前調査用

職員向け調査票

(職員各自が記入)

施設ID	施設名

職員ID	記入日
	年 月 日

1. 職員概要

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代～
職種	1:介護福祉士 2:介護職員(介護福祉士以外) 3:看護職員 4:リハビリ職(機能訓練指導員を含む) 5:相談員 6:事務職員 7:その他()		
役職	1:経営層 2:管理者・リーダー 3:一般職 4:その他()		
現在の職種での経験年数	年	ヶ月	

2. 心理的負担評価

※出典:心理的ストレス反応測定尺度
(Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

※ 裏面へ続く

3. 腰の状態について

※出典：疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度
(JLEQ：Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire)

※ この設問では、腰の痛みの程度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
2 この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
3 この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
4 この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
5 この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたか	1 思わなかった	2 たまに思った	3 ときどき思った
	4 しばしば思った	5 いつも思っていた	
6 この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	1 休まなかった	2 1-3日休んだ	3 半日以上休んだ
	4 半分程度休んだ	5 ほとんど休んだ	

職員向け調査票(事前調査)は以上です。

(3) 職員向けアンケート調査票(事後調査用)

③入浴支援×移乗支援・事後調査用		職員向け調査票	
施設ID	施設名	職員ID	記入日
			年 月 日

(職員各自が記入)

1. 職員概要

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代 60歳代・70歳代～
職種	1:介護福祉士 2:介護職員(介護福祉士以外) 3:看護職員 4:リハビリ職(機能訓練指導員を含む) 5:相談員 6:事務職員 7:その他()		
役職	1:経営層 2:管理者・リーダー 3:一般職 4:その他()		
現状の職種 での経験年数	年 ヶ月		

2. 心理的負担評価 ※出典:心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

3. 機器導入によるモチベーションの変化

※ この設問では、本実証で介護ロボットを導入する前後のモチベーションの変化についてお伺いします。

	←減少したと感じる				増加したと感じる→			
1 機器導入による、仕事のやりがいの変化	-3	-2	-1	0	1	2	3	
2 機器導入による、職場の活気の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3	

4. 機器導入による職員や施設業務の変化

※ この設問では、本実証で介護ロボットを導入する前後の施設業務等の変化についてお伺いします。

	←そう思わない		変化なし			→そう思う	
1 気持ちに余裕ができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 精神的負担(ストレスなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
4 利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	-3	-2	-1	0	1	2	3
5 訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	-3	-2	-1	0	1	2	3
6 利用者の行動パターンが把握できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
7 事故原因分析の参考情報にできる	-3	-2	-1	0	1	2	3
8 優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	-3	-2	-1	0	1	2	3
9 利用者のペースに合わせた介助ができる(予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	-3	-2	-1	0	1	2	3
10 休憩時間に休むことができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
11 必要以上に利用者を見に行くことになる	-3	-2	-1	0	1	2	3
12 走って訪室することが減る	-3	-2	-1	0	1	2	3
13 機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	-3	-2	-1	0	1	2	3
14 機器の初期設定・微調整が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
15 複数端末の携帯が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
16 自分の専門性を発揮する時間が確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
17 利用者により良いケアが提供できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
18 教育をする(教育をうける)時間を確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3

5. 【導入後調査で回答】導入機器の満足度評価 ※出典:QUEST 福祉用具満足度評価

※ この設問では、本実証で導入した介護ロボットについてお伺いします。

	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している
1 その福祉用具の大きさ(サイズ、高さ、長さ、幅)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
2 その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
3 その福祉用具の調節しやすさ(部品の取り付け方法や部品の調整方法)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
4 その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
5 その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
6 その福祉用具の使いやすさ(簡単に使えるかどうか)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
7 その福祉用具の使い心地の良さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
8 その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
9 その福祉用具の取得手続きと期間(手に入れるまでの手続きや期間)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
10 その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
11 その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
12 その福祉用具のアフターサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
13 今後、今回導入した介護ロボットを継続して利用したいですか?	1 はい →6.へ		2 いいえ →14へ		
14 (13にていいえの方のみご回答ください) 継続して利用したいと思わない理由は何ですか?該当する項目の番号を○で囲ってください。(複数回答可)					
1 使用上の効果が実感できなかった					
2 コストが高すぎる					
3 他の介護ロボットも検討してみたい					
4 必要とする利用者がいない					
5 介護ロボットを使いこなせる気がしなかった					
6 介護ロボットを設置するスペースを十分に確保できない					
7 人間による介助のほうが利用者にとって良いと感じた					
8 他に解決すべき課題があり、今回導入した介護ロボット導入の優先順位は低い					
9 導入のためのオペレーション変更等準備に時間がかかりすぎる					
10 その他(自由記述:					

6. 腰の状態について

※出典：疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度
(JLEQ : Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire)

※ この設問では、腰の痛みの程度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	導入後		
	1	2	3
1 この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
2 この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
3 この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
4 この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
5 この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたか	1 思わなかった	2 たまに思った	3 ときどき思った
	4 しばしば思った	5 いつも思っていた	
6 この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	1 休まなかった	2 1-3日休んだ	3 半日以上休んだ
	4 半分程度休んだ	5 ほとんど休んだ	

7. 貴施設への機器導入前後における業務オペレーション等の変化

※ この設問では、貴施設に介護ロボットを導入する前後の業務オペレーションの変化についてお伺いします。
それぞれ、あてはまるものに○をつけてください(本実証以前に導入した介護ロボットも含めてお答えください)。

	全くちがう	いくらかそう だ	まあそう だ	その通り だ
1 機器導入前のオペレーションに戻すことで、職員の身体的負担が増える	0	1	2	3
2 機器導入前のオペレーションに戻すことで、職員の精神的負担が増える	0	1	2	3
3 機器導入前のオペレーションに戻すことで、ケアの質が低下する	0	1	2	3

8. 機器の組み合わせによる効果

入浴支援×移乗支援	全くちが う	いくらか そう だ	まあそ う だ	その通り だ
1 入浴介助業務において移乗支援機器を使用することで、利用者の移乗支援のために必要な人員が削減された	0	1	2	3
2 入浴介助業務において移乗支援機器を使用することで、入浴介助業務における移乗支援を速やかに行うことができた	0	1	2	3
3 入浴介助業務において移乗支援機器を使用することで、入浴介助業務における移乗支援を安全に行うことができた	0	1	2	3
4 入浴介助業務において移乗支援機器を使用することで、入浴介助業務における移乗支援の職員の身体的負担が軽減された	0	1	2	3
5 入浴介助業務において移乗支援機器を使用することで、入浴介助業務における移乗支援の職員の心理的負担が軽減された	0	1	2	3

職員向け調査票は以上です。

(4) 利用者向けアンケート調査票(事前調査用)

③入浴支援×移乗支援 事前調査用		利用者向け調査票 (職員が記入)		利用者ID	記入日
施設ID	施設名				年 月 日

1. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者概要					
性別	1: 男 2: 女	年齢	才		
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)				
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施				
機器導入前の排泄支援	おむつ利用 ⇒ 1: 終日 2: 夜間のみ 3: その他() ※1日の平均的なオムツ利用枚数()枚 トイレ誘導・介助にて排泄 ⇒ 4: 終日 5: 夜間はポータブルトイレ 6: その他()				

2. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるADLの変化

(1) ADLの変化(Barthel Index)の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的の時間内に食べ終える	10	10
	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	5	5
	全介助	0	0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、プレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	15	15
	軽度の部分介助または監視を要する	10	10
	座ることは可能であるがほぼ全介助	5	5
	全介助または不可能	0	0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	5	5
	部分介助または不可能	0	0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む	10	10
	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	5	5
	全介助または不可能	0	0
5 入浴	自立	5	5
	部分介助または不可能	0	0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない	15	15
	45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	10	10
	歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能	5	5
	上記以外	0	0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	10	10
	介助または監視を要する	5	5
	不能	0	0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	10	10
	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	5	5
	上記以外	0	0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	10	10
	ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	10	10
	時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
合計(100点満点)			

3.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	あてはまる ランク いずれかに○
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的には自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
IIa	家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
IIb	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
IIIa	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
IIIb	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIIIaに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD13)

【調査日から過去1週間】		まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
1	同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2	よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3	日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4	特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5	特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6	昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7	やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8	同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9	口汚くののしる	0	1	2	3	4
10	場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11	世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12	明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13	引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

4. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】利用者への心理的な影響の変化 ※出典：意欲の指標（Vitality index）

対象者の意欲について、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※ 普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		調査時
1) 起床 薬剤の影響（睡眠薬など）を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさないと起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2) 意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3) 食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしな	0
4) 排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快感を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5) リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典：WHO-5 精神的健康状態表

調査日から過去2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください		いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1	明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2	落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3	意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4	ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5	日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

以上です。ご回答ありがとうございました。

(5) 利用者向けアンケート調査票(事後調査用)

③入浴支援×移乗支援 事後調査用		利用者向け調査票 (職員が記入)	利用者ID	記入日
施設ID	施設名			年 月 日

1. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		
機器導入後の排泄支援	おむつ利用 ⇒ 1: 終日 2: 夜間のみ 3: その他() ※1日の平均的なオムツ利用枚数()枚 トイレ誘導・介助にて排泄 ⇒ 4: 終日 5: 夜間はポータブルトイレ 6: その他()		

2. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるADLの変化

(1) 【導入後の状態について回答】ADLの変化 (Barthel Index) の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		導入後評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	10	10
	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	5	5
	全介助	0	0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	15	15
	軽度の部分介助または監視を要する	10	10
	座ることは可能であるがほぼ全介助	5	5
	全介助または不可能	0	0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	5	5
	部分介助または不可能	0	0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む	10	10
	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	5	5
	全介助または不可能	0	0
5 入浴	自立	5	5
	部分介助または不可能	0	0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない	15	15
	45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	10	10
	歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能	5	5
	上記以外	0	0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	10	10
	介助または監視を要する	5	5
	不能	0	0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	10	10
	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	5	5
	上記以外	0	0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	10	10
	ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	10	10
	時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
合計(100点満点)			

3.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度
機器導入後にて、いずれかのランクに○をしてください。

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	導入後 (いずれかに○)
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にはほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
	II a 家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりて留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
	III a 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
	III b 夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIII aに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD)3

【導入後調査の過去1週間】		まったく ない	ほとんど ない	ときどき ある	よくある	常にある
1	同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2	よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3	日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4	特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5	特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6	昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7	やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8	同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9	口汚くののしる	0	1	2	3	4
10	場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11	世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12	明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13	引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

(3) その他の認知機能の変化(導入後調査の時点)

機器導入による 認知機能の変化	
--------------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた機器導入による認知機能変化の総合的な評価

←悪化したと感じる							向上したと感じる→	
-3	-2	-1	0	1	2	3		

4.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】利用者への心理的な影響の変化 ※出典：意欲の指標（Vitality index）

今回導入した機器を利用することによって、対象者の意欲がどの程度変化したか、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		導入後
1) 起床 薬剤の影響（睡眠薬など）を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさないで起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2) 意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3) 食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしな	0
4) 排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5) リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5.【導入後調査で回答】対象利用者におけるコミュニケーションの変化

(1) 機器導入によるコミュニケーションの変化

	←減少したと感じる					増加したと感じる→	
1 利用者の発語量の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 利用者の表情の変化(笑顔になる頻度等)	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) その他のコミュニケーションの変化(導入後調査の時点)

機器導入による コミュニケーションの変化	
-------------------------	--

(3) (1)(2)を踏まえた機器導入によるコミュニケーション変化の総合的な評価

←減少したと感じる					増加したと感じる→		
-3	-2	-1	0	1	2	3	

6.【導入後調査で回答】対象利用者における社会参加の変化

(1) 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

	←減少したと感じる					増加したと感じる→	
1 利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

	←減少したと感じる					増加したと感じる→	
1 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(3) その他の社会参加の変化(導入後調査の時点)

機器導入による 社会参加の変化	
--------------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた機器導入による社会参加の変化の総合的な評価

←減少したと感じる					増加したと感じる→		
-3	-2	-1	0	1	2	3	

7.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典:WHO-5 精神的健康状態表

最近2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください		いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1	明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2	落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3	意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4	ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5	日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

(2) その他のQOLの変化(導入後調査の時点)

機器導入によるQOLの変化	
---------------	--

(3) (1)(2)を踏まえた機器導入によるQOL変化の総合的な評価

←悪化したと感じる	向上したと感じる→
-3 -2 -1 0 1 2 3	

8.【導入後調査で回答】対象利用者へのケアの変更

(1) 機器導入によるケア内容の変更

	全く思わない	あまり思わない	どちらとも言えない	思う	とても思う
1 機器導入により、利用者の状況が可視化できる	1	2	3	4	5
2 機器導入により、より適切なタイミングでケアが提供できる	1	2	3	4	5
3 機器導入により、より適切な内容のケアが提供できる	1	2	3	4	5
4 機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	1	2	3	4	5
5 機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	1	2	3	4	5
6 機器導入により、日中の生活が充実する	1	2	3	4	5

9.【導入後調査で回答】対象利用者のご意見等

※可能な範囲で、機器導入に関する対象利用者のご意見等をご記載ください。

機器導入に関する対象利用者のご意見等	
--------------------	--

以上です。ご回答ありがとうございました。

(6) 利用者向けタイムスタディ調査票(事前・事後調査共通)

利用者向けタイムスタディ調査 [入浴支援×移乗支援、事前・事後調査]

③入浴支援×移乗支援

施設ID	施設名	利用者ID
------	-----	-------

■ご記入にあたって
 ・この調査票は、入浴支援時間における機器の導入後の利用者の生活の変化(場所・時間)を把握する目的で記載をお願いするものです。記載例を参考に記入してください。
 ・調査期間(5日間)のうち、入浴を実施した際の所在・手順の所要時間を記載してください。
 ・機器導入前後の比較のため、以下の点に留意してください。
 ① 入浴支援の日時と開始時間を記入し、所在手順ごとに所要時間を分単位で記入してください。
 ② 事前に想定した所在・手順と異なる位置からスタートした場合、その旨を備考に記載し、「3居室(入浴準備)」以降に記入してください。

種別:	事前調査・事後調査 (いずれかに○)
-----	-----------------------

記載例		
調査日時	〇月〇日(〇) 〇時〇〇分～	概算時間(分)
1	リビング	—
2	移動	5
3	居室(入浴準備)	5
4	移乗・移動	5
5	脱衣室・脱衣準備	5
6	脱衣室・脱衣	5
7	移乗・移動	5
8	浴室	15
9	移乗・移動	5
10	脱衣室・着衣準備	5
11	脱衣室・着衣	5
12	移乗・移動	5
13	居室	—
14		
15		
16		
17		
18		
備考		

1回目		
調査日時	月 日 () 時 分～	概算時間(分)
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
備考		

2回目		
調査日時	月 日 () 時 分～	概算時間(分)
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		
17		
18		
備考		

(2) 職員向けアンケート調査票(事前調査用)

④排泄支援×移乗支援・事前調査用

職員向け調査票

(職員各自が記入)

施設ID	施設名

職員ID	記入日
	年 月 日

1. 職員概要

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代～
職種	1:介護福祉士 2:介護職員(介護福祉士以外) 3:看護職員 4:リハビリ職(機能訓練指導員を含む) 5:相談員 6:事務職員 7:その他()		
役職	1:経営層 2:管理者・リーダー 3:一般職 4:その他()		
現状の職種での経験年数	年	ヶ月	

2. 心理的負担評価

※出典:心理的ストレス反応測定尺度
(Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いづらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

※ 裏面へ続く

3. 腰の状態について

※出典：疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度
(JLEQ：Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire)

※ この設問では、腰の痛みの程度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
2 この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
3 この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
4 この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
5 この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたか	1 思わなかった	2 たまに思った	3 ときどき思った
	4 しばしば思った	5 いつも思っていた	
6 この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	1 休まなかった	2 1-3日休んだ	3 半日以上休んだ
	4 半分程度休んだ	5 ほとんど休んだ	

職員向け調査票(事前調査)は以上です。

(3) 職員向けアンケート調査票(事後調査用)

④排泄支援×移乗支援・事後調査用		職員向け調査票		
施設ID	施設名	(職員各自が記入)	職員ID	記入日
			年	月
			日	

1. 職員概要

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代 60歳代・70歳代~	
職種	1:介護福祉士 2:介護職員(介護福祉士以外) 3:看護職員 4:リハビリ職(機能訓練指導員を含む) 5:相談員 6:事務職員 7:その他()			
役職	1:経営層 2:管理者・リーダー 3:一般職 4:その他()			
現状の職種での経験年数	年	ヶ月		

2. 心理的負担評価 ※出典:心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

3. 機器導入によるモチベーションの変化

※ この設問では、本実証で介護ロボットを導入する前後のモチベーションの変化についてお伺いします。

	←減少したと感じる				増加したと感じる→			
	-3	-2	-1	0	1	2	3	
1 機器導入による、仕事のやりがいの変化	-3	-2	-1	0	1	2	3	
2 機器導入による、職場の活気の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3	

4. 機器導入による職員や施設業務の変化

※ この設問では、本実証で介護ロボットを導入する前後の施設業務等の変化についてお伺いします。

	←そう思わない		変化なし			→そう思う→	
1 気持ちに余裕ができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 精神的負担(ストレスなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
4 利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	-3	-2	-1	0	1	2	3
5 訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	-3	-2	-1	0	1	2	3
6 利用者の行動パターンが把握できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
7 事故原因分析の参考情報にできる	-3	-2	-1	0	1	2	3
8 優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	-3	-2	-1	0	1	2	3
9 利用者のペースに合わせた介助ができる(予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	-3	-2	-1	0	1	2	3
10 休憩時間に休むことができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
11 必要以上に利用者を見に行くことになる	-3	-2	-1	0	1	2	3
12 走って訪室することが減る	-3	-2	-1	0	1	2	3
13 機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	-3	-2	-1	0	1	2	3
14 機器の初期設定・微調整が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
15 複数端末の携帯が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
16 自分の専門性を発揮する時間が確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
17 利用者により良いケアが提供できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
18 教育をする(教育をうける)時間を確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3

5. 【導入後調査で回答】導入機器の満足度評価 ※出典:QUEST 福祉用具満足度評価

※ この設問では、本実証で導入した介護ロボットについてお伺いします。

	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している
1 その福祉用具の大きさ(サイズ,高さ,長さ,幅)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
2 その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
3 その福祉用具の調節しやすさ(部品の取り付け方法や部品の調整方法)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
4 その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
5 その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
6 その福祉用具の使いやすさ(簡単に使えるかどうか)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
7 その福祉用具の使い心地の良さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
8 その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
9 その福祉用具の取得手続きと期間(手に入れるまでの手続きや期間)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
10 その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
11 その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
12 その福祉用具のアフターサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
13 今後、今回導入した介護ロボットを継続して利用したいですか?	1 はい →6.へ		2 いいえ →14へ		
14 (13にていいえの方のみご回答ください) 継続して利用したいと思わない理由は何ですか?該当する項目の番号を○で囲ってください。(複数回答可)					
1 使用上の効果が実感できなかった					
2 コストが高すぎる					
3 他の介護ロボットも検討してみたい					
4 必要とする利用者がいない					
5 介護ロボットを使いこなせる気がなかった					
6 介護ロボットを設置するスペースを十分に確保できない					
7 人間による介助のほうが利用者にとって良いと感じた					
8 他に解決すべき課題があり、今回導入した介護ロボット導入の優先順位は低い					
9 導入のためのオペレーション変更等準備に時間がかかりすぎる					
10 その他(自由記述:)					

6. 腰の状態について

※出典・疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度
(JLEQ: Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire)

※ この設問では、腰の痛みの程度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	導入後		
	1	2	3
1 この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	痛くない	少し痛い	中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
2 この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	痛くない	少し痛い	中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
3 この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
4 この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
5 この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたが	1 思わなかった	2 たまに思った	3 とときき思った
	4 しばしば思った	5 いつも思っていた	
6 この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	1 休まなかった	2 1-3日休んだ	3 半日以上休んだ
	4 半分程度休んだ	5 ほとんど休んだ	

7. 貴施設への機器導入前後における業務オペレーション等の変化

※ この設問では、貴施設に介護ロボットを導入する前後の業務オペレーションの変化についてお伺いします。それぞれ、あてはまるものに○をつけてください(本実証以前に導入した介護ロボットも含めてお答えください)。

	全くちがう	いくらかそう うだ	まあそう だ	その通り だ
1 機器導入前のオペレーションに戻すことで、職員の身体的負担が増える	0	1	2	3
2 機器導入前のオペレーションに戻すことで、職員の精神的負担が増える	0	1	2	3
3 機器導入前のオペレーションに戻すことで、ケアの質が低下する	0	1	2	3

8. 機器の組み合わせによる効果

排泄支援×移乗支援	全くちが う	いくらか そう だ	まあそう だ	その通り だ
1 排泄介助業務において移乗支援機器を使用することで、利用者の移乗支援のために必要な人員が削減された	0	1	2	3
2 排泄介助業務において移乗支援機器を使用することで、排泄介助業務における移乗支援を速やかに行うことができた	0	1	2	3
3 排泄介助業務において移乗支援機器を使用することで、排泄介助業務における移乗支援を安全に行うことができた	0	1	2	3
4 排泄介助業務において移乗支援機器を使用することで、排泄介助業務における移乗支援の職員の身体的負担が軽減された	0	1	2	3
5 排泄介助業務において移乗支援機器を使用することで、排泄介助業務における移乗支援の職員の心理的負担が軽減された	0	1	2	3
6 排泄支援機器を使用することで、事前に排泄ケアを予見することができ、移乗支援機器を使用するための準備を計画的に行うことができた	0	1	2	3

職員向け調査票は以上です。

(4) 利用者向けアンケート調査票(事前調査用)

④排泄支援×移乗支援 事前調査用		利用者向け調査票 (職員が記入)	
施設ID	施設名	利用者ID	記入日 年 月 日

1. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		
機器導入前の排泄支援	おむつ利用 ⇒ 1: 終日 2: 夜間のみ 3: その他() ※1日の平均的なオムツ利用枚数()枚 トイレ誘導・介助にて排泄 ⇒ 4: 終日 5: 夜間はポータブルトイレ 6: その他()		

2. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるADLの変化

(1) ADLの変化(Barthel Index)の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	10	10
	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	5	5
	全介助	0	0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	15	15
	軽度の部分介助または監視を要する	10	10
	座ることは可能であるがほぼ全介助	5	5
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	5	5
	部分介助または不可能	0	0
	全介助または不可能	0	0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む	10	10
	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	5	5
	全介助または不可能	0	0
5 入浴	自立	5	5
	部分介助または不可能	0	0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない	15	15
	45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	10	10
	歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能	5	5
	上記以外	0	0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	10	10
	介助または監視を要する	5	5
	不能	0	0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	10	10
	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	5	5
	上記以外	0	0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	10	10
	ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	10	10
	時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
合計(100点満点)			

3.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典：認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	あてはまる ランク いずれかに○
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
	IIa 家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
IIb	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
	IIIa 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
IIIb	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIIIaに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典：認知症行動障害尺度 (Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD) 3)

【調査日から過去1週間】		まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
1	同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2	よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3	日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4	特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5	特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6	昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7	やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8	同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9	口汚くののしる	0	1	2	3	4
10	場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11	世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12	明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13	引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

4.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】利用者への心理的な影響の変化 ※出典：意欲の指標（Vitality index）

対象者の意欲について、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		調査時
1)起床 薬剤の影響（睡眠薬など）を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさないと起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2)意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3)食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしない	0
4)排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5)リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典：WHO-5 精神的健康状態表

調査日から過去2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください		いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったく
1	明るく、楽しい気分が過ごした	5	4	3	2	1	0
2	落ち着いた、リラックスした気分が過ごした	5	4	3	2	1	0
3	意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4	ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5	日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

以上です。ご回答ありがとうございました。

(5) 利用者向けアンケート調査票(事後調査票)

④排泄支援×移乗支援 事後調査用		利用者向け調査票 (職員が記入)	利用者ID	記入日
施設ID	施設名			年 月 日

1. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		
機器導入後の排泄支援	おむつ利用 ⇒ 1: 終日 2: 夜間のみ 3: その他() ※1日の平均的なオムツ利用枚数()枚 トイレ誘導・介助にて排泄 ⇒ 4: 終日 5: 夜間はポータブルトイレ 6: その他()		

2. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるADLの変化

(1) 【導入後の状態について回答】ADLの変化 (Barthel Index) の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		導入後評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	10	10
	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	5	5
	全介助	0	0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	15	15
	軽度の部分介助または監視を要する	10	10
	座ることは可能であるがほぼ全介助	5	5
	全介助または不可能	0	0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	5	5
	部分介助または不可能	0	0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む	10	10
	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	5	5
	全介助または不可能	0	0
5 入浴	自立	5	5
	部分介助または不可能	0	0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない	15	15
	45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	10	10
	歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能	5	5
	上記以外	0	0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	10	10
	介助または監視を要する	5	5
	不能	0	0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	10	10
	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	5	5
	上記以外	0	0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	10	10
	ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	10	10
	時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
合計(100点満点)			

3.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度
機器導入後にて、いずれかのランクに○をしてください。

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	導入後 (いずれかに○)
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にはほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
	II a 家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
II b	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりて留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
	III a 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
	III b 夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIII aに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD13)

【導入後調査の過去1週間】		まったく ない	ほとんど ない	ときどき ある	よくある	常にある
1	同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2	よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3	日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4	特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5	特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6	昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7	やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8	同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9	口汚くののしる	0	1	2	3	4
10	場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11	世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12	明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13	引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

(3) その他の認知機能の変化(導入後調査の時点)

機器導入による 認知機能の変化	
--------------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた機器導入による認知機能変化の総合的な評価

←悪化したと感じる						向上したと感じる→
-3	-2	-1	0	1	2	3

4.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】利用者への心理的な影響の変化 ※出典：意欲の指標（Vitality index）

今回導入した機器を利用することによって、対象者の意欲がどの程度変化したか、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		導入後
1) 起床 薬剤の影響（睡眠薬など）を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさないで起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2) 意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3) 食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしな	0
4) 排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5) リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5.【導入後調査で回答】対象利用者におけるコミュニケーションの変化

(1) 機器導入によるコミュニケーションの変化

	←減少したと感じる					増加したと感じる→		
1 利用者の発語量の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3	
2 利用者の表情の変化(笑顔になる頻度等)	-3	-2	-1	0	1	2	3	

(2) その他のコミュニケーションの変化(導入後調査の時点)

機器導入による コミュニケーションの変化	
-------------------------	--

(3) (1)(2)を踏まえた機器導入によるコミュニケーション変化の総合的な評価

←減少したと感じる					増加したと感じる→		
-3	-2	-1	0	1	2	3	

6.【導入後調査で回答】対象利用者における社会参加の変化

(1) 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

	←減少したと感じる					増加したと感じる→		
1 利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3	
2 促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3	
3 レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3	

(2) 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

	←減少したと感じる					増加したと感じる→		
1 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3	
2 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3	
3 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3	

(3) その他の社会参加の変化(導入後調査の時点)

機器導入による 社会参加の変化	
--------------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた機器導入による社会参加の変化の総合的な評価

←減少したと感じる					増加したと感じる→		
-3	-2	-1	0	1	2	3	

7.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典:WHO-5 精神的健康状態表

最近2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください		いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1	明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2	落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3	意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4	ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5	日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

(2) その他のQOLの変化(導入後調査の時点)

機器導入によるQOLの変化	
---------------	--

(3) (1)(2)を踏まえた機器導入によるQOL変化の総合的な評価

←悪化したと感じる	向上したと感じる→
-3 -2 -1 0 1 2 3	

8.【導入後調査で回答】対象利用者へのケアの変更

(1) 機器導入によるケア内容の変更

	全く思わない	あまり思わない	どちらとも言えない	思う	とても思う
1 機器導入により、利用者の状況が可視化できる	1	2	3	4	5
2 機器導入により、より適切なタイミングでケアが提供できる	1	2	3	4	5
3 機器導入により、より適切な内容のケアが提供できる	1	2	3	4	5
4 機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	1	2	3	4	5
5 機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	1	2	3	4	5
6 機器導入により、日中の生活が充実する	1	2	3	4	5

9.【導入後調査で回答】対象利用者のご意見等

※可能な範囲で、機器導入に関する対象利用者のご意見等をご記載ください。

機器導入に関する対象利用者のご意見等	
--------------------	--

以上です。ご回答ありがとうございました。

(6) 利用者向けタイムスタディ調査票(事前・事後調査共通)

排泄支援×移乗交換

利用者向けタイムスタディ調査 [排泄支援×移乗交換、事前・事後調査]

施設ID	施設名	利用者ID
------	-----	-------

■ ご記入にあたって

- ・ この調査票は、排泄介助時間における機器の導入後の利用者の生活の変化(場所・時間)を把握する目的で記載をお願いするものです。記載例を参考にご記入ください。
- ・ この調査票は調査期間(5日間)のうち、1日目、3日目、5日目の、昼食後最初に排泄介助をした内容について、排泄介助を行った際の所在・手順の所要時間を記載してください。
- ・ 機器導入前後の比較のため、以下の点に留意してください。
 - ① 排泄介助の日時と開始時間を記入し、所在手順ごとに所要時間を分単位で記入してください。
 - ② 事前に決定した所在・手順と異なる位置からスタートした場合、その旨を備考に記載し、できる限り実態に即して記入してください。
 - ③ 排泄行為のうち、トイレ誘導を行った場合のみを記載し、トイレ誘導を行わなかった場合(放尿・トイレに行かなかった場合等)は除外してください。
 - ④ その他、突発的な事象(利用者の事情等)による通常とは異なった排泄行為等が発生した日は除外してください。

種別:	事前調査・事後調査 (いずれかに○)
-----	-----------------------

記入例		所在・手順	稼算時間(分)
1	居室		-
2	移乗・移動		1
3	居室内トイレ		5
4	脱衣		5
5	排泄		5
6	更衣		5
7	移乗・移動		5
8	浴室		10
9	移乗・移動		5
10	脱衣室・着衣準備		5
11	脱衣室・着衣		5
12	移乗・移動		5
13	居室		
14			
15			
16			
17			
18			
	備考		

1 日目		所在・手順	稼算時間(分)
トイレ誘導・おむつ交換・シーツ更衣交換 (あてはまるものすべてに○)			
調査日時	月 日 () 時 分		
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
	備考		

3 日目		所在・手順	稼算時間(分)
トイレ誘導・おむつ交換・シーツ更衣交換 (あてはまるものすべてに○)			
調査日時	月 日 () 時 分		
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
	備考		

5 回目		所在・手順	稼算時間(分)
トイレ誘導・おむつ交換・シーツ更衣交換 (あてはまるものすべてに○)			
調査日時	月 日 () 時 分		
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
	備考		

(2) 職員向け調査アンケート票(事前調査用)

⑤排泄支援(Dfree)・事前調査用

施設ID	施設名

職員向け調査票
(職員各自が記入)

職員ID	記入日
	年 月 日

1. 職員概要

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代～
職種	1:介護福祉士 2:介護職員(介護福祉士以外) 3:看護職員 4:リハビリ職(機能訓練指導員を含む) 5:相談員 6:事務職員 7:その他()		
役職	1:経営層 2:管理者・リーダー 3:一般職 4:その他()		
現状の職種での経験年数	年	ヶ月	

2. 心理的負担評価 ※出典:心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

※ 裏面へ続く

3. 腰の状態について

※出典：疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度
(JLEQ：Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire)

※ この設問では、腰の痛みの程度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
2 この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
3 この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
4 この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
5 この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたか	1 思わなかった	2 たまに思った	3 ときどき思った
	4 しばしば思った	5 いつも思っていた	
6 この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	1 休まなかった	2 1-3日休んだ	3 半日以上休んだ
	4 半分程度休んだ	5 ほとんど休んだ	

職員向け調査票は以上です。

(3) 職員向けアンケート調査票(事後調査用)

⑤排泄支援・事後調査用 (DFree用)		職員向け調査票	
施設ID	施設名	(職員各自が記入)	
		職員ID	記入日
			年 月 日

1. 職員概要

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代 60歳代・70歳代~
職種	1:介護福祉士 5:相談員	2:介護職員(介護福祉士以外) 6:事務職員	3:看護職員 7:その他()
役職	1:経営層	2:管理者・リーダー	3:一般職 4:その他()
現状の職種 での経験年数	年 月		

2. 心理的負担評価 ※出典:心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

3. 腰の状態について ※出典:疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度 (JLEQ: Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire)

※ この設問では、腰の痛みの程度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	導入後		
	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
1 この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
2 この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
3 この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
4 この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
5 この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたが	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
6 この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	1 思わなかった	2 たまに思った	3 とときき思った
	4 しばしば思った	5 いつも思っていた	
	1 休まなかった	2 1-3日休んだ	3 半日以上休んだ
	4 半分程度休んだ	5 ほとんど休んだ	

4. 機器導入によるモチベーションの変化

※ この設問では、本実証で介護ロボットを導入する前後のモチベーションの変化についてお伺いします。

	←減少したと感じる					増加したと感じる→	
1 機器導入による、仕事のやりがいの変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 機器導入による、職場の活気の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

5. 機器導入による職員や施設業務の変化

※ この設問では、本実証で介護ロボットを導入する前後の施設業務等の変化についてお伺いします。

	←そう思わない			変化なし		→そう思う→	
1 気持ちに余裕ができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 精神的負担(ストレスなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
4 利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	-3	-2	-1	0	1	2	3
5 訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	-3	-2	-1	0	1	2	3
6 利用者の行動パターンが把握できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
7 事故原因分析の参考情報にできる	-3	-2	-1	0	1	2	3
8 優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	-3	-2	-1	0	1	2	3
9 利用者のペースに合わせた介助ができる(予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	-3	-2	-1	0	1	2	3
10 休憩時間に休むことができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
11 必要以上に利用者を見に行くことになる	-3	-2	-1	0	1	2	3
12 走って訪室することが減る	-3	-2	-1	0	1	2	3
13 機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	-3	-2	-1	0	1	2	3
14 機器の初期設定・微調整が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
15 複数端末の携帯が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
16 自分の専門性を発揮する時間が確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
17 利用者により良いケアが提供できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
18 教育をする(教育をうける)時間を確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3

6. 導入機器の満足度評価 ※出典:QUEST 福祉用具満足度評価

※ この設問では、本実証で導入した介護ロボットについてお伺いします。

	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している
1 その福祉用具の大きさ(サイズ、高さ、長さ、幅)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
2 その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
3 その福祉用具の調節しやすさ(部品の取り付け方法や部品の調整方法)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
4 その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
5 その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
6 その福祉用具の使いやすさ(簡単に使えるかどうか)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
7 その福祉用具の使い心地の良さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
8 その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
9 その福祉用具の取得手続きと期間(手に入れるまでの手続きや期間)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
10 その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
11 その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
12 その福祉用具のアフターサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5

13 以下のDfreeの使用において、該当する項目を○で囲ってください。

1 30秒程度でDfreeを装着できるか	1 できる	2 ややできる	3 ややできない	4 できない
2 ジェルを使用し、適切な位置にDfreeを装着できるか	1 できる	2 ややできる	3 ややできない	4 できない
3 そろそろ通知※を活用し、トイレ誘導ができるか	1 できる	2 ややできる	3 ややできない	4 できない
4 でたかも通知※を活用し、おむつ等の交換ができるか	1 できる	2 ややできる	3 ややできない	4 できない
5 Dfreeを使用する他の職員にDfreeの適切な使い方をきちんとアドバイスできるか	1 できる	2 ややできる	3 ややできない	4 できない
6 取得したデータや記録を踏まえて、エビデンスに基づき、排泄介助の時間を変更できるか	1 できる	2 ややできる	3 ややできない	4 できない

※そろそろ通知とは、トイレのタイミングをお知らせする機能です。
 ※でたかも通知とは、排尿(失禁)のタイミングをお知らせする機能です。

14 今後、今回導入した介護ロボットを継続して利用したいですか？

1 はい →7.へ 2 いいえ →15へ

15 (14にていいえの方のみご回答ください)
 継続して利用したいと思わない理由は何ですか？該当する項目の番号を○で囲ってください。(複数回答可)

1 使用上の効果が実感できなかった
2 コストが高すぎる
3 他の介護ロボットも検討してみたい
4 必要とする利用者がいない
5 介護ロボットを使いこなせる気がしなかった
6 介護ロボットを設置するスペースを十分に確保できない
7 人間による介助のほうが利用者にとって良いと感じた
8 他に解決すべき課題があり、今回導入した介護ロボット導入の優先順位は低い
9 導入のためのオペレーション変更等準備に時間がかかりすぎる
10 その他 (自由記述:)

7. 貴施設への機器導入前後における業務オペレーション等の変化

※ この設問では、貴施設に介護ロボットを導入する前後の業務オペレーションの変化についてお伺いします。
 それぞれ、あてはまるものに○をつけてください(本実証以前に導入した介護ロボットも含めてお答えください)。

	全くちがう	いくらかさうだ	まあさうだ	その通りだ
1 機器導入前のオペレーションに戻すことで、職員の身体的負担が増える	0	1	2	3
2 機器導入前のオペレーションに戻すことで、職員の精神的負担が増える	0	1	2	3
3 機器導入前のオペレーションに戻すことで、ケアの質が低下する	0	1	2	3

職員向け調査票は以上です。

(4) 利用者向けアンケート調査票(事前調査用)

⑤排泄支援 事前調査用(DFree用)		利用者向け調査票 (職員が記入)	利用者ID	記入日
施設ID	施設名			年 月 日

1. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		
機器導入前の排泄支援	おむつ利用 ⇒ 1: 終日 2: 夜間のみ 3: その他() ※1日の平均的なオムツ利用枚数()枚 トイレ誘導・介助にて排泄 ⇒ 4: 終日 5: 夜間はポータブルトイレ 6: その他()		
機器導入の目的・目標(複数選択可)	1: 職員の負担軽減 2: 利用者の転倒・転落リスクの軽減 3: 利用者の排泄の自立 4: 利用者の排泄パターンの把握 5: 褥瘡予防(改善) 6: その他()		

2. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるADLの変化

(1) ADLの変化(Barthel Index)の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	10	10
	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	5	5
	全介助	0	0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	15	15
	軽度の部分介助または監視を要する	10	10
	座ることは可能であるがほぼ全介助	5	5
	全介助または不可能	0	0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	5	5
	部分介助または不可能	0	0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む	10	10
	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	5	5
	全介助または不可能	0	0
5 入浴	自立	5	5
	部分介助または不可能	0	0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない	15	15
	45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	10	10
	歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能	5	5
	上記以外	0	0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	10	10
	介助または監視を要する	5	5
	不能	0	0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	10	10
	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	5	5
	上記以外	0	0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	10	10
	ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	10	10
	時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
合計(100点満点)			

3.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	あてはまる ランク いずれかに○
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
	II a 家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
	II b 家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
	III a 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
	III b 夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIII aに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD13)

【調査日から過去1週間】		まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
1	同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2	よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3	日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4	特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5	特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6	昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7	やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8	同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9	口汚くののしる	0	1	2	3	4
10	場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11	世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12	明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13	引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

4.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】利用者への心理的な影響の変化 ※出典：意欲の指標（Vitality index）

対象者の意欲について、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		調査時
1)起床 薬剤の影響（睡眠薬など）を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさない起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2)意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3)食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとししない	0
4)排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5)リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典：WHO-5 精神的健康状態表

調査日から過去2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください		いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1	明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2	落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3	意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4	ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5	日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

6.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】排泄行動について

(1) 排泄行動に係るICFの評価

右の0~4,または8,9を、以下の評価点の欄にそれぞれ記入してください	0:機能障害なし	1:軽度の機能障害	2:中等度の機能障害
	3:重度の機能障害	4:完全な機能障害	8:詳細不明 9:非該当

		導入前評価
b610	尿排泄機能（尿を濾過し集尿する機能。畜尿機能等）	点
b620	排尿機能（膀胱から尿を排出する機能。失禁等）	点

(2) 排泄行動のプロセス

※出典:排泄ケアナビ

項目ごとに、「できること:○」、「できないのにしていないこと:△」、「できないこと:x」を記入してください。

あてはまらない項目は空欄にしてください。(例:「自力で起き上がれる」が○の場合、「介助があれば起き上がれる」は空欄)

排泄のプロセス	行動	チェック	No.
尿意・便意の知覚	尿意(便意)を感じることができる		1
	尿意(便意)と排泄を結びつけて自覚できる		2
	尿意(便意)を伝達できる		3
	排泄をある程度我慢できる		4
トイレ(ポータブルトイレ)への移動	自力でベッド上で起き上がれる		5
	自力でベッドまたは椅子に座れる		6
	自力でベッドまたは椅子から立ち上がれる		7
	自力で歩ける(杖などの補助器具の使用も含む)		8
	車椅子を使って自力で移動できる		9
	自力でトイレの扉を開け、入ることができる		10
	介助があればベッド上で起き上がれる		11
	介助があればベッドまたは椅子に座れる		12
	介助があればベッドまたは椅子から立ち上がれる		13
	介助があれば歩ける		14
	介助があれば車椅子を使って移動できる		15
	介助があればトイレの扉を開け、入ることができる		16
排泄準備・排泄	トイレの場所や、トイレまでの道順がわかる		17
	排泄はトイレですするという意識がある		18
	便座を確認できる		19
	自力で便座に座り、立ち上がることができる		20
あとしまつ	自力でズボンや下着を上げ下げできる		21
	介助があれば便座に座り、立ち上がることができる		22
	介助があればズボンや下着を上げ下げできる		23
	自力で排泄後、排水レバーを操作できる		24
	自力でトイレットペーパーで陰部を拭ける		25
	自力で手を洗うことができる		26
	介助があれば排泄後、排水レバーを操作できる		27
	介助があればトイレットペーパーで陰部を拭ける		28
	介助があれば手を洗うことができる		29

(3) 普段の排泄状況

下記の項目の内、あてはまるものに○をつけてください。

普段の排泄状況	自力または介助があればトイレで排泄ができる	
	ベッド上でおむつ,または尿瓶を使用して排泄している	
	カテーテルを使用して排泄している	

(4) 離床時間

1日の平均離床時間	時間
-----------	----

以上です。ご回答ありがとうございました。

(5) 利用者向けアンケート調査票(事後調査用)

⑤排泄支援 事後調査用 (DFree用)		利用者向け調査票 (職員が記入)	利用者ID	記入日
施設ID	施設名			年 月 日

1. 対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才	
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)			
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施			
機器導入後の排泄支援	おむつ利用 ⇒ 1: 終日 2: 夜間のみ 3: その他() ※1日の平均的なオムツ利用枚数()枚 トイレ誘導・介助にて排泄 ⇒ 4: 終日 5: 夜間はポータブルトイレ 6: その他()			

2. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるADLの変化

(1) 【導入後の状態について回答】ADLの変化 (Barthel Index) の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		導入後評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	10	10
	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	5	5
	全介助	0	0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	15	15
	軽度の部分介助または監視を要する	10	10
	座ることは可能であるがほぼ全介助	5	5
	全介助または不可能	0	0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	5	5
	部分介助または不可能	0	0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む	10	10
	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	5	5
	全介助または不可能	0	0
5 入浴	自立	5	5
	部分介助または不可能	0	0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない	15	15
	45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	10	10
	歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能	5	5
	上記以外	0	0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	10	10
	介助または監視を要する	5	5
	不能	0	0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	10	10
	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	5	5
	上記以外	0	0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	10	10
	ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	10	10
	時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
合計(100点満点)			

3.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度
機器導入後に、いずれかのランクに○をしてください。

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	導入後 (いずれかに○)
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
IIa	家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
IIb	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
IIIa	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
IIIb	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIIIaに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度 (Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD) 13

【導入後調査の過去1週間】	まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
	0	1	2	3	4
1 同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2 よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3 日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4 特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5 特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6 昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7 やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8 同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9 口汚くのしる	0	1	2	3	4
10 場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11 世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12 明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13 引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

(3) その他の認知機能の変化 (導入後調査の時点)

機器導入による 認知機能の変化	
--------------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた機器導入による認知機能変化の総合的な評価

←悪化したと感じる	-3	-2	-1	0	1	2	3	向上したと感じる→
-----------	----	----	----	---	---	---	---	-----------

4.【導入後調査で回答】利用者への心理的な影響 ※出典:意欲の指標 (Vitality index)

今回導入した機器を利用することによって、対象者の意欲がどの程度変化したか、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

	導入後
1) 起床	2
薬剤の影響(睡眠薬など)を除外。起床できない場合、開眼し覚醒していれば2	1
	0
2) 意思疎通	2
失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	1
	0
3) 食事	2
麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	1
	0
4) 排泄	2
失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	1
	0
5) リハビリ・活動	2
リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	1
	0

5.【導入後調査で回答】対象利用者におけるコミュニケーションの変化

(1) 機器導入によるコミュニケーションの変化

	←減少したと感じる				増加したと感じる→		
1 利用者の発語量の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 利用者の表情の変化(笑顔になる頻度等)	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) その他のコミュニケーションの変化(導入後調査の時点)

機器導入による コミュニケーションの変化	
-------------------------	--

(3) (1) (2)を踏まえた機器導入によるコミュニケーション変化の総合的な評価

←減少したと感じる				増加したと感じる→		
-3	-2	-1	0	1	2	3

6.【導入後調査で回答】対象利用者における社会参加の変化

(1) 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

	←減少したと感じる				増加したと感じる→		
1 利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

	←減少したと感じる				増加したと感じる→		
1 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者他者との交流回数の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(3) その他の社会参加の変化(導入後調査の時点)

機器導入による 社会参加の変化	
--------------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた機器導入による社会参加の変化の総合的な評価

←減少したと感じる				増加したと感じる→		
-3	-2	-1	0	1	2	3

7.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典:WHO-5 精神的健康状態表

最近2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください	いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1 明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3 意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4 ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

(2) その他のQOLの変化(導入後調査の時点)

機器導入による QOLの変化	
-------------------	--

(3) (1) (2)を踏まえた機器導入によるQOL変化の総合的な評価

←悪化したと感じる				向上したと感じる→		
-3	-2	-1	0	1	2	3

8.【導入後調査で回答】対象利用者へのケアの変更

(1) 機器導入によるケア内容の変更

		全く思わ ない	あまり 思わない	どちらとも 言えない	思う	とても思う
1	機器導入により、利用者の状況が可視化できる	1	2	3	4	5
2	機器導入により、より適切なタイミングでケアが提供できる	1	2	3	4	5
3	機器導入により、より適切な内容のケアが提供できる	1	2	3	4	5
4	機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	1	2	3	4	5
5	機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	1	2	3	4	5
6	機器導入により、日中の生活が充実する	1	2	3	4	5

9.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】排泄行動について

(1) 排泄行動に係るICFの評価

右の0~4,または8,9を、以下の 評価点の欄にそれぞれ記入してください	0:機能障害なし 3:重度の機能障害	1:軽度の機能障害 4:完全な機能障害	2:中等度の機能障害 8:詳細不明 9:非該当
---	-----------------------	------------------------	-------------------------------

	評価	点
b610 尿排泄機能(尿を濾過し集尿する機能。蓄尿機能等)		
b620 排尿機能(膀胱から尿を排出する機能。失禁等)		

(2) 排泄行動のプロセス

※出典:排泄ケアナビ

項目ごとに、「できること:○」、「できないのにしていないこと:△」、「できないこと:x」を記入してください。

あてはまらない項目は空欄にしてください。(例:「自力で起き上がれる」が○の場合、「介助があれば起き上がれる」は空欄)

排泄のプロセス	行動	チェック	No.
尿意・便意の知覚	尿意(便意)を感じることができる		1
	尿意(便意)と排泄を結びつけて自覚できる		2
	尿意(便意)を伝達できる		3
	排泄をある程度我慢できる		4
トイレ(ポータブルトイレ) への移動	自力でベッド上で起き上がれる		5
	自力でベッドまたは椅子に座れる		6
	自力でベッドまたは椅子から立ち上がれる		7
	自力で歩ける(杖などの補助器具の使用も含む)		8
	車椅子を使って自力で移動できる		9
	自力でトイレの扉を開け、入ることができる		10
	介助があればベッド上で起き上がれる		11
	介助があればベッドまたは椅子に座れる		12
	介助があればベッドまたは椅子から立ち上がれる		13
	介助があれば歩ける		14
排泄準備・排泄	介助があれば車椅子を使って移動できる		15
	介助があればトイレの扉を開け、入ることができる		16
	トイレの場所や、トイレまでの道順がわかる		17
	排泄はトイレでするという意識がある		18
	便座を確認できる		19
あとしまつ	自力で便座に座り、立ち上がることができる		20
	自力でズボンや下着を上げ下げできる		21
	介助があれば便座に座り、立ち上がることができる		22
	介助があればズボンや下着を上げ下げできる		23
あとしまつ	自力で排泄後、排水レバーを操作できる		24
	自力でトイレットペーパーで陰部を拭ける		25
	自力で手を洗うことができる		26
	介助があれば排泄後、排水レバーを操作できる		27
	介助があればトイレットペーパーで陰部を拭ける		28
	介助があれば手を洗うことができる		29

(3) 普段の排泄状況

下記の項目の内、あてはまるものに○をつけてください。

普段の排泄状況	自力または介助があればトイレで排泄ができる	
	ベッド上でおむつ、または尿瓶を使用して排泄している	
	カテーテルを使用して排泄している	

(4) 離床時間

1日の平均離床時間	時間
-----------	----

10.【導入後調査で回答】対象利用者のご意見等

※可能な範囲で、機器導入に関する対象利用者のご意見等をご記載ください。

機器導入に関する 対象利用者のご意見等	
------------------------	--

以上です。ご回答ありがとうございました。

(6) 排泄ケア記録表(事前調査用)

調査票(事前(機器導入前))

⑤排泄支援 (DFree) 事前調査

排泄ケア記録表

月 日 () 施設ID 利用者ID リーダー確認欄

排泄の状態・職員による排泄ケア ※正の字で回数を記録する										人数・時間		利用者さまの状況や、夜間の起きたし、転倒、排泄に関するナースコール、その他気づいたこと(不穏な言動等)をメモ			担当スタッフID			
①トイレ誘導					②おむつ・パッド確認 (トイレ誘導を実施していない場合)					※①または②を必ず記入		※①-1または②-1は訪室したら必ず記入						
①-1訪室	①-2 排尿状況				②-1訪室	②-2 排尿状況				人数	時間							
訪室	トイレに自力で排尿あり	空振り	失禁	横漏れ	訪室	失禁	空振り	横漏れ	その他	人数	時間							
尿意確認	DFreeのアラートによるもの	左記以外(自力での訴え、職員の確認によるもの等)	排尿なし	おむつ・パッド交換	更衣、シート交換等	おむつ・パッド確認	おむつ・パッド交換	排尿なし	更衣、シート交換等	尿器・カテーテル等での排泄								
												1	2	3				
7:00~											人	分						
8:00~											人	分						
9:00~											人	分						
10:00~											人	分						
11:00~											人	分						
12:00~											人	分						
13:00~											人	分						
14:00~											人	分						
15:00~											人	分						
16:00~											人	分						
17:00~											人	分						
18:00~											人	分						
19:00~											人	分						
20:00~											人	分						
21:00~											人	分						
22:00~											人	分						
23:00~											人	分						
24:00~											人	分						
1:00~											人	分						
2:00~											人	分						
3:00~											人	分						
4:00~											人	分						
5:00~											人	分						
6:00~											人	分						

排泄予測

(7) 排泄ケア記録表(事後調査用)

調査票(事後(機器導入後))

排泄支援 (DFree) 事後調査用		排泄ケア記録表										リーダー確認欄						
月 日 ()		施設ID		利用者ID								リーダー確認欄						
機器使用時間 (← →)	機器着脱	排泄の状態・職員による排泄ケア ※正の字で回数を記録する										※①、②または③を必ず記入、機器使用時間を必ず記入						
		①トイレ誘導					②おむつ・パッド確認 (トイレ誘導を実施していない場合)					※①-1または②-1は訪室したら必ず記入						
		①-1訪室	①-2 排泄状況				②-1訪室	②-2 排泄状況										
		訪室 尿意確認	トイレに自力で排尿あり DFree 左記以外(自力のアラトによるもの)	空振り 排尿なし	失禁 おむつ・パッド交換	横漏れ 更衣、シーツ交換等	訪室 おむつ・パッド確認	失禁 おむつ・パッド交換	空振り 排尿なし	横漏れ 更衣、シーツ交換等	その他 尿器・カテテル等での排泄	排泄ケアに要した 人数・時間 (トイレまでの移動介助、尿漏れ後の対応、機器着脱の時間を含めて)	利用者さまの状況や、夜間の起きだし、転倒、排泄に関するナースコール、その他気づいたこと(不穏な言動等)をメモ		担当 スタッフID			
人数	時間									1	2	3						
7:00~																		
8:00~																		
9:00~																		
10:00~																		
11:00~																		
12:00~																		
13:00~																		
14:00~																		
15:00~																		
16:00~																		
17:00~																		
18:00~																		
19:00~																		
20:00~																		
21:00~																		
22:00~																		
23:00~																		
24:00~																		
1:00~																		
2:00~																		
3:00~																		
4:00~																		
5:00~																		
6:00~																		

排泄予測

(2) 職員向けアンケート調査票(事前調査用)

⑤排泄支援(Helppad)・事前調査

施設ID	施設名

職員向け調査票
(職員各自が記入)

職員ID	記入日
	年 月 日

1. 職員概要

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代～
職種	1:介護福祉士 2:介護職員(介護福祉士以外) 3:看護職員 4:リハビリ職(機能訓練指導員を含む) 5:相談員 6:事務職員 7:その他()		
役職	1:経営層 2:管理者・リーダー 3:一般職 4:その他()		
現状の職種での経験年数	年	ヶ月	

2. 心理的負担評価 ※出典:心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なぐさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

※ 裏面へ続く

3. 腰の状態について

※出典：疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度
(JLEQ：Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire)

※ この設問では、腰の痛みの程度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1 この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
2 この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
3 この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
4 この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
5 この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたか	1 思わなかった	2 たまに思った	3 ときどき思った
	4 しばしば思った	5 いつも思っていた	
6 この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	1 休まなかった	2 1-3日休んだ	3 半日以上休んだ
	4 半分程度休んだ	5 ほとんど休んだ	

職員向け調査票は以上です。

(3) 職員向けアンケート調査票(事後調査用)

⑤排泄支援・事後調査用 (Helppad用)		職員向け調査票	
施設ID	施設名	(職員各自が記入)	
		職員ID	記入日
			年 月 日

1. 職員概要

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代 60歳代・70歳代~
職種	1:介護福祉士 2:介護職員(介護福祉士以外) 3:看護職員 4:リハビリ職(機能訓練指導員を含む) 5:相談員 6:事務職員 7:その他()		
役職	1:経営層 2:管理者・リーダー 3:一般職 4:その他()		
現状の職種での経験年数	年	ヶ月	

2. 心理的負担評価 ※出典:心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

3. 腰の状態について ※出典:疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度 (JLEQ: Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire)

※ この設問では、腰の痛みの程度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	導入後		
	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
1 この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	3 中程度痛い
2 この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
3 この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
4 この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
5 この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたが	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
6 この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	1 思わなかった	2 たまに思った	3 ときどき思った
	4 しばしば思った	5 いつも思っていた	
	1 休まなかった	2 1-3日休んだ	3 半日以上休んだ
	4 半分程度休んだ	5 ほとんど休んだ	

4. 機器導入によるモチベーションの変化

※ この設問では、本実証で介護ロボットを導入する前後のモチベーションの変化についてお伺いします。

	←減少したと感じる					増加したと感じる→	
1 機器導入による、仕事のやりがいの変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 機器導入による、職場の活気の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

5. 機器導入による職員や施設業務の変化

※ この設問では、本実証で介護ロボットを導入する前後の施設業務等の変化についてお伺いします。

	←そう思わない		変化なし			→そう思う→	
1 気持ちに余裕ができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 精神的負担(ストレスなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
4 利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	-3	-2	-1	0	1	2	3
5 訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	-3	-2	-1	0	1	2	3
6 利用者の行動パターンが把握できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
7 事故原因分析の参考情報にできる	-3	-2	-1	0	1	2	3
8 優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	-3	-2	-1	0	1	2	3
9 利用者のペースに合わせた介助ができる(予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	-3	-2	-1	0	1	2	3
10 休憩時間に休むことができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
11 必要以上に利用者を見に行くことになる	-3	-2	-1	0	1	2	3
12 走って訪室することが減る	-3	-2	-1	0	1	2	3
13 機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	-3	-2	-1	0	1	2	3
14 機器の初期設定・微調整が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
15 複数端末の携帯が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
16 自分の専門性を発揮する時間が確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
17 利用者により良いケアが提供できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
18 教育をする(教育をうける)時間を確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3

6. 導入機器の満足度評価 ※出典:QUEST 福祉用具満足度評価

※ この設問では、本実証で導入した介護ロボットについてお伺いします。

	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している
1 その福祉用具の大きさ(サイズ、高さ、長さ、幅)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
2 その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
3 その福祉用具の調節しやすさ(部品の取り付け方法や部品の調整方法)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
4 その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
5 その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
6 その福祉用具の使いやすさ(簡単に使えるかどうか)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
7 その福祉用具の使い心地の良さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
8 その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
9 その福祉用具の取得手続きと期間(手に入れるまでの手続きや期間)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
10 その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
11 その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
12 その福祉用具のアフターサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5

13 今後、今回導入した介護ロボットを継続して利用したいですか？	1 はい →7へ	2 いいえ →14へ
14 (13にていいえの方のみご回答ください) 継続して利用したいと思わない理由は何ですか？該当する項目の番号を○で囲ってください。(複数回答可)		
1 使用上の効果を実感できなかった		
2 コストが高すぎる		
3 他の介護ロボットも検討してみたい		
4 必要とする利用者がいない		
5 介護ロボットを使いこなせる気がしなかった		
6 介護ロボットを設置するスペースを十分に確保できない		
7 人間による介助のほうが利用者にとって良いと感じた		
8 他に解決すべき課題があり、今回導入した介護ロボット導入の優先順位は低い		
9 導入のためのオペレーション変更等準備に時間がかかりすぎる		
10 その他 (自由記述:)		

7. 貴施設への機器導入前後における業務オペレーション等の変化

※ この設問では、貴施設に介護ロボットを導入する前後の業務オペレーションの変化についてお伺いします。
それぞれ、あてはまるものに○をつけてください(本実証以前に導入した介護ロボットも含めてお答えください)。

	全くちがう	いくらかそ うだ	まあそうだ	その通りだ
1 機器導入前のオペレーションに戻すことで、職員の身体的負担が増える	0	1	2	3
2 機器導入前のオペレーションに戻すことで、職員の精神的負担が増える	0	1	2	3
3 機器導入前のオペレーションに戻すことで、ケアの質が低下する	0	1	2	3

職員向け調査票は以上です。

(4) 利用者向けアンケート調査票(事前調査用)

⑤排泄支援 事前調査用 (Helppad用)		利用者向け調査票 (職員が記入)		利用者ID	記入日
施設ID	施設名				年 月 日

1. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		
機器導入前の排泄支援	おむつ利用 ⇒ 1: 終日 2: 夜間のみ 3: その他() ※1日の平均的なオムツ利用枚数()枚 トイレ誘導・介助にて排泄 ⇒ 4: 終日 5: 夜間はポータブルトイレ 6: その他()		
機器導入の目的・目標 (複数選択可)	1: 職員の負担軽減 2: 利用者の転倒・転落リスクの軽減 3: 利用者の排泄の自立 4: 利用者の排泄パターンの把握 5: 褥瘡予防(改善) 6: その他()		

2. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるADLの変化

(1) ADLの変化(Barthel Index)の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	10	10
	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	5	5
	全介助	0	0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	15	15
	軽度の部分介助または監視を要する	10	10
	座ることは可能であるがほぼ全介助	5	5
	全介助または不可能	0	0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	5	5
	部分介助または不可能	0	0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む	10	10
	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	5	5
	全介助または不可能	0	0
5 入浴	自立	5	5
	部分介助または不可能	0	0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない	15	15
	45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	10	10
	歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能	5	5
	上記以外	0	0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	10	10
	介助または監視を要する	5	5
	不能	0	0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	10	10
	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	5	5
	上記以外	0	0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	10	10
	ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	10	10
	時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
合計(100点満点)			

3.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	あてはまる ランク いずれかに○
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
	IIa 家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
	IIb 家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
	IIIa 日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
	IIIb 夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIIIaに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度(Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD13)

【調査日から過去1週間】		まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
1	同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2	よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3	日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4	特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5	特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6	昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7	やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8	同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9	口汚くののしる	0	1	2	3	4
10	場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11	世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12	明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13	引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

4.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】利用者への心理的な影響の変化 ※出典：意欲の指標（Vitality index）

対象者の意欲について、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		調査時
1)起床 薬剤の影響（睡眠薬など）を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさない起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2)意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3)食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしていない	0
4)排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5)リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典：WHO-5 精神的健康状態表

調査日から過去2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください		いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1	明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2	落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3	意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4	ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5	日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

6.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】排泄行動について

(1) 排泄行動に係るICFの評価

右の0~4, または8, 9を、以下の評価点の欄にそれぞれ記入してください	0:機能障害なし	1:軽度の機能障害	2:中等度の機能障害
	3:重度の機能障害	4:完全な機能障害	8:詳細不明 9:非該当

	導入前評価
b610 尿排泄機能(尿を濾過し集尿する機能。畜尿機能等)	点
b620 排尿機能(膀胱から尿を排出する機能。失禁等)	点

(2) 排泄行動のプロセス

※出典:排泄ケアナビ

項目ごとに、「できること:○」、「できないのにしていないこと:△」、「できないこと:×」を記入してください。

あてはまらない項目は空欄にしてください。(例:「自力で起き上がれる」が○の場合、「介助があれば起き上がれる」は空欄)

排泄のプロセス	行動	チェック	No.
尿意・便意の知覚	尿意(便意)を感じることができる		1
	尿意(便意)と排泄を結びつけて自覚できる		2
	尿意(便意)を伝達できる		3
	排泄をある程度我慢できる		4
トイレ(ポータブルトイレ)への移動	自力でベッド上で起き上がれる		5
	自力でベッドまたは椅子に座れる		6
	自力でベッドまたは椅子から立ち上がれる		7
	自力で歩ける(杖などの補助器具の使用も含む)		8
	車椅子を使って自力で移動できる		9
	自力でトイレの扉を開け、入ることができる		10
	介助があればベッド上で起き上がれる		11
	介助があればベッドまたは椅子に座れる		12
	介助があればベッドまたは椅子から立ち上がれる		13
	介助があれば歩ける		14
	介助があれば車椅子を使って移動できる		15
	介助があればトイレの扉を開け、入ることができる		16
	トイレの場所や、トイレまでの道順がわかる		17
	排泄はトイレですするという意識がある		18
排泄準備・排泄	便座を確認できる		19
	自力で便座に座り、立ち上がるができる		20
	自力でズボンや下着を上げ下げできる		21
	介助があれば便座に座り、立ち上がるができる		22
	介助があればズボンや下着を上げ下げできる		23
あとしまつ	自力で排泄後、排水レバーを操作できる		24
	自力でトイレトペーパーで陰部を拭ける		25
	自力で手を洗うことができる		26
	介助があれば排泄後、排水レバーを操作できる		27
	介助があればトイレトペーパーで陰部を拭ける		28
	介助があれば手を洗うことができる		29

(3) 普段の排泄状況

下記の項目の内、あてはまるものに○をつけてください。

普段の排泄状況	自力または介助があればトイレで排泄ができる	
	ベッド上でおむつ,または尿瓶を使用して排泄している	
	カテーテルを使用して排泄している	

(4) 離床時間

1日の平均離床時間	時間
-----------	----

7.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】褥瘡の状態について

(1) 褥瘡の有無 ※出典：褥瘡対策に関するスクリーニング・ケア計画書

利用者の褥瘡の状態について○をつけてください。また、現在、褥瘡がある場合は発生日をご記入ください。

現在	1:あり → 2:なし	褥瘡発生部位	1:仙骨部 2:坐骨部 3:尾骨部 4:腸骨部 5:大転子部 6:踵部 7:その他()
		褥瘡発生日	令和 年 月 日
過去	1:あり → 2:なし	褥瘡発生部位	1:仙骨部 2:坐骨部 3:尾骨部 4:腸骨部 5:大転子部 6:踵部 7:その他()

(2) 危険因子の評価 ※出典：褥瘡対策に関するスクリーニング・ケア計画書

項目ごとに、あてはまるものに○をつけてください。

No.	項目		評価	
1	障害高齢者の日常生活自立度		1:J1 2:J2 3:A1 4:A2 5:B1 6:B2 7:C1 8:C2 9:不明・未実施	
2	ADLの状況	入浴	1:自分でやっている 2:自分で行っていない	
		食事摂取	1:自分でやっている 2:自分で行っていない 3:対象外(※1)	
		更衣	上衣	1:自分でやっている 2:自分で行っていない
			下衣	1:自分でやっている 2:自分で行っていない
3	基本動作	寝返り	1:自分でやっている 2:自分で行っていない	
		座位の保持	1:自分でやっている 2:自分で行っていない	
		座位での乗り移り	1:自分でやっている 2:自分で行っていない	
		立位の保持	1:自分でやっている 2:自分で行っていない	
4	排泄の状況	尿失禁	1:なし 2:あり 3:対象外(※2)	
		便失禁	1:なし 2:あり 3:対象外(※3)	
		バルーンカテーテル使用	1:なし 2:あり	
5	過去3か月以内に褥瘡の既往があるか		1:なし 2:あり	

※1:経管栄養・経静脈栄養等の場合 ※2:バルーンカテーテル等を使用もしくは自己導尿等の場合 ※3:人工肛門等の場合

(3) 褥瘡の状態の評価 ※出典:「改定DESIGN-R®R2020コンセンサス・ドキュメント」(一般社団法人 日本褥瘡学会)
 No.1~7それぞれの項目において、利用者の褥瘡の状態に一番近い状態に○をつけてください。

No.	項目	評価
1	深さ	1 d 0: 皮膚損傷・発赤なし
		2 d 1: 持続する発赤
		3 d 2: 真皮までの損傷
		4 D 3: 皮下組織までの損傷
		5 D 4: 皮下組織を越える損傷
		6 D 5: 関節腔、体腔に至る損傷
		7 DDTI: 深部損傷褥瘡(DTI)疑い
		8 D U: 壊死組織で覆われ深さの判定が不能
2	浸出液	1 e 0: なし
		2 e 1: 少量:毎日のドレッシング交換を要しない
		3 e 3: 中等量:1日1回のドレッシング交換を要する
		4 E 6: 多量:1日2回以上のドレッシング交換を要する
3	大きさ	1 s 0: 皮膚損傷なし
		2 s 3: 4未満
		3 s 6: 4以上 16未満
		4 s 8: 16以上 36未満
		5 s 9: 36以上 64未満
		6 s 12: 64以上 100未満
		7 S 15: 100以上
4	炎症/感染	1 i 0: 局所の炎症徴候なし
		2 i 1: 局所の炎症徴候あり(創周囲の発赤・腫脹・熱感・疼痛)
		3 I 3C: 臨床的定着疑い(創面にぬめりがあり、浸出液が多い。肉芽があれば、浮腫性で脆弱など)
		4 I 3: 局所の明らかな感染徴候あり(炎症徴候、膿、悪臭など)
		5 I 9: 全身的影響あり(発熱など)
5	肉芽組織	1 g 0: 創が治癒した場合、創の浅い場合、深部損傷褥瘡(DTI)疑いの場合
		2 g 1: 良性肉芽が創面の90%以上を占める
		3 g 3: 良性肉芽が創面の50%以上90%未満を占める
		4 G 4: 良性肉芽が創面の10%以上50%未満を占める
		5 G 5: 良性肉芽が創面の10%未満を占める
		6 G 6: 良性肉芽が全く形成されていない
6	壊死組織	1 n 0: 壊死組織なし
		2 N 3: 柔らかい壊死組織あり
		3 N 6: 硬く厚い密着した壊死組織あり
7	ポケット	1 p 0: ポケットなし
		2 P 6: 4未満
		3 P 9: 4以上16未満
		4 P 12: 16以上36未満
		5 P 24: 36以上

以上です。ご回答ありがとうございました。

(5) 利用者向けアンケート調査票(事後調査用)

⑤排泄支援 事後調査用 (Helppad用)		利用者向け調査票 (職員が記入)	
施設ID	施設名	利用者ID	記入日 年 月 日

1. 対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		
機器導入後の排泄支援	おむつ利用 → 1: 終日 2: 夜間のみ 3: その他() ※1日の平均的なオムツ利用枚数()枚 トイレ誘導・介助にて排泄 → 4: 終日 5: 夜間はポータブルトイレ 6: その他()		

2. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるADLの変化

(1) 【導入後の状態について回答】ADLの変化 (Barthel Index) の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		導入後評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える	10	10
	部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう)	5	5
	全介助	0	0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む)	15	15
	軽度の部分介助または監視を要する	10	10
	座ることは可能であるがほぼ全介助 全介助または不可能	5 0	5 0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り)	5	5
	部分介助または不可能	0	0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む	10	10
	部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する	5	5
	全介助または不可能	0	0
5 入浴	自立	5	5
	部分介助または不可能	0	0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない	15	15
	45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む	10	10
	歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能	5	5
	上記以外	0	0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない	10	10
	介助または監視を要する	5	5
	不能	0	0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	10	10
	部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	5	5
	上記以外	0	0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	10	10
	ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	10	10
	時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	5	5
	上記以外	0	0
合計(100点満点)			

3. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典：認知症高齢者の日常生活自立度
機器導入後に、いずれかのランクに○をしてください。

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	導入後 (いずれかに○)
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にはほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
IIa	家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
IIb	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
IIIa	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
IIIb	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIIIaと同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIと同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典：認知症行動障害尺度 (Dementia Behavior Disturbance Scale: DBD13)

	【導入後調査の過去1週間】				
	まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
1 同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2 よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3 日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4 特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5 特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6 昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7 やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8 同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9 口汚くののしる	0	1	2	3	4
10 場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11 世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12 明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13 引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

(3) その他の認知機能の変化 (導入後調査の時点)

機器導入による認知機能の変化	
----------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた機器導入による認知機能変化の総合的な評価

←悪化したと感じる						向上したと感じる→
-3	-2	-1	0	1	2	3

4. 【導入後調査で回答】利用者への心理的な影響 ※出典：意欲の指標 (Vitality index)

今回導入した機器を利用することによって、対象者の意欲がどの程度変化したか、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

	導入後	
1) 起床 薬剤の影響(睡眠薬など)を除外。起床できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している 起こさないで起床しないことがある 自分から起床することはない	2 1 0
2) 意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける 挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる 反応がない	2 1 0
3) 食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする 促されると食べようとする 食事に関心がない、全く食べようとしない	2 1 0
4) 排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う 時々、尿意便意を伝える 排泄に全く関心がない	2 1 0
5) リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める 促されて向かう 拒否、無関心	2 1 0

5.【導入後調査で回答】対象利用者におけるコミュニケーションの変化

(1) 機器導入によるコミュニケーションの変化

	←減少したと感じる					増加したと感じる→	
1 利用者の発語量の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 利用者の表情の変化(笑顔になる頻度等)	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) その他のコミュニケーションの変化(導入後調査の時点)

機器導入による コミュニケーションの変化	
-------------------------	--

(3) (1)(2)を踏まえた機器導入によるコミュニケーション変化の総合的な評価

←減少したと感じる						増加したと感じる→	
-3	-2	-1	0	1	2	3	

6.【導入後調査で回答】対象利用者における社会参加の変化

(1) 機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

	←減少したと感じる					増加したと感じる→	
1 利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

	←減少したと感じる					増加したと感じる→	
1 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(3) その他の社会参加の変化(導入後調査の時点)

機器導入による 社会参加の変化	
--------------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた機器導入による社会参加の変化の総合的な評価

←減少したと感じる						増加したと感じる→	
-3	-2	-1	0	1	2	3	

7.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典:WHO-5 精神的健康状態表

最近2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください						
	いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1 明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3 意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4 ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

(2) その他のQOLの変化(導入後調査の時点)

機器導入による QOLの変化	
-------------------	--

(3) (1)(2)を踏まえた機器導入によるQOL変化の総合的な評価

←悪化したと感じる						向上したと感じる→	
-3	-2	-1	0	1	2	3	

8.【導入後調査で回答】対象利用者へのケアの変更

(1) 機器導入によるケア内容の変更

		全く思わな い	あまり 思わない	どちらとも 言えない	思う	とても思う
1	機器導入により、利用者の状況が可視化できる	1	2	3	4	5
2	機器導入により、より適切なタイミングでケアが提供できる	1	2	3	4	5
3	機器導入により、より適切な内容のケアが提供できる	1	2	3	4	5
4	機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	1	2	3	4	5
5	機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	1	2	3	4	5
6	機器導入により、日中の生活が充実する	1	2	3	4	5

9.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】排泄行動について

(1) 排泄行動に係るICFの評価

右の0~4,または8,9を、以下の 評価点の欄にそれぞれ記入してください	0:機能障害なし 3:重度の機能障害	1:軽度の機能障害 4:完全な機能障害	2:中等度の機能障害 8:詳細不明 9:非該当
---	-----------------------	------------------------	-------------------------------

	評価	点
b610 尿排泄機能(尿を濾過し集尿する機能。畜尿機能等)		点
b620 排尿機能(膀胱から尿を排出する機能。失禁等)		点

(2) 排泄行動のプロセス

※出典:排泄ケアナビ

項目ごとに、「できること:○」、「できないこと:△」、「できないこと:x」を記入してください。
あてはまらない項目は空欄にしてください。(例:「自力で起き上がる」が○の場合、「介助があれば起き上がる」は空欄)

排泄のプロセス	行動	チェック	No.
尿意・便意の知覚	尿意(便意)を感じることができる		1
	尿意(便意)と排泄を結びつけて自覚できる		2
	尿意(便意)を伝達できる		3
	排泄をある程度我慢できる		4
トイレ(ポータブルトイレ) への移動	自力でベッド上で起き上がる		5
	自力でベッドまたは椅子に座れる		6
	自力でベッドまたは椅子から立ち上がる		7
	自力で歩ける(杖などの補助器具の使用も含む)		8
	車椅子を使って自力で移動できる		9
	自力でトイレの扉を開け、入ることができる		10
	介助があればベッド上で起き上がる		11
	介助があればベッドまたは椅子に座れる		12
	介助があればベッドまたは椅子から立ち上がる		13
	介助があれば歩ける		14
排泄準備・排泄	介助があれば車椅子を使って移動できる		15
	介助があればトイレの扉を開け、入ることができる		16
	トイレの場所や、トイレまでの道順がわかる		17
	排泄はトイレですという意識がある		18
あとしまつ	便座を確認できる		19
	自力で便座に座り、立ち上がることができる		20
	自力でズボンや下着を上げ下げできる		21
	介助があれば便座に座り、立ち上がることができる		22
あとしまつ	介助があればズボンや下着を上げ下げできる		23
	自力で排泄後、排水レバーを操作できる		24
	自力でトイレトペーパーで陰部を拭ける		25
	自力で手を洗うことができる		26
	介助があれば排泄後、排水レバーを操作できる		27
	介助があればトイレトペーパーで陰部を拭ける		28
	介助があれば手を洗うことができる		29

(3) 普段の排泄状況

下記の項目の内、あてはまるものに○をつけてください。

普段の排泄状況	自力または介助があればトイレで排泄ができる	
	ベッド上でおむつ,または尿瓶を使用して排泄している	
	カテーテルを使用して排泄している	

(4) 離床時間

1日の平均離床時間	時間
-----------	----

10.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】褥瘡の状態について

(1) 褥瘡の有無 ※出典：褥瘡対策に関するスクリーニング・ケア計画書

利用者の褥瘡の状態について○をつけてください。また、現在、褥瘡がある場合は発生日をご記入ください。

現在	1:あり →	褥瘡発生日	1:仙骨部	2:坐骨部	3:尾骨部	4:腸骨部
	2:なし		5:大転子部	6:踵部	7:その他()	
		褥瘡発生日	令和 年 月 日			
過去	1:あり →	褥瘡発生日	1:仙骨部	2:坐骨部	3:尾骨部	4:腸骨部
	2:なし		5:大転子部	6:踵部	7:その他()	

(2) 危険因子の評価 ※出典：褥瘡対策に関するスクリーニング・ケア計画書

項目ごとに、あてはまるものに○をつけてください。

No.	項目		評価								
1	障害高齢者の日常生活自立度		1:J1	2:J2	3:A1	4:A2	5:B1	6:B2	7:C1	8:C2	
2	ADLの状況	入浴	1:自分でやっている		2:自分で行っていない						
		食事摂取	1:自分でやっている		2:自分で行っていない		3:対象外(※1)				
		更衣	上衣	1:自分でやっている		2:自分で行っていない					
			下衣	1:自分でやっている		2:自分で行っていない					
3	基本動作	寝返り	1:自分でやっている		2:自分で行っていない						
		座位の保持	1:自分でやっている		2:自分で行っていない						
		座位での乗り移り	1:自分でやっている		2:自分で行っていない						
		立位の保持	1:自分でやっている		2:自分で行っていない						
4	排泄の状況	尿失禁	1:なし		2:あり		3:対象外(※2)				
		便失禁	1:なし		2:あり		3:対象外(※3)				
		バルーンカテーテル使用	1:なし		2:あり						
5	過去3か月以内に褥瘡の既往があるか		1:なし		2:あり						

※1:経管栄養・経静脈栄養等の場合 ※2:バルーンカテーテル等を使用もしくは自己導尿等の場合 ※3:人工肛門等の場合

(3) 褥瘡の状態の評価 ※出典:「改定DESIGN-R®R2020コンセンサス・ドキュメント」(一般社団法人 日本褥瘡学会)
No.1~7それぞれの項目において、利用者の褥瘡の状態に一番近い状態に○をつけてください。

No.	項目	評価
1	深さ	1 d 0: 皮膚損傷・発赤なし
		2 d 1: 持続する発赤
		3 d 2: 真皮までの損傷
		4 D 3: 皮下組織までの損傷
		5 D 4: 皮下組織を越える損傷
		6 D 5: 関節腔、体腔に至る損傷
		7 DDTI: 深部損傷褥瘡(DTI)疑い
		8 D U: 壊死組織で覆われ深さの判定が不能
2	浸出液	1 e 0: なし
		2 e 1: 少量:毎日のドレッシング交換を要しない
		3 e 3: 中等量:1日1回のドレッシング交換を要する
		4 E 6: 多量:1日2回以上のドレッシング交換を要する
3	大きさ	1 s 0: 皮膚損傷なし
		2 s 3: 4未満
		3 s 6: 4以上 16未満
		4 s 8: 16以上 36未満
		5 s 9: 36以上 64未満
		6 s 12: 64以上 100未満
		7 S 15: 100以上
4	炎症/感染	1 i 0: 局所の炎症徴候なし
		2 i 1: 局所の炎症徴候あり(創周囲の発赤・腫脹・熱感・疼痛)
		3 I 3C: 臨床的定着疑い(創面にぬめりがあり、浸出液が多い。肉芽があれば、浮腫性で脆弱など)
		4 I 3: 局所の明らかな感染徴候あり(炎症徴候、膿、悪臭など)
		5 I 9: 全身的影響あり(発熱など)
5	肉芽組織	1 g 0: 創が治癒した場合、創の浅い場合、深部損傷褥瘡(DTI)疑いの場合
		2 g 1: 良性肉芽が創面の90%以上を占める
		3 g 3: 良性肉芽が創面の50%以上90%未満を占める
		4 G 4: 良性肉芽が創面の10%以上50%未満を占める
		5 G 5: 良性肉芽が創面の10%未満を占める
		6 G 6: 良性肉芽が全く形成されていない
6	壊死組織	1 n 0: 壊死組織なし
		2 N 3: 柔らかい壊死組織あり
		3 N 6: 硬く厚い密着した壊死組織あり
7	ポケット	1 p 0: ポケットなし
		2 P 6: 4未満
		3 P 9: 4以上 16未満
		4 P 12: 16以上 36未満
		5 P 24: 36以上

11.【導入後調査で回答】対象利用者のご意見等

※可能な範囲で、機器導入に関する対象利用者のご意見等をご記載ください。

機器導入に関する 対象利用者のご意見等	
------------------------	--

以上です。ご回答ありがとうございました。

(6) 排泄ケア記録表(事前調査用)

調査票(事前(機器導入前))

⑤ 排泄支援 (Helppad) 事前調査		排泄ケア記録表													
月 日 ()		施設ID			利用者ID			リーダー確認欄							
※機器を使用しない予定の時間帯については、記録は不要です。(例：夜間のみの利用の場合は、日中の記録は不要)										※記載内容を確認し、漏れ不明等なければチェック					
排泄の状態・職員による排泄ケア ※正の字で回数を記録する															
おむつ・パッド確認 ※①/②どちらも記入されているか確認															
①: 訪室		②-1: 排尿				②-2: 排便			排泄ケアに要した人数・時間		担当スタッフID				
Helppadの通知を基に訪室	左記以外で訪室(自力での訴え、職員の確認によるもの等)	おむつ・パッド交換	空振り	横漏れ	おむつ・パッド交換	空振り	横漏れ	更衣、シート交換等	人数	時間	利用者さまの状況や、夜間の起きたし、転倒、排泄に関するナースコール、その他気づいたこと(不穏な言動等)をメモ		1	2	3
7:00~									人	分					
8:00~									人	分					
9:00~									人	分					
10:00~									人	分					
11:00~									人	分					
12:00~									人	分					
13:00~									人	分					
14:00~									人	分					
15:00~									人	分					
16:00~									人	分					
17:00~									人	分					
18:00~									人	分					
19:00~									人	分					
20:00~									人	分					
21:00~									人	分					
22:00~									人	分					
23:00~									人	分					
24:00~									人	分					
1:00~									人	分					
2:00~									人	分					
3:00~									人	分					
4:00~									人	分					
5:00~									人	分					
6:00~									人	分					

排泄予測

(7) 排泄ケア記録表(事後調査用)

調査票(事後(機器導入後))

排泄支援 (Helppad) 事後調査 **排泄ケア記録表**

月 日 () 施設ID 利用者ID リーダー確認欄

※機器を使用しない予定の時間帯については、記録は不要です。(例：夜間のみ利用の場合は、日中の記録は不要) ※記載内容を確認し、漏れ不明等なければチェック

機器使用時間 (← →)	排泄の状態・職員による排泄ケア ※正の字で回数を記録する						排泄ケアに要した 人数・時間 (トイレまでの移動 介助、尿漏れ後の 対応、機器着脱の 時間を含めて)		利用者さまの状況 (便いりがあったかどうか等) や、夜間の起きたし、転倒、排泄に関するナース コール、その他気づいたこと (不穏な言動等) をメモ			担当 スタッフID		
	おむつ・パッド確認 ※①②どちらも記入されているか確認		②-1:排泄		②-2:排便									
	①:訪室	Helppadの通知を基に随時で訪室	Helppadの通知を基にまだら定時で訪室(ご依頼している施設の等)	左記以外で訪室(自力での訴え、職員の確認によるもの等)	おむつ・パッド交換	空振り	横漏れ	おむつ・パッド交換	空振り	横漏れ	更衣、シート交換等			
	Helppadの通知を基に随時で訪室	Helppadの通知を基にまだら定時で訪室(ご依頼している施設の等)	左記以外で訪室(自力での訴え、職員の確認によるもの等)	おむつ・パッド交換	空振り	横漏れ	おむつ・パッド交換	空振り	横漏れ	更衣、シート交換等	人数	時間	1	2
7:00~										人	分			
8:00~										人	分			
9:00~										人	分			
10:00~										人	分			
11:00~										人	分			
12:00~										人	分			
13:00~										人	分			
14:00~										人	分			
15:00~										人	分			
16:00~										人	分			
17:00~										人	分			
18:00~										人	分			
19:00~										人	分			
20:00~										人	分			
21:00~										人	分			
22:00~										人	分			
23:00~										人	分			
24:00~										人	分			
1:00~										人	分			
2:00~										人	分			
3:00~										人	分			
4:00~										人	分			
5:00~										人	分			
6:00~										人	分			

排泄予測

(2) 職員向けアンケート調査票(事前調査用)

事前調査	介護職員向け調査票	実証テーマ：介護助手
施設名	(職員各自が記入)	職員ID
		記入日
		月 日

1. 職員概要

性別	男・女	年齢階級	10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代~
職種	介護福祉士・介護職員(介護福祉士以外)・看護職員 リハビリ職(機能訓練指導員を含む)・相談員・事務職員・その他()		
役職	経営層・管理者・リーダー・一般職・その他()		
現状の職種での 経験年数	年	ヶ月	

2. 心理的負担評価

※出典：心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18)

※この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

職員向け調査票は以上です。

(3) 職員向けアンケート調査票(事後調査用)

事後調査	介護職員向け調査票	実証テーマ：介護助手
施設名	(職員各自が記入)	職員ID
		記入日
		月 日

1. 職員概要

性別	男・女	年齢階級	10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代～
職種	介護福祉士・介護職員(介護福祉士以外)・看護職員 リハビリ職(機能訓練指導員を含む)・相談員・事務職員・その他()		
役職	経営層・管理者・リーダー・一般職・その他()		
現状の職種での経験年数	年 月		

2. 心理的負担評価

※出典：心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

3. 介護助手導入によるモチベーションの変化

※ この設問では、介護助手の勤務状況によるモチベーションの変化についてお伺いします。

介護助手が勤務しなかった期間と比較し、介護助手が勤務した期間におけるモチベーションについて、それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	←減少したと感じる					増加したと感じる→		
1 介護助手導入による仕事のやりがいの変化	-3	-2	-1	0	1	2	3	
2 介護助手導入による職場の活気の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3	

4. 介護助手導入による職員や施設業務の変化

※ この設問では、介護助手の勤務状況による施設業務等の変化についてお伺いします。介護助手が勤務しなかった期間と比較し、介護助手が勤務した期間における変化について、それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	←そう思わない	変化なし					→そう思う→
1 気持ちに余裕ができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 精神的負担(ストレスなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
4 利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	-3	-2	-1	0	1	2	3
5 休憩時間に休むことができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
6 残業時間が減った・有給休暇が取りやすくなった	-3	-2	-1	0	1	2	3
7 必要以上に利用者を見に行く必要がなくなる	-3	-2	-1	0	1	2	3
8 自分の専門性を発揮する時間が確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
9 利用者により良いケアが提供できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
10 職員に対して教育をする(教育をうける)時間を確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
11 職場の人間関係・雰囲気が良くなった	-3	-2	-1	0	1	2	3
12 介護助手に継続して勤務してもらいたい	1 はい			2 いいえ → 13へ			
13 (12にていいえの方のみご回答ください)							
継続して勤務してもらいたいと思わない理由は何ですか?該当する項目の全てに○をつけてください。(複数回答可)							
1 費用対効果が期待できない							
2 業務負担軽減に思ったよりつながらない							
3 職員と介護助手がコミュニティや人間関係を構築しにくい							
4 雇用条件が合わない							
5 依頼したい業務内容が介護助手にとって難しい							
6 依頼したい業務量が介護助手にとって体力的に難しい							
7 介護助手の家庭の事情による持続的な雇用が困難である							
8 職員と介護助手との仕事への意識に乖離がある							
9 その他(自由記述:)							

5. 介護助手の活用により増やすことができた時間

※ この設問では、介護助手の活用により、時間が確保・増加させることのできた時間についてお伺いします。該当する項目の全てに○をつけてください。(複数回答可)

直接介護	1 移動・移乗・体位変換	2 排泄介助・支援	3 生活自立支援
	4 行動上の問題への対応	5 食事支援	6 入浴・整容・更衣
	7 利用者とのコミュニケーション	8 機能訓練・リハビリテーション・医療的処置	
	9 その他の直接介護()		
間接業務	10 記録・文書作成・連絡調整等	11 利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し	12 他の職員に対する指導・教育
	13 その他の間接業務()		
休憩	14 休憩	15 仮眠	
16 その他()			

6. 本実証で介護助手が担当した業務以外で介護助手が担えらる業務

※ この設問では、本実証で介護助手が担当した業務以外に、今後介護助手が担える(担ってもらいたい)と考える業務についてお伺いします。該当する項目の全てに○をつけてください。(複数回答可)

1 食事・おやつに関連する準備・片付け等	2 入浴業務の準備等	3 リネン交換・ベッドメイク
4 居室清掃・片付け	5 施設共用部分の清掃	6 ごみ捨て
7 レクリエーション準備・補助	8 その他()	

調査へのご協力、ありがとうございました。本実証調査では、職員様向けに無記名の調査も実施しております。介護助手を活用したケアに関する率直なご意見を頂きたく、QRコードよりアンケートにご協力ください。
<https://forms.office.com/r/vMD6BtibEm> ※貴施設に回答した内容が伝わることはありません。



調査票は以上です。

(4) 介護助手向けタイムスタディ調査票(事後調査用)

介護助手向けタイムスタディ調査票

施設名	担当しているユニット・フロア名	
施設ID	介護助手ID	所定勤務時間
調査実施日	月 日 (曜日)	実勤務時間 (残業時間含む)

実証テーマ：介護助手

※10分間のうち、実施した業務について、その時間数（整数）を記入して下さい。記録簿を参考ください。

記録例①：「1.巡回・移動を4分間、6.居室清掃・片付けを6分間」実施した場合、記録例②：「8. 休憩・待機を10分間」した場合は

NO	分類	Sub-NO※	項目	（ ） 時台																
				00分-09分	10分-19分	20分-29分	30分-39分	40分-49分	50分-59分	00分-09分	10分-19分	20分-29分	30分-39分	40分-49分	50分-59分					
	間接業務	1	巡回・移動																	
		2	他の職員に対する指導・教育																	
		3	食事・おやつに関連する準備・片付け等																	
B		4	入浴業務の準備等																	
		5	リネン交換・ペットメイク																	
		6	居室清掃・片付け																	
		7	その他の間接業務																	
C	休憩	8	休憩・待機																	
	その他	9	その他																	
D		10	他のフロア等での業務																	
-	-	-	備考・補足等																	

- Sub-NO ※1 次の作業場所までの移動時間
 ※2 作業内容や方法に関する指導、OJT等を要した時間
 ※3 食器洗浄、片付けなど食事関係に関する業務時間
 ※4 入浴業務に際する着替えの準備、利用者の誘導等の時間
 ※5 シーツ等の交換作業時間

- ※6 利用者の居室内の清掃、洗濯物の取替等の時間
 ※7 レフトーンコンの準備等
 ※8 休憩時間や次の作業までの待ち時間
 ※9 上記いずれにも該当しない業務時間
 ※10 調査対象となっていないフロア以外で業務を行った時間

NO	分類	Sub-NO※	項目	（ ） 時台																
				00分-09分	10分-19分	20分-29分	30分-39分	40分-49分	50分-59分	00分-09分	10分-19分	20分-29分	30分-39分	40分-49分	50分-59分					
	間接業務	1	巡回・移動																	
		2	他の職員に対する指導・教育																	
		3	食事・おやつに関連する準備・片付け等																	
B		4	入浴業務の準備等																	
		5	リネン交換・ペットメイク																	
		6	居室清掃・片付け																	
		7	その他の間接業務																	
C	休憩	8	休憩・待機																	
	その他	9	その他																	
D		10	他のフロア等での業務																	
-	-	-	備考・補足等																	

- Sub-NO ※1 次の作業場所までの移動時間
 ※2 作業内容や方法に関する指導、OJT等を要した時間
 ※3 食器洗浄、片付けなど食事関係に関する業務時間
 ※4 入浴業務に際する着替えの準備、利用者の誘導等の時間
 ※5 シーツ等の交換作業時間

- ※6 利用者の居室内の清掃、洗濯物の取替等の時間
 ※7 レフトーンコンの準備等
 ※8 休憩時間や次の作業までの待ち時間
 ※9 上記いずれにも該当しない業務時間
 ※10 調査対象となっていないフロア以外で業務を行った時間

(5) 介護助手向けアンケート調査票(事後調査用)

介護助手向け調査票

実証テーマ：介護助手

施設ID	施設名

(介護助手各自が記入)

介護助手ID	記入日
	月 日

1. 職員概要

性別	男・女	年齢階級	10歳代・20歳代・30歳代・40歳代・50歳代・60歳代・70歳代～
家族等の介護経験有無	有・無	介護現場での就労経験有無	有・無
介護・医療に関する資格の有無			
有	介護福祉士・介護福祉士以外の介護に関する国家資格()		
無	ヘルパー2級・看護師・看護師以外の医療に関する国家資格→()		
介護に関する研修会参加有無			
有	介護職員初任者研修・生活援助従事者研修・市町村等が主催する介護講座		
無	その他()		

2. 業務内容

※ この設問では、あなたが任されている主な業務内容についてお伺いします。あてはまるもの全てに○をつけてください。

1 食事・おやつに関連する準備・片付け等	2 入浴業務の準備等	3 リネン交換・ベッドメイク
4 居室清掃・片付け	5 施設共用部分の清掃	6 ごみ捨て
7 レクリエーション準備・補助	8 その他()	

3. 仕事のやりがい・満足度

※ この設問では、介護助手として実施した業務のやりがい・満足度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している
1 実施した業務内容について、どれくらい満足していますか？	1	2	3	4	5
2 実施した業務量について、どれくらい満足していますか？	1	2	3	4	5
3 職場環境・人間関係の心地の良さに、どれくらい満足していますか？	1	2	3	4	5
4 介護助手としての業務内容や業務量への施設からのフォローについて、どれくらい満足していますか？	1	2	3	4	5
5 介護助手として働くことに対してどれくらいやりがいを感じましたか？	1	2	3	4	5
6 介護助手としての勤務によってご自身の身体の健康維持につながりましたか？	1	2	3	4	5
7 介護助手としての勤務によってご自身の精神の健康維持につながりましたか？	1	2	3	4	5
8 今後、継続して介護助手として勤務したいですか？	1 はい →9へ		2 いいえ →10へ		
9 (8にて「はい」の方のみご回答ください) 継続して勤務したいと思った理由は何ですか？該当する項目の番号を○で囲ってください。(複数回答可)					
1 自分にできることで社会参加したい	5 介護助手の仕事を通じて人間関係・コミュニティを築きたい				
2 生きがいを感じたい	6 介護分野について学びたい				
3 現役時代の知識・経験を生かしたい	7 体を動かしたい・健康のため				
4 生活に余裕を持たせるための給料が欲しい	8 時間的に働きやすい				
9 その他(自由記述:)					
10 (8にて「いいえ」の方のみご回答ください) 継続して勤務したいと思わない理由は何ですか？該当する項目の番号を○で囲ってください。(複数回答可)					
1 業務内容が難しいと感じた	6 職場の環境や人間関係になじめなかった				
2 業務内容にやりがいを感じられなかった	7 身体的負担が大きいのと感じた				
3 業務量が多いと感じた	8 家庭の事情				
4 他の職種も検討したい	9 家から施設が遠く、通勤が大変である				
5 給与と業務内容が見合わない					
10 その他(自由記述:)					

調査票は以上です。

(6) 利用者向けアンケート調査票(事前調査用)

事前調査	利用者向け調査票	実証テーマ：介護助手	
施設名	(職員が記入)	利用者ID	記入日
		年	月
		日	

1. 対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		

2. 対象利用者におけるADLの変化

(1) ADLの変化 (Barthel Index) の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える 部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう) 全介助	10 5 0	10 5 0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む) 軽度の部分介助または監視を要する 座ることは可能であるがほぼ全介助 全介助または不可能	15 10 5 0	15 10 5 0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り) 部分介助または不可能	5 0	5 0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む 部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する 全介助または不可能	10 5 0	10 5 0
5 入浴	自立 部分介助または不可能	5 0	5 0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない 45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む 歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能 上記以外	15 10 5 0	15 10 5 0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない 介助または監視を要する 不能	10 5 0	10 5 0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む 部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える 上記以外	10 5 0	10 5 0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能 ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む 上記以外	10 5 0	10 5 0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能 時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む 上記以外	10 5 0	10 5 0
合計(100点満点)			

3. 対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度
 あてはまるランクに○をしてください。

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	いずれかに○
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
IIa	家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
IIb	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
IIIa	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
IIIb	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIIIaに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度 (Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD13)

【過去1週間の状況】	各項目、いずれかに○				
	まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
1 同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2 よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3 日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4 特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5 特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6 昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7 やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8 同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9 口汚くののしる	0	1	2	3	4
10 場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11 世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12 明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13 引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

4. 利用者への心理的な影響 ※出典:意欲の指標 (Vitality index)

対象者の意欲について、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。
※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		各項目、いずれかに○
1) 起床 薬剤の影響(睡眠薬など)を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさないと起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2) 意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3) 食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしない	0
4) 排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5) リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5. 対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典:WHO-5 精神的健康状態表

最近2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください	いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1 明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3 意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4 ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

以上です。ご回答ありがとうございました。

(7) 利用者向けアンケート調査票(事後調査用)

利用者向け調査票

実証テーマ：介護助手

施設名

(職員が記入)

利用者ID	記入日
	年 月 日

1. 対象利用者概要

性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		

2. 対象利用者におけるADLの変化

(1) ADLの変化 (Barthel Index) の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える 部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう) 全介助	10 5 0	10 5 0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、プレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む) 軽度の部分介助または監視を要する 座ることは可能であるがほぼ全介助 全介助または不可能	15 10 5 0	15 10 5 0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り) 部分介助または不可能	5 0	5 0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む 部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する 全介助または不可能	10 5 0	10 5 0
5 入浴	自立 部分介助または不可能	5 0	5 0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない 45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む 歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能 上記以外	15 10 5 0	15 10 5 0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない 介助または監視を要する 不能	10 5 0	10 5 0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む 部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える 上記以外	10 5 0	10 5 0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能 ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む 上記以外	10 5 0	10 5 0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能 時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む 上記以外	10 5 0	10 5 0
合計(100点満点)			

3. 対象利用者における認知機能の変化

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度
 あてはまるランクに○をしてください。

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	いずれかに○
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
IIa	家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
IIb	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりで留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
IIIa	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
IIIb	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIIIaに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度 (Dementia Behavior Disturbance Scale:DBD13)

【過去1週間の状況】	各項目、いずれかに○				
	まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
1 同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2 よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3 日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4 特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5 特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6 昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7 やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8 同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9 口汚くののしる	0	1	2	3	4
10 場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11 世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12 明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13 引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

※介護助手が勤務しなかった期間と比較し、介護助手が勤務した期間での変化について、お答えください。

(3) その他の認知機能の変化(事後調査の時点)(自由記述)

介護助手導入後の 認知機能の変化	
---------------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた介護助手導入による認知機能変化の総合的な評価(いずれかに○)

←悪化したと感じる							向上したと感じる→
-3	-2	-1	0	1	2	3	

4. 利用者への心理的な影響 ※出典：意欲の指標 (Vitality index)

対象者の意欲がどの程度変化したか、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		各項目、いずれかに○
1) 起床 薬剤の影響(睡眠薬など)を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさないと起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2) 意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3) 食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしな	0
4) 排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5) リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5. 対象利用者におけるコミュニケーションの変化

※介護助手が勤務しなかった期間と比較し、介護助手が勤務した期間での変化について、お答えください。

(1) コミュニケーションの変化

(各項目、いずれかに○)	←減少したと感じる				増加したと感じる→		
1 利用者の発語量の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 利用者の表情の変化(笑顔になる頻度等)	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) その他のコミュニケーションの変化(事後調査の時点)(自由記述)

介護助手導入後のコミュニケーションの変化	
----------------------	--

(3) (1)(2)を踏まえた介護助手導入によるコミュニケーション変化の総合的な評価(いずれかに○)

←減少したと感じる				増加したと感じる→		
-3	-2	-1	0	1	2	3

(次のページにも設問があります)

6. 対象利用者における社会参加の変化

※介護助手が勤務しなかった期間と比較し、介護助手が勤務した期間での変化について、お答えください。

(1) 介護助手導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

(各項目、いずれかに○)		←減少したと感じる				増加したと感じる→		
1	利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2	促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3	レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) 介護助手導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

(各項目、いずれかに○)		←減少したと感じる				増加したと感じる→		
1	食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2	食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3	食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(3) その他の社会参加の変化(事後調査の時点)(自由記述)

介護助手導入による社会参加の変化	
------------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた介護助手導入による社会参加の変化の総合的な評価(いずれかに○)

←減少したと感じる				増加したと感じる→			
-3	-2	-1	0	1	2	3	

7. 対象利用者におけるQOLの変化

(1) QOLの変化 ※出典:WHO-5 精神的健康状態表

最近2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください	いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1 明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3 意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4 ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

(2) その他のQOLの変化(事後調査の時点)

※介護助手が勤務しなかった期間と比較し、介護助手が勤務した期間での変化について、お答えください。

介護助手導入によるQOLの変化	
-----------------	--

(3) (1)(2)を踏まえた介護助手導入によるQOL変化の総合的な評価

←悪化したと感じる				向上したと感じる→			
-3	-2	-1	0	1	2	3	

8. 対象利用者のご意見等

※可能な範囲で、対象利用者のご意見等をご記載ください。

介護助手導入に関する対象利用者のご意見等	
----------------------	--

以上です。ご回答ありがとうございました。

(8) 利用者数調査票(事前事後共通)

利用者のご状況

■ 以下につきまして、実証対象のユニットもしくはフロアにおいて、調査初日時点にてご回答ください。

【調査初日に記入】					記入日	
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	その他 (申請中等)
実証対象のユニット(フロア)の総利用者数	人	人	人	人	人	人

他の調査票と一緒に返送ください。

以上

(9) 介護助手の導入に関連する費用に関する調査

「介護助手の導入に関連する費用に関する調査」	
	施設名 <input type="text"/>
■本調査の目的とご注意	
<ul style="list-style-type: none">・この調査は、介護助手導入に関連する費用を把握することを目的とし、ご提供いただいたデータは、取り扱いに十分注意し統計的に処理した上で、公表資料に掲載される可能性がございます。・上記目的以外に使用することは一切ございません。・以下、オレンジの塗りつぶし部分について、数値を回答ください。・この調査票は、本Excelシートに直接ご記入いただき、令和5年11月10日（金）までにExcelファイルをそのままご返送ください。	
回答用メールアドレス：	<input type="text"/>
【実証エリアだけでなく、施設・事業所全体について回答してください】	
問1 常勤介護職員の時間外勤務状況について	
(1) 介護助手導入 前 の状況を振返り、ご回答ください。 ※介護助手導入前の <input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月 時点 1か月当たりの常勤介護職員の時間外手当 総額 <input type="text"/> 円 ※1円単位で回答、または千円単位での概数での回答、いずれでも構いません	
(2) 介護助手導入 後 の状況について、 直近1か月 を振り返りご回答ください。 1か月当たりの常勤介護職員の時間外手当 総額 <input type="text"/> 円 ※1円単位で回答、または千円単位での概数での回答、いずれでも構いません	
問2 非常勤介護職員（パート、派遣職員を含む）の勤務状況について	
(1) 介護助手導入 前 の状況を振返り、ご回答ください。 ※介護助手導入前の <input type="text"/> 年 <input type="text"/> 月 時点 1か月当たりの非常勤介護職員の給与支払額 総額 <input type="text"/> 円 ※1円単位で回答、または千円単位での概数での回答、いずれでも構いません	
(2) 介護助手導入 後 の状況について、 直近1か月 を振り返りご回答ください。 1か月当たりの非常勤介護職員の給与支払額 総額 <input type="text"/> 円 ※1円単位で回答、または千円単位での概数での回答、いずれでも構いません	
問3 介護助手の勤務状況について	
直近1か月 を振り返りご回答ください。 1か月当たりの介護助手の給与支払額 総額 <input type="text"/> 円 ※1円単位で回答、または千円単位での概数での回答、いずれでも構いません	
調査票への回答は以上です。ご協力ありがとうございました。	

(2) 職員向けタイムスタディ調査票(事後調査用)

職員向けタイムスタディ調査票

事後調査 (表面)

↓以下、所定勤務時間や実勤務時間に関する記載漏れが多くあります。忘れずに必ず記載をお願いします。

施設名	担当しているユニット/フロア名		
施設ID	職員ID	月 日 (曜日)	～ ～
調査実施日	月 日 (曜日)	実勤務時間 (就業時間含む)	～

※10分間のうち、実施した業務について、その時間数(整数)について、総列の合計が10分となるよう記入して下さい。記載例を参考ください。
 記載例：「1.移動・移乗・体位交換を6分間、7.食事支援を4分間」実施した場合
 ※勤務時間に応じて、「時台」の枠に、数字を記入してください。記載例として、8時から勤務を始めた場合には、「8時台」「9時台」・・・と勤務終了まで記載ください。
 ※NO・Qにおいて、介護補助者で業務した際、該当の時間帯の枠に「V」を記入してください。例えば、2.1時台の00分～2.2時台の49分までを介護補助者として業務した場合には、該当するNO・Qの枠すべてに「V」を記入してください。

記号	項目	時台											
		00分-09分	10分-19分	20分-29分	30分-39分	40分-49分	50分-59分	00分-09分	10分-19分	20分-29分	30分-39分	40分-49分	50分-59分
Q	介護補助者としての業務時間数												
A	直接介護(※1)												
	1 移動・移乗・体位交換												
	2 排泄介助・支援												
	3 入浴・整容・更衣												
	4 利用者とのコミュニケーション												
	5 日常生活自立支援(※2)												
	6 行動上の問題への対応(※3)												
	7 食事支援												
	8 機能訓練・リハビリテーション・医務的処置												
	9 その他の直接介護												
	10 巡回・移動												
	11 記録・文書作成・連絡調整等(※4)												
	12 利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し												
	13 見守り機器の使用・確認												
	14 介護ロボット・ICT機器の準備・調整・片付け(※5)												
B	他の職員に対する指導・教育(※6)												
	16 食事・おやつ配膳・下膳等												
	17 入浴業務の準備等												
	18 リネン交換・ベッドメイク												
	19 居室清掃・片付け												
	20 消臭などの感染症対応												
	21 その他の間接業務(※7)												
C	休憩												
D	その他												
E	余白時間(空席でのケア対応はできません)												
	備考・補足等												

※1 見守りによる介助等含む。
 ※2 入浴介手支援、尿の処理、日常生活の支援
 ※3 褥瘡、不整行歩、便秘症等に対する対応等
 ※4 記録の作成、入退室等の作成、申し送り、職員の連絡調整、文書検核等
 ※5 4 ヶ月毎に行われる設備等の点検、点検業務の作成、申し送り、職員の連絡調整、文書検核等
 ※6 3 名以内、本署内、他部署等に対する対応等
 ※7 5 職種の作業、研修等の実施、見直し、片付け作業等
 ※8 6 ヶ月の内容が異なる組数、OTT等

(3) 職員向けアンケート調査票(事前調査用)

事前調査用		職員向け調査票	
施設ID	施設名	(職員各自が記入)	
000		職員ID	記入日
			年 月 日

1. 職員概要 事前・事後

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代 ・ 20歳代 ・ 30歳代 ・ 40歳代 ・ 50歳代 ・ 60歳代 ・ 70歳代～
職種	1:介護福祉士 2:介護職員(介護福祉士以外) 3:看護職員 4:リハビリ職(機能訓練指導員を含む) 5:相談員 6:事務職員 7:その他()		
役職	1:経営層 2:管理者・リーダー 3:一般職 4:その他()		
現在の職種 での経験年数	年	ヶ月	

2. 心理的負担評価 事前・事後

※出典:心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なぐさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

※ 裏面へ続く

3. 腰の状態について

※出典：疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度
(JLEQ：Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire)

事前・事後

※ この設問では、腰の痛みの程度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

		導入前		
1	この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
		4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
2	この数日間、立ち上がる時やしゃがみこむとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
		4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
3	この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
		4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
4	この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
		4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
5	この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたが	1 思わなかった	2 たまに思った	3 ときどき思った
		4 しばしば思った	5 いつも思っていた	
6	この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	1 休まなかった	2 1-3日休んだ	3 半日以上休んだ
		4 半分程度休んだ	5 ほとんど休んだ	

職員向け調査票は以上です。

(4) 職員向けアンケート調査票(事後調査用)

事後調査用		職員向け調査票	
施設ID	施設名	(職員各自が記入)	職員ID
000			記入日
			年 月 日

1. 職員概要 事前・事後

性別	1:男 2:女	年齢階級	10歳代 ・ 20歳代 ・ 30歳代 ・ 40歳代 ・ 50歳代 ・ 60歳代 ・ 70歳代～
職種	1:介護福祉士 5:相談員	2:介護職員(介護福祉士以外) 6:事務職員	3:看護職員 7:その他()
役職	1:経営層	2:管理者・リーダー	3:一般職 4:その他()
現状の職種での経験年数	年	ヶ月	

2. 心理的負担評価 事前・事後

※出典:心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18)

※ この設問では、普段の心理的な状態についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	全くちがう	いくらかそうだ	まあそうだ	その通りだ
1 怒りっぽくなる	0	1	2	3
2 悲しい気分だ	0	1	2	3
3 なんとなく心配だ	0	1	2	3
4 怒りを感じる	0	1	2	3
5 泣きたい気持ちだ	0	1	2	3
6 感情を抑えられない	0	1	2	3
7 くやしい思いがする	0	1	2	3
8 不愉快だ	0	1	2	3
9 気持ちが沈んでいる	0	1	2	3
10 いらいらする	0	1	2	3
11 いろいろなことに自信がない	0	1	2	3
12 何もかもいやだと思う	0	1	2	3
13 よくないことを考える	0	1	2	3
14 話や行動がまとまらない	0	1	2	3
15 なくさめて欲しい	0	1	2	3
16 根気がない	0	1	2	3
17 ひとりでいたい気分だ	0	1	2	3
18 何かに集中できない	0	1	2	3

3. 機器導入によるモチベーションの変化 事後のみ

※ この設問では、介護ロボットを導入する前後のモチベーションの変化についてお伺いします。

	←減少したと感じる					増加したと感じる→	
1 機器導入による、仕事のやりがいの変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 機器導入による、職場の活気の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

4. 機器導入による職員や施設業務の変化

事後のみ

※ この設問では、介護ロボットを導入する前後の施設業務等の変化についてお伺いします。

	←そう思わない		変化なし			→そう思う→	
1 気持ちに余裕ができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 精神的負担(ストレスなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
4 利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	-3	-2	-1	0	1	2	3
5 訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	-3	-2	-1	0	1	2	3
6 利用者の行動パターンが把握できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
7 事故原因分析の参考情報にできる	-3	-2	-1	0	1	2	3
8 優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	-3	-2	-1	0	1	2	3
9 利用者のペースに合わせた介助ができる(予測による予防介入、訪室タイミング、声かけの内容等)	-3	-2	-1	0	1	2	3
10 休憩時間に休むことができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
11 必要以上に利用者を見に行くことになる	-3	-2	-1	0	1	2	3
12 走って訪室することが減る	-3	-2	-1	0	1	2	3
13 機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	-3	-2	-1	0	1	2	3
14 機器の初期設定・微調整が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
15 複数端末の携帯が煩雑である	-3	-2	-1	0	1	2	3
16 自分の専門性を発揮する時間が確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
17 利用者により良いケアが提供できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
18 教育をする(教育をうける)時間を確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3

5. 【導入後調査で回答】導入機器の満足度評価

事後のみ

※ 出典:QUEST 福祉用具満足度評価

※ この設問では、今回導入した介護ロボットやテクノロジーについてお伺いします。

	全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している
1 その福祉用具の大きさ(サイズ、高さ、長さ、幅)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
2 その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
3 その福祉用具の調節しやすさ(部品の取り付け方や部品の調整方法)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
4 その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
5 その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
6 その福祉用具の使いやすさ(簡単に使えるかどうか)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
7 その福祉用具の使い心地の良さに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
8 その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
9 その福祉用具の取得手続きと期間(手に入れるまでの手続きや期間)に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
10 その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
11 その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5
12 その福祉用具のアフターサービスに、どれくらい満足していますか?	1	2	3	4	5

13 今後、今回導入した介護ロボットを継続して利用したいですか？	1 はい →7.へ	2 いいえ →14へ
14 (13にていいえの方のみご回答ください) 継続して利用したいと思わない理由は何ですか？該当する項目の番号を○で囲ってください。(複数回答可)		
1 使用上の効果が実感できなかった		
2 コストが高すぎる		
3 他の介護ロボットも検討してみたい		
4 必要とする利用者がいない		
5 介護ロボットを使いこなせる気がしなかった		
6 介護ロボットを設置するスペースを十分に確保できない		
7 人間による介助のほうが利用者にとって良いと感じた		
8 他に解決すべき課題があり、今回導入した介護ロボット導入の優先順位は低い		
9 導入のためのオペレーション変更等準備に時間がかかりすぎる		
10 その他 (自由記述:)		

6. 腰の状態について 事前・事後

※出典:疾患特定・患者立脚型慢性腰痛症患者機能評価尺度
(JLEQ: Japan Low Back Pain Evaluation Questionnaire)

※ この設問では、腰の痛みの程度についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	導入後		
	1	2	3
1 この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
2 この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	1 痛くない	2 少し痛い	3 中程度痛い
	4 かなり痛い	5 ひどく痛い	
3 この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
4 この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	1 つらくない	2 少しつらい	3 中程度つらい
	4 かなりつらい	5 ひどくつらい	
5 この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたが	1 思わなかった	2 たまに思った	3 ときどき思った
	4 しばしば思った	5 いつも思っていた	
6 この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	1 休まなかった	2 1-3日休んだ	3 半日以上休んだ
	4 半分程度休んだ	5 ほとんど休んだ	

7. 介護補助者導入による職員や施設業務の変化

事後のみ

※ この設問では、介護補助者を導入する前後の施設業務等の変化についてお伺いします。それぞれ、あてはまるもの1つに○をつけてください。

	← そう思わない		変化なし			→ そう思う	
1 気持ちに余裕ができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
3 精神的負担(ストレスなど)が軽減する	-3	-2	-1	0	1	2	3
4 利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	-3	-2	-1	0	1	2	3
5 休憩時間に休むことができる	-3	-2	-1	0	1	2	3
6 残業時間が減った・有給休暇が取りやすくなった	-3	-2	-1	0	1	2	3
7 必要以上に利用者を見に行く必要がなくなる	-3	-2	-1	0	1	2	3
8 自分の専門性を発揮する時間が確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
9 利用者により良いケアが提供できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
10 職員に対して教育をする(教育をうける)時間を確保できる	-3	-2	-1	0	1	2	3
11 職場の人間関係・雰囲気良くなった	-3	-2	-1	0	1	2	3
12 介護補助者に継続して勤務してもらいたい	1 はい			2 いいえ → 13へ			
13 (12にていいえの方のみご回答ください) 継続して勤務してもらいたいと思わない理由は何ですか?該当する項目の全てに○をつけてください。(複数回答可)							
1 費用対効果が期待できない							
2 業務負担軽減に思ったよりつながらない							
3 職員と介護補助者がコミュニティや人間関係を構築しにくい							
4 雇用条件が合わない							
5 依頼したい業務内容が介護補助者にとって難しい							
6 依頼したい業務量が介護補助者にとって体力的に難しい							
7 介護補助者の家庭の事情による持続的な雇用が困難である							
8 職員と介護補助者との仕事への意識に乖離がある							
9 その他(自由記述:)							

8. 介護補助者の活用により増やすことができた時間

事後のみ

※ この設問では、介護補助者の活用により、時間が確保・増加させることのできた時間についてお伺いします。該当する項目の全てに○をつけてください。(複数回答可)

直接介護	1 移動・移乗・体位変換	2 排泄介助・支援	3 生活自立支援
	4 行動上の問題への対応	5 食事支援	6 入浴・整容・更衣
	7 利用者とのコミュニケーション	8 その他の直接介護()	
間接業務	9 利用者の見守り	10 記録・文書作成・連絡調整等	11 利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し
	12 他の職員に対する指導・教育	13 その他の間接業務()	
休憩	14 休憩・待機	15 仮眠	
16 その他()			

職員向け調査票は以上です。

(5) 利用者向けアンケート調査票(事前調査用)

事前調査用		利用者向け調査票				利用者ID		記入日			
施設ID	施設名	(職員が記入)						年	月	日	
1. 対象利用者概要											
性別	1: 男 2: 女	年齢				才					
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)										
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施										
2. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるADLの変化											
(1) 【導入前の状態について回答】ADLの変化 (Barthel Index) の得点											
各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。											
						導入前評価					
						していること		できること			
1 食事	自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える 部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう) 全介助					10	10	5	5	0	0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む) 軽度の部分介助または監視を要する 座ることは可能であるがほぼ全介助 全介助または不可能					15	15	10	10	5	5
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り) 部分介助または不可能					5	5	0	0		
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む 部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する 全介助または不可能					10	10	5	5	0	0
5 入浴	自立 部分介助または不可能					5	5	0	0		
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない 45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む 歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能 上記以外					15	15	10	10	5	5
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない 介助または監視を要する 不能					10	10	5	5	0	0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む 部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える 上記以外					10	10	5	5	0	0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能 ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む 上記以外					10	10	5	5	0	0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能 時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む 上記以外					10	10	5	5	0	0
合計(100点満点)											

3.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者における認知機能の変化

事前・事後

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度
機器導入前にて、いずれかのランクに○をしてください。

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	導入前
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
IIa	家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
IIb	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとりて留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
IIIa	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
IIIb	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIIIaに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度 (Dementia Behavior Disturbance Scale:DBDI3)

【事前調査時点】		まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
1	同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2	よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3	日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4	特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5	特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6	昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7	やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8	同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9	口汚くののしる	0	1	2	3	4
10	場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11	世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12	明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13	引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

4.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】利用者への心理的な影響

事前・事後

※出典：意欲の指標 (Vitality index)

機器の導入前、対象者の意欲がどの程度か、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		導入前
1) 起床 薬剤の影響(睡眠薬など)を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさないと起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2) 意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3) 食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしていない	0
4) 排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5) リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるQOLの変化

事前・事後

(1) QOLの変化 ※出典：WHO-5 精神的健康状態表

最近2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください						
	いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1 明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3 意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4 ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

以上です。ご回答ありがとうございました。

(6) 利用者向けアンケート調査票(事後調査用)

事後調査用		利用者向け調査票	
施設ID	施設名	(職員が記入)	利用者ID
			記入日
			年 月 日

1. 対象利用者概要			事前・事後
性別	1: 男 2: 女	年齢	才
要介護度	1: 要介護1 2: 要介護2 3: 要介護3 4: 要介護4 5: 要介護5 6: 自立・要支援 7: その他(要支援・区分申請中等)		
障害高齢者の日常生活自立度	1: J1 2: J2 3: A1 4: A2 5: B1 6: B2 7: C1 8: C2 9: 不明・未実施		

2. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるADLの変化 事前・事後

(1) 【導入後の状態について回答】ADLの変化 (Barthel Index) の得点

各項目について現時点で実際にしていること、利用者ができることをそれぞれ評価し、合計得点を記載してください。

		導入後評価	
		していること	できること
1 食事	自立、自具などの装着可、標準的時間内に食べ終える 部分介助(たとえば、おかずを切って細かくしてもらう) 全介助	10 5 0	10 5 0
2 車椅子からベッドへの移動	自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む(非行自立も含む) 軽度の部分介助または監視を要する 座ることは可能であるがほぼ全介助 全介助または不可能	15 10 5 0	15 10 5 0
3 整容	自立(洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り) 部分介助または不可能	5 0	5 0
4 トイレ動作	自立、衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む 部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する 全介助または不可能	10 5 0	10 5 0
5 入浴	自立 部分介助または不可能	5 0	5 0
6 歩行	45m以上の歩行、補装具(車いす、歩行器は除く)の使用の有無は問わない 45m以上の介助歩行、歩行器の使用を含む 歩行不能の場合、車椅子にて45m以上の操作可能 上記以外	15 10 5 0	15 10 5 0
7 階段昇降	自立、手すりなどの使用の有無は問わない 介助または監視を要する 不能	10 5 0	10 5 0
8 着替え	自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む 部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える 上記以外	10 5 0	10 5 0
9 排便コントロール	失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能 ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む 上記以外	10 5 0	10 5 0
10 排尿コントロール	失禁なし、収尿器の取り扱いも可能 時に失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む 上記以外	10 5 0	10 5 0
合計(100点満点)			

3.【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者における認知機能の変化

事前・事後

(1) 認知機能の変化 ※出典:認知症高齢者の日常生活自立度
導入後にて、いずれかのランクに○をしてください。

ランク	判定基準	見られる症状・行動の例	導入後
I	何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。	-	
II	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。		
IIa	家庭外で上記IIの状態が見られる。	たびたび道に迷うとか、買い物や事務、金銭管理などそれまでできたことにミスが目立つ等	
IIb	家庭内でも上記IIの状態が見られる。	服薬管理ができない、電話の対応や訪問者との対応などひとり留守番ができない等	
III	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。		
IIIa	日中を中心として上記IIIの状態が見られる。	着替え、食事、排便・排尿が上手にできない・時間がかかる、やたらに物を口に入れる、物を拾い集める、徘徊、失禁、大声・奇声を上げる、火の不始末、不潔行為、性的異常行為等	
IIIb	夜間を中心として上記IIIの状態が見られる	ランクIIIaに同じ	
IV	日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。	ランクIIIに同じ	
M	著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。	せん妄、妄想、興奮、自傷・他害等の精神症状や精神症状に起因する問題行動が継続する状態等	

(2) 認知症行動の変化 ※出典:認知症行動障害尺度 (Dementia Behavior Disturbance Scale:DBDI3)

【導入後調査の過去1週間】		まったくない	ほとんどない	ときどきある	よくある	常にある
1	同じことを何度も何度も聞く	0	1	2	3	4
2	よく物をなくしたり、置き場所を間違えたり、隠したりしている	0	1	2	3	4
3	日常的な物事に関心を示さない	0	1	2	3	4
4	特別な理由がないのに夜中起き出す	0	1	2	3	4
5	特別な根拠もないのに人に言いがかりをつける	0	1	2	3	4
6	昼間、寝てばかりいる	0	1	2	3	4
7	やたらに歩き回る	0	1	2	3	4
8	同じ動作をいつまでも繰り返す	0	1	2	3	4
9	口汚くののしる	0	1	2	3	4
10	場違いあるいは季節に合わない不適切な服装をする	0	1	2	3	4
11	世話をされるのを拒否する	0	1	2	3	4
12	明らかな理由なしに物を貯めこむ	0	1	2	3	4
13	引き出しやタンスの中身を全部だしてしまう	0	1	2	3	4

(3) その他の認知機能の変化 (導入後調査の時点)

機器導入による認知機能の変化	
----------------	--

(4) (1)~(3)を踏まえた機器導入による認知機能変化の総合的な評価

←悪化したと感じる						向上したと感じる→
-3	-2	-1	0	1	2	3

4. 【導入後調査で回答】利用者への心理的な影響

事前・事後

※出典：意欲の指標 (Vitality index)

今回導入した機器を利用することによって、対象者の意欲がどの程度変化したか、1)~5)それぞれにおいて、その程度をもっとも良く表すものを1つ選んで、○をつけてください。※普段接している職員から見た対象者の気持ちの変化について選んでください。

		事後時
1) 起床 薬剤の影響(睡眠薬など)を除外。起座できない場合、開眼し覚醒していれば2	いつも定時に起床している	2
	起こさない起床しないことがある	1
	自分から起床することはない	0
2) 意思疎通 失語の合併がある場合、言語以外の表現でよい	自分から挨拶する、話し掛ける	2
	挨拶、呼びかけに対して返答や笑顔がみられる	1
	反応がない	0
3) 食事 麻痺で食事の介護が必要な場合、介助により摂取意欲があれば2	自分から進んで食べようとする	2
	促されると食べようとする	1
	食事に関心がない、全く食べようとしていない	0
4) 排泄 失禁の有無は問わない。尿意不明の場合、失禁後にいつも不快を伝えれば2	いつも自ら便意尿意を伝える、あるいは自分で排尿、排便を行う	2
	時々、尿意便意を伝える	1
	排泄に全く関心がない	0
5) リハビリ・活動 リハビリでなくとも散歩やレクリエーション、テレビでもよい。寝たきりの場合、受動的理学運動に対する反応で判定する。	自らリハビリに向かう、活動を求める	2
	促されて向かう	1
	拒否、無関心	0

5. 【導入前、導入後調査のそれぞれで回答】対象利用者におけるQOLの変化

事前・事後

(1) QOLの変化 ※出典：WHO-5 精神的健康状態表

最近2週間、利用者の状態に最も近いものに○をつけてください						
	いつも	ほとんどいつも	半分以上の期間を	半分以下の期間を	ほんのたまに	まったくない
1 明るく、楽しい気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
2 落ち着いた、リラックスした気分で過ごした	5	4	3	2	1	0
3 意欲的で、活動的に過ごした	5	4	3	2	1	0
4 ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めた	5	4	3	2	1	0
5 日常生活の中に、興味のあることがたくさんあった	5	4	3	2	1	0

(2) その他のQOLの変化(導入後調査の時点)

機器導入によるQOLの変化	
---------------	--

(3) (1)(2)を踏まえた機器導入によるQOL変化の総合的な評価

←悪化したと感じる							向上したと感じる→
-3	-2	-1	0	1	2	3	

6. 【導入後調査で回答】対象利用者におけるコミュニケーションの変化

事後のみ

(1) 機器導入によるコミュニケーションの変化

	←減少したと感じる							増加したと感じる→						
	-3	-2	-1	0	1	2	3	-3	-2	-1	0	1	2	3
1 利用者の発語量の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3	-3	-2	-1	0	1	2	3
2 利用者の表情の変化(笑顔になる頻度等)	-3	-2	-1	0	1	2	3	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) その他のコミュニケーションの変化(導入後調査の時点)

機器導入によるコミュニケーションの変化	
---------------------	--

(3) (1)(2)を踏まえた機器導入によるコミュニケーション変化の総合的な評価

←減少したと感じる							増加したと感じる→
-3	-2	-1	0	1	2	3	

7.【導入後調査で回答】対象利用者における社会参加の変化

事後のみ

(1)機器導入によるレクリエーション・イベントへの参加状況の変化

		←減少したと感じる				増加したと感じる→		
1	利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2	促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3	レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(2) 機器導入による、食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

		←減少したと感じる					増加したと感じる→	
1	食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
2	食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間（談話室にいる時間等）の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3
3	食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	-3	-2	-1	0	1	2	3

(3) その他の社会参加の変化（導入後調査の時点）

機器導入による社会参加の変化	
----------------	--

(4) (1)～(3)を踏まえた機器導入による社会参加の変化の総合的な評価

←減少したと感じる					増加したと感じる→		
-3	-2	-1	0	1	2	3	

9. 対象利用者へのケアの変更

事後のみ

(1) 機器導入によるケア内容の変更

		全く思わない	あまり思わない	どちらとも言えない	思う	とても思う
1	機器導入により、利用者の状況が可視化できる	1	2	3	4	5
2	機器導入により、より適切なタイミングでケアが提供できる	1	2	3	4	5
3	機器導入により、より適切な内容のケアが提供できる	1	2	3	4	5
4	機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	1	2	3	4	5
5	機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	1	2	3	4	5
6	機器導入により、日中の生活が充実する	1	2	3	4	5

10. 【導入後調査で回答】対象利用者のご意見等

事後のみ

※可能な範囲で、機器導入に関する対象利用者のご意見等をご記載ください。

機器導入に関する対象利用者のご意見等	
--------------------	--

以上です。ご回答ありがとうございました。

(7) 利用者数調査票(事前調査)

利用者のご状況

施設ID	施設名

事前調査

■以下につきまして、実証対象のエリア(施設全体、ユニットもしくはフロア)において、事前調査の調査初日時点にてご回答ください。

【事前調査初日時点】

記入日

月 日

	要介護度1	要介護度2	要介護度3	要介護度4	要介護度5	その他 (申請中等)
総利用者数	人	人	人	人	人	人
実証対象のエリア(施設全体、ユニットもしくはフロア)の利用者数	人	人	人	人	人	人

10. Web による匿名調査

(1) 職員向けアンケート調査票(夜間見守り)

Y-1 介護ロボット（見守り機器）を活用したケアに関する職員（無記名）アンケート

※回答頂いた内容は匿名化の上、集計等いたします。貴施設に回答者および回答内容が伝わることはありません。
【回答期間：2023年8月末まで】

1. お勤めの介護施設の施設名をご記入ください。

回答を入力してください

2. 見守り機器の追加導入や見守り機器を使ったケアについての満足度を教えてください。（★5つ：導入してとてもよかった）

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

3. 2で回答した満足度の理由について教えてください。また、無記名で、介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見等がございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

送信

パスワードを記載しないでください。 [不正使用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーやセキュリティの取り扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記載しないでください。

Powered by Microsoft Forms | このフォームの所有者は、応答データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を記載しないでください。
[利用規約](#)

(2) 職員向けアンケート調査票(パッケージ:見守り×介護業務支援)

...

P-1-1 介護ロボット（実証機器）を活用したケアに関する職員（無記名）アンケート

※回答頂いた内容は匿名化の上、集計いたします。貴施設に回答者および回答内容が伝わることはありません。
【回答期間：2023年8月末まで】

1. お勤めの介護施設の施設名をご記入ください。

回答を入力してください

2. お勤めの介護施設において、本実証事業で導入された機器にあてはまるものを選んでください。
(複数回答)
※実証前から既に導入されている場合、本実証事業の対象となった機器を選択してください。

マッスルスーツSoft Light

ROBOHELPER SASUKE

Hug

DFree

観りSCAN

観りSCAN eye

Helppad2

LIFELENS

ハナスト

安藤ネット One

その他

3. 機器導入や機器を使ったケアについての満足度を教えてください。（★5つ：導入してとてもよかった）

☆☆☆☆☆

4. 3で回答した満足度の理由について教えてください。また、無記名で、介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見等がございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

送信

パスワードを記憶しないでください。 [不正利用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に提供されます。Microsoft は、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーやセキュリティの取扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記憶しないでください。

Powered by Microsoft Forms | このフォームの所有者は、送信データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を記憶しないでください。 | [お問い合わせ](#)

(3) 職員向けアンケート調査票(パッケージ:排泄支援×介護業務支援)

P-1-2 介護ロボット（実証機器）を活用したケアに関する職員（無記名）アンケート

※回答頂いた内容は匿名化の上、集計いたします。貴施設に回答者および回答内容が伝わることはありません。
【回答期間：2023年8月末まで】

1. お勤めの介護施設の施設名をご記入ください。

回答を入力してください

2. お勤めの介護施設において、本実証事業で導入された機器にあてはまるものを選んでください。
（複数回答）
※実証前から既に導入されている場合、本実証事業の対象となった機器を選択してください。

マッスルスーツSoft Light

ROBOHELPER SASUKE

Hug

DFree

腕りSCAN

腕りSCAN eye

Helppad2

LIFELENS

ハナスト

空都ネット One

その他

3. 機器導入や機器を使ったケアについての満足度を教えてください。（★5つ：導入してとてもよかった）

☆☆☆☆☆

4. 3で回答した満足度の理由について教えてください。また、無記名で、介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見等ございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

送信

パスワードを認識しないでください。 [不正利用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を貴お客様がプライバシーやセキュリティの取扱いに關して一切の責任を負いません。パスワードを認識しないでください。

Powered by Microsoft Forms | このフォームの所有者は、送信データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を認識しないでください。 | 詳細を見る

(4) 職員向けアンケート調査票(パッケージ:入浴支援×移乗支援)

...

P-1-3 介護ロボット（実証機器）を活用したケアに関する職員（無記名）アンケート

※回答頂いた内容は匿名化の上、集計いたします。貴施設に回答書および回答内容が伝わることはありません。
【回答期間：2023年8月未まで】

1. お勤めの介護施設の施設名をご記入ください。

回答を入力してください

2. お勤めの介護施設において、本実証事業で導入された機器にあてはまるものを選んでください。
(複数回答)
※実証前から既に導入されている場合、本実証事業の対象となった機器を選択してください。

マッスルスーツSoft Light

ROBOHELPER SASUKE

Hug

DFree

眼りSCAN

眼りSCAN eye

Helppad2

LIFELENS

ハナスト

安邸ネット One

その他

3. 機器導入や機器を使ったケアについての満足度を教えてください。（★5つ：導入してとてよかった）

☆☆☆☆☆

4. 3で回答した満足度の理由について教えてください。また、無記名で、介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見等ございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

送信

パスワードを認識しないください。 [不正利用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を責むお客様のプライバシーやセキュリティの取り扱いは關して一切の責任を負いません。パスワードを認識しないください。

Powered by Microsoft Forms | このフォームの所有者は、送信データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を認識しないください。
| 詳細を見る

(5) 職員向けアンケート調査票(パッケージ:排泄支援×移乗支援)

...

P-1-4 介護ロボット(実証機器)を活用したケアに関する職員(無記名)アンケート

※回答頂いた内容は匿名化の上、集計いたします。貴施設に回答者および回答内容が伝わることはありません。
【調査期間: 2023年8月末まで】

1. お勤めの介護施設の施設名をご記入ください。

回答を入力してください

2. お勤めの介護施設において、本実証事業で導入された機器にあてはまるものを選んでください。
(複数回答)
※実証前から既に導入されている場合、本実証事業の対象となった機器を選択してください。

マッスルスーツSoft Light

ROBOHELPER SASUKE

Hug

DFree

腕りSCAN

腕りSCAN eye

Helpad2

LIFELENS

ハナスト

安部ネット One

その他

3. 機器導入や機器を使ったケアについての満足度を教えてください。(★5つ:導入してとてもよかった)

☆☆☆☆☆

4. 3で回答した満足度の理由について教えてください。また、無記名で、介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見等ございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

送信

パスワードを登録しないでください。 [不正利用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。提供したデータはフォームの所有者に提供されます。Microsoft は、このフォームの所有者を許可されたプライバシーやセキュリティの取り扱いに際して一切の責任を負いません。パスワードを登録しないでください。

Powered by Microsoft Forms | このフォームの所有者は、正確なデータの使用法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を登録しないでください。 | 詳細情報

(6) 職員向けアンケート調査票(排泄支援)

...

P-1-5 介護ロボット（実証機器）を活用したケアに関する職員（無記名）アンケート

※回答頂いた内容は匿名化の上、集計等いたします。貴施設に回答者および回答内容が伝わることはありません。
【回答期間：2023年8月末まで】

1. お勤めの介護施設の施設名をご記入ください。

回答を入力してください

2. お勤めの介護施設において、本実証事業で導入された機器にあてはまるものを選んでください。
（複数回答）
※実証前から既に導入されている場合、本実証事業の対象となった機器を選択してください。

マッスルズーツSoft Light

ROBOHELPER SASUKE

Hug

DFree

鏡りSCAN

鏡りSCAN eye

Helppad2

LIFELENS

ハナスト

安楽ネット One

その他

3. 機器導入や機器を使ったケアについての満足度を教えてください。（★5つ：導入してとてもよかった）

☆☆☆☆☆

4. 3で回答した満足度の理由について教えてください。また、無記名で、介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見等がございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

完備

パスワードを設定しないでください。 [正しい照会方法を見る](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。提供したデータはフォームの所有者に提供されます。Microsoft は、このフォームの所有者を他のお客様のプライバシーとセキュリティの取り扱いは、一部の要件を負いません。パスワードを設定しないでください。

Powered by Microsoft Forms

このフォームの所有者は、正確データの提供方法についてのプライバシーに関する声明を提出していません。個人情報や機密情報を記載しないでください。

1/10/2023

(7) 職員向けアンケート調査票(介護助手)

...

J-1 介護助手による生産性向上の取組に関する職員（無記名）アンケート

※回答頂いた内容は匿名化の上、集計等いたします。貴施設に回答者および回答内容が伝わることはありません。
【回答期間：2023年8月末まで】

1. お勤めの介護施設の施設名をご記入ください。

回答を入力してください

2. 介護助手を採用したことによる生産性向上の取組についての満足度を教えてください。（★5つ：導入してとてもよかった）

☆☆☆☆☆

3. 2で回答した満足度の理由について教えてください。また、無記名で、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見等がございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

送信

パスワードを記載しないでください。 [不正使用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーやセキュリティの取り扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記載しないでください。

Powered by Microsoft Forms | このフォームの所有者は、応答データの使用法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を記載しないでください。
[利用規約](#)

(8) 職員向けアンケート調査票(令和4年度提案手法の更なる検証)

...

T-1 介護ロボット（実証機器）を活用したケアに関する職員（無記名）アンケート

※ 回答頂いた内容は匿名化の上、集計等いたします。貴施設に回答者および回答内容が伝わることはありません。

1. お勤めの介護施設の施設名をご記入ください。

回答を入力してください

2. 機器導入や機器を使ったケアについての満足度を教えてください。（★5つ：導入してとてもよかった）

☆☆☆☆☆

3. 2で回答した満足度の理由について教えてください。また、無記名で、介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見等がございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

送信

パスワードを記載しないでください。 [不正使用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーやセキュリティの取り扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記載しないでください。

Powered by Microsoft Forms | このフォームの所有者は、応答データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を記載しないでください。 | [利用規約](#)

(9) 利用者家族向けアンケート調査票(夜間見守り)

...

Y-2 介護ロボット（見守り機器）を活用したケアに関する利用者のご家族（無記名）アンケート

※回答頂いた内容は匿名化の上、集計等いたします。貴施設に回答者および回答内容が伝わることはありません。
【回答期間：2023年8月末まで】

1. あなたのご家族が入所されている施設の名前をご記入ください。

回答を入力してください

2. あなたのご家族が入所している施設では、介護ロボット（見守り機器）を活用したケアを行っています。見守り機器を活用したケアについての満足度を教えてください。（★5つ：とても良い）

☆☆☆☆☆

3. 2で回答した満足度の理由について教えてください。また、介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお伝えしたい事項がございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

4. 見守り機器の活用を通じて、あなたのご家族に感じた変化があれば記入してください

回答を入力してください

送信

パスワードを記載しないでください。 [不正使用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーセキュリティの取り扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記載しないでください。

Powered by Microsoft Forms [[このフォームの所有者は、応答データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を記載しないでください。](#)] [利用規約](#)

(10) 利用者家族向けアンケート調査票(パッケージ:見守り×介護業務支援)

...

P-2-1 介護ロボット（実証機器）を活用したケアに関する利用者のご家族（無記名）アンケート

※回答頂いた内容は匿名化の上、集計等いたします。貴施設に回答者および回答内容が伝わることはありません。
【回答期間：2023年8月末まで】

1. あなたのご家族が入所されている施設の名前をご記入ください。

回答を入力してください

2. あなたのご家族が入所している施設では、介護ロボット（実証機器）を活用したケアを行っています。介護ロボット等の機器を活用したケアについての満足度を教えてください。（★5つ：とても良い）

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

3. 2で回答した満足度の理由について教えてください。また、介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見等がございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

4. 機器の活用を通じて、あなたのご家族に感じた変化があれば記入してください。

回答を入力してください

送信

パスワードを記載しないでください。 [不正使用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーやセキュリティの取り扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記載しないでください。

Powered by Microsoft Forms | このフォームの所有者は、応答データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を記載しないでください。
[利用規約](#)

(11) 利用者家族向けアンケート調査票(パッケージ:排泄支援×介護業務支援)

...

P-2-2 介護ロボット（実証機器）を活用したケアに関する利用者のご家族（無記名）アンケート

※回答頂いた内容は匿名化の上、集計等いたします。貴施設に回答者および回答内容が伝わることはありません。
【回答期間：2023年8月末まで】

1. あなたのご家族が入所されている施設の名前をご記入ください。

回答を入力してください

2. あなたのご家族が入所している施設では、介護ロボット（実証機器）を活用したケアを行っています。介護ロボット等の機器を活用したケアについての満足度を教えてください。（★5つ：とても良い）

☆☆☆☆☆

3. 2で回答した満足度の理由について教えてください。また、介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見等がございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

4. 機器の活用を通じて、あなたのご家族に感じた変化があれば記入してください。

回答を入力してください

送信

パスワードを記載しないでください。 [不正使用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーやセキュリティの取り扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記載しないでください。

Powered by Microsoft Forms | このフォームの所有者は、応答データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を記載しないでください。
[利用規約](#)

(12) 利用者家族向けアンケート調査票(パッケージ:入浴支援×移乗支援)

...

P-2-3 介護ロボット（実証機器）を活用したケアに関する利用者のご家族（無記名）アンケート

※回答頂いた内容は匿名化の上、集計等いたします。貴施設に回答者および回答内容が伝わることはありません。
【回答期間：2023年8月末まで】

1. あなたのご家族が入所されている施設の名前をご記入ください。

回答を入力してください

2. あなたのご家族が入所している施設では、介護ロボット（実証機器）を活用したケアを行っています。介護ロボット等の機器を活用したケアについての満足度を教えてください。（★5つ：とても良い）

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

3. 2で回答した満足度の理由について教えてください。また、介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見等がございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

4. 機器の活用を通じて、あなたのご家族に感じた変化があれば記入してください。

回答を入力してください

送信

パスワードを記載しないでください。 [不正使用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーやセキュリティの取り扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記載しないでください。

Powered by Microsoft Forms | このフォームの所有者は、応募データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を記載しないでください。
[プライバシー](#)

(13) 利用者家族向けアンケート調査票(パッケージ:排泄支援×移乗支援)

...

P-2-4 介護ロボット（実証機器）を活用したケアに関する利用者のご家族（無記名）アンケート

※回答頂いた内容は匿名化の上、集計等いたします。貴施設に回答者および回答内容が伝わることはありません。
【回答期間：2023年8月末まで】

1. あなたのご家族が入所されている施設の名前をご記入ください。

回答を入力してください

2. あなたのご家族が入所している施設では、介護ロボット（実証機器）を活用したケアを行っています。介護ロボット等の機器を活用したケアについての満足度を教えてください。（★5つ：とても良い）

☆☆☆☆☆

3. 2で回答した満足度の理由について教えてください。また、介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見等がございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

4. 機器の活用を通じて、あなたのご家族に感じた変化があれば記入してください。

回答を入力してください

送信

パスワードを記載しないでください。 [不正使用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーやセキュリティの取り扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記載しないでください。

Powered by Microsoft Forms | このフォームの所有者は、応答データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を記載しないでください。
[利用規約](#)

利用者家族向けアンケート調査票(パッケージ:排泄支援)

P-2-5 介護ロボット(実証機器)を活用したケアに関する利用者のご家族(無記名)アンケート

※回答頂いた内容は匿名化の上、集計等いたします。貴施設に回答者および回答内容が伝わることはありません。
【回答期間:2023年8月末まで】

1. あなたのご家族が入所されている施設の名前をご記入ください。

回答を入力してください

2. あなたのご家族が入所している施設では、介護ロボット(実証機器)を活用したケアを行っています。介護ロボット等の機器を活用したケアについての満足度を教えてください。(★5つ:とても良い)

☆☆☆☆☆

3. 2で回答した満足度の理由について教えてください。また、介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見等がございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

4. 機器の活用を通じて、あなたのご家族に感じた変化があれば記入してください。

回答を入力してください

送信

パスワードを記載しないでください。 [不正使用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoftは、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーやセキュリティの取り扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記載しないでください。

Powered by Microsoft Forms | このフォームの所有者は、応答データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を記載しないでください。 [利用規約](#)

利用者家族向けアンケート調査票(令和4年度提案手法の更なる検証)

...

T-2 介護ロボット（実証機器）を活用したケアに関する利用者のご家族（無記名）アンケート

※回答頂いた内容は匿名化の上、集計等いたします。貴施設に回答者および回答内容が伝わることはありません。

1. あなたのご家族が入所されている施設の名前をご記入ください。

回答を入力してください

2. あなたのご家族が入所している施設では、介護ロボット（実証機器）を活用したケアを行っています。介護ロボット等の機器を活用したケアについての満足度を教えてください。（★5つ：とても良い）

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

3. 2で回答した満足度の理由について教えてください。また、介護ロボットやテクノロジーの導入、介護現場の生産性向上についてお気づきの点やご意見等がございましたら、ご記入ください。

回答を入力してください

4. 機器の活用を通じて、あなたのご家族に感じた変化があれば記入してください。

回答を入力してください

送信

パスワードを記載しないでください。 [不正使用を報告する](#)

このコンテンツはフォームの所有者が作成したものです。送信したデータはフォームの所有者に送信されます。Microsoft は、このフォームの所有者を含むお客様のプライバシーやセキュリティの取り扱いに関して一切の責任を負いません。パスワードを記載しないでください。

Powered by Microsoft Forms | このフォームの所有者は、応答データの使用方法についてのプライバシーに関する声明を提供していません。個人情報や機密情報を記載しないでください。
[詳細を見る](#)

令和5年度
「介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業」報告書
発行:令和6年(2024)年3月
発行者:厚生労働省 老健局高齢者支援課
〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2
電話 03-5253-1111(代表)